鹿角市文化財調査資料52

特別史跡

大湯環状列石

発掘調査報告書(11)

1995－3

秋田県鹿角市教育委員会

序

特別史跡大湯環状列石は、我国を代表する縄文時代の遺跡であります。

この貴重な文化遺産を保存し、学術的・歴史的価値を正しく後世に継承していくため、昭和59年より発掘調査を継続してまいりました。

これと並行し、周辺遺跡の特別史跡への追加指定、追加指定地の公有化事業の開始、環境整備基本構想の策定等を進め、史跡整備事業に係る前提条件が整いつつあります。

このことから、平成４年度からは史跡整備のためのより具体的な資料収集を目的に、整備の急がれる万座環状列石周辺に調査区を設定し、発掘調査を継続してまいりました。

本年度は、万座環状列石東側隣接地を調査区に選定し、発掘調査を実施いたしました。

その結果、建物跡、環状配石遺構、配石列、土壙等の遺構の確認と共に多量の遺物が出土し、貴重な資料を得ることが出来ました。

本書は、これらの調査成果をまとめたものであります。学術研究・埋蔵文化財保護の資料として活用いただければ幸いに存じます。

終わりに、この調査に際し、ご協力・ご指導くださいました文化庁並びに秋田県教育委員会、関係各位に心から感謝申し上げると共に、今後の環境整備事業につきましても、一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成７年３月

鹿角市教育委員会

教育長　浅　利　　忠

例　　言

1．本報告書は、平成６年度に国・県の補助を得て実施した特別史跡大湯環状列石第11次発掘調査の報告書である。なお、同調査は史跡の環境整備計画策定のための基礎資料収集を目的に実施されたものである。

2．本調査の概要については機会あるごとに発表してきたが、本報告書を正式なものとする。

3．本報告書の執筆は、調査員が分担し、文責は各々の文末に記した。

4．資料の鑑定等は、下記のとおり依頼した。

石器類石質鑑定 …… 秋田県立十和田高等学校　教諭　　鎌　田　健　一

炭化種子の同定 …… 鹿角市立花輪第一中学校　教諭　　成　田　典　彦

5．土層、土器等の色調の記載には『新版　標準土色帖』（日本色彩研究所）を使用した。

6．遺物の実測・採拓・トレース等の一連の整理作業は、調査員の指導のもとに、調査補助員整理作業員が行った。

7．本報告書に収載した図版のスケールについては、各々に示した。なお、写真図版については任意の縮尺とした。

8．本報告書の文中において、用語の主たるものについては統一するように努めたが、数度にわたり使用されるものは簡略している場合もある。

9．図版・写真図版で下記の記号やスクリーン・トーンを使用した。

ＳＢ……建物跡　　ＳＫ……土　壙　　ＳＫ（Ｆ）……フラスコ状土壙

ＳＫ（Ｔ）……Ｔピット　　ＳＸ（Ｏ）……石囲炉　　ＳＸ（Ｓ）……配石遺構

Ｐｉｔ……柱穴状ピット　　ＳＸ（ｆ）……焼土遺構　　ＳＸ（Ｕ）……埋設土器遺構

……遺構確認面下の土層　　……柱痕・焼土

10．発掘調査・報告書作成にあたっては、下記の方々から御指導・御助言をいただきました。記して感謝の意を表します。（敬称略・順不同）

田中哲雄、岡村道雄、増渕　徹（文化庁記念物課）、藤本英夫（北海道文化財研究所）

村越　潔（弘前大学）、佐原　真、阿部義平（国立歴史民俗博物館）

小林達雄（国学院大学）、冨樫泰時、桜田　隆（秋田県埋蔵文化財センター）

遠藤正夫（青森市教育委員会）、巾　隆之（群馬県埋蔵文化財調査事業団）

本　文　目　次

序
例言
本文目次
図版・写真図版・表目次

第Ⅰ章　遺跡の環境
　1．遺跡の位置と立地 …… 1
　2．遺跡の層序 …… 2
第Ⅱ章　調査の概要
　1．調査要項 …… 6
　2．調査の方法 …… 7
　3．調査の経過 …… 7
第Ⅲ章　D_6区の検出遺構と出土遺物
　1．建物跡と柱穴状ピット …… 9
　2．配石遺構
　　(1)　環状配石遺構 …… 39
　　(2)　配石列 …… 49
　　(3)　配石遺構 …… 52
　3．石囲炉 …… 54
　4．焼土遺構 …… 54
　5．埋設土器遺構 …… 56
　6．土　壙
　　(1)　Tピット …… 57
　　(2)　フラスコ状土壙 …… 58
　　(3)　土　壙 …… 66
　7．遺構外出土遺物
　　(1)　土　器 …… 73
　　(2)　石　器 …… 87
　　(3)　土製品 …… 104
　　(4)　石製品 …… 111
第Ⅳ章　自然科学的調査
　　炭化種子の同定 …… 117
第Ⅴ章　調査のまとめ …… 120

図版・写真図版・表目次

図 版 目 次

第１図　遺跡の位置 …… 1
第２図　調査区と周辺の地形 …… 3
第３図　調査区基本層序 …… 4
第４図　昭和20年代の調査区位置図 …… 5
第５図　遺構配置図 …… 10
第６図　建物跡実測図(1) …… 11
第７図　建物跡実測図(2) …… 13
第８図　建物跡実測図(3) …… 16
第９図　建物跡実測図(4) …… 17
第19図　建物跡実測図(5) …… 18
第11図　建物跡実測図(6) …… 19
第12図　調査区北側柱穴状ピット実測図 …… 20
第13図　柱穴状ピット断面図(1) …… 21
第14図　柱穴状ピット断面図(2) …… 22
第15図　柱穴状ピット断面図(3) …… 23
第16図　柱穴状ピット断面図(4) …… 24
第17図　柱穴状ピット断面図(5) …… 25
第18図　柱穴状ピット断面図(6) …… 26
第19図　柱穴状ピット断面図(7) …… 27
第20図　柱穴状ピット断面図(8) …… 28
第21図　柱穴状ピット出土遺物(1) …… 40
第22図　柱穴状ピット出土遺物(2) …… 41
第23図　柱穴状ピット出土遺物(3) …… 42
第24図　柱穴状ピット出土遺物(4) …… 43
第25図　柱穴状ピット出土遺物(5) …… 44
第26図　柱穴状ピット出土遺物(6) …… 45
第27図　柱穴状ピット出土遺物(7) …… 46
第28図　第602号環状配石遺構実測図 …… 46
第29図　第603号環状配石遺構実測図 …… 47
第30図　第404a号配石列・607号配石遺構
　　608号環状配石遺構実測図 …… 48
第31図　第409号・410号配石列実測図 …… 50
第32図　第601号・606号配石列実測図 …… 51
第33図　第604号・605号配石遺構実測図 …… 53
第34図　第601号・602号石囲炉実測図 …… 54
第35図　焼土遺構実測図 …… 56
第36図　第601号埋設土器遺構実測図 …… 57
第37図　第601号埋設土器実測図 …… 57
第38図　Ｔピット実測図 …… 58
第39図　フラスコ状土壙実測図(1) …… 59
第40図　フラスコ状土壙実測図(2) …… 61
第41図　フラスコ状土壙実測図(3) …… 62
第42図　フラスコ状土壙出土遺物(1) …… 63
第43図　フラスト状土壙出土遺物(2) …… 64
第44図　フラスコ状土壙出土遺物(3) …… 64
第45図　土壙実測図(1) …… 67
第46図　土壙実測図(2) …… 69
第47図　土壙実測図(3) …… 70
第48図　土壙出土遺物(1) …… 70
第49図　土壙出土遺物(2) …… 71
第50図　土壙出土遺物(3) …… 72
第51図　遺構外出土土器実測図(1) …… 76
第52図　遺構外出土土器実測図(2) …… 77
第53図　遺構外出土土器実測図(3) …… 78
第54図　遺構外出土土器実測図(4) …… 79
第55図　遺構外出土土器実測図(5) …… 80
第56図　遺構外出土土器拓影図(1) …… 81
第57図　遺構外出土土器拓影図(2) …… 82
第58図　遺構外出土土器拓影図(3) …… 83
第59図　遺構外出土土器拓影図(4) …… 84
第60図　遺構外出土土器拓影図(5) …… 85
第61図　遺構外出土土器拓影図(6) …… 86
第62図　石器分布密度図 …… 88
第63図　遺構外出土石器実測図(1) …… 91

第64図　遺構外出土石器実測図(2)…… 92
第65図　遺構外出土石器実測図(3)…… 93
第66図　遺構外出土石器実測図(4)…… 94
第67図　遺構外出土石器実測図(5)…… 95
第68図　遺構外出土石器実測図(6)…… 96
第69図　遺構外出土石器実測図(7)…… 97
第70図　遺構外出土石器実測図(8)…… 98
第71図　遺構外出土石器実測図(9)…… 99
第72図　遺構外出土石器実測図(10)……100
第73図　遺構外出土石器実測図(11)……101
第74図　遺構外出土石器実測図(12)……102
第75図　遺構外出土石器実測図(13)……103
第76図　遺構外出土土製品実測図(1)…… 105
第77図　遺構外出土土製品実測図(2)…… 106
第78図　遺構外出土土製品実測図(3)…… 107
第79図　遺構外出土土製品拓影図(1)…… 108
第80図　遺構外出土土製品拓影図(2)…… 109
第81図　遺構外出土土製品拓影図(3)…… 110
第82図　遺構外出土石製品実測図(1)…… 112
第83図　遺構外出土石製品実測図(2)…… 113
第84図　遺構外出土石製品実測図(3)…… 114
第85図　遺構外出土石製品実測図(4)…… 115

写真図版目次

ＰＬ１　特別史跡大湯環状列石全景 …… 125
ＰＬ２　遺跡全景・建物跡 ……126
ＰＬ３　柱穴状ピット ……127
ＰＬ４　環状配石遺構・配石列
　　配石遺構 ……128
ＰＬ５　石囲炉・焼土遺構・埋設土器
　　フラスコ状土壙 ……129
ＰＬ６　土壙・調査区全景 ……130
ＰＬ７　出土土器(1)……131
ＰＬ８　出土土器(2)・出土石器(1)…… 132
ＰＬ９　出土石器(2)…… 133
ＰＬ10　出土石器(3)…… 134
ＰＬ11　出土石器(4)…… 135
ＰＬ12　出土石器(5)…… 136
ＰＬ13　出土石器(6)…… 137
ＰＬ14　出土土製品 …… 138
ＰＬ15　出土石製品(1)…… 139
ＰＬ16　出土石製品(2)…… 140

表　目　次

第１表　柱穴状ピット一覧表(1)…… 29
第２表　柱穴状ピット一覧表(2)…… 30
第３表　柱穴状ピット一覧表(3)…… 31
第４表　柱穴状ピット一覧表(4)…… 32
第５表　柱穴状ピット一覧表(5)…… 33
第６表　柱穴状ピット一覧表(6)…… 34
第７表　柱穴状ピット一覧表(7)…… 35
第８表　昭和27年　確認ピット一覧表 …… 35
第９表　建物跡一覧表(1)…… 36
第10表　建物跡一覧表(2)…… 37
第11表　建物跡一覧表(3)…… 38
第12表　建物跡一覧表(4)……

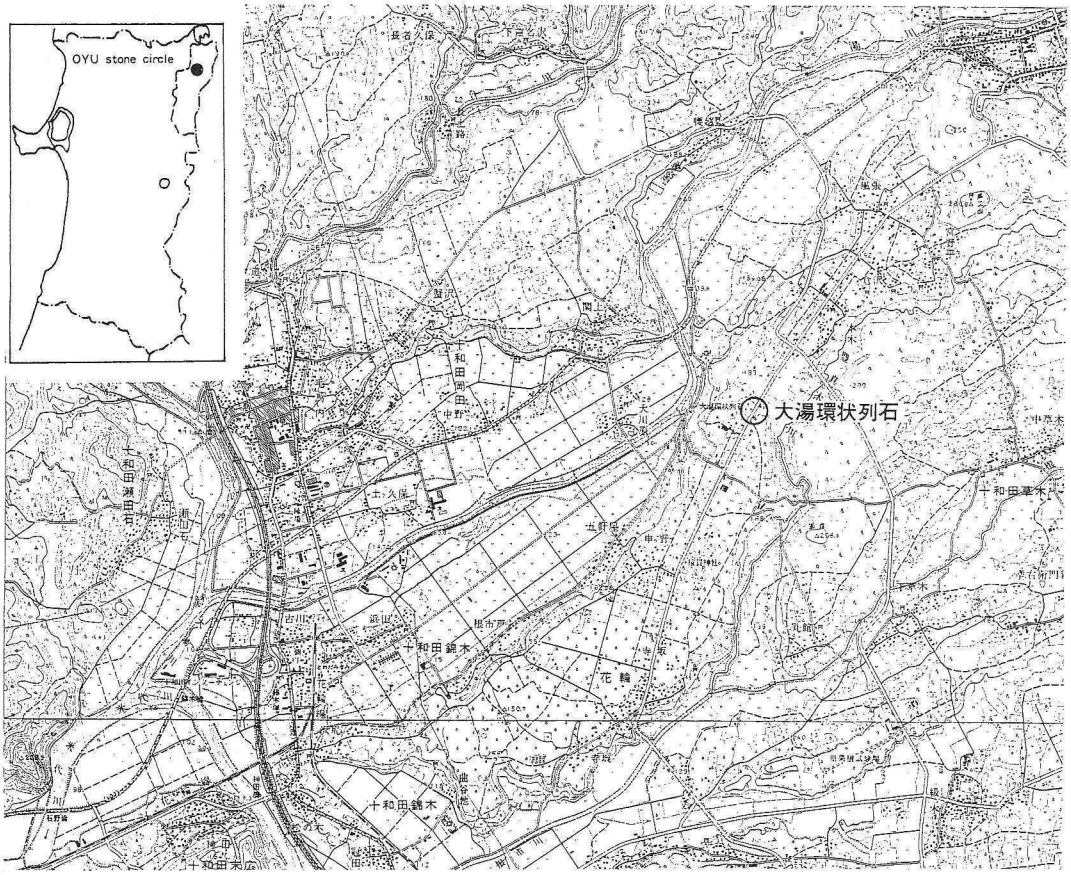
第Ⅰ章　遺跡の環境

1．遺跡の位置と立地

秋田県の北東端に位置する鹿角市は、奥羽山脈と高森山地の懐に形成された南北に細長い盆地にのる。これらの山脈・山地の裾野に形成された段丘は、盆地を貫流する米代川の大小の河川の浸食を受け多くの舌状台地状に発達している。この段丘・台地上には多くの遺跡が分布しており、現在416ケ所の遺跡が存在する。特別史跡大湯環状列石もその一つである。

特別史跡大湯環状列石は、秋田県鹿角市十和田大湯字万座、字野中堂、字一本木後口に所在する。同列石ののる台地は、大湯川と豊真木沢川の浸食によって形成された南西方向に緩やかに延びた舌状台地で、標高180m を測る。

列石は、通称「風張台地」のほぼ中央、一本木・寺坂両集落の中間に位置し、ＪＲ花輪線十和田南駅の北東3.5km、東北縦貫自動車道十和田ＩＣの北東3.7kmの地点、北緯40度16分20秒、東経140度48分49秒の地点である。



第1図　遺跡の位置

本年度調査区D_6区は、万座環状列石北東側隣接地から遺跡中央を横断する県道大湯花輪線際までの範囲である。なお、調査区を通る作業道を境に、万座環状列石隣接地は昭和31年に、作業道東側は平成２年度に特別史跡として指定・追加指定されている。　　（藤井　安正）

２．遺跡の層序

本年度の調査区がD_4区の隣接地であるため、基本層序については、これらの調査地の分層、細分基準と同一のものとした。

第Ⅰ層は大湯浮石層までの堆積層で、Ⅰa層は耕作土である。また、Ⅰo層は昭和17、26～27年の万座環状列石発掘時の排土である。

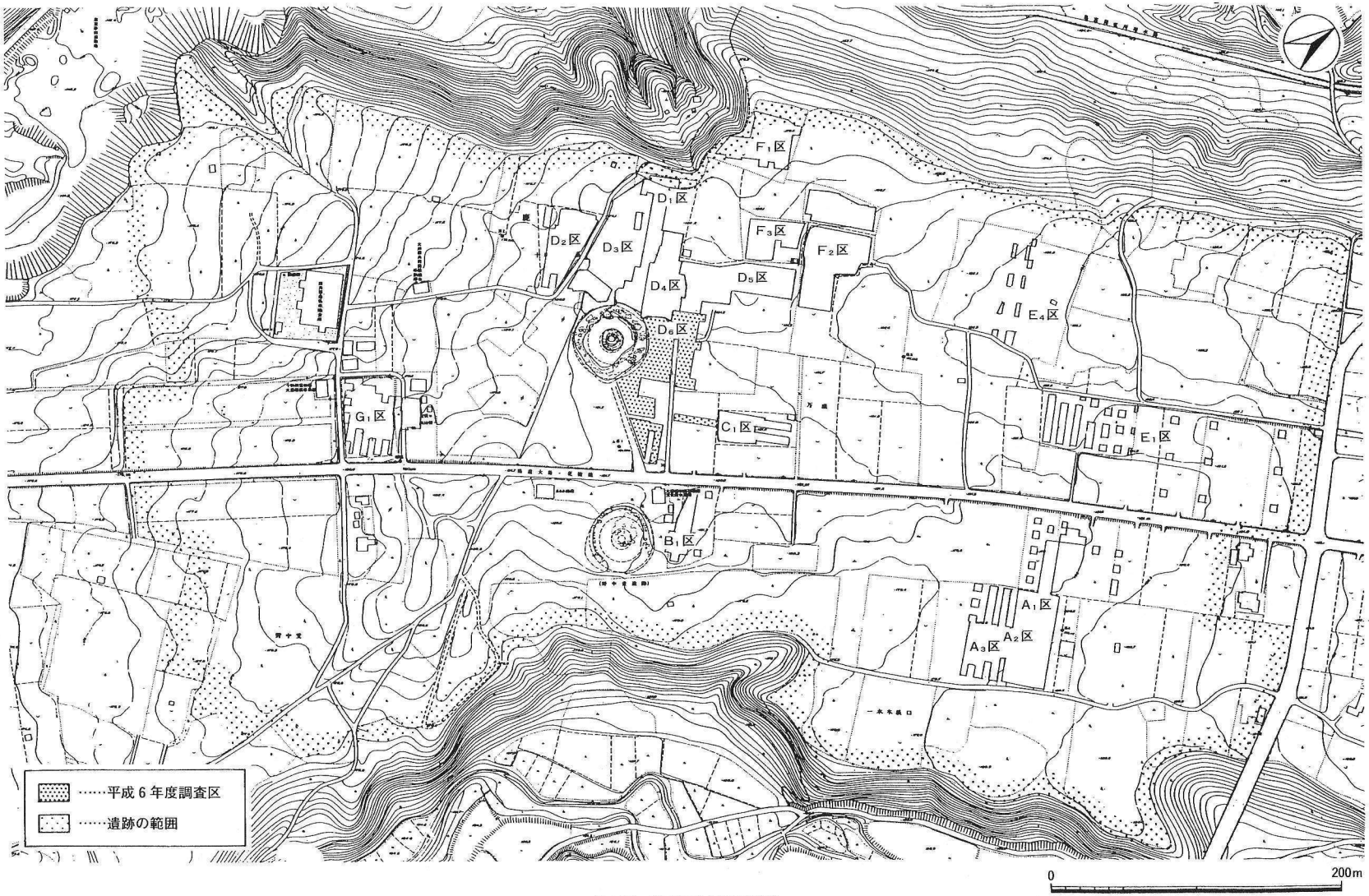
第Ⅱ層は大湯浮石層で、調査区ほぼ全域で観察されるが、所々で耕作により攪乱されている。同層は粒子の粗細、色調、浮石の含有量から３層に細分される。Ⅱa層はにぶい黄褐色のシルト質の火山灰層、Ⅱb層は粒径１～20mmの明黄褐色浮石層、Ⅱc層は黒色土中に浮石粒が多量混入している層である。

第Ⅲ層は大湯浮石層下から地山直上の暗褐色土層までの層で、色調、粗密度、混入物の含有量等から４層（Ⅲa～Ⅲd）に細分される。Ⅲa層は黒色土でほとんど混入物を含まず、堅くしまっている。Ⅲb層も黒色土で混入物をほとんど含まないが、粗密度と堅さからⅢa層とは識別される。Ⅲc層は暗褐色土で、調査区南東部から東部にかけて観察された。Ⅲd層は黒褐色土で、下位火山灰を小量混入している。

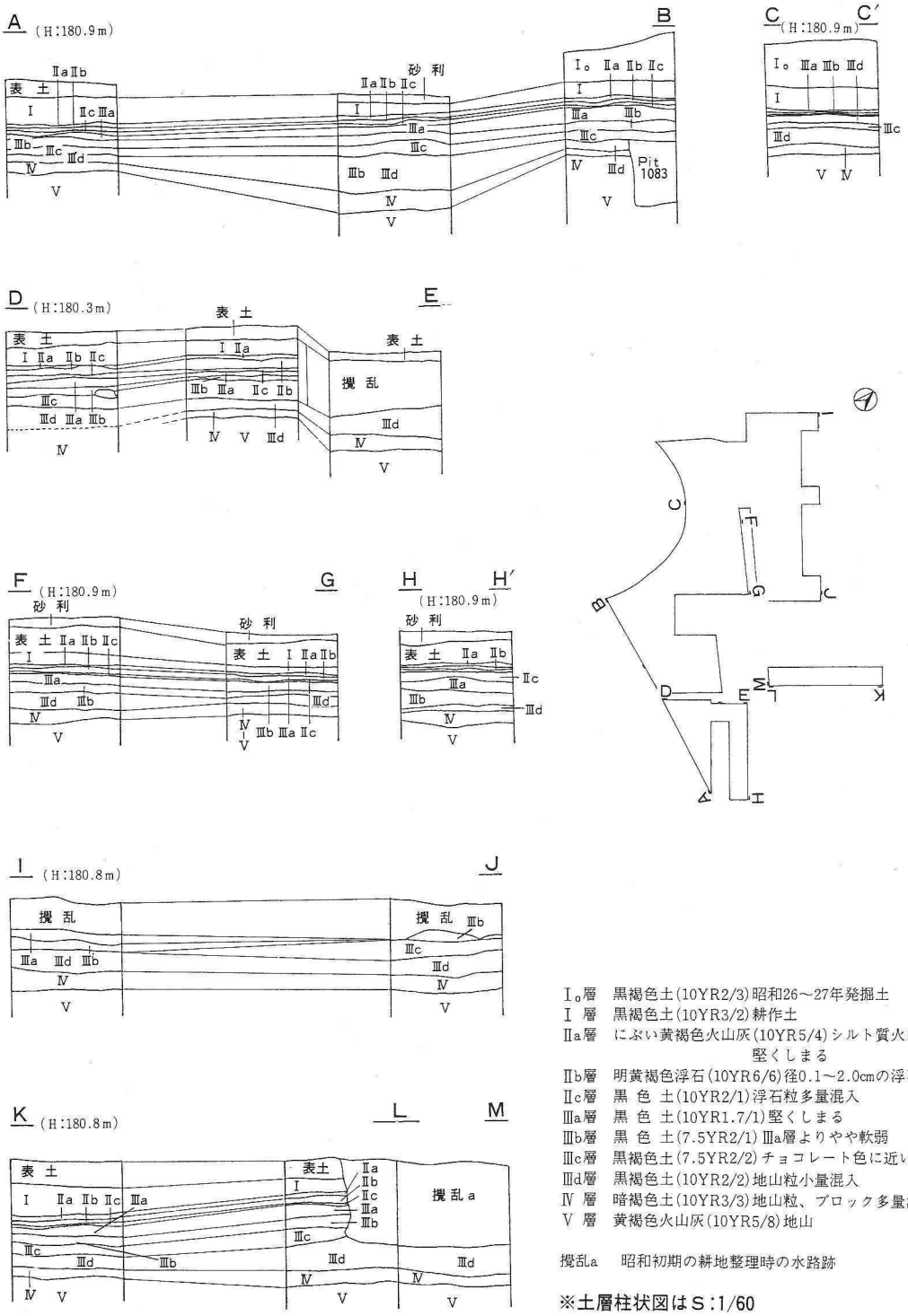
なお、ＺＧ―99グリッド付近の攪乱は、Ⅲd層上位までおよび、これは昭和初期の耕地整理時の水路跡によるものである。

第Ⅳ層は地山（下位火山灰）直上の層で、暗褐色土である。若干粘性があり、しまりのある層である。

第Ⅴ層は申ケ野火山灰と考えられる黄褐色の火山灰層である。本報告書では本層をⅤ層以外に下位火山灰あるいは地山と表現している。地山面はほとんど平坦である。なお、柱穴、土壙等はこの層まで掘込んでいるものもあり、Ｔピット等の掘込みの深い遺構は、本層下の灰白色火山灰層（鳥越火山灰層）をも掘込んでいる。　　（花海　義人）



第2図　調査区と周辺の地形

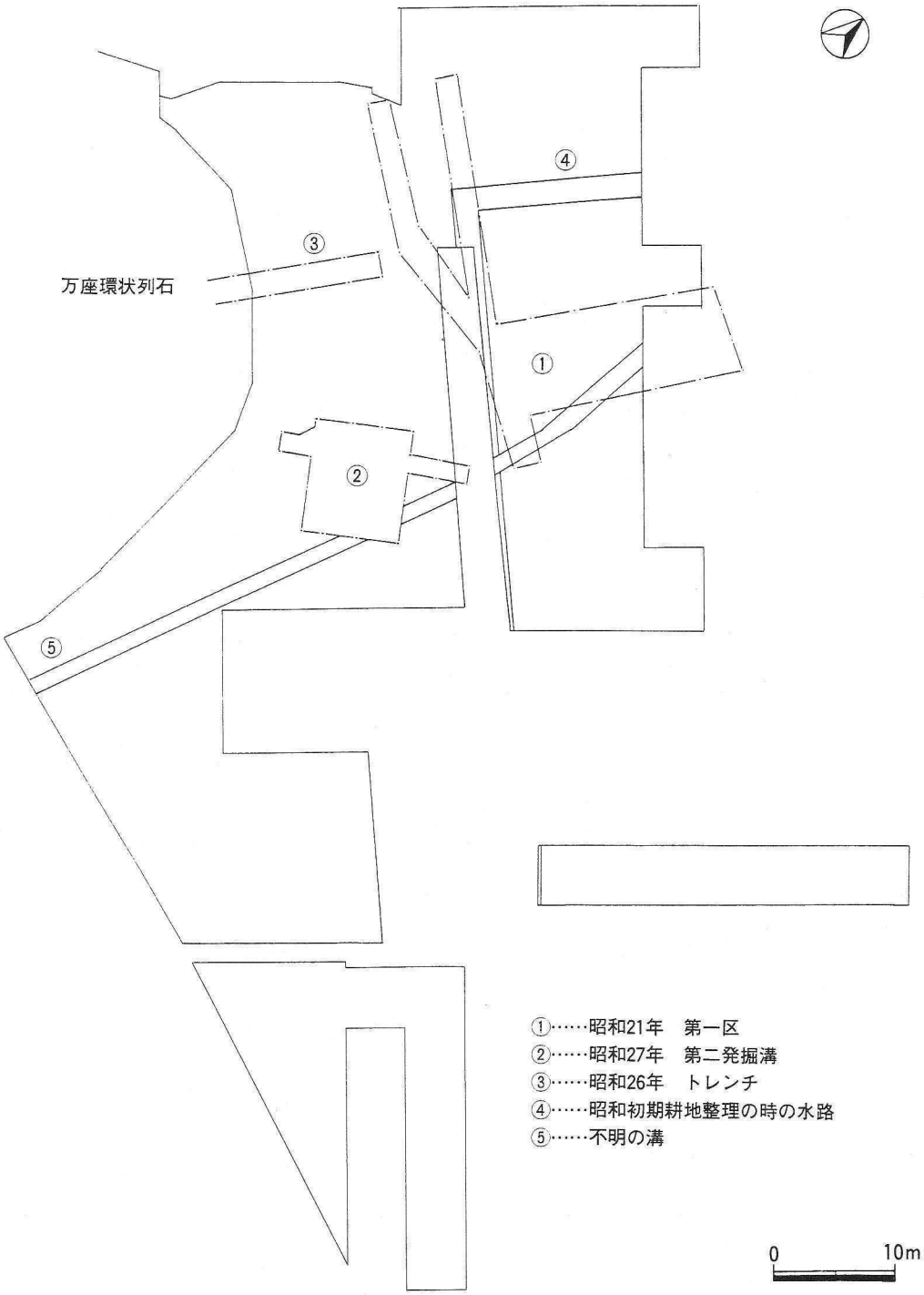


I_o層　黒褐色土(10YR2/3)昭和26～27年発掘土
I 層　黒褐色土(10YR3/2)耕作土
IIa層　にぶい黄褐色火山灰(10YR5/4)シルト質火山灰、堅くしまる
IIb層　明黄褐色浮石(10YR6/6)径0.1～2.0cmの浮石粒
IIc層　黒 色 土(10YR2/1)浮石粒多量混入
IIIa層　黒 色 土(10YR1.7/1)堅くしまる
IIIb層　黒 色 土(7.5YR2/1)IIIa層よりやや軟弱
IIIc層　黒褐色土(7.5YR2/2)チョコレート色に近い色調
IIId層　黒褐色土(10YR2/2)地山粒小量混入
IV 層　暗褐色土(10YR3/3)地山粒、ブロック多量混入
V 層　黄褐色火山灰(10YR5/8)地山

撹乱a　昭和初期の耕地整理時の水路跡

※土層柱状図はS:1/60
柱状図間はS:1/1200

第3図　調査区基本層序図



第４図　昭和20年代の調査区位置図

第Ⅱ章　調査の概要

1．調査要項

1．遺　跡　名　　特別史跡大湯環状列石

2．調 査 目 的　　万座環状列石周辺におけるこれまでの調査によって確認されている建物跡、フラスコ状土壙等の分布状況、万座環状列石との位置関係及び新旧関係の確認を目的に発掘調査を実施し、史跡整備計画策定のための基礎資料とする。

3．調　査　地　　D_6区　　秋田県鹿角市十和田大湯字万座21番地ほか

4．発 掘 面 積　　2,656㎡

5．調 査 期 間

発掘調査　　平成６年５月16日～平成６年９月30日

整理・報告書作成　　平成６年10月３日～平成７年３月31日

6．調査主体者　　鹿角市教育委員会

7．調査担当者　　鹿角市教育委員会　生涯学習課

（主任　秋元信夫　　主任　藤井安正）

8．調査参加者

調査指導員　　熊 谷 太 郎（秋田県教育庁文化課　学芸主事）

調　査　員　　鎌 田 健 一（秋田県立十和田高等学校　教諭）

成 田 典 彦（鹿角市立花輪第一中学校　教諭）

三ケ田俊明（小坂町立小坂小学校　　教諭）

調査補助員　　武藤孝一、柳沢和仁、石川将親、大森寿子

発掘作業員　　平泉良子、金沢典子、木村イヨ、木村千鶴江、黒沢珠子、佐藤良子
高瀬正子、高村サツ、田中栄子、田中美千栄、千葉ヨリ、兎沢サツ子
苗代沢ノブ、奈良幸子、松宮カチ、宮沢カヨ、宮沢キヨ、宮沢トミエ
安村ヨコ、柳沢恵美子、柳沢勝江、柳沢ミネ、柳沢ヤス、柳館愛子

整理作業員　　木村真樹子

9．生涯学習課

課　　長　　阿 部　　満

課長補佐　　村 木 伸 夫

主　　任　　秋 元 信 夫

藤 井 安 正

主　事　　花海義人

10. 協力機関

文化庁記念物課、秋田県教育委員会、秋田県埋蔵文化財センター

2．調査の方法

調査区内のグリッド設定については、第１次調査以来のＮ―49°―Ｗを基準線とする５ｍ単位のグリッドとし、万座環状列石内基準杭から延長した。杭番号はアルファベッド（北西～南東方向）と算用数字（北東～南西方向）で付し、西側の杭を以てグリッドの名称とした。

作業の効率化を図るため、本調査区に隣接した調査結果に基づき、調査区内の基本層序Ⅰ層（表土）については重機により除去した。なお、遺物包含層、遺構構築面であるⅡ層以下については手掘りによる分層発掘とし、極力上層での遺構確認に努めた。また、遺跡・遺構の保存のため遺構が確認された層以下の調査を見合わせた。

遺構の番号については、各遺構とも種類別、発見順に601番より付した。

本調査は、遺構の分布状況の確認にその主眼を置いた。このことから遺構の精査は種別・形態・規模の認知されるところまでとし、遺構の保存にも配慮した。遺構の実測については簡易遣り方測量を用い、遺構に即して1/20、1/10の縮尺で図化した。

遺物の取り上げについては各グリッド、各層ごとに一括して取り上げた。一個体土器又は復元可能な土器や土製品、石製品については出土地点を記録するように努めた。

写真撮影には、２台のカメラを使用し、調査各段階及び遺物出土状況を白黒、リバーサルフィルムに収めた。

3．調査の経過

特別史跡大湯環状列石第11次発掘調査は５月16日から開始し、全調査を終了したのは９月30日である。以下、調査日誌に基づき調査の経過を述べる。

５月16日、作業員への作業内容、事務連絡のあと、発掘作業を開始する。同日より重機を導入し、調査区南東部の表土（第Ⅰ層）除去、その後調査区北西部に移動し表土除去を行う。なお、重機による調査区全域の表土除去が終了したのは５月26日である。

５月末には、調査区南東部においては遺構確認面までの掘り下げもほぼ終了し、ＺＥ―97グリッド周辺から多量の遺物と共に、ＺＤ―94グリッド周辺より数基の土壙を確認する。

６月１日からは、調査の主体を北西部に移し、堆積土の除去と遺構確認を行う。その結果、遺構確認終了グリッドからは、次々と夥しい程の柱穴状ピット・土壙が確認され、確認作業と並行し柱穴状ピット等の半裁作業に取り係る。６月15日万座環状列石東側隣接部分より環状配

石遺構を確認、６月20日、ＺＯ―97グリッド、Ⅲa～Ⅲd層より足形のついた土製品が出土した。７月に入り、好天続きで調査が順調に進行するものと考えていたが、相次ぐ高温・晴天のため作業は難渋する。７月下旬には確認された柱穴状ピットは300個を超えた。

８月５日より、作業は調査員、調査補助員のみで行うこととし、遺構の半裁と土層断面図作成を、同22日より平面図作成を行い、この作業は９月上旬まで続いた。９月中旬からは、調査区の北端部の拡張とC_1区との関連を把握するためＺＧラインの調査を行う。

９月30日までに、遺構精査、記録を終了し、本年度の現地での作業をすべて終えた。

なお、８月23日～24日には文化庁記念物課田中哲雄主任調査官、秋田県教育庁文化課熊谷太郎学芸主事の現地指導をいただいた。また、一般を対象とした現地説明会を10月８日に行い、県内外からの多数の参加者があった。　（藤井　安正）

第Ⅲ章　D_6区の検出遺構と出土遺物

D_6区において確認された遺構は、建物跡17棟、柱穴状ピット404個、環状配石遺構３基、配石列５条、配石遺構３基、石囲炉２基、焼土状遺構15基、埋設土器遺構１基、Ｔピット３基、フラスコ状土壙15基、土壙24基である。いずれの遺構も構築時期は縄文時代後期前葉～中葉にかけてである。なお、上記の遺構数の中には、前調査に引き続き精査されたものも含まれており、それらについては旧遺構名で記述している。

１．建物跡と柱穴状ピット

D_6区からは495の柱穴状ピットが検出された。これらの分布状況をみると万座環状列石近傍及び同環状列石北側30ｍの地域（第12図）に集中している。ピットはⅢd～Ⅳ層において確認されその規模は径12cm～152cm、確認面からの深さ７cm～148cmを測る。ピットの中には柱痕が確認されたものも多く、また、規則的な柱配置を示すものが存在することから、これらのほとんどは堀立柱建物跡（建物跡とする）の柱穴と考えられる。

本調査において、柱配置を明確にし得たのは17棟であるが、ピット同志の重複が激しく柱配置を確定できたかったものもあり、本来は確認数の数を上回るものと考えられる。

ここでは、柱配置の確定した17棟について、概要を述べる。

第601号建物跡（第６図、21図１・９、24図119・120）

万座環状列石北側に隣接するＺＳ・ＺＴ―94・95グリッドに位置する。第602号建物跡と重複関係をもつが、新旧不明である。ピット601・613・644・1090を柱穴とする４本柱の建物で、長辺2.90ｍ、短辺2.80ｍを測り、長軸方向はＮ―73°―Ｗである。

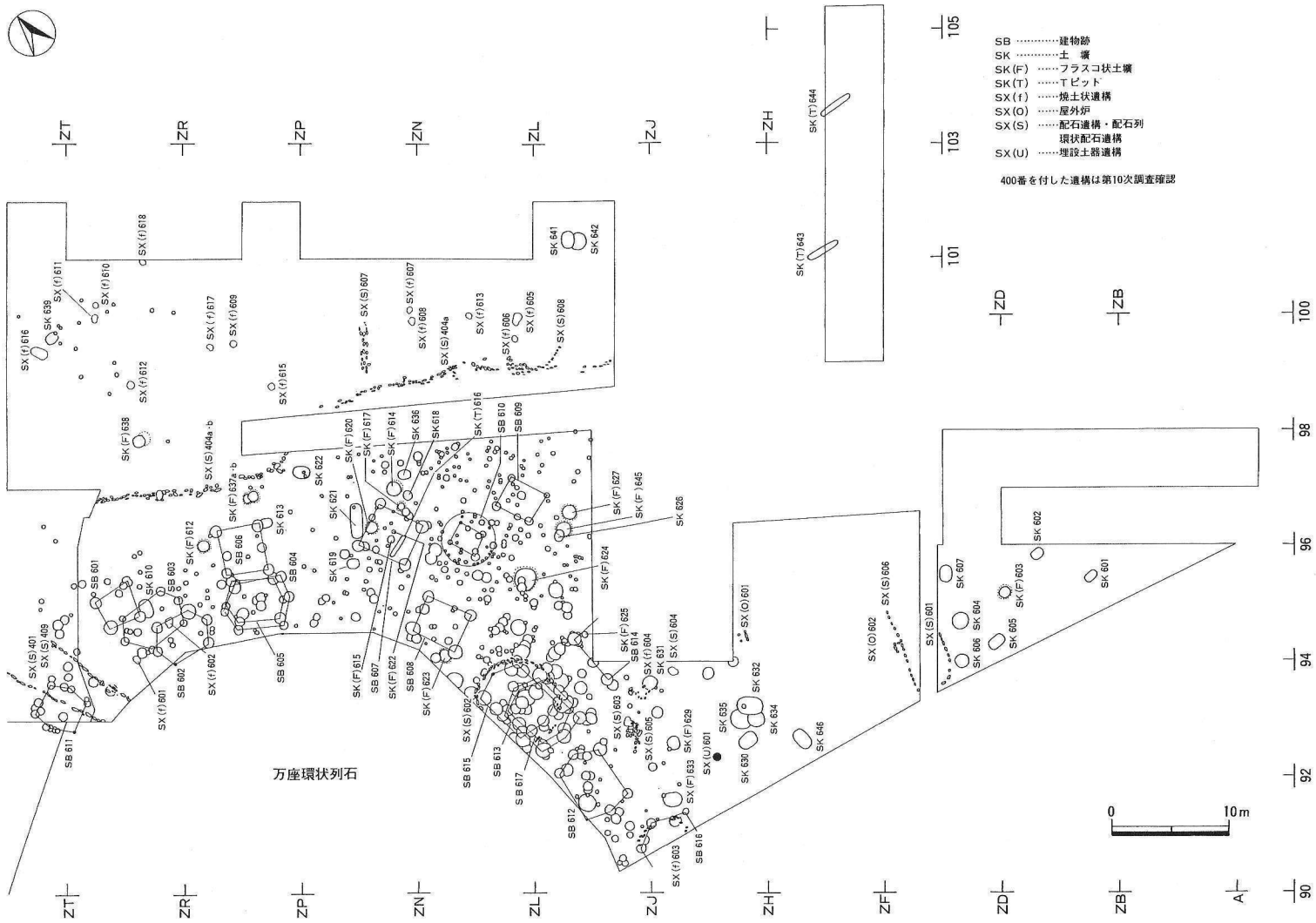
本遺構ピットより縄文時代後期前葉の土器破片が出土した。

第602号建物跡（第６図、21図５・13、25図１～３・６）

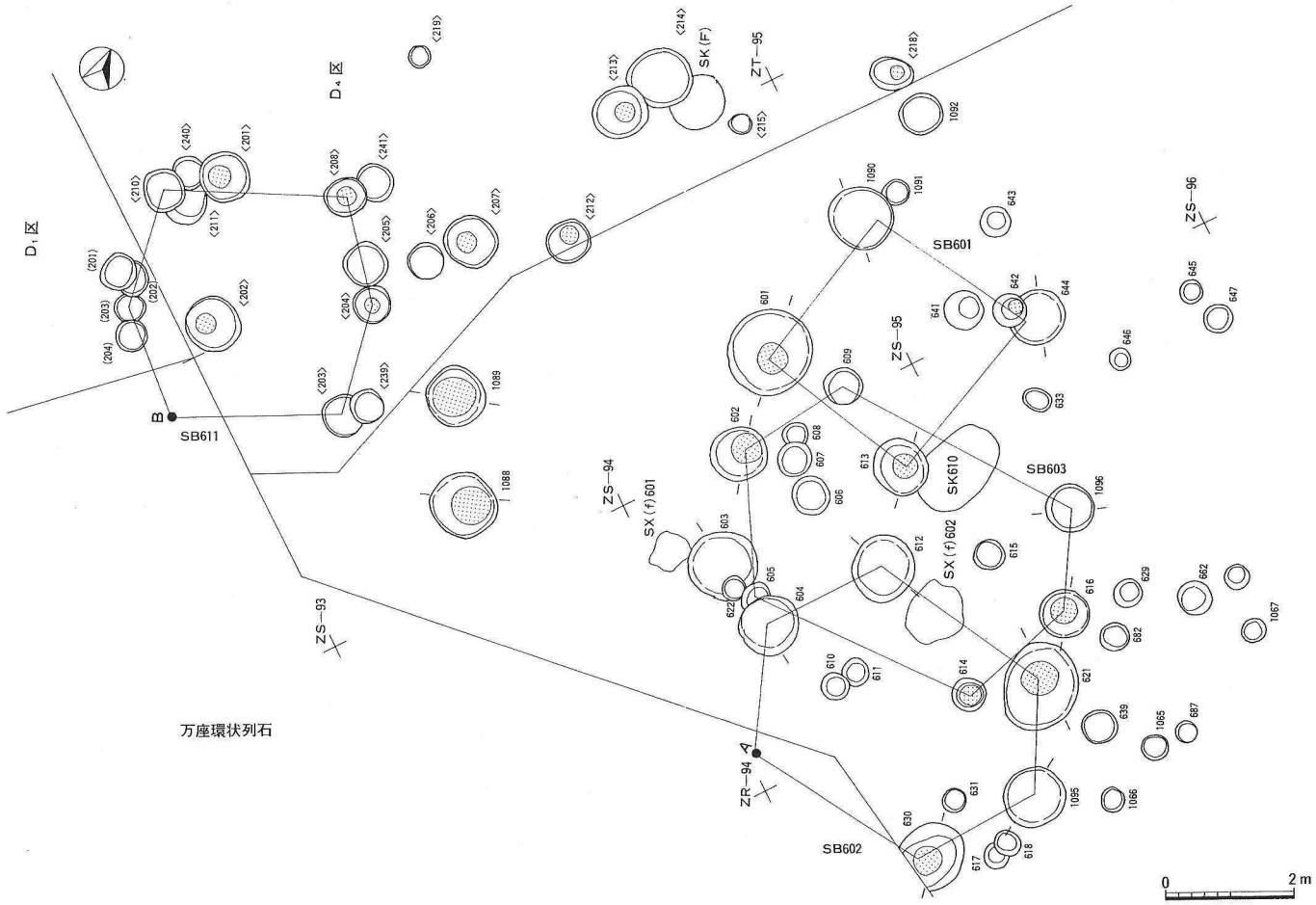
万座環状列石北側に接するＺＲ・ＺＳ―94・95グリッドに位置する。第603号建物跡・第602号焼土状遺構と重複し、新旧関係は603号建物跡・602焼土状遺構→本建物跡である。

ピット604・612・621・630・1095と万座環状列石柵内に存在すると考えられるピットを加えた６本柱の建物跡で、長辺3.30ｍ、短辺3.30ｍ、張り出し部軸長4.92ｍを測り、長軸方向Ｎ―78°―Ｗである。柱穴の掘り方径91cm～135cm、深さ107cm～142cmを測り、ピット621で確認され柱痕径は52cmを測る。

本遺構ピットより縄文時代後期前葉の土器破片、石器（掻器４点）が出土した。


SB ……建物跡
SK ……土　壙
SK(F) ……フラスコ状土壙
SK(T) ……Tピット
SX(f) ……焼土状遺構
SX(O) ……屋外炉
SX(S) ……配石遺構・配石列
環状配石遺構
SX(U) ……埋設土器遺構
400番を付した遺構は第10次調査確認
万座環状列石
0
10m

第5図　遺構配置図


D1区
D4区
SB611
B
SB601
SB602
SB603
SK610
SK(F)
SX(f)601
SX(f)602
ZS-93
ZS-94
ZS-95
ZS-96
ZT-95
ZR-94
A
万座環状列石
0
2m

第6図　建物跡実測図(1)

第603号建物跡（第６図、21図２・３・７・10・11、25図４、26図２）

万座環状列石北側に接するＺＳ・ＺＴ―94・95、ＺＲ―94グリッドに位置する。第601号・602号建物跡・第610号土壙、第602号焼土状遺構と重複し、新旧関係は本建物跡→602号建物跡、他遺構との新旧は不明である。

ピット602・605・609・614・616・1096を柱穴とする６本柱の建物跡で、長辺3.98ｍ、短辺3.50ｍ、張り出し部軸長5.40ｍを測り、長軸方向Ｎ―85°―Ｗである。柱穴の掘り方径49cm～85cm、深さ43cm～146cmを測り、ピット各々で確認された柱痕径は31cm～45ｍを測る。

本遺構ピットより縄文時代後期前葉の土器破片、石器（掻器、凹石各１点）が出土した。

第604号建物跡（第７図、21図31、26図３・５）

万座環状列石北側に隣接するＺＱ・ＺＲ―94・95グリッドに位置する。第605号・606号建物跡と重複し、新旧関係は605号建物跡→本建物跡→606号建物跡である。

ピット620・623・635・656・666・678を柱穴とする６本柱の建物跡で、長辺4.00ｍ、短辺3.70ｍ、張り出し部軸長5.45ｍを測り、長軸方向Ｎ―60°―Ｗである。柱穴の掘り方は77cm～94cm、深さ90cm～114cmを測る。各ピットから確認された柱痕は35cm～44cmである。

本遺構ピットより縄文時代後期前葉の土器破片、石器（凹石・石錘１点）が出土した。

第605号建物跡（第７図、21図12・23・28・30・32、25図５）

万座環状列石北側に隣接するＺＱ・ＺＲ―94・95グリッドに位置する。第604号建物跡と重複関係にあり、その新旧は本建物跡→604号建物跡である。

ピット619・624・634・660・667・676を柱穴とする６本柱の建物跡で、長辺3.70ｍ、短辺3.31ｍ、張り出し部軸長5.04ｍを測り、長軸方向Ｎ―59°―Ｗである。柱穴の掘り方径は68cm～118cm、深さ75cm～124cmを測る。各ピットで確認された柱痕は径36cm～48cmを測る。

本遺構ピットより縄文時代後期前葉の土器破片、石器（掻器１点）が出土した。

第606号建物跡（第７図、21図29）

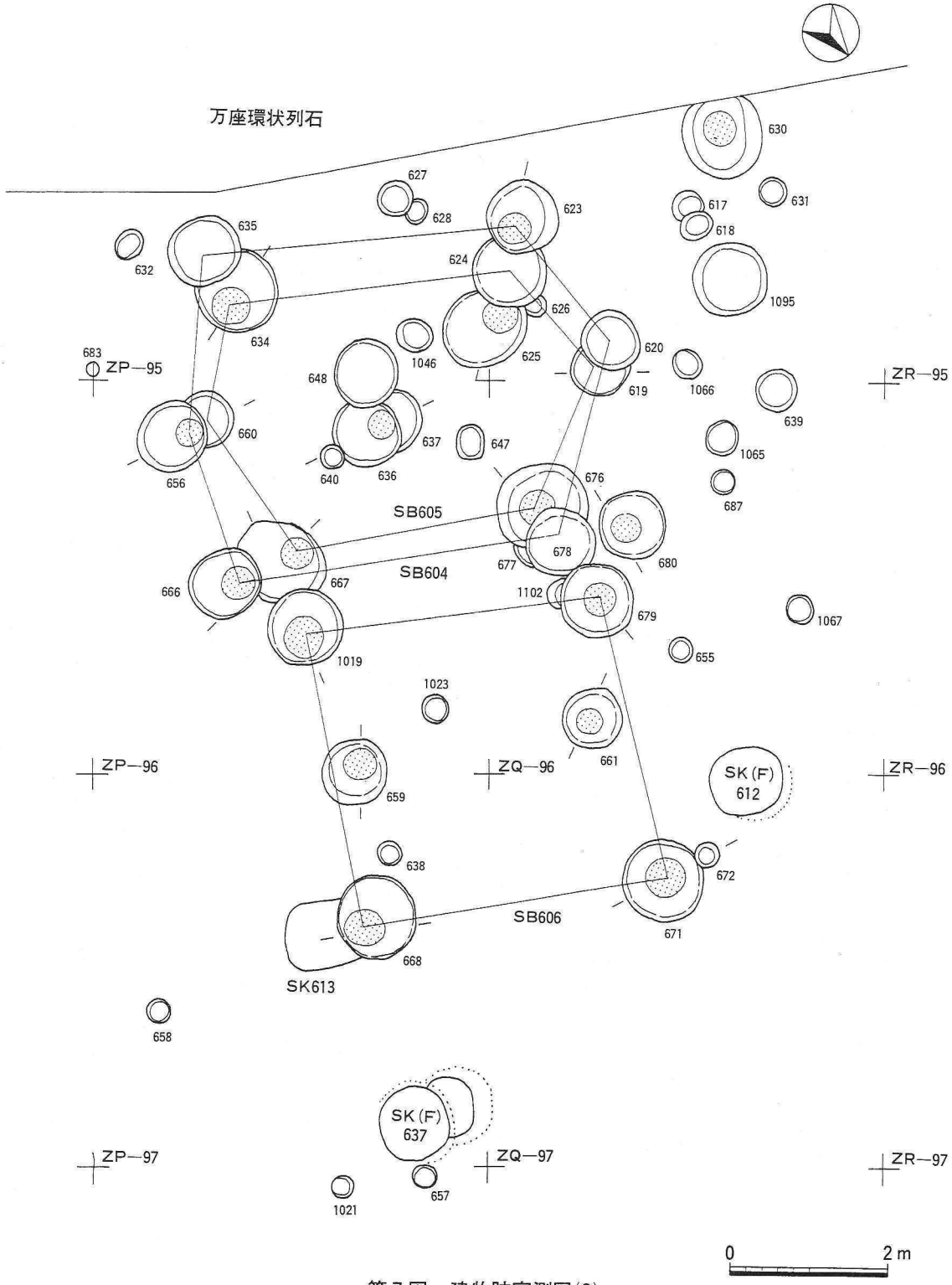
万座環状列石北側に隣接するＺＱ・ＺＲ―95・96グリッドに位置する。第604号・605号建物跡・第613号土壙と重複関係にあり、その新旧は605号建物跡→604号建物跡→本建物跡、613号土壙→本建物跡である。

ピット668・671・679・1019を柱穴とする４本柱の建物跡で、長辺3.90ｍ、短辺3.85ｍを測り、長軸方向Ｎ―60°―Ｗである。柱穴の掘り方径は97cm～106cm、深さ115cm～148cmを測る。各ピットで確認された柱痕は径43cm～53cmを測る。

本遺構ピットより縄文時代後期前葉の土器破片が出土した。

第607号建物跡（第８図、22図35・39・40、25図10、26図６～８）

万座環状列石東側に隣接するＺＮ―96、ＺＯ―95・96グリッドに位置する。第616号Ｔピッ


万座環状列石
630
631
627
628
623
617
618
635
632
624
1095
626
634
683
ZP—95
1046
625
620
ZR—95
648
619
1066
639
660
637
647
1065
656
640
636
676
687
SB605
678
680
677
SB604
666
667
1102
679
1067
1019
655
1023
661
ZP—96
ZQ—96
SK(F)
612
ZR—96
659
638
672
SB606
671
668
SK613
658
SK(F)
637
ZP—97
ZQ—97
ZR—97
657
1021
0
2 m

第７図　建物跡実測図(2)

ト、第620号・622号フラスコ状土壙、第615号土壙と重複する。遺構同士の重複は見当らないが、各遺構の出土遺物から本建物跡が新しいものと考えられる。

ピット691・700・702・706を柱穴とする4本柱の建物跡で、長辺4.20m、短辺4.00mを測り、長軸方向N－23°－Wである。柱穴の掘り方径102cm～110cm、深さ109cm～133cmを測る。各ピットで確認された柱痕は径30cm～47cmを測る。

本遺構ピット691より縄文時代後期中葉の土器破片が出土している他、石器（掻器、敲石、石錘、磨製石斧各1点）が出土した。

第608号建物跡（第8図、25図13、27図3）

万座環状列石東側に接するZN—94・95、ZN—94グリッドに位置する。第623号フラスコ状土壙と重複し、本建物跡が新しい。

ピット689・751・835・837を柱穴とする4本柱の建物跡で、長辺3.75m、3.25mを測り、長軸方向N－17°—Wである。柱穴の掘り方径105cm～138cm、深さ119cm～135cmを測る。各ピットで確認された柱痕は33cm～49cmを測る。

本遺構ピット751より縄文時代後期中葉の土器細破片が出土している他、石器（掻器1点）、土製品（土器片利用土製品1点）が出土した。

第609号建物跡（第9図、22図54・60、25図15）

万座環状列石より東側へ約14mほど離れたZL—96、ZM—96・97グリッドに位置する。

ピット793・860・863・915を柱穴とする4本柱の建物跡で、長辺3.30m、短辺2.60mを測り長軸方向N－23°－Wである。柱穴の掘り径40cm～74cm、深さ63cm～82cmを測る。各ピットで確認された柱痕は31cm～32cmである。

本遺構ピットより縄文時代後期前葉の土器破片、石器（掻器1点）が出土した。

第610号建物跡（第9図）

万座環状列石より東側へ約10mほど離れたZM—95・96、ZN—95・96グリッドに位置し、第608号・609号建物跡の中間にある。また、この地域は昭和27年の第二発掘溝に当たる部分でこの時に確認された住居跡と重複関係にある。新旧は不明。

ピット809・812・(13)・(16)の4本を主柱穴とし、これを取り囲むように15本の柱穴から成る建物跡で、柱穴間の長辺2.25m、短辺2.00mを測り、長軸方向N—15°－Eである。なお、主柱穴を取り囲む柱穴の環径は4.32mである。

柱穴の掘り方径は19cm～46cm、深さ12cm～94cmを測り、数値的に大きな開きがみられる。

本遺構ピットより縄文時代後期前葉の土器細破片が出土した。

第611号建物跡（第6図）

万座環状列石北側に隣接するZT—92・93、ZU—92・93グリッド、調査区D_1区、D_4区に跨

がって位置する。第409号配石列、第235号Ｔピット、第242号フラスコ状土壙と重複し、新旧関係は235号Ｔピット、242号フラスコ状土壙→本遺構→409号配石列である。

ピット〈203〉・〈204〉・〈208〉・〈210〉・(203) と未調査部分の一本を含めた６本を柱穴とする建物跡で、長辺4.40ｍ、短辺3.55ｍ、張り出し軸長3.75ｍを測り、長軸方向はＮ－70°－Ｅである。柱穴の掘り方径は48cm～68cm、深さ56cm以上～119cmを測る。

前調査時に、本遺構ピットより縄文時代後期前葉の土器破片が出土している。

第612号建物跡（第11図、23図91・95、25図24・25）

万座環状列石南東側に隣接するＺＫ―91・92、ＺＬ―91・92グリッドに位置する。本調査によって確認された建物跡で、南端に位置する。他遺構との重複は認められない。

ピット963・969・972・976・1021と未調査部分の一本を含めた６本柱穴とする建物跡で長辺4.40ｍ、短辺3.95ｍを測り、長軸方向はＮ―８°―Ｅである。

柱穴の掘り方径は91cm～112cm、深さ98cm～136cmを測る。各ピットで確認された柱痕は径30cm～34cmを測る。

本遺構ピットより縄文時代後期前葉の土器破片の他、石器（掻器２点）が出土した。

第613号建物跡（第10図、23図75～77・78、25図20）

万座環状列石南東側に隣接するＺＬ―92・93、ＺＭ―92・93グリッドに位置する。第603号環状配石遺構、第615号・617号建物跡と重複し、その新旧関係は617号建物跡→本建物跡→615号建物跡→603号環状配石遺構である。

ピット929・936・943・989・990・1013を柱穴とする６本柱の建物跡で、長辺4.90ｍ、短辺4.70ｍを測り、長軸方向はＮ―３°―Ｗである。

柱穴の掘り方径は98cm～139cm、深さ93cm～132cmを測る。各ピットで確認された柱痕は径39cm～50cmを測る。

本遺構ピット936より縄文時代後期中葉の土器破片の他、石器（掻器１点）が出土した。

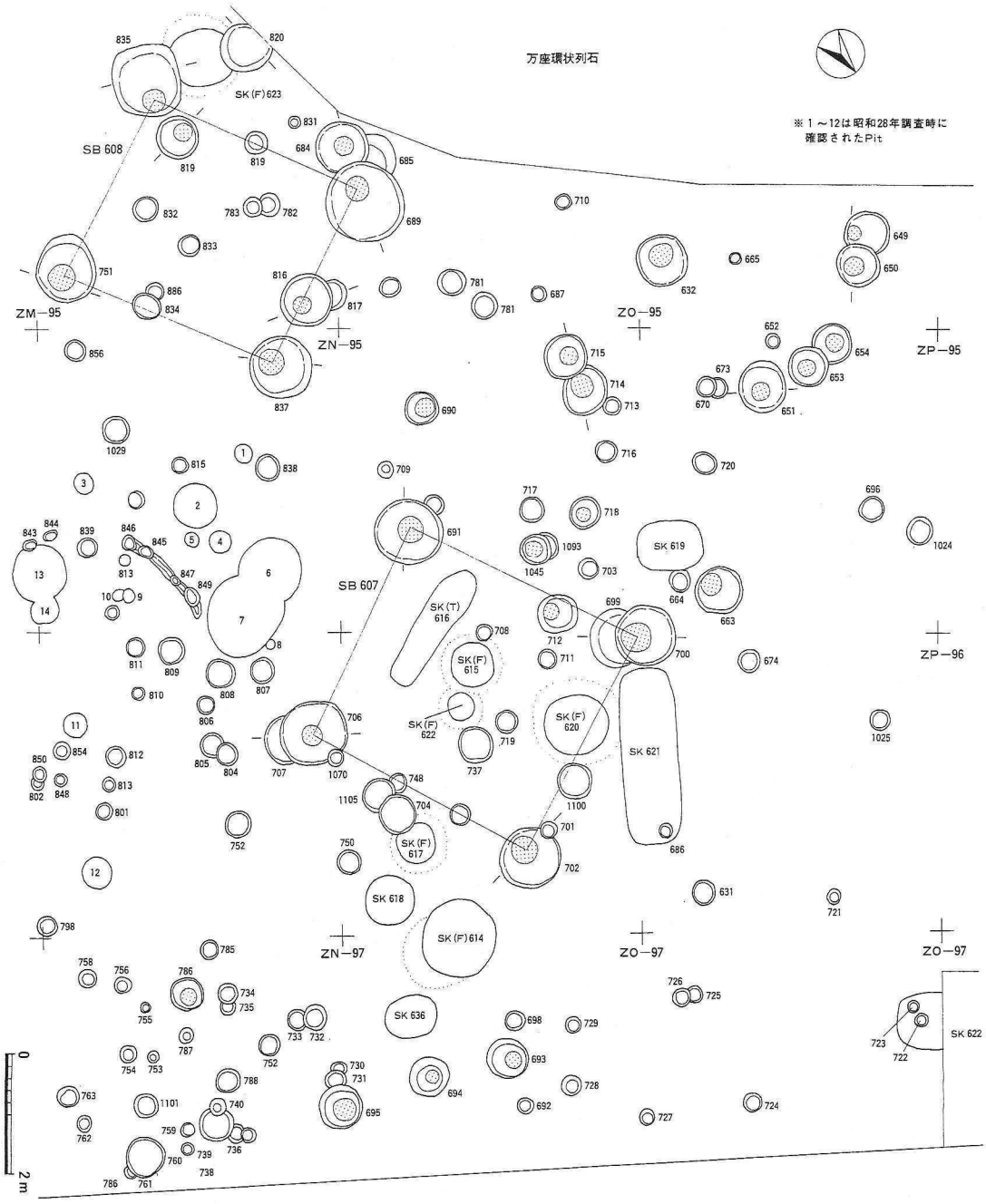
第614号建物跡（第10図、24図104、26図18）

万座環状列石東側に隣接するＺＫ―93、ＺＬ―93・94グリッドに位置する。重複する建物跡やその他遺構は見当らない。第613号建物跡や第602号環状配石遺構の東側に位置する。建物跡東側は未調査である。

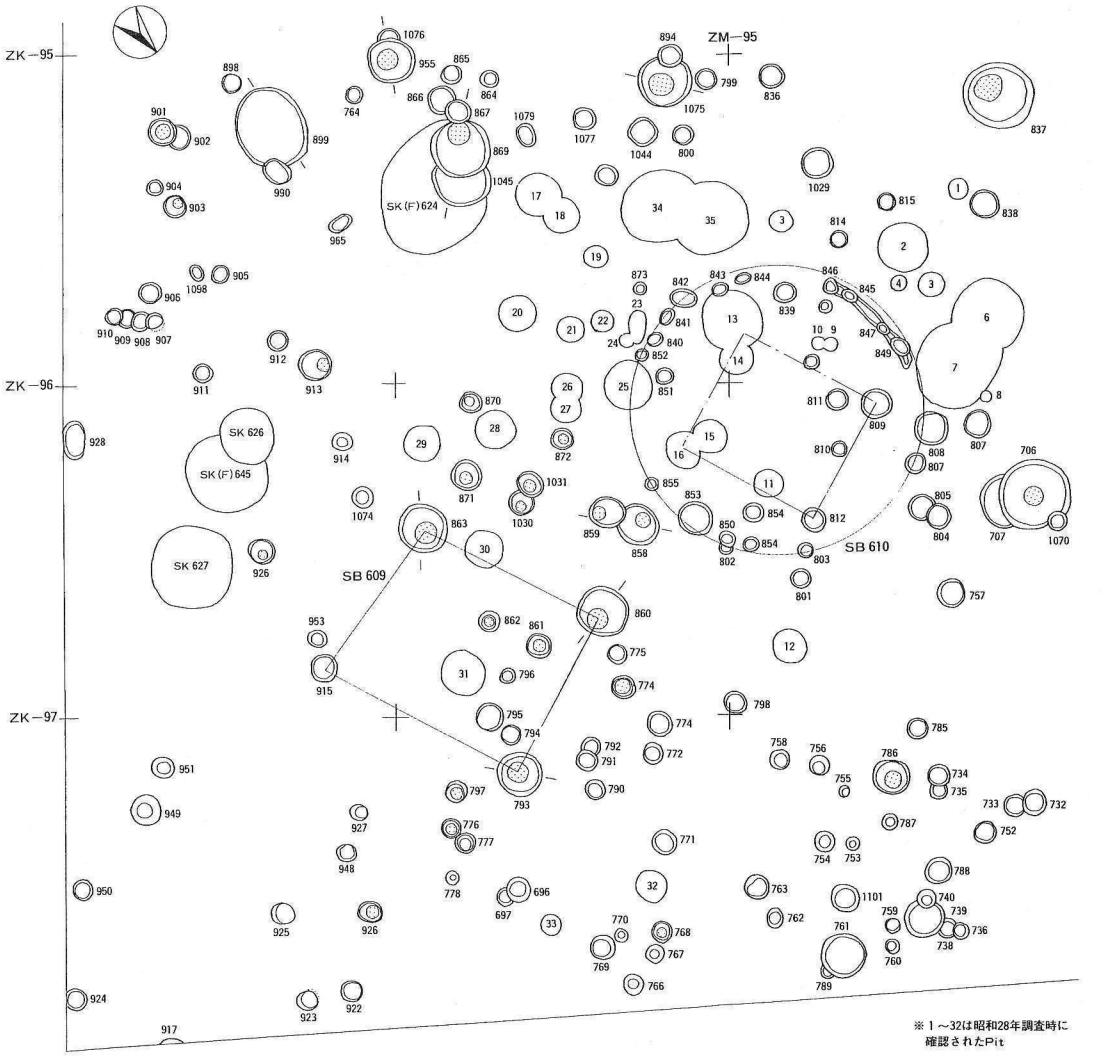
ピット883・1008と未確認の数本による４本柱の建物跡と想定される。ピット883と1008間の距離は4.70ｍを測り、これを結ぶライン方向はＮ―Ｓである。

柱穴の掘り方径は80cm～108cm、深さ96cm～100cmを測る。各ピットで確認された柱痕は径39cm～50cmを測る。

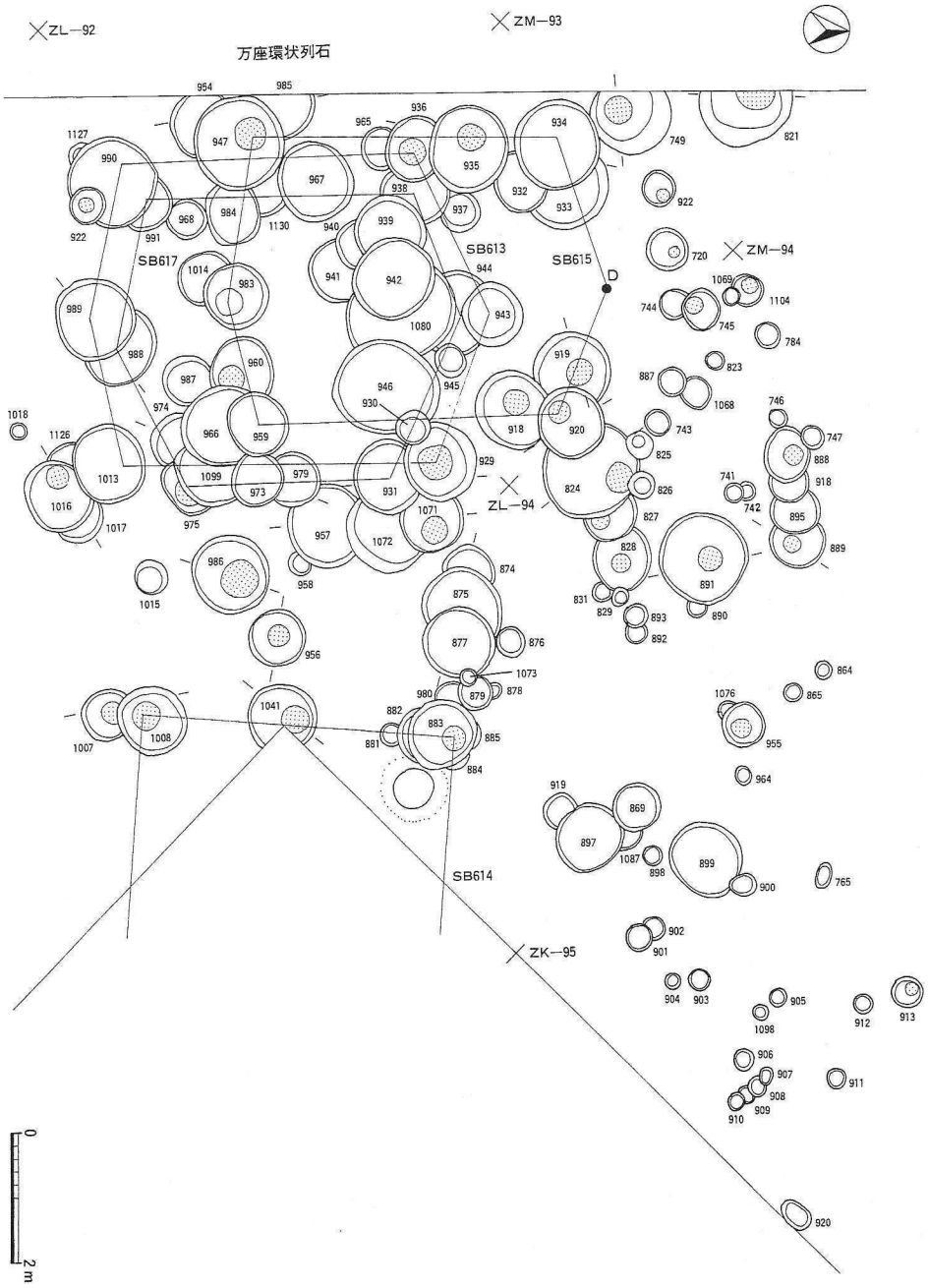
本遺構ピット1008より縄文時代後期中葉の土器破片の他、石器（石錘１点）が出土した。


万座環状列石
※1～12は昭和28年調査時に確認されたPit
SB 608
SB 607
SK (F) 623
SK (T) 616
SK (F) 615
SK (F) 622
SK (F) 620
SK (F) 617
SK (F) 614
SK 619
SK 621
SK 618
SK 636
SK 622
ZM－95
ZN－95
ZO－95
ZP－95
ZP－96
ZN－97
ZO－97
0
2 m

第8図　建物跡実測図(3)

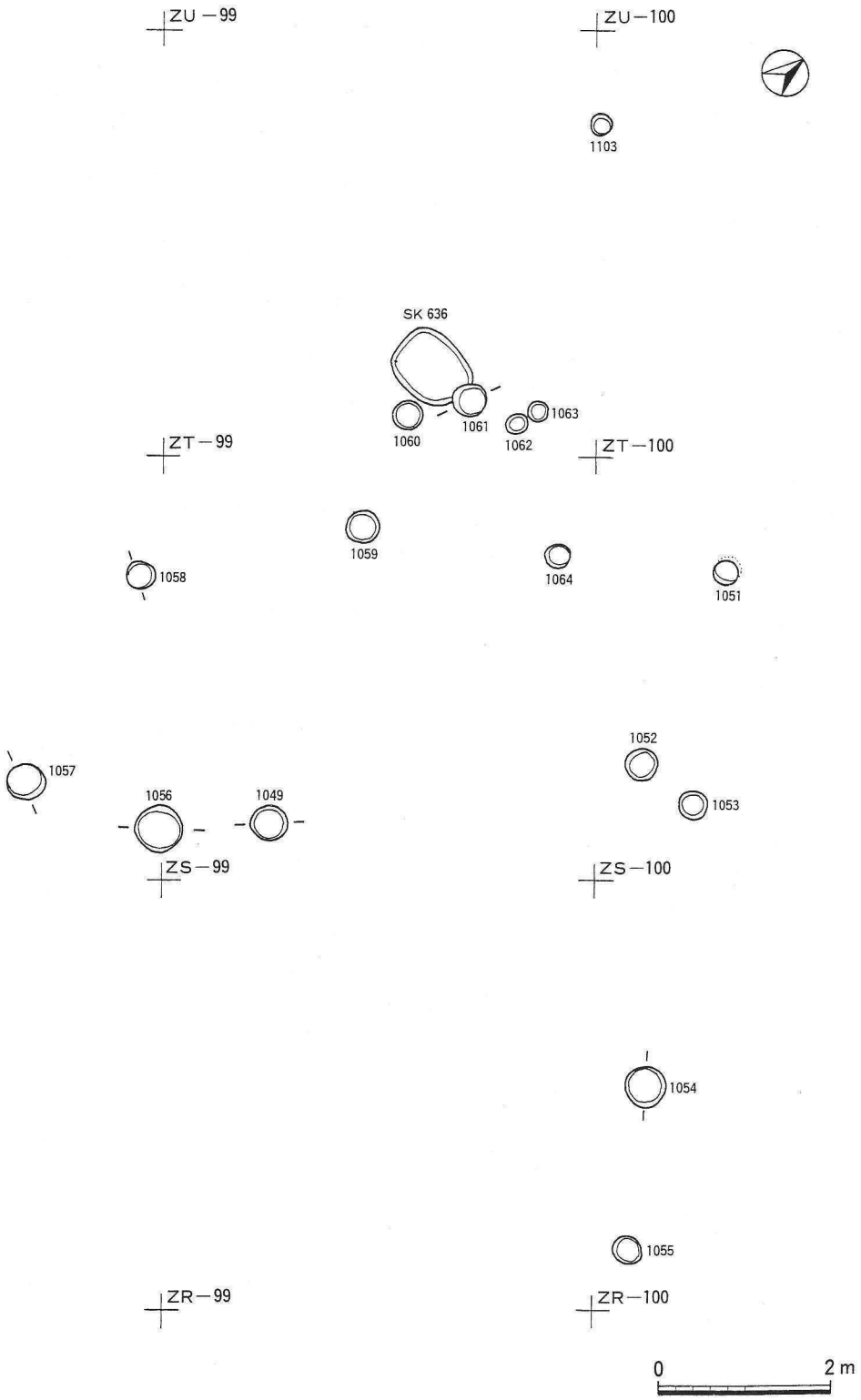

ZK−95
ZK−96
ZK−97
ZM−95
SK(F)624
SK 626
SK(F)645
SK 627
SB 609
SB 610
※1～32は昭和28年調査時に
確認されたPit
0
2m

第9図　建物跡実測図(4)

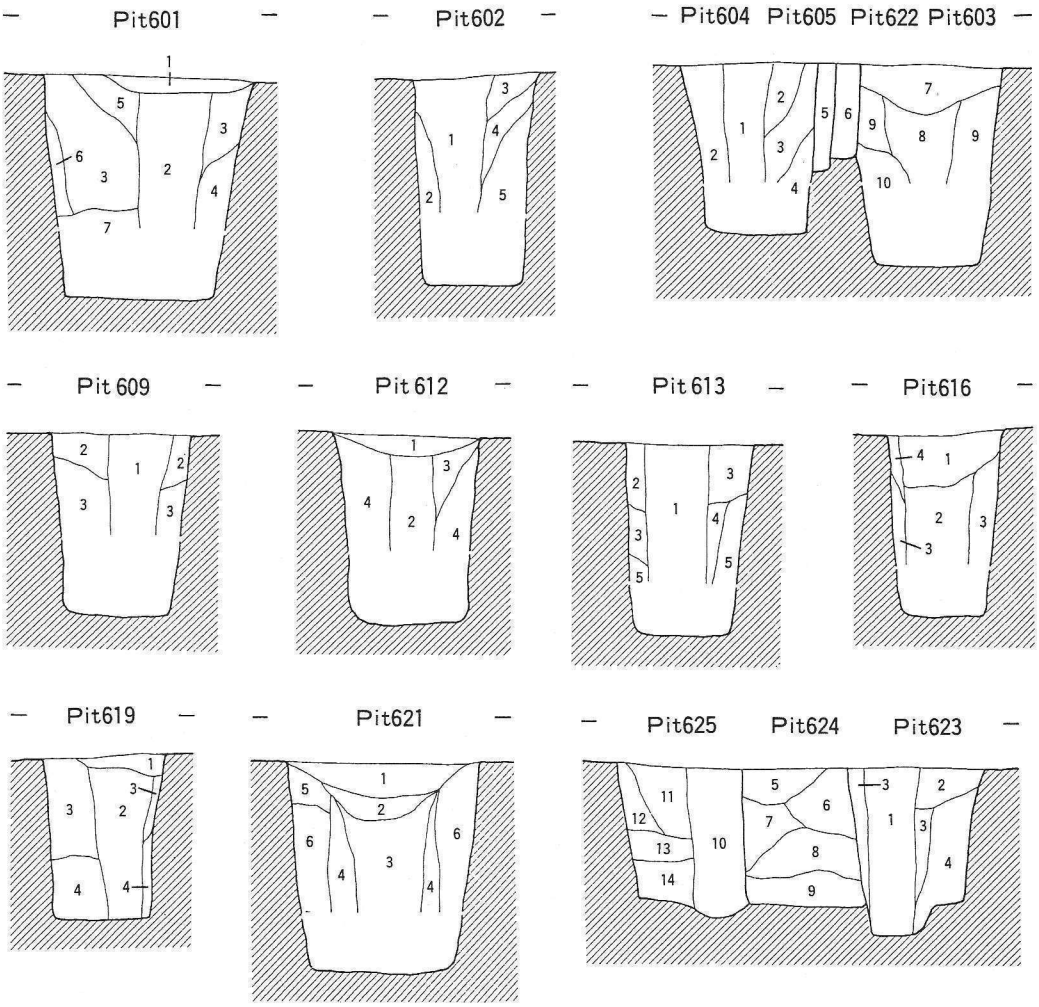


第10図　建物跡実測図(5)

第11図　建物跡実測図(6)



第12図　調査区北側柱穴状ピット実測図



ピット601
1層　黒 色 土(7.5YR2/1)
2層　暗褐色土(7.5YR3/3)
3層　黒褐色土(7.5YR2/2)
4層　黄褐色土(10YR5/8)
5層　黒褐色土(10YR2/3)
6層　黒褐色土(7.5YR2/2)
7層　黒 色 土(7.5YR2/1)

ピット602
1層　黒 色 土(7.5YR2/1)
2層　黒褐色土(10YR3/2)
3層　黄褐色土(10YR5/8)
4層　黒褐色土(7.5YR2/2)
5層　黒褐色土(7.5YR2/2)
　　＋明褐色土(7.5YR5/6)

ピット603
7層　黒褐色土(10YR3/1)
8層　暗褐色土(7.5YR3/3)
9層　褐 色 土(10YR4/4)
10層　明黄褐色土(10YR6/6)

ピット604
1層　黒褐色土(7.5YR3/1)
2層　黒 色 土(7.5YR2/1)
3層　黒褐色土(10YR3/1)
4層　暗褐色土(7.5YR3/3)

ピット605
5層　黒褐色土(7.5YR2/2)

ピット609
1層　黒 色 土(10YR2/1)
2層　黒 色 土(7.5YR2/1)
3層　黒褐色土(10YR2/2)

ピット612
1層　黒 色 土(7.5YR2/1)
2層　黒褐色土(10YR2/2)
3層　黒褐色土(7.5YR2/2)
4層　黒 色 土(10YR2/1)

ピット613
1層　黒 色 土(7.5YR2/1)
2層　黒 色 土(10YR2/1)
3層　黒褐色土(10YR2/2)
4層　黒褐色土(10YR2/3)
5層　黒褐色土(10YR2/2)

ピット621
1層　黒 色 土(10YR2/1)
2層　黒褐色土(10YR2/2)
3層　黒 色 土(10YR2/1)
4層　黒褐色土(10YR2/2)
5層　黒 色 土(10YR2/1)
6層　黒褐色土(10YR3/2)

ピット622
6層　墨褐色土(10YR2/2)

ピット623
1層　黒 色 土(10YR2/1)
2層　黒褐色土(7.5YR2/2)
3層　暗褐色土(10YR3/3)
4層　黄褐色土(10YR5/8)

ピット616
1層　黒 色 土(10YR2/1)
2層　黒褐色土(10YR2/3)
3層　黒 色 土(10YR2/1)
4層　暗褐色土(7.5YR3/3)

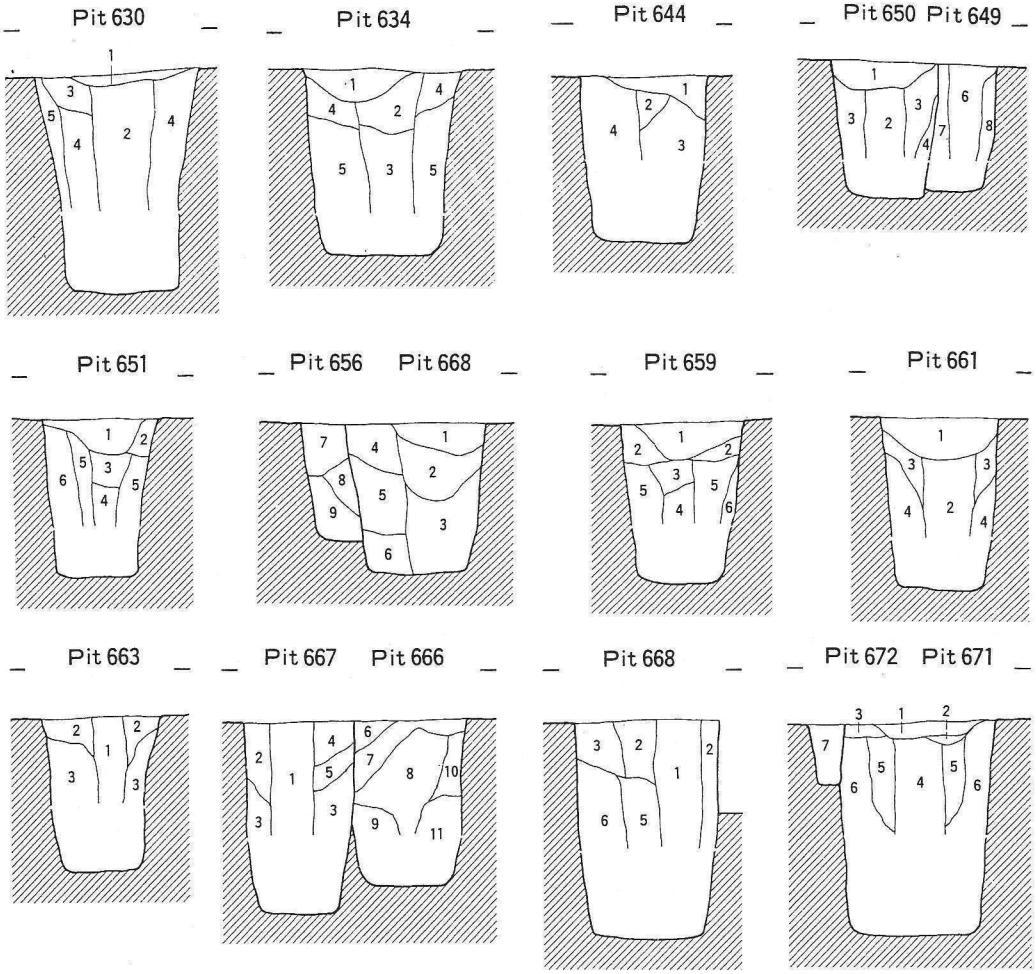
ピット619
1層　黒 色 土(10YR2/1)
2層　黒 色 土(7.5YR2/1)
3層　黒 色 土(7.5YR1.7/1)
4層　黄褐色土(10YR5/8)

ピット624
5層　黒褐色土(7.5YR2/2)
6層　暗褐色土(10YR3/3)＋橙色土(7.5YR6/8)
7層　黒褐色土(7.5YR2/2)＋褐色土(10YR4/4)
8層　黒褐色土(10YR3/2)
9層　褐 色 土(10YR4/4)

ピット625
10層　黒 色 土(10YR1.7/1)
11層　黒 色 土(7.5YR2/1)
12層　黒褐色土(10YR2/2)
13層　褐 色 土(10YR4/4)
14層　橙 色 土(7.5YR6/8)

0　1 m

第13図　柱穴状ピット断面図(1)



ピット 630
1層　黒 色 土(10YR2/1)
2層　黒 色 土(10YR1.7/1)
3層　黒褐色土(10YR2/2)
4層　黒褐色土(10YR3/2)
5層　黒褐色土(10YR2/2)

ピット 650
1層　黒褐色土(10YR2/2)
2層　黒 色 土(10YR2/1)
3層　暗褐色土(10YR3/3)
4層　黒褐色土(10YR2/2)

ピット 659
1層　黒褐色土(10YR2/3)
2層　黒褐色土(7.5YR2/2)
3層　黒褐色土(10YR2/3)
4層　黒褐色土(10YR2/2)
5層　黒褐色土(10YR2/3)
6層　暗褐色土(7.5YR3/3)

ピット 667
1層　黒褐色土(10YR2/2)
　　地山塊多量混入
2層　黒褐色土(10YR2/2)
3層　黒褐色土(10YR2/3)
4層　黒褐色土(10YR3/2)
5層　黒褐色土(10YR2/2)

ピット 634
1層　黒褐色土(10YR2/2)
　　地山塊多量混入
2層　黒褐色土(10YR2/2)
3層　黒褐色土(10YR2/2)
　　地山塊多量混入
4層　黒褐色土(7.5YR2/2)
5層　黒褐色土(10YR2/3)

ピット 651
1層　黒 色 土(10YR2/1)
2層　褐 色 土(10YR4/4)
3層　暗褐色土(7.5YR3/3)
4層　黒褐色土(7.5YR2/2)
5層　暗褐色土(7.5YR3/3)
6層　褐 色 土(10YR4/6)

ピット 661
1層　黒褐色土(10YR2/2)
2層　黒褐色土(7.5YR2/2)
3層　黒褐色土(10YR2/2)
4層　黒褐色土(10YR2/3)

ピット 668
1層　黒 色 土(10YR2/1)
2層　黒褐色土(10YR2/2)
3層　黒褐色土(10YR2/3)
4層　黒褐色土(10YR2/2)
5層　黒褐色土(10YR3/2)
6層　黒褐色土(7.5YR2/2)

ピット 644
1層　黒 色 土(10YR2/1)
2層　黒褐色土(10YR2/3)
3層　黒褐色土(10YR3/2)
4層　黒 色 土(10YR2/1)

ピット 668
1層　黒褐色土(7.5YR2/2)
2層　褐 色 土(7.5YR4/4)
3層　黒 色 土(10YR2/1)
4層　黒褐色土(7.5YR2/2)
5層　暗褐色土(7.5YR3/3)
6層　黒褐色土(10YR2/2)

ピット 663
1層　黒褐色土(10YR2/2)
2層　黒褐色土(10YR2/3)
3層　黒褐色土(10YR2/2)

ピット 671
1層　黒褐色土(10YR2/2)
2層　黒褐色土(10YR2/3)
3層　暗褐色土(7.5YR3/3)
4層　黒褐色土(10YR2/2)
5層　黒褐色土(7.5YR2/2)
6層　黒褐色土(10YR3/2)

ピット 649
6層　黒 色 土(10YR2/1)
7層　黄褐色土(10YR5/8)
8層　明黄褐色土(10YR6/8)

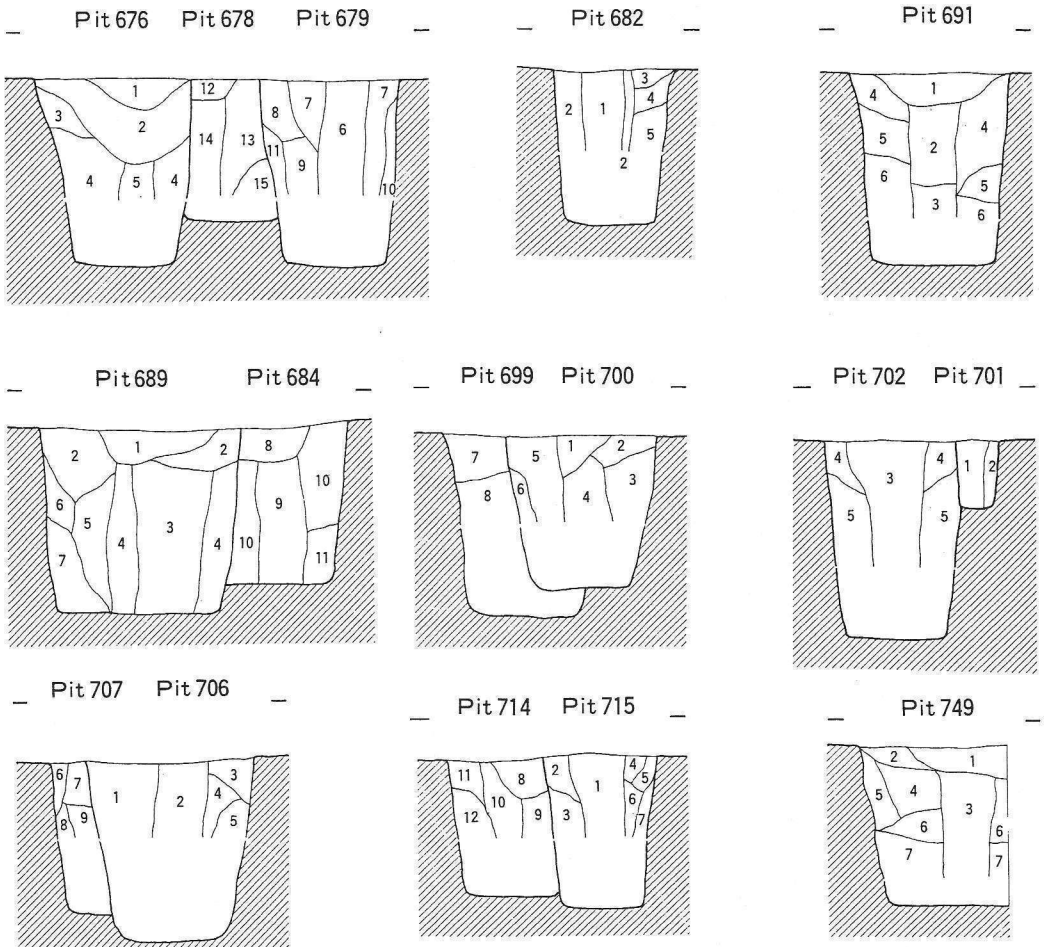
ピット 656
7層　黒 色 土(10YR2/1)
8層　黒 色 土(7.5YR2/1)
9層　黒褐色土(7.5YR2/2)
　　＋黄褐色土(10YR5/8)

ピット 666
8層　黒褐色土(10YR2/2)
9層　黒褐色土(10YR3/2)
10層　黒褐色土(10YR2/2)
11層　黒褐色土(7.5YR2/2)
12層　黒褐色土(10YR3/2)
13層　暗褐色土(7.5YR3/3)

ピット 672
7層　黒褐色土(10YR3/2)

0　1 m

第14図　柱穴状ピット断面図(2)



ピット 676
1 層　黒褐色土(10YR3/2)
2 層　黒　色　土(10YR1.7/1)
3 層　黒褐色土(10YR3/2)
4 層　黒　色　土(10YR2/1)
5 層　黒褐色土(10YR3/2)

ピット 684
1 層　黒褐色土(10YR2/2)
2 層　黒褐色土(10YR3/2)
3 層　黒褐色土(10YR2/2)
4 層　黒褐色土(10YR3/2)
5 層　黒褐色土(10YR2/2)
6 層　黒褐色土(10YR3/2)
7 層　黒褐色土(10YR2/2)

ピット 700
1 層　黒褐色土(10YR2/2)
2 層　黒褐色土(10YR2/3)
3 層　暗褐色土(10YR3/3)
4 層　黒褐色土(10YR2/2)
5 層　黒褐色土(10YR2/2)
6 層　黒褐色土(10YR2/3)

ピット 707
6 層　にぶい黄褐色土(10YR5/4)
7 層　暗褐色土(10YR3/3)
8 層　褐　色　土(10YR4/4)
9 層　黒褐色土(10YR3/2)

ピット 678
12層　黒褐色土(10YR2/3)
13層　灰黄褐色土(10YR4/2)
14層　黒褐色土(10YR2/2)
15層　黒褐色土(10YR3/2)

ピット 689
8 層　黒　色　土(10YR2/1)
9 層　黒褐色土(10YR2/2)
10層　黒褐色土(7.5YR2/2)
11層　黒褐色土(10YR2/2)
　　地山塊多量混入

ピット 701
1 層　黒　色　土(7.5YR2/1)
2 層　明黄褐色土(10YR6/8)

ピット 714
8 層　黒褐色土(7.5YR2/2)
9 層　暗褐色土(10YR3/3)
10層　黒　色　土(10YR2/1)
11層　黒褐色土(7.5YR2/2)
12層　暗褐色土(7.5YR3/3)

ピット 679
6 層　黒褐色土(10YR2/2)
7 層　黒　色　土(10YR1.7/1)
8 層　黒褐色土(10YR2/2)
9 層　黒褐色土(10YR3/2)
10層　暗褐色土(7.5YR3/3)
11層　明黄褐色土(10YR6/6)

ピット 691
1 層　暗褐色土(10YR3/3)
2 層　黒褐色土(10YR2/2)
3 層　暗褐色土(7.5YR3/3)
4 層　褐　色　土(10YR4/4)
5 層　明黄褐色土(10YR6/8)
6 層　黒　色　土(10YR2/1)

ピット 702
3 層　黒　色　土(7.5YR2/1)
4 層　黒褐色土(10YR2/2)
5 層　暗褐色土(10YR3/3)
　　＋明黄褐色土(10YR6/8)

ピット 715
1 層　黒　色　土(10YR2/1)
2 層　にぶい黄褐色土(10YR5/4)
3 層　暗褐色土(10YR3/3)
　　＋明黄褐色土(10YR6/8)
4 層　暗褐色土(10YR3/3)
5 層　黒褐色土(10YR2/2)
6 層　暗褐色土(10YR3/3)
7 層　暗褐色土(10YR3/4)

ピット 682
1 層　黒　色　土(10YR2/1)
2 層　黒褐色土(7.5YR2/2)
3 層　褐　色　土(10YR4/4)
4 層　暗褐色土(7.5YR3/3)
5 層　黒　色　土(7.5YR2/1)

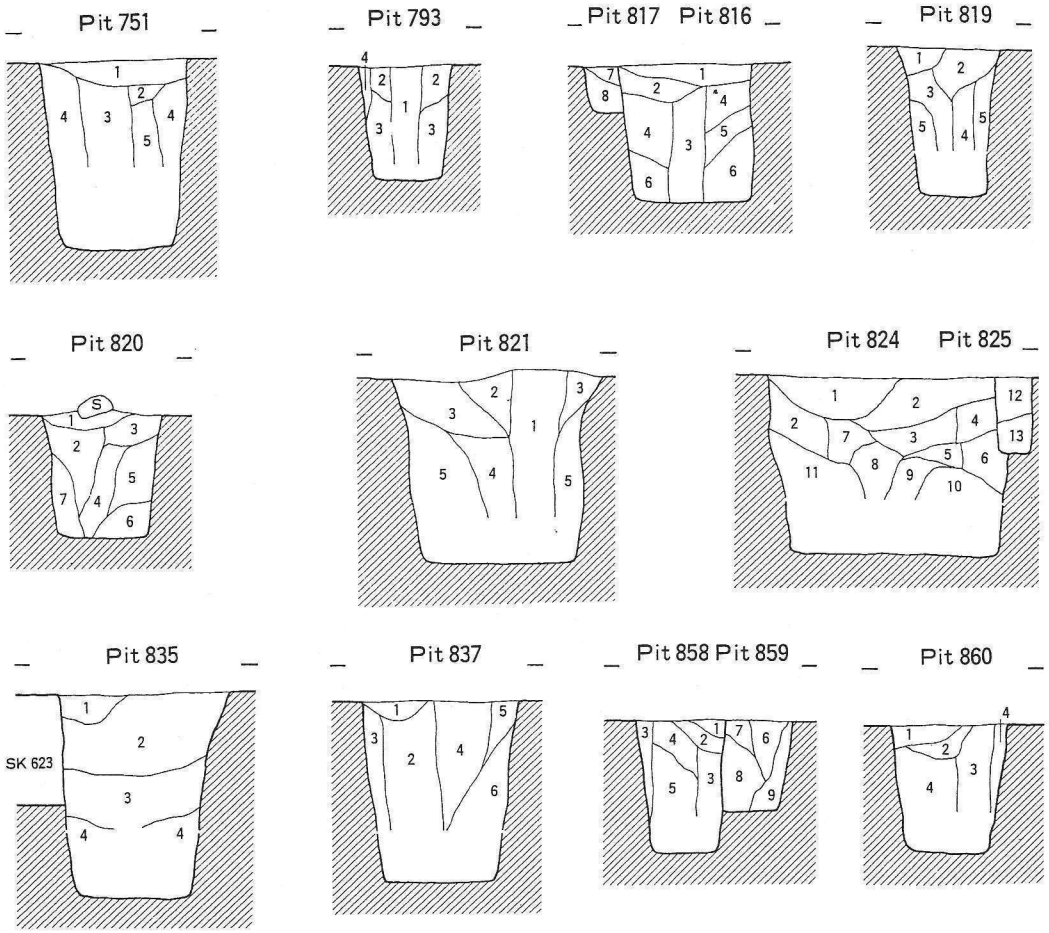
ピット 699
7 層　暗褐色土(10YR3/3)
8 層　黒褐色土(10YR3/2)

ピット 706
1 層　褐　色　土(10YR4/4)
2 層　黒褐色土(10YR2/2)
3 層　暗褐色土(10YR3/3)
4 層　黒褐色土(10YR3/2)
5 層　褐　色　土(10YR4/4)

ピット 749
1 層　黒　色　土(7.5YR2/1)
2 層　褐　色　土(10YR4/4)
3 層　褐　色　土(10YR4/4)
4 層　黒褐色土(7.5YR3/2)
5 層　黒褐色土(10YR3/2)
6 層　褐　色　土(10YR4/6)
7 層　黒褐色土(10YR2/2)

0　1 m

第15図　柱穴状ピット断面図(3)



ピット751
1層　黒褐色土(10YR2/3)
2層　黒褐色土(7.5YR3/2)
3層　黒褐色土(10YR2/2)
4層　明黄褐色土(10YR6/8)
5層　黒褐色土(10YR3/2)

ピット819
1層　黒褐色土(10YR2/2)
2層　黒褐色土(10YR3/2)
3層　黒褐色土(10YR2/3)
4層　黒褐色土(10YR2/2)
5層　黒褐色土(10YR3/2)

ピット835
1層　黒褐色土(10YR2/2)
2層　黒褐色土(10YR3/2)
3層　黒褐色土(10YR2/2)
4層　黒褐色土(10YR3/2)

ピット859
6層　暗褐色土(10YR3/4)
7層　暗褐色土(10YR3/3)
8層　黒褐色土(10YR2/2)
9層　黄褐色土(10YR5/8)

ピット793
1層　黒褐色土(10YR2/2)
2層　黒褐色土(10YR3/2)
3層　暗褐色土(10YR3/3)
4層　黒褐色土(10YR2/3)

ピット820
1層　黒褐色土(10YR2/2)
2層　黒褐色土(10YR3/2)
3層　黒褐色土(10YR2/3)
4層　黒褐色土(10YR2/2)
5層　黒　色　土(10YR2/1)
6層　黒　色　土(10YR1.7/1)
7層　黒褐色土(10YR2/2)

ピット837
1層　黒褐色土(10YR2/2)
2層　黒　色　土(10YR2/1)
3層　黒褐色土(10YR2/2)
4層　暗褐色土(10YR3/3)
5層　暗褐色土(10YR3/4)
6層　黒褐色土(10YR2/2)

ピット860
1層　暗褐色土(10YR3/3)
2層　黒褐色土(10YR2/2)
3層　黒　色　土(10YR2/1)
4層　褐　色　土(10YR4/4)

ピット816
1層　黒　色　土(7.5YR2/1)
2層　黒　色　土(7.5YR2/1)
3層　黒　色　土(7.5YR2/1)
4層　黒褐色土(10YR2/2)
5層　黒　色　土(10YR2/1)
6層　黒　色　土(7.5YR2/1)

ピット821
1層　黒褐色土(10YR2/2)
2層　黒褐色土(10YR3/2)
3層　黒　色　土(10YR2/1)
4層　暗褐色土(10YR3/3)
5層　褐　色　土(10YR4/6)

ピット858
1層　褐　色　土(10YR4/4)
2層　褐　色　土(10YR4/6)
3層　褐　色　土(10YR4/4)
4層　褐　色　土(10YR4/4)
5層　黒褐色土(10YR2/2)

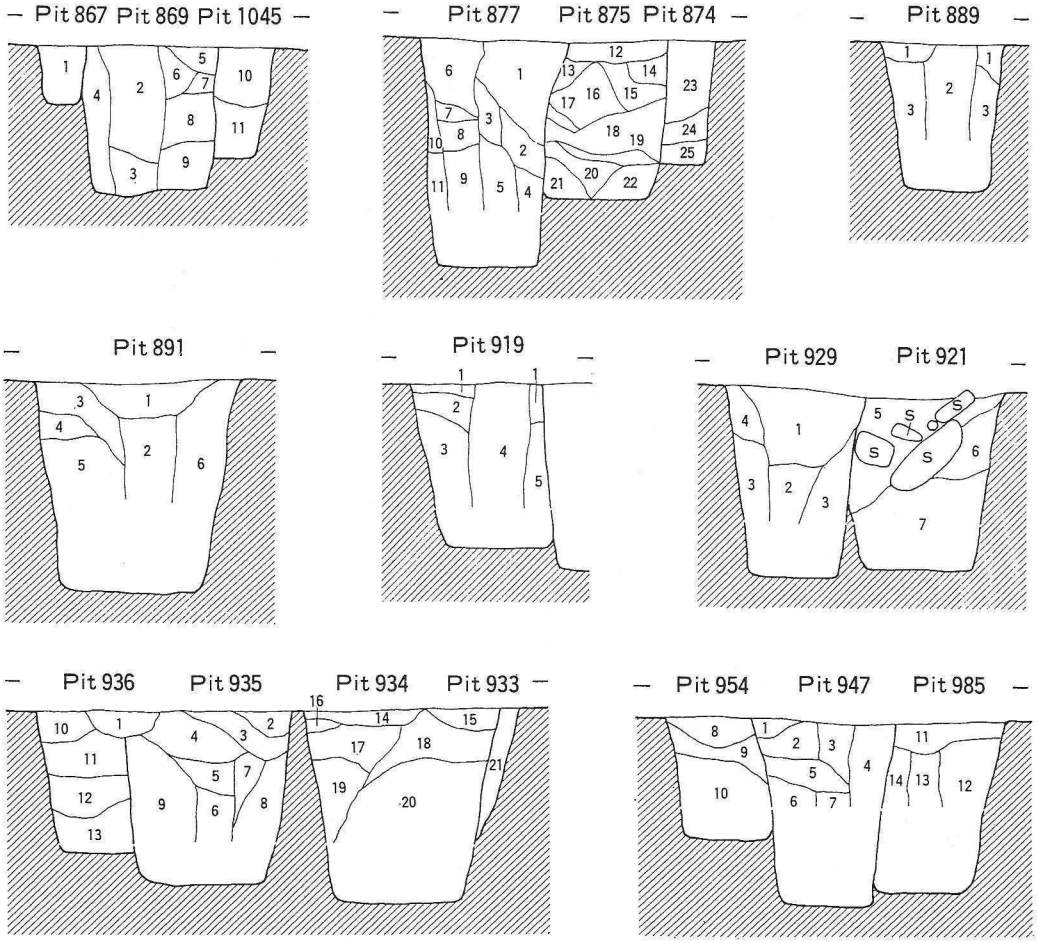
ピット817
7層　黒　色　土(7.5YR2/1)
8層　黒褐色土(10YR3/2)

ピット824
1層　暗褐色土(10YR3/3)
2層　褐　色　土(10YR4/6)
3層　褐　色　土(7.5YR4/4)
4層　暗褐色土(10YR3/4)
5層　褐　色　土(10YR4/6)
6層　にぶい黄褐色土(10YR4/3)
7層　黒褐色土(10YR3/2)
8層　褐　色　土(10YR4/4)
9層　暗褐色土(10YR3/3)
10層　明黄褐色土(10YR5/8)
11層　褐　色　土(7.5YR4/4)

ピット825
12層　黒褐色土(10YR3/2)
13層　黒褐色土(10YR2/2)

0　1m

第16図　柱穴状ピット断面図(4)



ピット 867
1 層　黒褐色土(10YR2/2)

ピット 1045
10層　黒褐色土(7.5YR2/2)
11層　黒褐色土(10YR2/2)

ピット 874
23層　黒 色 土(10YR1.7/1)
24層　黒 色 土(10YR2/1)
25層　黒褐色土(10YR2/2)

ピット 891
1 層　暗褐色土(10YR3/3)
2 層　暗褐色土(10YR3/3)
　　＋明黄褐色土(10YR6/8)
3 層　褐 色 土(10YR4/4)
4 層　明黄褐色土(10YR6/8)
5 層　暗褐色土(10YR3/3)
6 層　黒褐色土(10YR2/3)

ピット 934
14層　黒褐色土(10YR2/2)
15層　黒 色 土(10YR2/1)
16層　にぶい黄褐色土(10YR4/3)
17層　黒褐色土(10YR2/2)
18層　褐 色 土(10YR4/4)
19層　にぶい黄褐色土(10YR4/3)
20層　暗褐色土(7.5YR3/3)

ピット 933
21層　黒褐色土(10YR2/3)

ピット 869
2 層　暗褐色土(10YR3/3)
3 層　黒褐色土(7.5YR2/2)
4 層　暗褐色土(10YR3/3)
5 層　暗褐色土(10YR3/3)
6 層　黒褐色土(10YR3/2)
7 層　黒 色 土(10YR2/1)
8 層　黒褐色土(10YR3/2)
9 層　黒 色 土(7.5YR2/1)

ピット 889
1 層　暗褐色土(10YR3/3)
2 層　暗褐色土(10YR3/3)
3 層　黄褐色土(10YR5/8)

ピット 919
1 層　暗褐色土(10YR3/4)
2 層　褐 色 土(10YR4/6)
3 層　黄褐色土(10YR5/8)
4 層　黒 色 土(10YR2/1)
5 層　暗褐色土(10YR3/3)

ピット 935
1 層　黒 色 土(10YR2/1)
2 層　黒褐色土(10YR2/2)
3 層　暗褐色土(7.5YR3/3)
4 層　褐 色 土(10YR4/4)
5 層　黒褐色土(7.5YR3/2)
6 層　黒褐色土(10YR2/2)
7 層　明褐色土(7.5YR5/6)
8 層　褐 色 土(10YR4/6)
9 層　黒褐色土(10YR2/2)

ピット 877
1 層　暗褐色土(7.5YR3/3)
2 層　褐 色 土(7.5YR4/4)
3 層　暗褐色土(10YR3/4)
4 層　褐 色 土(7.5YR4/6)
　　＋橙色土(7.5YR6/8)
5 層　褐 色 土(7.5YR4/6)
6 層　暗褐色土(10YR3/3)
7 層　褐 色 土(10YR4/4)
8 層　褐 色 土(7.5YR4/3)
9 層　暗褐色土(7.5YR3/4)
10層　明褐色土(7.5YR5/8)
11層　明褐色土(7.5YR5/6)

ピット 929
1 層　黒褐色土(10YR2/2)
2 層　黒褐色土(10YR2/3)
3 層　黒褐色土(10YR2/2)
4 層　黒褐色土(10YR2/2)
　　＋暗褐色土(10YR3/3)

ピット 936
10層　黒褐色土(10YR2/2)
11層　明黄褐色土(10YR6/8)
12層　暗褐色土(10YR3/3)
13層　黒褐色土(10YR2/2)

ピット 985
11層　黒褐色土(7.5YR2/2)
12層　黒褐色土(10YR3/2)
13層　黒 色 土(10YR2/1)
14層　暗褐色土(10YR3/3)

ピット 875
12層　黒褐色土(7.5YR2/2)
13層　褐 色 土(10YR4/4)
14層　黒褐色土(10YR2/3)
15層　暗褐色土(7.5YR3/4)
16層　褐 色 土(7.5YR4/4)
17層　橙 色 土(7.5YR6/8)
18層　明褐色土(7.5YR5/6)
19層　褐 色 土(7.5YR4/6)
20層　橙 色 土(7.5YR6/8)
　　＋明褐色土(7.5YR5/6)
21層　黒 色 土(7.5YR2/1)
22層　明褐色土(7.5YR5/6)

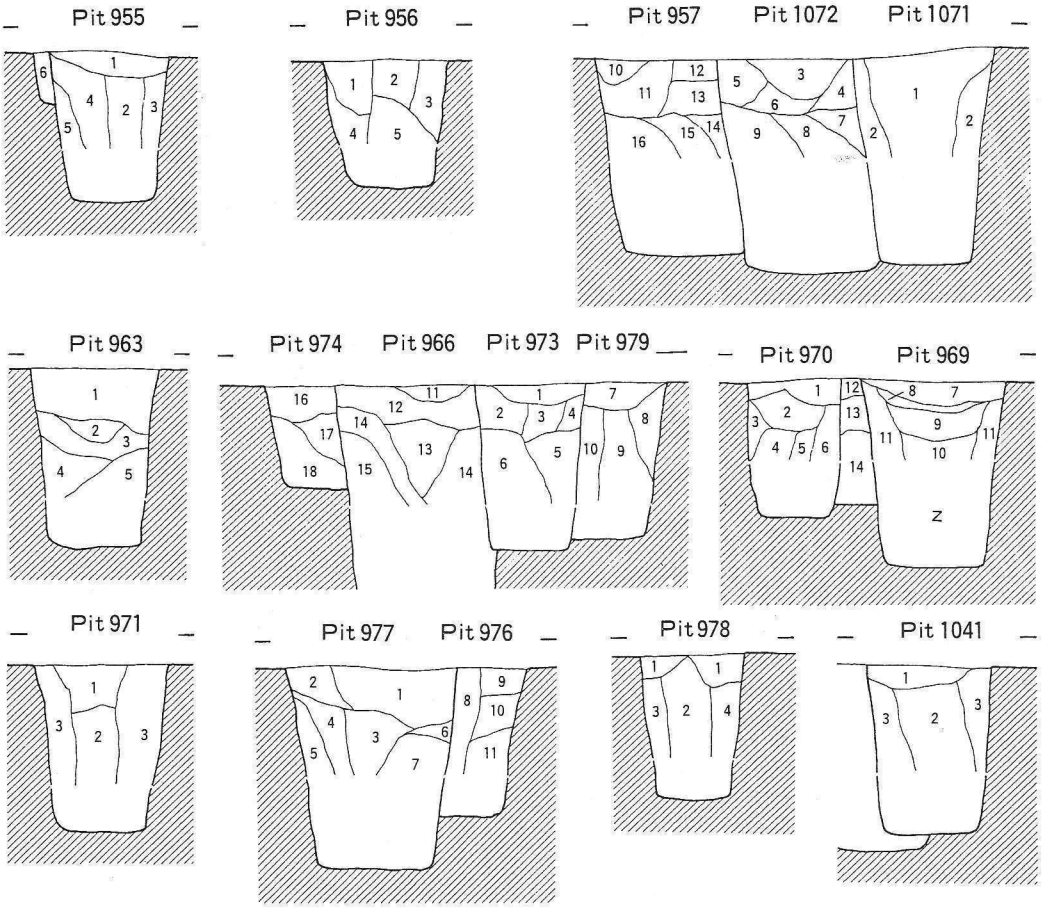
ピット 921
5 層　黒褐色土(10YR2/2)
6 層　黒褐色土(10YR2/2)
　　＋暗褐色土(10YR3/3)
7 層　暗褐色土(10YR3/3)

ピット 947
1 層　黒褐色土(7.5YR2/2)
2 層　褐 色 土(10YR4/4)
3 層　暗褐色土(10YR3/3)
4 層　暗褐色土(7.5YR3/4)
5 層　褐 色 土(10YR4/4)
6 層　黒褐色土(7.5YR2/2)
7 層　黒褐色土(10YR2/2)

ピット 954
8 層　褐 色 土(10YR4/4)
9 層　黒褐色土(10YR2/2)
10層　暗褐色土(10YR3/3)

第17図　柱穴状ピット断面図(5)

0　1 m



ピット 955
1層　黒褐色土(10YR2/2)
2層　黒褐色土(7.5YR2/2)
3層　暗褐色土(10YR3/4)
4層　黒褐色土(10YR2/2)
5層　黒褐色土(7.5YR2/2)

ピット 1076
6層　黒褐色土(10YR2/2)

ピット 957
10層　黒褐色土(10YR2/2)
11層　黒褐色土(10YR3/2)
12層　黒　色　土(10YR2/1)
13層　黒褐色土(10YR2/2)
14層　黒褐色土(10YR3/2)
15層　褐　色　土(10YR4/4)
16層　黒褐色土(10YR3/2)

ピット 966
11層　黒　色　土(10YR1.7/1)
12層　褐　色　土(10YR4/4)
13層　暗褐色土(10YR3/4)
14層　にぶい黄褐色土(10YR4/3)
15層　黒褐色土(10YR3/2)

ピット 971
1層　黒褐色土(10YR2/2)
2層　黒褐色土(10YR3/2)
3層　黒褐色土(10YR2/2)
　　地山塊多量混入

ピット 956
1層　黒褐色土(10YR3/2)
2層　暗褐色土(10YR3/3)
3層　黄褐色土(10YR5/8)
4層　黒褐色土(10YR2/2)
5層　暗褐色土(10YR3/3)

ピット 963
1層　黒褐色土(10YR3/2)
2層　褐　色　土(10YR4/4)
3層　黒褐色土(10YR3/1)
4層　黒褐色土(10YR2/2)
5層　黒褐色土(10YR3/2)
　　地山塊多量混入

ピット 974
16層　暗褐色土(10YR3/3)
17層　黒褐色土(10YR2/2)
18層　褐　色　土(10YR4/4)
　　＋明褐色土(7.5YR5/8)

ピット 977
1層　黒褐色土(10YR2/2)
2層　黒褐色土(10YR3/2)
3層　黒褐色土(10YR2/3)
4層　極暗褐色土(7.5YR2/3)
5層　黒褐色土(10YR2/2)
6層　暗褐色土(10YR3/3)
7層　黒褐色土(10YR2/2)

ピット 1071
1層　暗褐色土(10YR3/3)
　　地山塊多量混入
2層　暗褐色土(10YR3/3)
　　地山塊多量混入

ピット 973
1層　黒　色　土(10YR2/1)
2層　黒褐色土(10YR3/2)
3層　暗褐色土(10YR3/3)
4層　褐　色　土(10YR4/4)
5層　黒褐色土(10YR2/2)
6層　にぶい黄褐色土(10YR4/3)

ピット 969
7層　黒褐色土(10YR2/2)
8層　黒褐色土(10YR3/2)
9層　黒褐色土(10YR2/2)
10層　黒褐色土(7.5YR3/1)
11層　黒褐色土(10YR3/2)

ピット 976
8層　黒褐色土(10YR2/2)
9層　黒褐色土(10YR3/2)
10層　黒褐色土(10YR2/2)
11層　褐　色　土(10YR4/4)

ピット 978
1層　黒褐色土(10YR2/2)
2層　黒褐色土(10YR2/2)
　　炭化物多量混入
3層　暗褐色土(10YR3/3)
4層　黒褐色土(10YR3/2)

ピット 1072
3層　黒褐色土(10YR2/2)
4層　黒褐色土(10YR3/1)
5層　黒褐色土(10YR2/2)
6層　黒褐色土(10YR3/1)
7層　黒褐色土(7.5YR3/2)
8層　黒褐色土(10YR3/2)
9層　黒褐色土(7.5YR3/2)

ピット 979
7層　黒褐色土(7.5YR3/1)
8層　黒褐色土(10YR2/3)
9層　暗褐色土(10YR3/3)
　　＋明褐色土(7.5YR5/8)
10層　黒　色　土(10YR2/1)

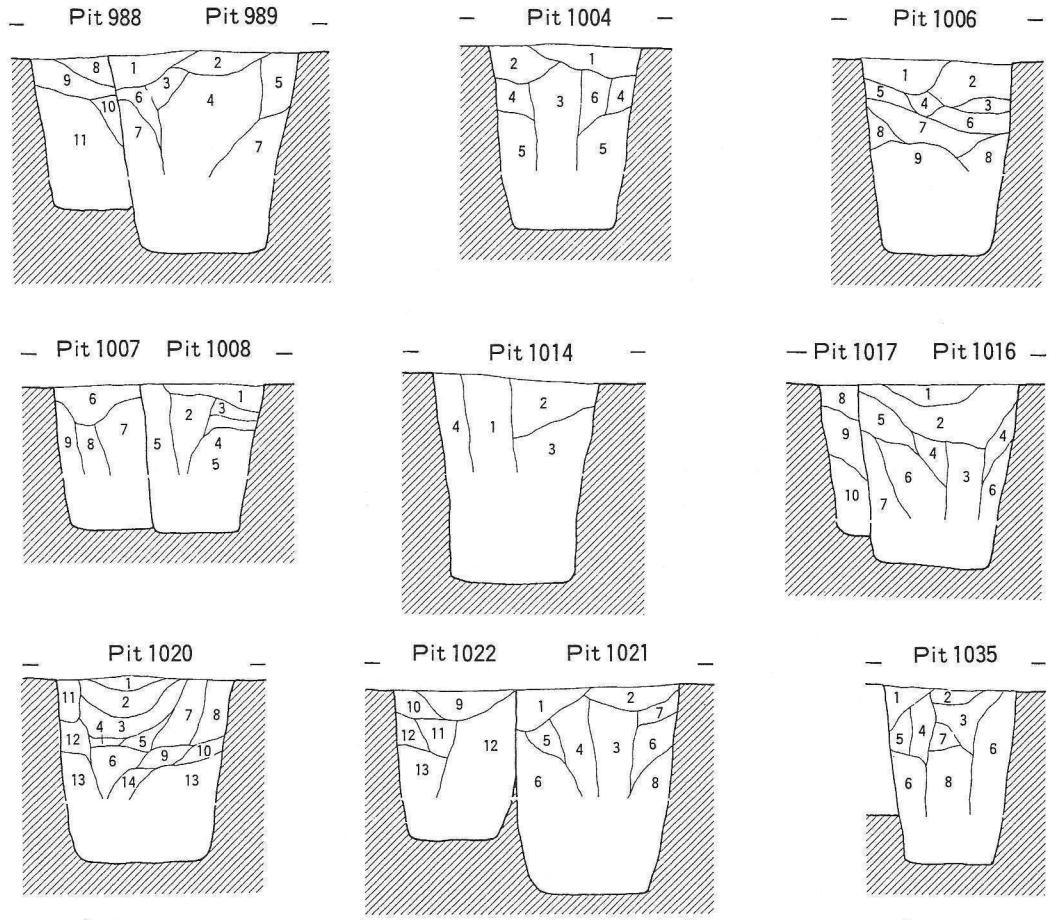
ピット 970
1層　黒褐色土(10YR3/2)
2層　黒褐色土(10YR2/2)
3層　黒褐色土(7.5YR3/1)
4層　黒褐色土(10YR2/2)
5層　黒褐色土(10YR3/2)
6層　黒褐色土(10YR2/2)

ピット 1041
1層　黒褐色土(10YR3/2)
2層　黄褐色土(10YR5/8)
3層　黒褐色土(10YR3/2)

ピット 1040
12層　黒褐色土(10YR3/2)
13層　黒褐色土(10YR2/2)
14層　黒褐色土(10YR3/2)

0　1 m

第18図　柱穴状ピット断面図(6)



ピット 987

1層　暗褐色土(7.5YR3/3)
2層　黒褐色土(10YR2/3)
3層　暗褐色土(10YR3/3)
4層　黒褐色土(7.5YR2/2)
5層　黒褐色土(10YR2/2)
6層　黒褐色土(10YR2/3)
7層　暗褐色土(7.5YR3/3)

ピット 1007

6層　黒褐色土(10YR2/2)
7層　黒褐色土(10YR2/3)
8層　黒褐色土(10YR2/2)
9層　黒褐色土(10YR2/3)

ピット 1016

1層　黒褐色土(10YR2/3)
2層　黒褐色土(10YR2/2)
3層　黒褐色土(10YR2/3)
4層　黒褐色土(10YR2/2)
5層　黒褐色土(10YR2/3)
6層　黒褐色土(10YR2/2)
　　地山塊多量混入
7層　黒褐色土(10YR2/3)

ピット 1022

9層　黒褐色土(10YR2/3)
10層　黒褐色土(10YR2/2)
11層　黒褐色土(10YR3/2)
12層　黒褐色土(10YR2/2)
13層　黒褐色土(10YR2/3)

ピット 988

8層　黒褐色土(7.5YR2/2)
9層　黒 色 土(10YR2/1)
　　＋明褐色土(7.5YR5/8)
10層　黒褐色土(10YR2/2)
11層　黒褐色土(7.5YR2/2)
　　＋明褐色土(7.5YR5/8)

ピット 1008

1層　黒 色 土(10YR2/1)
2層　黒褐色土(10YR2/2)
3層　黒褐色土(10YR2/3)
4層　黒褐色土(10YR2/2)
5層　黒褐色土(10YR2/3)

ピット 1017

8層　黒褐色土(10YR2/2)
9層　黒褐色土(10YR2/3)
10層　黒褐色土(10YR2/2)

ピット 1035

1層　黒 色 土(10YR1.7/1)
2層　黒褐色土(10YR2/2)
3層　黒褐色土(10YR3/2)
4層　黒褐色土(10YR2/3)
5層　黒褐色土(10YR2/2)
6層　黄褐色土(10YR5/6)
7層　黒褐色土(10YR2/2)
8層　黒 色 土(10YR2/1)

ピット 1004

1層　黒褐色土(10YR3/1)
2層　黒褐色土(7.5YR2/2)
3層　黒 色 土(10YR2/1)
4層　黒褐色土(10YR2/3)
5層　暗褐色土(10YR3/3)
6層　黒褐色土(10YR3/1)

ピット 1014

1層　黒褐色土(10YR3/2)
2層　褐 色 土(10YR4/6)
3層　褐 色 土(10YR4/4)
4層　暗褐色土(10YR3/3)

ピット 1021

1層　暗褐色土(10YR3/3)
2層　褐 色 土(10YR4/4)
3層　黒褐色土(10YR3/2)
4層　黒褐色土(10YR2/2)
5層　黒褐色土(10YR3/2)
6層　暗褐色土(10YR3/3)
7層　褐 色 土(10YR4/4)
8層　褐 色 土(10YR4/4)

ピット 1006

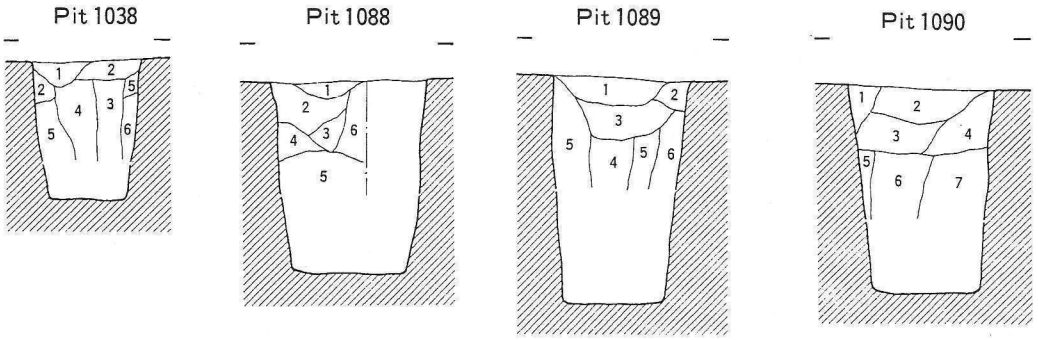
1層　褐 色 土(10YR4/4)
2層　黒褐色土(10YR3/2)
3層　褐 色 土(10YR4/6)
4層　黒褐色土(10YR3/2)
5層　暗褐色土(10YR3/3)
6層　黒 色 土(10YR2/1)
7層　暗褐色土(10YR3/3)
　　＋明褐色土(7.5YR5/8)
8層　黒 色 土(10YR2/1)
　　＋明褐色土(7.5YR5/8)
9層　黒褐色土(10YR3/2)
　　＋明褐色土(7.5YR5/8)

ピット 1020

1層　黒褐色土(7.5YR2/2)
2層　褐 色 土(10YR4/4)
3層　暗褐色土(10YR3/3)
4層　黒褐色土(10YR2/3)
5層　黒褐色土(10YR2/2)
6層　黒褐色土(10YR2/2)
　　＋明褐色土(7.5YR5/8)
7層　黒褐色土(7.5YR2/2)
8層　黒褐色土(7.5YR3/1)
9層　褐 色 土(10YR4/6)
　　＋明褐色土(7.5YR5/8)
10層　明褐色土(7.5YR5/6)
11層　褐灰色土(10YR4/1)
12層　灰黄褐色土(10YR4/2)
　　＋明褐色土(7.5YR5/8)
13層　褐 色 土(10YR4/6)
14層　褐 色 土(7.5YR4/6)

0　1m

第19図　柱穴状ピット断面図(7)



ピット1038
1層　黒　色　土(10YR1.7/1)
2層　黒　色　土(10YR2/1)
3層　黒　色　土(10YR1.7/1)
4層　黒　色　土(10YR2/1)
5層　黒褐色土(10YR3/1)
6層　黒　色　土(10YR2/1)

ピット1088
1層　黒　色　土(10YR2/1)
2層　黒褐色土(10YR2/2)
3層　黒褐色土(10YR2/3)
4層　黒褐色土(10YR2/2)
5層　黒　色　土(10YR2/1)
6層　黒褐色土(10YR2/2)

ピット1089
1層　黒褐色土(10YR2/2)
2層　黒　色　土(10YR2/1)
3層　黒褐色土(10YR2/2)
4層　黒　色　土(10YR2/1)
5層　黒褐色土(10YR2/2)
6層　黒　色　土(10YR2/1)

ピット1090
1層　黒褐色土(10YR2/2)
2層　黒褐色土(10YR2/3)
3層　黒褐色土(10YR3/2)
4層　黒褐色土(10YR2/2)
5層　明褐色土(7.5YR5/8)
6層　黒褐色土(10YR3/2)
7層　黒褐色土(10YR2/3)

0　1m

第20図　柱穴状ピット断面図(8)

第615号建物跡（第10図、23図70・71・79・86）

万座環状列石東側に隣接するＺＬ—92・93、ＺＭ—92・93グリッドに位置する。第613号・617号建物跡、第602号環状配石遺構と重複し、新旧関係は第617建物跡→613号建物跡→本遺構→602号環状配石遺構である。

ピット920・934・947・959・983と未確認の１本を含めた６本柱からなる建物跡で、長辺4.65ｍ、短辺4.36ｍ、張り出し軸長（推定）5.90cmを測り、長軸方向はＮ—5°—Ｗである。

柱穴の掘り方径は99cm～135cm、深さ117cm～123cm以上を測る。各ピットで確認された柱痕は径35cm～46cmを測る。

本遺構ピットより縄文時代後期中葉の土器破片が出土した。

第616号建物跡（第11図、24図97）

万座環状列石南南東側に隣接するＺＪ—91、ＺＫ—90・91グリッドに位置する。他遺構との重複は認められない。遺構南側は未調査である。

ピット971・978・1038と未確認のピット３本の柱穴から成る６本柱の建物跡が想定される。ピット978と1038の距離は4.90ｍを測る。

柱穴の掘り方径は72cm～85cm、深さ83cm～109cm以上を測る。各ピットで確認された柱痕は径27cm～35cmを測る。

本遺構ピットより縄文時代後期中葉の土器破片が出土した。

第1表　D₆区柱穴状ピット一覧表(1)

(新旧関係は旧→新で標記。記号のないものは新旧不明)

ピットNo.	グリッド	長径×短径×深さ(cm)	重複関係	ピットNo.	グリッド	長径×短径×深さ(cm)	重複関係
601	ZT−94	137×132×(142)		641	ZT−95	59×59×52	
602	ZS−94 ZT−94	85×80×(146)		642	ZT−95	50×47×68	Pit644→642
603	ZS−94	102×(100)×(131)	Pit603→622	643	ZT−95	50×49×60	
604	ZS−94	94×90×(107)	Pit905→622	644	ZS−95 ZT−95	89×82×100	Pit644→642
605	ZS−94	49×　×69	Pit905→904	645	ZS−95	34×34×53	
606	ZS−94	60×55×95		646	ZR−95	39×38×40	
607	ZS−94	54×51×54	Pit608→607	647	ZS−95	47×44×66	
608	ZS−94	40×　×37	Pit608→607	648	ZQ−94·95	88×80×64	
609	ZS−94 ZT−94	61×60×43		649	ZP−94	75×○×85	Pit649→650
610	ZS−94	43×40×76	Pit611	650	ZP−94	70×70×86	Pit649→650
611	ZS−94	46×41×57	Pit610	651	ZP−95	87×78×103	
612	ZS−94	103×94×111		652	ZP−95	22×21×30	
613	ZS−94	90×80×125		653	ZP−95	70×69×80	Pit654→653
614	ZR−94 ZS−94	54×51×60		654	ZP−95	67×○×68	Pit654→653
615	ZS−94	50×46×60		655	ZR−95	30×30×70	
616	ZS−95	74×73×122		656	ZQ−95	92×86×102	Pit660→656
617	ZR−94	40×○×45	Pit617→618	657	ZQ−96	32×30×○	
618	ZR−94	43×41×88	Pit617→618	658	〃	30×28×○	
619	ZR−94·95	73×○×109	Pit619→620	659	ZQ−95·96	83×80×105	
620	ZR−94	77×75×90	Pit619→620	660	ZQ−95	68×○×75	Pit660→656
621	ZR−94 ZS−94	135×115×(131)		661	ZR−95	75×75×108	
622	ZS−94	34×○×		662	ZR−95	53×49×○	
623	ZR−94	90×90×114	Pit625→624→623	663	ZP−95	80×74×100	
624	ZQ−94 ZR−94	94×93×96	Pit625→624→623	664	ZP−95	35×34×60	
625	ZQ−94 ZR−94	(118)×94×100	Pit625→624→623	665	ZP−94	20×20×30	
626	ZR−94	23×○×○	Pit626→624	666	ZQ−95	92×81×103	Pit667→660
627	ZQ−94	46×44×○		667	ZQ−95	118×100×117	Pit1019→667→660
628	〃	30×○×○		668	ZQ−96	106×104×148	SK613→Pit668
629	ZS−95	45×40×63		669	ZP−95	42×40×64	
630	ZR−94	102×　×142		670	ZP−95	42×31×33	Pit673→670
631	ZR−94	35×33×68		671	ZR−96	105×101×125以上	Pit671→672
632	ZQ−94	40×32×○		672	ZR−96	31×30×40	Pit671→672
633	ZS−95	44×31×68		673	ZP−95	32×○×○	Pit673→670
634	ZQ−94	111×108×121	Pit634→635	674	ZP−96	36×35×42	
635	ZQ−94	94×84×99	Pit634→635	675	ZQ−94	40×35×63	
636	ZQ−95	85×(84)×99	Pit637→636→648	676	ZR−95	120×113×124	Pit676→678→679
637	ZQ−95	○×○×90	Pit637→636→648	677	ZR−95	○×○×95	Pit677→676→678
638	ZQ−96	30×28×○		678	ZR−95	89×○×95	Pit676→678→679
639	ZR−94 95	54×54×70		679	ZR−95	97×97×123	Pit676→678→679
640	ZQ−95	28×28×	Pit636→640	680	ZR−95	83×80×70以上	

第2表　D₆区柱穴状ピット一覧表(2)

(新旧関係は旧→新で標記。記号のないものは新旧不明)

ピットNo.	グリッド	長径×短径×深さ(cm)	重複関係	ピットNo.	グリッド	長径×短径×深さ(cm)	重複関係
681	ZP−96	42×38×73		721	ZP−96	21×21×20	
682	ZP−94	86×82×100		722	ZP−97	20×20×35	
683	ZP−94	12×12×20		723	ZP−97	20×19×33	
684	ZN−94 ZO−94	82×○×97	Pit685→684→689	724	ZP−97	32×30×50	
685	ZO−94	○×○×98	Pit685→684→689	725	ZP−97	25×　×44	
686	ZP−96	23×20×25		726	ZP−97	28×28×43	
687	ZO−94	27×25×○		727	ZO ZP−97	28×27×45	
688	〃	35×34×35		728	ZP−97	32×30×40	
689	ZN−94 ZO−94	138×118×119	Pit685→684→689	729	ZP−97	23×22×46	
690	ZO−95	54×50×60		730	ZN ZO−97	27×○×55	Pit730→731→695
691	ZO−95	109×104×123		731	ZO−97	33×○×44	Pit730→731→695
692	ZO−97	23×22×47		732	ZO−97	37×35×60	Pit733→732
693	ZO−97	68×63×85		733	ZO−97	33×○×49	Pit733→732
694	ZO−97	67×62×108		734	ZO−97	32×32×50	Pit735→734
695	ZN−97 ZO−97	72×71×100	Pit730→731→695	735	ZO−97	24×○×43	Pit735→734
696	ZM−97	37×33×44	Pit697→696	736	ZO−97	23×24×44	Pit738→736
697	ZM−97	28×○×35	Pit697→696	737	ZO−96	60×56×90	
698	ZO−97	33×31×37		738	ZO−97	32×○×42	Pit738→736・739
699	ZO−95・96	97×○×120	Pit699→700	739	ZO−97	57×58×27	Pit738→739→740
700	ZP−95・96	103×100×109	Pit699→700	740	ZO−97	27×25×37	Pit739→740
701	ZO−96	28×28×47		741	ZM−94	29×29×46	Pit742→741
702	ZO−96	102×97×133		742	ZM−94	27×○×45	Pit742→741
703	ZO−95	36×36×		743	ZM−94	39×39×50	
704	ZO−96	67×62×88	SK(F)617→Pit704	744	ZM−93	40×○×53	Pit744→745
705	ZO−96	39×39×59		745	ZM−94	62×59×73	Pit744→745
706	ZN−96	110×105×110	Pit707→706	746	ZM−94	36×35×67	
707	ZN−96	80×○×100	Pit707→706	747	ZM−94	36×32×62	Pit838→747
708	ZO−95・96	28×27×60		748	ZO−96	30×○×70	Pit748→Pit1105
709	ZO−95	30×27×50		749	ZN−93	120×○×105	Pit749→934
710	ZO−94	28×28×37		750	ZM−93	63×60×64	
711	ZO−96	31×31×52		751	ZN−94	115×94×125	
712	ZO−96	60×59×95		752	ZO−96	32×32×50	
713	ZO−95	30×28×37		753	ZN−97	18×13×15	
714	〃	74×(　)×90	Pit714→715	754	ZN−97	27×24×67	
715	〃	75×74×100	Pit714→715	755	ZN−97	15×14×23	
716	ZO−95	33×33×53		756	ZN−97	27×25×50	
717	ZO−95	40×39×48		757	ZN−96	42×40×○	
718	ZO−95	50×50×31		758	ZN−97	27×26×39	
719	ZO−96	37×36×68		759	ZN−97	20×20×7	
720	ZP−95	42×32×75		760	ZN−97	18×16×27	

第3表　Ｄ₆区柱穴状ピット一覧表(3)

(新旧関係は旧→新で標記。記号のないものは新旧不明)

ピットNo.	グリッド	長径×短径×深さ(cm)	重複関係	ピットNo.	グリッド	長径×短径×深さ(cm)	重複関係
761	ZN−97	66×65×95	Pit789→761	801	ZN−96	28×26×41	
762	〃	30×21×40		802	ZM−96	21×○×○	Pit802→850
763	〃	36×35×57		803	ZN−96	20×20×20	
764	ZL−95	27×24×○		804	〃	34×34×25	Pit805→804
765	〃	38×22×○		805	〃	40×○×65	Pit805→804
766	ZM−97	32×30×37		806	〃	30×29×58	
767	ZM−97	30×26×26		807	〃	42×39×37	
768	ZM−97	32×31×33		808	〃	50×49×65	
769	ZM−97	38×34×50		809	〃	46×44×94	
770	ZM−97	20×20×27		810	〃	21×20×25	
771	ZM−97	36×32×60		811	〃	31×31×27	
772	ZM−97	30×28×40		812	ZN−95	22×21×30	
773	ZM−97	33×32×40		813	〃	19×19×29	
774	ZM−96	33×32×47		814	〃	25×25×36	
775	ZM−96	28×27×40		815	ZN−95	24×23×22	
776	ZM−97	28×26×30		816	ZN−94	83×80×93	
777	ZM−97	27×26×37		817	〃	50×○×30	
778	ZM−97	18×18×42		818	ZN−94	38×36×34	
779				819	ZN−94	72×70×78	
780	ZO−94	44×44×84		820	ZN−94	83×○×80	
781	〃	44×42×91		821	ZN−93	138×○×127	
782	ZN−94	34×○×41	Pit782→783	822	ZM/ZN−93	52×50×70	
783	ZN−94	28×28×37	Pit782→783	823	ZM−94	28×27×57	
784	ZM−94	38×36×46		824	〃	152×145×117	Pit827→824→920・825・826
785	ZN−97	29×28×43		825	〃	42×39×50	Pit824→825
786	ZN−97	54×52×88		826	〃	39×39×50	Pit824→825
787	〃	23×22×32		827	〃	85×○×100	Pit828→827→826
788	〃	37×36×54		828	〃	○×75×?	Pit828→827→826
789	〃	○×○×44	Pit781→761	829	ZL・ZM−94	30×20×54	Pit826→829
790	ZM−97	30×28×43		830	ZL−94	○×27×85	Pit830→828
791	〃	30×28×51	Pit792→791	831	ZN−94	20×17×47	
792	〃	26×○×50	Pit792→791	832	〃	40×37×50	
793	〃	68×67×70		833	〃	35×33×40	
794	ZM−97	27×26×38		834	ZN−94	47×40×62	Pit886→834
795	ZM−96	42×38×40		835	ZN−94	120×110×135	SK(F)823→Pit835
796	ZM−96	22×22×10		836	ZN−95	34×33×28	
797	ZM−97	30×30×31		837	ZN−95	105×102×122	
798	ZN−96	32×30×45		838	ZN−95	42×42×75	
799	ZM−95	29×28×○		839	ZN−95	32×31×33	
800	ZM−95	27×27×○		840	ZM−95	22×19×25	

第4表　D₆区柱穴状ピット一覧表(4)

(新旧関係は旧→新で標記。記号のないものは新旧不明)

ピットNo.	グリッド	長径×短径×深さ(cm)	重複関係	ピットNo.	グリッド	長径×短径×深さ(cm)	重複関係
841	ZM−95	26×18×27		881	ZL−94	33×○×51	Pit881→882
842	ZM−95	40×28×64		882	〃	○×○×132	Pit881→882→883
843	ZM−95	24×19×28		883	〃	108×100×100	Pit882・880→882
844	ZN−95	23×12×21		884	〃	○×○×70以上	Pit884→885
845	〃	26×16×26		885	〃	○×○×90	Pit884→885
846	〃	20×19×22		886	ZM−94	28×○×○	Pit886→834
847	〃	21×13×12		887	ZM−94	43×43×30	Pit1068→887
848	ZN−96	20×20×22		888	ZM−94	84×70×	Pit918→888→747
849	ZN−96	34×21×18		889	ZM−94	87×○×95	
850	ZM・N−96	24×20×20		890	ZM−94	32×○×43	
851	ZM−95	22×20×		891	〃	142×138×95	
852	〃	19×18×		892	ZL−94	31×○×30	
853	ZM−96	51×50×		893	〃	40×30×35	
854	ZN−96	30×27×		894	ZM−94・95	33×30×60以上	
855	ZM−96	20×18×20		895	ZM−94	80×○×○	Pit889→895→918
856				896	ZL−94	68×○×70	
857				897	〃	109×97×67	
858	ZM−96	60×60×88	Pit858→859	898	ZL−95	28×28×35	
859	〃	52×52×60	Pit858→859	899	〃	114×103×83	
860	〃	74×74×75		900	〃	40×30×50	
861	〃	34×32×35		901	〃	41×40×53	
862	〃	31×30×35		902	〃	34×○×40	
863	ZM−96	70×68×82		903	〃	31×31×31	
864	ZM−95	27×24×		904	〃	22×21×43	
865	〃	30×27×34		905	〃	25×24×35	
866	〃	40×○×35		906	〃	32×30×43	
867	〃	37×32×39	Pit869→867	907	〃	28×18×33	
868				908	〃	28×○×40	
869	ZM−95	82×77×120	Pit1043→869→867	909	〃	26×○×40	
870	ZM−96	33×32×36		910	〃	27×23×43	
871	〃	46×44×35		911	〃	30×30×29	
872	〃	32×29×45		912	〃	29×27×33	
873	ZM−95	18×18×22		913	〃	46×43×51	
874	ZL−94	81×○×80	Pit874→875→877	914	ZL−96	32×23×26	
875	〃	123×○×104	Pit874→875→877	915	〃	40×39×63	
876	〃	42×40×62		916	ZL−95	53×○×○	Pit916→897
877	〃	112×104×149	Pit874→875→877	917	ZL−97	41×40×67	
878	〃	22×○×45		918	ZM−93	○×110×127	Pit918→919→920
879	〃	53×50×70		919	ZM−93	120×○×108	Pit918→919→920
880	〃	○×○×83		920	ZM−93・94	107×103×123	Pit918→919→920

第5表　D₆区柱穴状ピット一覧表(5)

(新旧関係は旧→新で標記。記号のないものは新旧不明)

ピットNo.	グリッド	長径×短径×深さ(cm)	重複関係	ピットNo.	グリッド	長径×短径×深さ(cm)	重複関係
921				961	ZK−91	○×67×77	Pit961→962→963 Pit964と複合し1個となる
922	ZL−97	31×30×44		962	ZK−91	○×82×90	Pit961→962→963
923	〃	30×28×53		963	〃	100×90×120	Pit961→962→963
924	〃	34×32×38		964			
925	〃	35×32×70		965	ZM−93	63×○×○	Pit965→936
926	〃	34×30×59		966	ZL−93	115×○×○	Pit1099→966→959
927	〃	25×25×50		967	ZM−92	114×○×67	
928	ZL−96	58×30×30		968	ZL−92	58×58×81	
929	ZL−93	120×110×126	Pit931→929	969	〃	99×95×122	Pit1085→970→1097→969
930	〃	50×49×95	Pit929·946→930	970	ZL−92	100×○×91	Pit970→1097→969・1040
931	〃	104×○×109	Pit931→929	971	ZK/ZJ−91	85×85×109	
932	ZM−93	84×○×126	Pit933→932→934·935	972	ZK−91	94×85×98	
933	〃	133×○×109	Pit933→932→934	973	ZL−93	83×80×109	
934	〃	130×130×117	Pit933→932→934，749→934	974	ZL−93	○×○×70	
935	〃	131×○×113	Pit932→935，938→936→935	975	〃	○×○×94	
936	〃	100×89×96	Pit935·938·965→936	976	ZL−92	96×95×99	Pit977→976
937	〃	59×○×75	Pit937→938	977	〃	112×110×133	Pit977→976
938	〃	101×○×100	Pit937→938→935·936·939	978	ZJ−91	72×69×95	
939	〃	107×○×103	Pit938·940→939→942	979	ZL−93	83×○×○	Pit957→979→973
940	ZM−93	80×○×○	Pit941→940・1080→939→942	980			
941	ZM−93	93×○×○	Pit941→940・1080→939→942	981	ZK−91	38×32×51	
942	ZM−93	130×120×110	Pit941→940・1080→939→942	982	ZK−91	22×20×○	
943	〃	98×94×93	Pit944→943	983	ZL−92·93	99×93×○	Pit1009→983
944	〃	124×○×134	Pit944→943・945・1080	984	ZM−92	(90)×77×110	Pit1130→984→947
945	〃	50×44×70	Pit944→945	985	ZM−92	○×○×113	Pit985→947
946	ZL/ZM−93	164×141×105	Pit1080→946→930	986	ZL−93	120×115×95	
947	ZM−92	135×135×123	Pit985・954・1130→947	987	ZL−93	73×○×	Pit987→960→966
948	ZL−97	28×24×60		988	ZL−92	120×○×90	Pit988→989
949	〃	47×42×77		989	ZL−92	120×118×132	Pit988→989
950	〃	30×28×34		990	ZL−92	139×139×97	Pit991→990
951	〃	32×31×47		991	〃	84×80×90	Pit991→990
952	ZL−96	30×29×44		992	〃	56×53×80	
953	〃	28×22×30		993	ZL−91·92	86×85×93	
954	ZM−92	○×○×82	Pit954→947	994	〃	80×○×88	
955	ZM·L−94·95	70×70×100	Pit1076→955	995	ZK−91	80×79×86	
956	ZL−93	87×85×85		996	ZL−91	84×83×98	Pit1070→1047→996
957	〃	130×○×136	Pit958，y→957→1072	997	ZL−91	37×○×61	
958	〃	33×○×45	Pit958→957	998	ZK−91	38×38×74	
959	ZL−93	100×89×		999	〃	40×38×53	
960	ZL−93	○×97×		1000	ZL−91	150×150×	

第6表　D₆区柱穴状ピット一覧表(6)

(新旧関係は旧→新で標記。記号のないものは新旧不明)

ピット No.	グリッド	長径×短径×深さ (cm)	重複関係	ピット No.	グリッド	長径×短径×深さ (cm)	重複関係
1001	ZL−91	27×27×45		1041	ZL/ZK−93·94	106×104×	
1002	ZJ−91	23×21×37		1042	ZK−91	55×53×45	
1003	〃	38×35×52		1043	ZJ−93	30×29×○	SK631→Pit1043
1004	ZJ−93	104×90×118		1044	ZM−95	38×38×40	
1005	ZJ−92	28×28×65		1045	ZM−95	81×○×82	SK(F)624→1043→869
1006	ZH/ZI−93	102×98×119		1046	ZQ−94	46×40×68	
1007	ZK−93	108×97×95	Pit1007→1008	1047	ZL−91	68×○×○	Pit1070→1047→996
1008	〃	80×○×96	Pit1007→1008	1048	ZS−97	33×32×54	
1009	ZI−93·94	82×○×○		1049	ZT−99	43×40×68	
1010	ZJ−93	18×18×○		1050	ZU−100	24×24×54	
1011	ZK−93	27×24×41		1051	ZT−100	31×28×60	
1012	〃	48×48×58		1052	〃	36×30×50	
1013	ZL−92·93	119×110×○		1053	〃	31×27×59	
1014	ZL−92	95×○×○	Pit1014→983	1054	ZR−101	47×45×100	
1015	ZL−93	50×50×54		1055	ZR−100	29×28×60	
1016	ZK/ZL−92·93	112×○×105		1056	ZT−99·100	56×53×56	
1017	ZL−93	○×○×○	Pit1017→1016→1013	1057	ZT−99	46×43×73	
1018	ZM−92	22×23×45		1058	ZT−99	33×33×52	
1019	ZQ−95	97×94×115	Pit1019→667	1059	ZT−99	37×37×47	
1020	ZJ−91	113×112×101		1060	ZU−99	34×32×55	
1021	ZK−92	112×○×136	Pit1021→1022	1061	〃	37×35×44	SK636→Pit1061
1022	ZK−92	68×64×100	Pit1021→1022	1062	〃	24×18×46	
1023	ZQ−95	36×32×		1063	〃	21×20×53	
1024	ZP−95	44×42×37		1064	ZT−99	29×28×41	
1025	ZP−96	32×30×47		1065	ZR−95	39×39×50	
1026	ZL−92	○×○×○	Pit1126→1016→1013	1066	ZR−94	33×31×84	
1027	ZL−92	○×○×○	Pit1127→990	1067	ZR−95	35×33×46	
1028	ZL−92	29×28×41		1068	ZM−94	43×○×○	
1029	ZN−95	45×42×44		1069	ZM−94	25×24×61	
1030	ZM−92	○×○×○	Pit967→1130→984→947	1070	ZL−91	37×○×○	Pit1070→1047→996
1031	ZK−93	46×44×40		1071	ZL−93	93×○×135	Pit1072→1071→931→929
1032	ZK−92	22×20×49		1072	ZL−93	○×○×140	Pit956→1072→1071→931
1033	〃	22×21×		1073	ZL−93	35×34×83	
1034	ZK−90·91	52×52×101		1074	ZK.L−91	○×○×55	Pit1074→1000
1035	ZK−90	100×94×102		1075	ZM−95	80×○×100	
1036	ZK−91	43×41×71		1076	ZL−94	33×○×○	Pit1076→955
1037	ZK−90	50×49×84		1077	ZM−95	31×30×17	
1038	ZK−90	79×72×83		1078	ZK−91	23×22×31	
1039	ZI−93	50×50×71	SK632→Pit1039	1079	ZM−95	22×23×17	
1040	ZL−92	80×79×111	Pit1085→1097→1040	1080	ZM−93	170×○×126	

第7表　D₆区柱穴状ピット一覧表(7)

(新旧関係は旧→新で標記。記号のないものは新旧不明)

ピットNo.	グリッド	長径×短径×深さ(cm)	重複関係	ピットNo.	グリッド	長径×短径×深さ(cm)	重複関係
1081	ZK−90	30×○×50		1096	ZS−95	76×70×58	
1082	〃	61×53×80		1097	ZL−92	100×○×○	Pit970→1097→969・1040
1083	〃	55×○×103		1098	ZL−95	23×21×30	
1084	〃	○×43×70		1099	ZL−93	○×○×○	
1085	ZK−92	○×○×82	Pit1085→970→969	1100	ZO−96	55×53×○	
1086	ZJ−91	40×37×71	SK633→Pit1086	1101	ZN−97	41×38×43	
1087	ZL−94	○×○×○		1102	ZR−95	40×○×○	
1088	ZT−93	104×101×145	Pit1088→SX(S)409	1103	ZU−100	24×23×35	
1089	ZT−93	97×94×165		1104	ZM−94	50×46×53	Pit1104→1069
1090	ZT−95	97×95×140	Pit1091→1090	1105	ZO−96	59×○×47	Pit748→1105→704
1091	ZT−95	37×○×○	Pit1091→1090				
1092	ZT−95	67×63×○					
1093	ZO−95	47×○×○	Pit1093→1045				
1094	ZJ−92	28×25×38					
1095	ZR−94	91×91×○					

第8表　昭和27年　確認ピット一覧表

(ピットNo.、グリッド、規模は本調査)
(新旧関係は旧→新で標記。記号のないものは新旧不明)

ピットNo.	グリッド	長径×短径×長さ(cm)	重複関係	ピットNo.	グリッド	長径×短径×深さ(cm)	重複関係
01	ZN−95	32×30		21	ZM−95	40×39	
02	ZN−95	73×71		22	ZM−95	33×31	
03	ZN−95	33×30		23	ZM−95	50×25	Pit24
04	ZN−95	38×36		24	ZM−95	20×○	Pit23
05	ZN−95	25×22		25	ZM−96	74×67	
06	ZN−95	100×○		26	ZM−96	45×○	Pit27
07	ZN−95/96	118×○		27	ZM−96	45×○	Pit26
08	ZN−96	15×15		28	ZM−96	60×58	
09	ZN−95	21×20	Pit10	29	ZM−96	54×54	
10	ZN−95	20×17	Pit 9	30	ZM−96	55×53	
11	ZN−96	40×39		31	ZM−96	67×63	
12	ZN−96	52×48		32	ZM−97	50×45	
13	ZM/ZN−95	91×○	Pit14. 843	33	ZM−97	31×29	
14	ZM/ZN−95	47×○	Pit13	34	ZM−95	110×○	
15	ZM−96	50×○	Pit16	35	ZM−95	112×○	
16	ZM−96	57×○	Pit15				
17	ZM−95	70×65	Pit18				
18	ZM−95	52×○	Pit17				
19	ZM−95	34×32					
20	ZM−95	54×54					

第9表　建物跡一覧表(1)

※張り出し部をもつプランのうち、張り出し部軸長が長辺より長いものは張り出し部軸方向を長軸方向とした。
※新旧関係は旧→新で標記。標記のないものは新旧不明。
※(　)についているNo.は第4次調査、〈　〉のついているものは10次調査時の建物跡、柱穴No.である。

建物跡No.	形態	柱穴数	柱穴 番号	柱穴 規模、深さ(cm)	柱穴 柱痕(cm)	長辺の長さ(m)	短辺の長さ(m)	張り出し部軸長(m)	長軸方向	新旧関係
SB601	Ⅰ	4	Pit 601	137×132×142	50	2.72(Pit601−Pit1092)	2.72(Pit601−Pit613)		N−17°−E	SB602
			Pit 613	90×80×125	40	2.80(Pit613−Pit644)	2.90(Pit644−Pit1090)			
			Pit 644	89×82×100						
			Pit1090	97×95×140						
SB602	Ⅱ	6	Pit 604	94×90×107		3.00(Pit612−Pit621)	3.50(Pit612−Pit A)	4.92(Pit604−Pit1095)	N−78°−W	SB603→SB602
			Pit 612	103×94×111		3.30(Pit A−Pit630)	3.30(Pit621−Pit630)			SX(f)602
			Pit 621	135×115×131	52					
			Pit 630	102×○×142						
			Pit1095	91×91×○						
			Pit A							
SB603	Ⅱ	6	Pit 602	85×80×146	45	3.60(Pit605−Pit614)	3.50(Pit605−Pit609)	5.40(Pit602−Pit616)	N−85°−W	SB603→SB602
			Pit 605	49×○×69		3.98(Pit609−Pit1096)	3.28(Pit614−Pit1096)			SB601
			Pit 609	61×60×43						SK610
			Pit 614	54×51×60	31					SX(f)602
			Pit 616	74×73×122	40					
			Pit1096	76×70×58						
SB604	Ⅱ	6	Pit 620	77×75×90		4.00(Pit623−Pit635)	3.70(Pit623→Pit678)	5.45(Pit620−Pit656)	N−60°−W	SB605→SB604
			Pit 623	90×90×114	44	3.72(Pit666−Pit678)	4.27(Pit635−Pit666)			
			Pit 635	94×84×99						
			Pit 656	92×86×102	35					
			Pit 666	92×81×103	38					
			Pit 678	89×73×95						
SB605	Ⅱ	6	Pit 619	73×○×109		3.70(Pit624−Pit634)	3.27(Pit624−Pit675)	5.04(Pit619−Pit660)	N−59°−W	SB605→SB604 └SB606
			Pit 624	94×93×96		3.35(Pit667−Pit676)	3.31(Pit634−Pit667)			
			Pit 634	111×108×121	48					
			Pit 660	68×○×75						
			Pit 667	118×100×117	36					
			Pit 676	120×113×124	45					
SB606	Ⅰ	4	Pit 668	106×104×148	50	3.75(Pit671−Pit679)	3.85(Pit668−Pit671)		N−60°−W	SB605→SB606
			Pit 671	105×101×125以上	53	3.90(Pit668−Pit1019)	3.80(Pit679−Pit1019)			SK613→SB606
			Pit 679	97×97×123	43					
			Pit1019	97×94×115	52					

第10表　建物跡一覧表(2)

※張り出し部をもつプランのうち、張り出し部軸長が長辺より長いものは張り出し部軸方向を長軸方向とした。
※新旧関係は旧→新で標記。標記のないものは新旧不明。
※(　)のついているNo.は第4次調査、〈　〉のついているものは10次調査時の建物跡、柱穴No.である。

建物跡No.	形態	柱穴数	柱穴 番号	柱穴 規模、深さ(cm)	柱穴 柱痕(cm)	長辺の長さ(m)	短辺の長さ(m)	張り出し部軸長(m)	長軸方向	新旧関係
SB607	Ⅰ	4	Pit 691	109×104×123	43	4.20(Pit 691−Pit 700)	3.90(Pit 691−Pit 706)		N−23°−W	SK(F)615.SK(T)616
			Pit 700	103×100×109	40	4.10(Pit 702−Pit 706)	4.00(Pit 700−Pit 702)			SK(F)620.622
			Pit 702	102×97×133	47					
			Pit 706	110×105×110	30					
SB608	Ⅰ	4	Pit 689	138×118×119	39	3.75(Pit 689−Pit 835)	3.20(Pit 689−Pit 837)		N−17°−W	SK(F)623
			Pit 835	120×110×135	33	3.70(Pit 837−Pit 751)	3.25(Pit 835−Pit 751)			
			Pit 837	105×102×122	43					
			Pit 751	115×94×125	47					
SB609	Ⅰ	4	Pit 793	68×67×70	31	2.90(Pit 860−Pit 863)	2.60(Pit 860−Pit 793)		N−23°−W	
			Pit 860	74×74×75	31	3.30(Pit 793−Pit 915)	2.60(Pit 863−Pit 915)			
			Pit 863	70×68×82	32					
			Pit 915	40×39×63						
SB610	Ⅵ	主柱穴 4	Pit 809	46×44×94		2.25(Pit 13−Pit 809)	2.00(Pit 809−812)		N−15°−E	
			Pit 839	32×31×33						
			Pit 851	22×20×○						
			Pit 854	30×27×○						
			Pit 840	29×19×25						
			Pit 841	26×18×27						
			Pit 842	40×28×64						
			Pit 843	24×19×28						
			Pit 844	23×12×21						
			Pit 845	26×16×26						
			Pit 846	20×19×22						
			Pit 847	21×13×12						
			Pit 848	20×20×22						
			Pit 849	34×21×18						
			Pit 850	24×20×20						
			Pit 851	22×20×○						
			Pit 852	19×18×○						
			Pit 803	20×20×20						
			Pit 806	30×29×58						

第11表　建物跡一覧表(3)

※張り出し部をもつプランのうち、張り出し部軸長が長辺より長いものは張り出し部軸方向を長軸方向とした。
※新旧関係は旧→新で標記。標記のないものは新旧不明。
※(　)のついているNo.は第4次調査、〈　〉のついているものは10次調査時の建物跡、柱穴No.である。

建物跡No.	形態	柱穴数	柱穴 番号	柱穴 規模、深さ(cm)	柱穴 柱痕(cm)	長辺の長さ(m)	短辺の長さ(m)	張り出し部軸長(m)	長軸方向	新旧関係
SB611	Ⅱ	6	〈Pit 203〉 〈Pit 204〉 〈Pit 208〉 〈Pit 210〉 (Pit 203) PitB	66×62×70以上 58×56×56以上 68×62×92 62×62×119 48×46×○		2.80(Pit〈239〉−Pit B) 2.90(Pit〈208〉−Pit〈210〉)	3.55(Pit B −Pit〈210〉) 3.40(Pit〈239〉−Pit〈208〉)	3.75(Pit〈204〉−Pit〈203〉)	N−70°−E	
SB612	Ⅱ	6	Pit 963 Pit 969 Pit 972 Pit 976 Pit1021 Pit C	100×90×120 99×95×122 94×85×98 96×95×99 112×○×136	34 30	4.30(Pit972−Pit1021) 4.40(Pit976−Pit C)	3.95(Pit972−Pit C) 3.90(Pit976−Pit1021)	5.90(Pit969−Pit963)	N−8°−E	
SB613	Ⅱ	6	Pit 936 Pit 990 Pit 989 Pit1013 Pit 929 Pit 943	100×89×96 139×139×97 120×118×132 119×110×○ 120×110×126 98×94×93	39 50	4.90(Pit929−Pit1013) 4.50(Pit936−Pit 990)	4.70(Pit929−Pit1013) 4.50(Pit936−Pit 990)	5.65(Pit944−Pit989)	N−3°−W	SB617→613→615→SX(S)602
SB614	Ⅰ		Pit 883 Pit1008	108×100×100 80×○×96	39 45	4.70(Pit883−Pit1008)			N−S	
SB615	Ⅱ	6	Pit 920 Pit 934 Pit 947 Pit 959 Pit 983 Pit D	107×103×123 130×130×117 135×135×123 100×89×○ 99×93×○	35 46 40	4.60(Pit920−Pit959) 4.65(Pit934−Pit947)	4.20(Pit920−Pit934) 4.36(Pit959−Pit947)	5.90(Pit983−Pit D)	N−5°−W	SB617→613→615→SX(S)602
SB616	Ⅱ	6	Pit1038 Pit 971 Pit 978	79×72×83 85×85×109 72×69×95	27 35 35		4.90(Pit978−Pit1038)			

第12表　建物跡一覧表(4)

※張り出し部をもつプランのうち、張り出し部軸長が長辺より長いものは張り出し部軸方向を長軸方向とした。
※新旧関係は旧→新で標記。標記のないものは新旧不明。
※(　)のついているNo.は第4次調査、〈　〉のついているものは10次調査時の建物跡、柱穴No.である。

建物跡No.	形態	柱穴数	柱穴 番号	柱穴 規模、深さ(cm)	柱穴 柱痕cm	長辺の長さ(m)	短辺の長さ(m)	張り出し部軸長(m)	長軸方向	新旧関係
SB617	Ⅱ	6	Pit 931	104×○×109		3.10(Pit931−Pit975)	4.35(Pit931−Pit938)	5.30(Pit944−Pit988)	N−6°−E	SB617→613→615→SX(S)602
			Pit 944	124×○×134		4.10(Pit938−Pit991)	4.37(Pit975−Pit991)			
			Pit 938	101×○×100						
			Pit 991	84×80×90						
			Pit 988	120×○×90						
			Pit 955	○×○×94	44					

第617号建物跡（第10図）

万座環状列石東側に隣接するＺＬ−92・93、ＺＭ−92・93グリッドに位置する。第613号・615号建物跡、第602号環状配石遺構と重複し、新旧関係は本建物跡→613号建物跡→615建物跡→602号環状配石遺構である。

ピット931・938・944・955・988・991の６本の柱からなる建物跡で、長辺4.10ｍ、短辺4.37ｍ、張り出し軸長5.30ｍを測り、長軸方向Ｎ−６°−Ｅである。

柱穴の掘り方径は84cm〜124cm、深さ90cm〜134cmを測る。各ピットで確認された柱痕は径44cmを測る。

本遺構ピットより縄文時代後期中葉の土器細破片が出土した。　（藤井　安正）

２．配石遺構

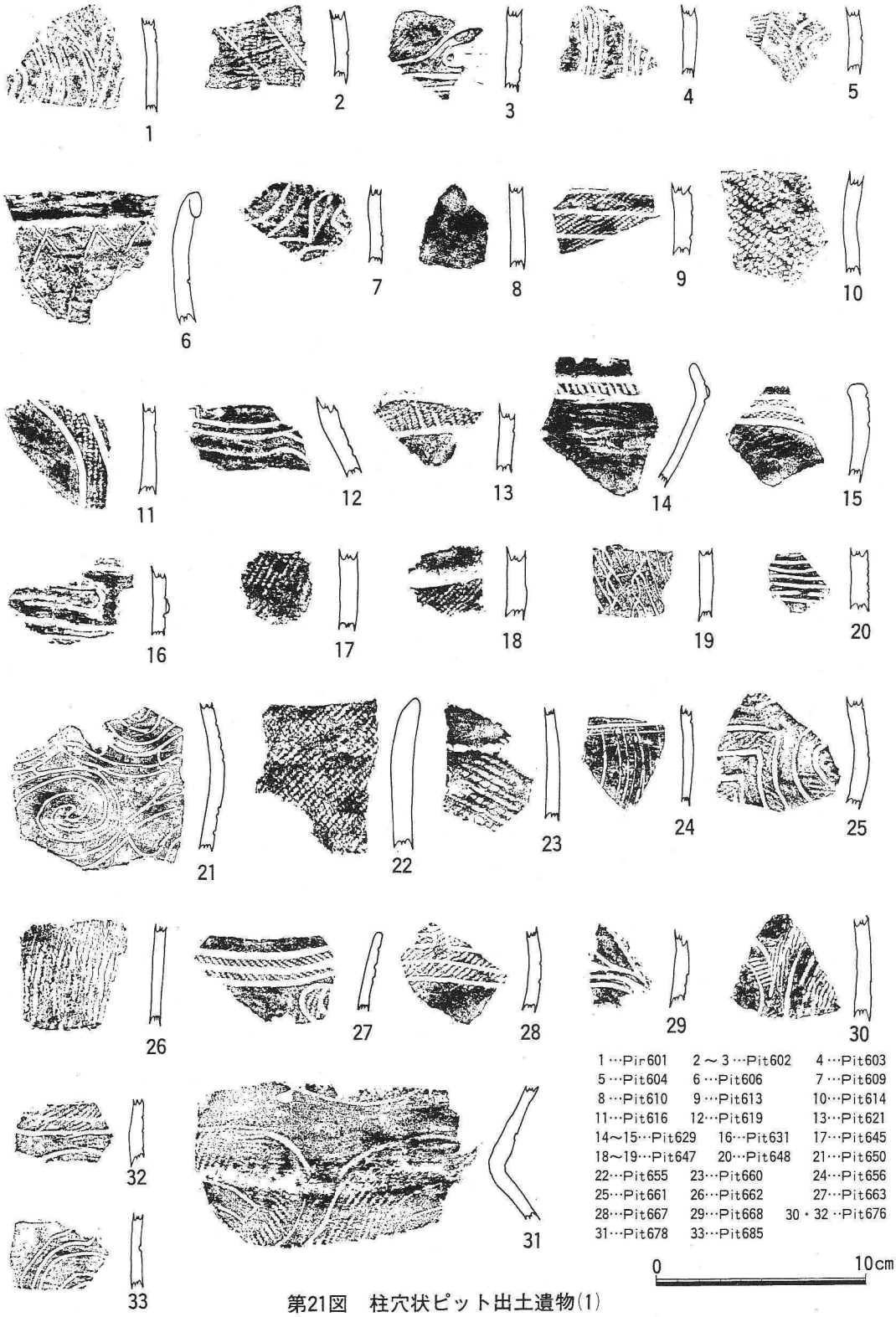
(1)　環状配石遺構

第602号環状配石遺構（第28図）

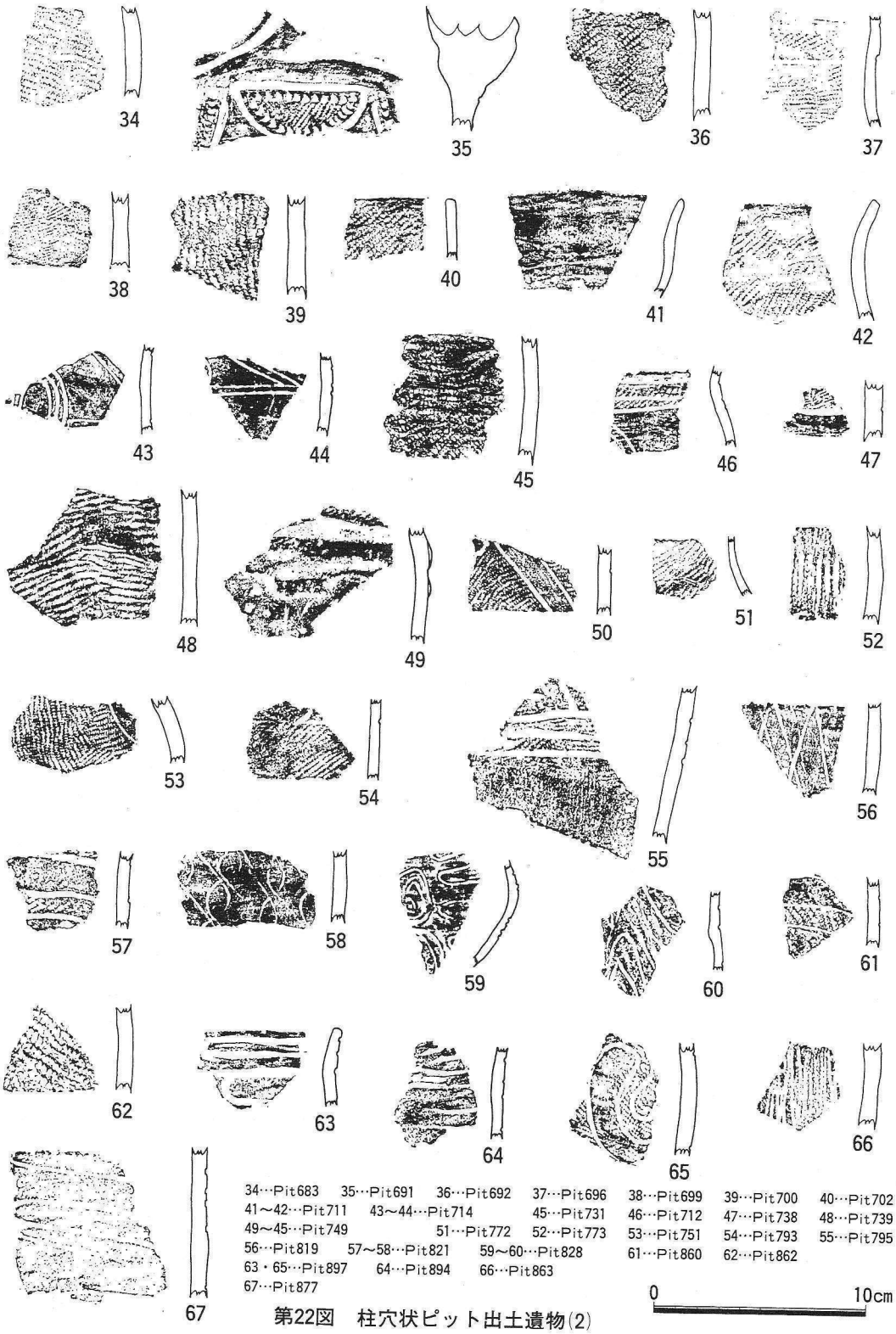
万座環状列石東側に隣接するＺＬ−92・93、ＺＭ−92〜94グリットに位置し、Ⅲc層上面において確認した。第613号、615号、617号建物跡と重複関係をもち、いずれよりも新しい。ピット921には環帯部の石の落ち込みが認められた。

環帯は３列並べを基本とし、環帯部径7.56ｍ、環帯幅0.5ｍを測る。張り出し部分は確認できなかった。配石に使用されている石は拳大から長さ52cmを測る大形のものまであり、その石質は石英閃緑玢岩が大方を占め、石英安山岩、泥岩、緑色凝灰岩、安山岩も見られる。環帯部のほぼ中央（ピット942付近）において径80cm、厚さ５cm程の焼土を確認したが、削除してしまった。

本遺構周辺部より縄文時代後期前葉〜中葉の土器破片のほか、南東環帯部内外より炭化堅果



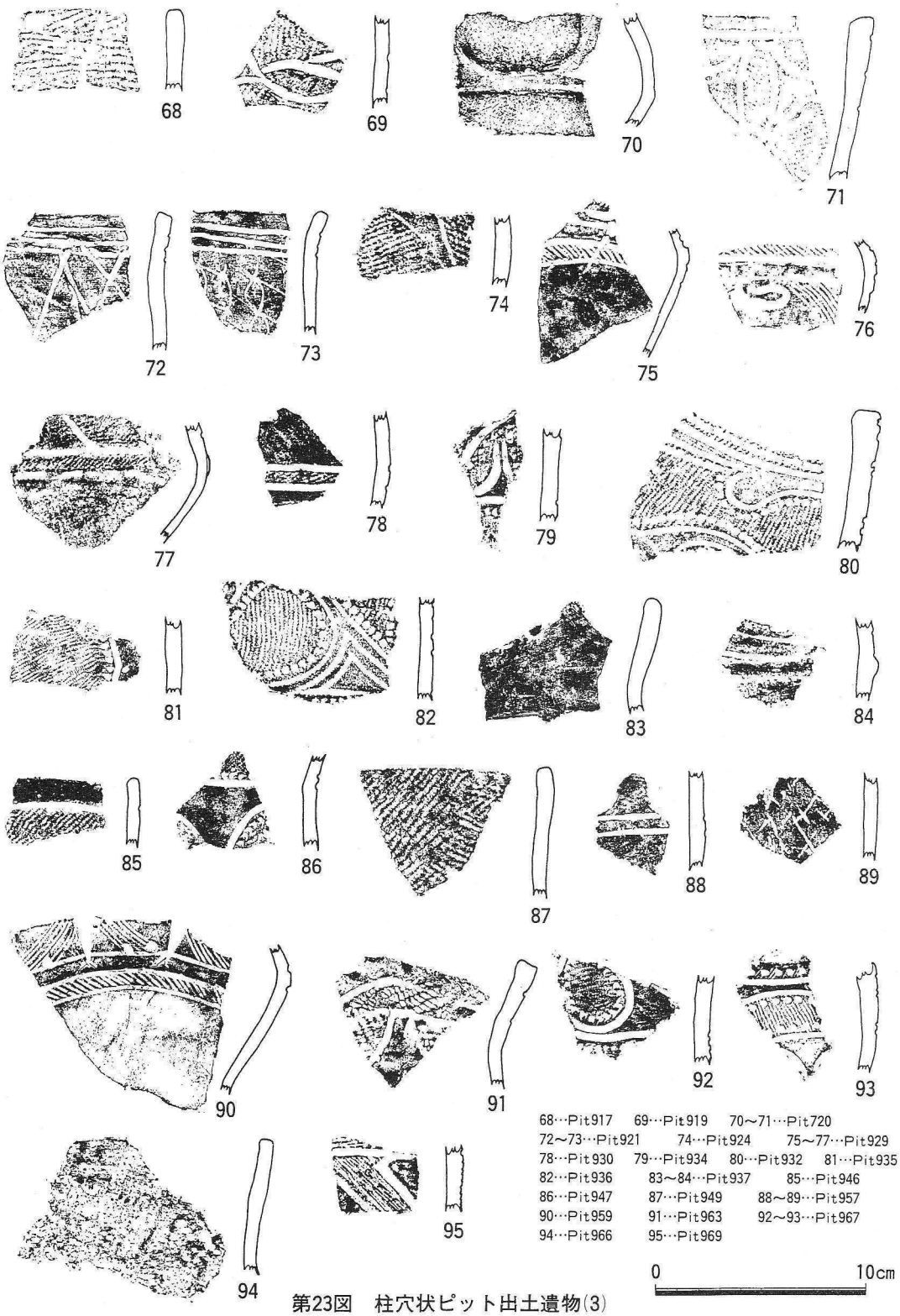
第21図　柱穴状ピット出土遺物(1)



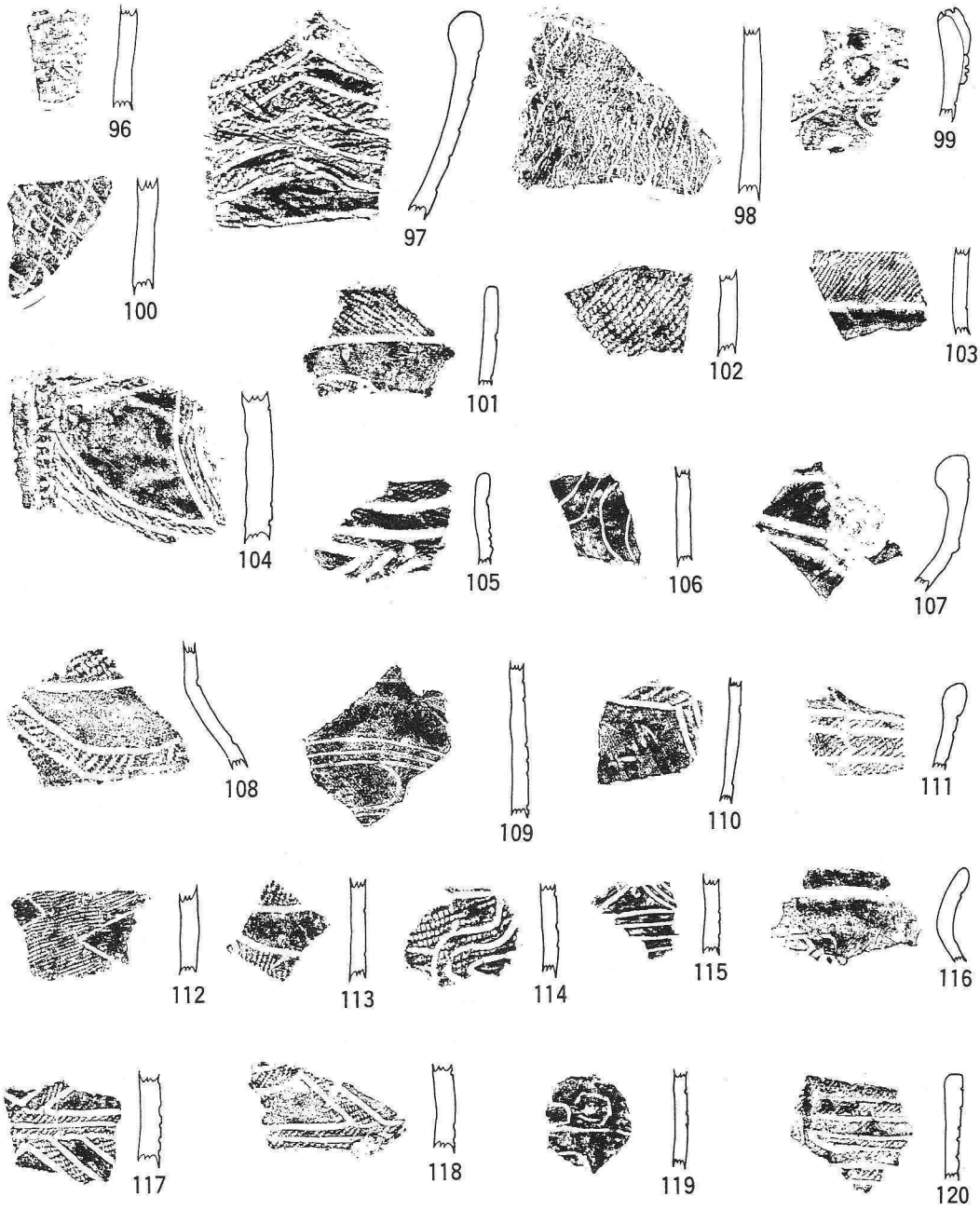
34…Pit683　35…Pit691　36…Pit692　37…Pit696　38…Pit699　39…Pit700　40…Pit702
41～42…Pit711　43～44…Pit714　45…Pit731　46…Pit712　47…Pit738　48…Pit739
49～45…Pit749　51…Pit772　52…Pit773　53…Pit751　54…Pit793　55…Pit795
56…Pit819　57～58…Pit821　59～60…Pit828　61…Pit860　62…Pit862
63・65…Pit897　64…Pit894　66…Pit863
67…Pit877

0　10cm

第22図　柱穴状ピット出土遺物(2)



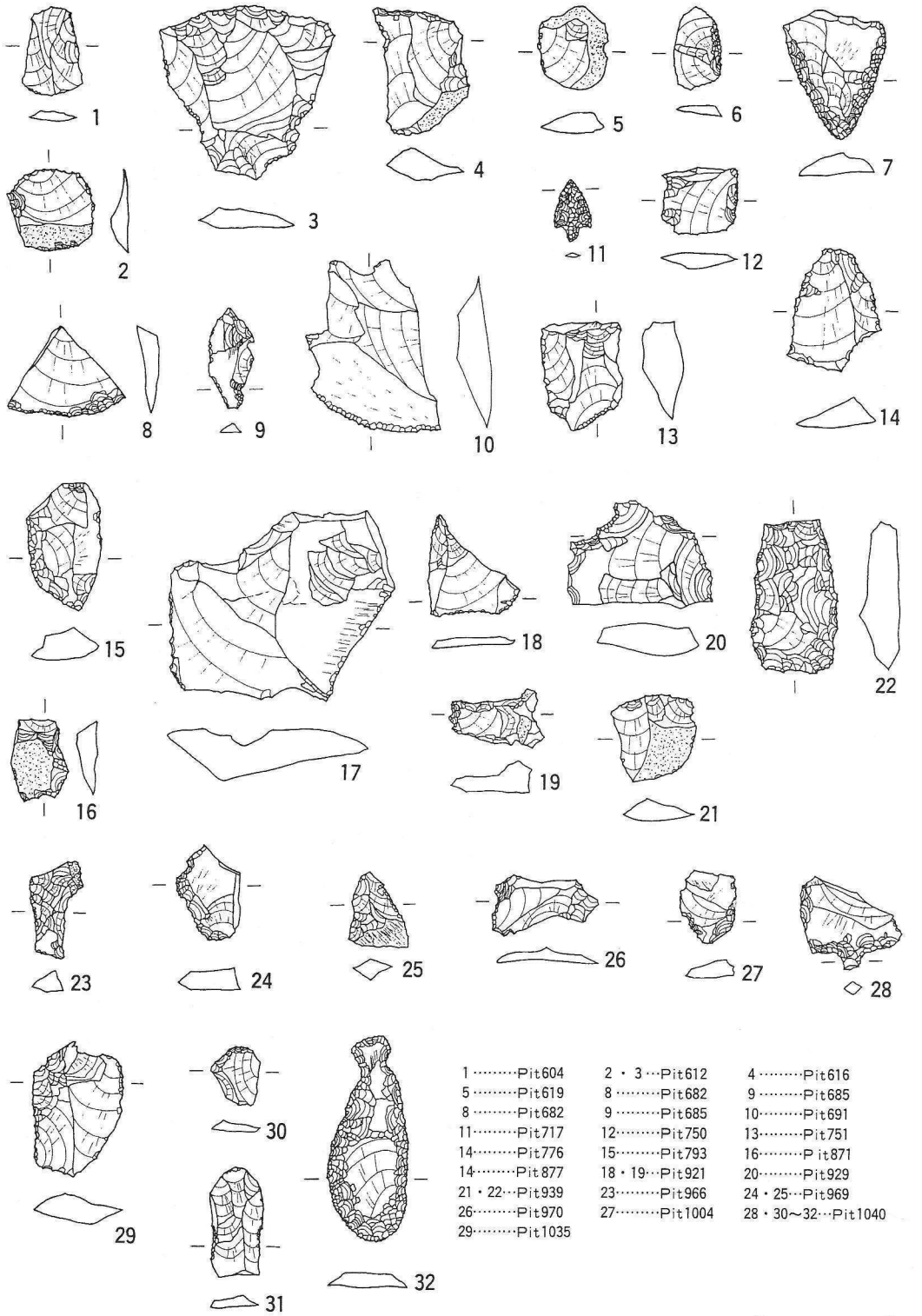
第23図　柱穴状ピット出土遺物(3)



96…Pit970　97…Pit971　98・101…Pit1000　99…Pit985　100…Pit992　102…Pit1004
103…Pit1007　104…Pit1008　105…Pit1012　106…Pit1016　107 …Pit1020　108…Pit1035
109…Pit1040　110…Pit1045　111…Pit1050　112…Pit1054　113…Pit1056　114…Pit1058
115…Pit1065　116…Pit1083　117～118…Pit1089　119～120…Pit1090

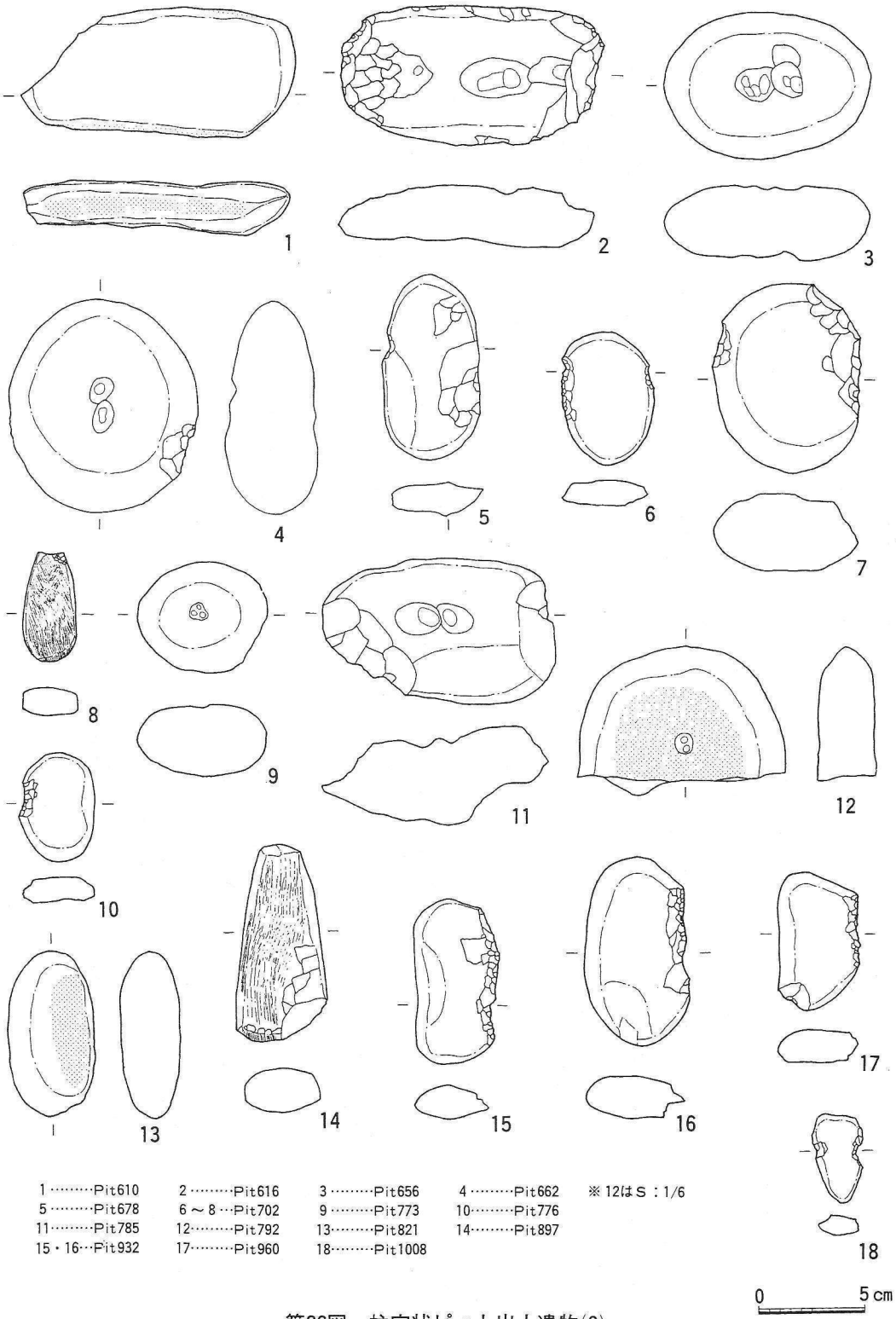
0　10cm

第24図　柱穴状ピット出土遺物(4)



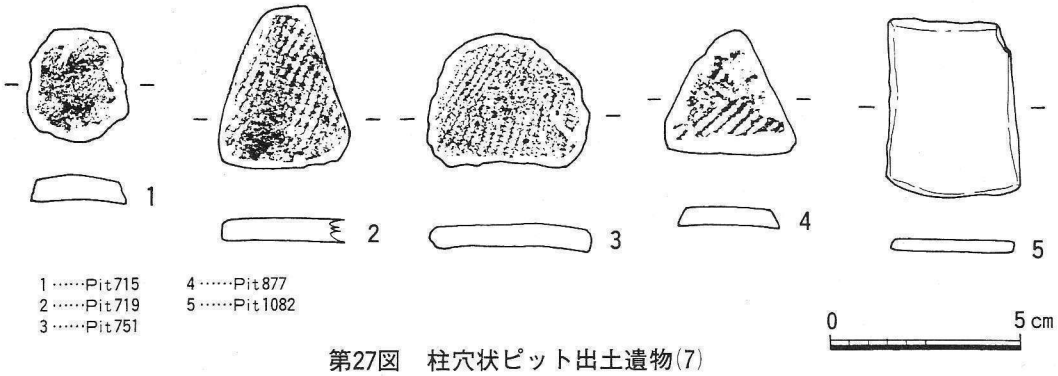
1……Pit604
2・3…Pit612
4……Pit616
5……Pit619
8……Pit682
9……Pit685
8……Pit682
9……Pit685
10……Pit691
11……Pit717
12……Pit750
13……Pit751
14……Pit776
15……Pit793
16……Pit871
14……Pit877
18・19…Pit921
20……Pit929
21・22…Pit939
23……Pit966
24・25…Pit969
26……Pit970
27……Pit1004
28・30～32…Pit1040
29……Pit1035

第25図　柱穴状ピット出土遺物(5)

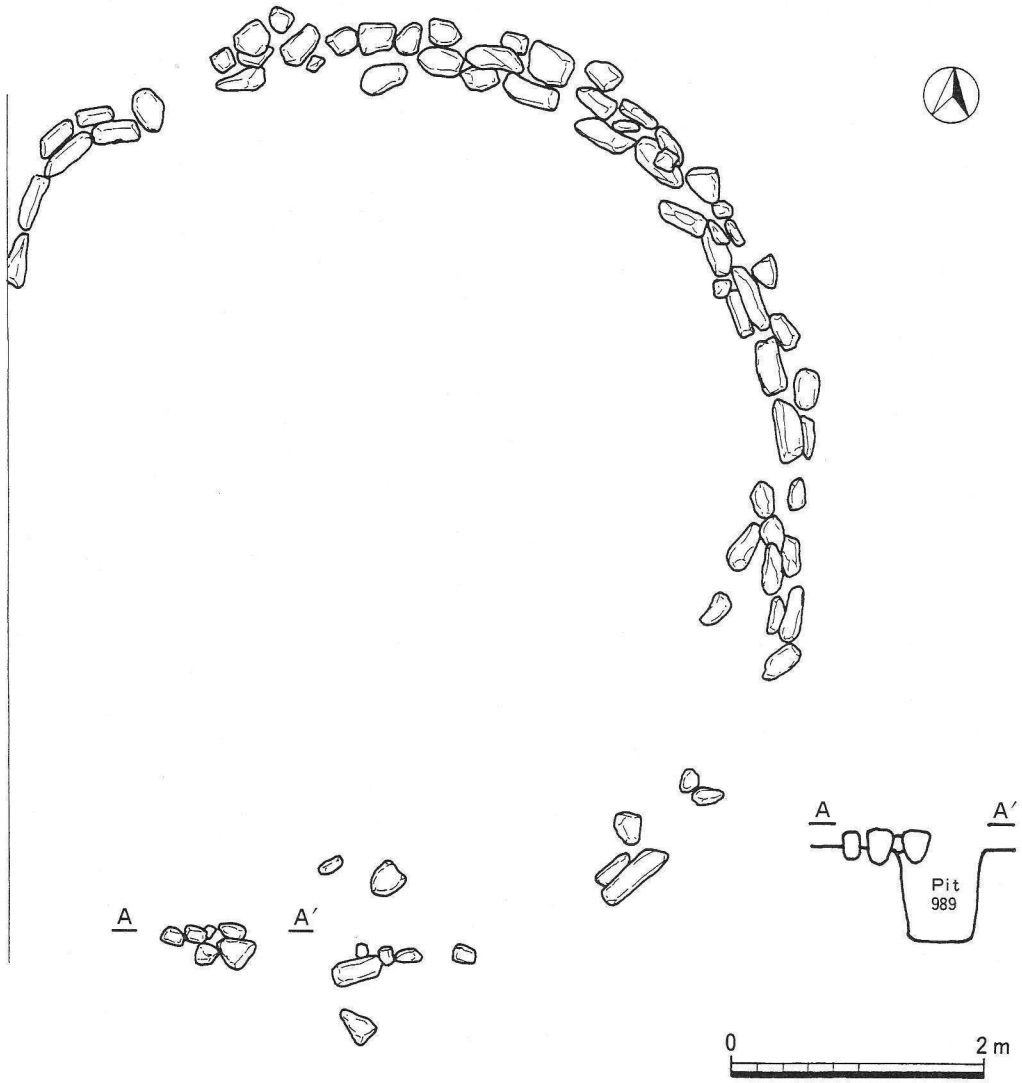


1……Pit610　2……Pit616　3……Pit656　4……Pit662　※12はS：1/6
5……Pit678　6～8…Pit702　9……Pit773　10……Pit776
11……Pit785　12……Pit792　13……Pit821　14……Pit897
15・16…Pit932　17……Pit960　18……Pit1008

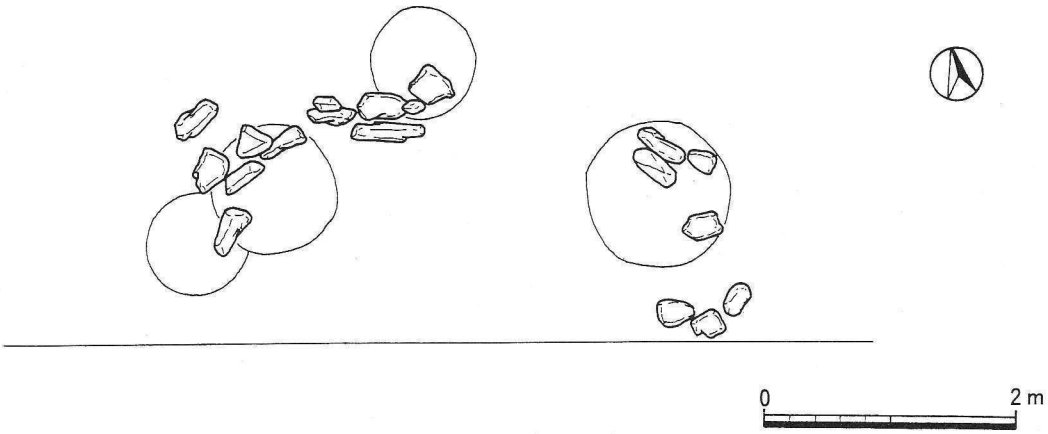
第26図　柱穴状ピット出土遺物(6)



第27図　柱穴状ピット出土遺物(7)



第28図　第602号環状配石遺構実測図



第29図　第603号環状配石遺構実測図

類が出土している。

本遺構の構築時期は、遺構の重複より縄文時代後期中葉と判断される。

第603号環状配石遺構（第29図）

万座環状列石南南東側に隣接するＺＪ―91、ＺＫ―90・91グリッドに位置し、Ⅲc層上面で確認した。第616号建物跡と重複関係にあり、本遺構が新しい。本遺構南側は未調査である。

環帯は２列並べを基本とし、環帯部径約4.50m、環帯幅0.4mを測る。張り出し部分は確認できなかった。配石に使用されている石は20cm～56cm大の大きさで、その石質は石英閃緑玢岩が大半を占め、安山岩、緑色凝灰岩、石英安山岩である。

焼土は確認できなかった。未調査部分に存在するものと考えられる。

本遺構周辺部より縄文時代後期前葉～中葉の土器破片が出土している。

本遺構の構築時期は、遺構の重複より縄文時代後期中葉と判断される。

第608号環状配石遺構（第30図）

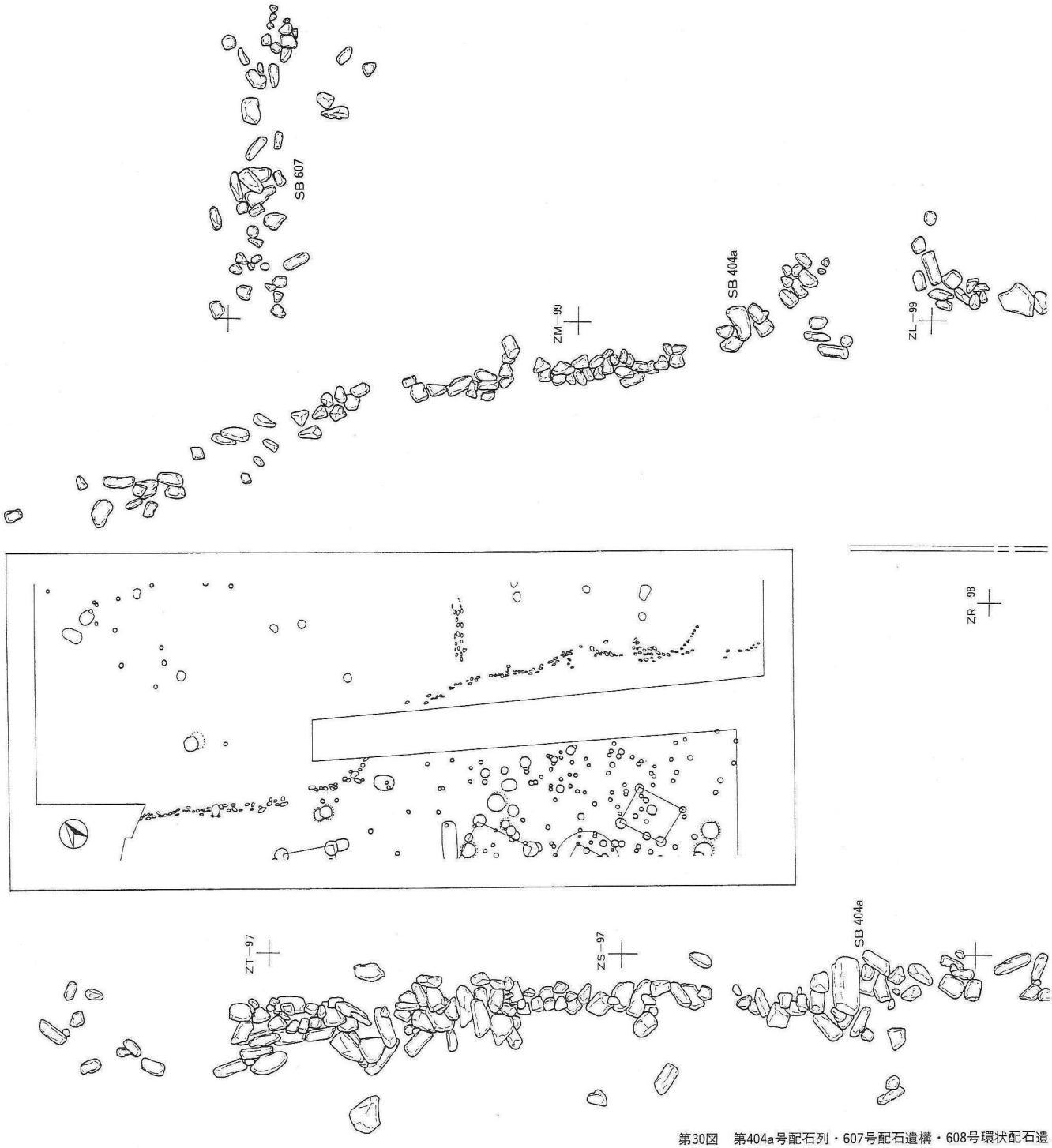
万座環状列石東側のＺＬ―99、ＺＭ―99グリッドに位置し、Ⅲc層上面において確認した。第404号配石列と重複関係し、その新旧は不明である。

ＺＬ―99杭より東側に弧状に延びる石の列で、環帯部径はおよそ７m～８mを測るものと想定される。同グリッド杭周辺に張り出し部を想定できる石の配置が見られる。

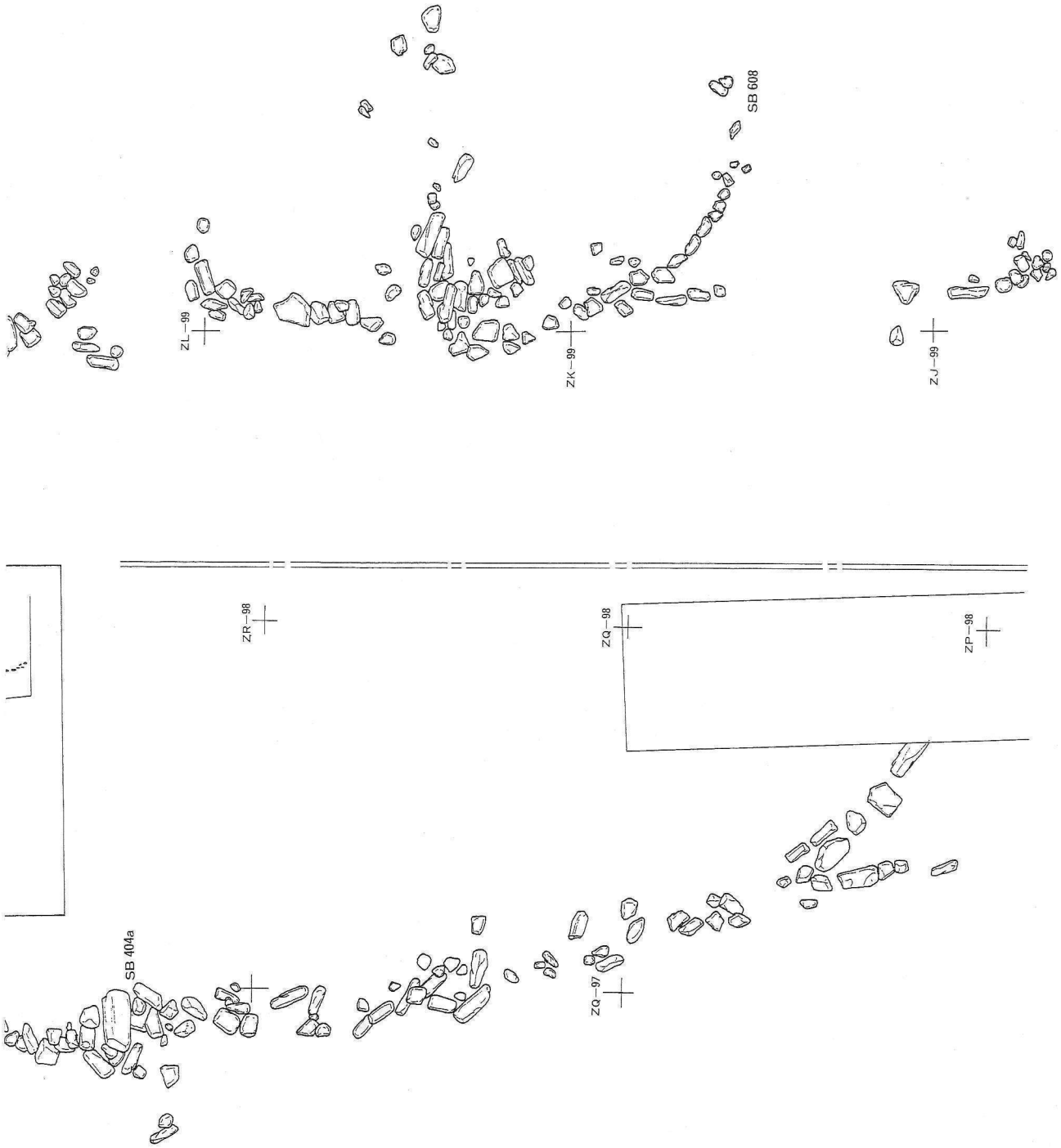
本遺構に確実に伴う焼土は確認できなかったが、環帯径が上記のものであるとすれば第605号・606号焼土遺構が環帯内に納まる。

本遺構周辺部より縄文時代後期前葉～中葉の土器破片が出土している。

本遺構の構築時期は、遺構確認面より縄文時代後期中葉と判断される。



第30図　第404a号配石列・607号配石遺構・608号環状配石遺



第404a号配石列・607号配石遺構・608号環状配石遺構実測図

0　4 m

(2) 配石列

第404-a号配石列（第30図）

第10次調査D_4区において検出された配石列の延長部分を確認した。本年度確認部分には昭和21年調査〔『大湯町環状列石』・昭和28年3月刊行・第一区石列として報告。〕で確認されている配石列も含まれている。（第4図参照）

なお、本配石列は昨年度の調査によって3条（a、b、c列）の石列より構成されていることが確認されている。

本年度調査区を北北西側から南南東側にかけて縦断するように配列されているものである。第608号環状配石遺構と重複関係にあるが、新旧関係は不明である。なお、第607号配石遺構は本配石列より分岐した可能性もある。

拳大から80cm大の柱状又は扁平な石を立て並べ・平置きし配石列を作り出しているもので、その長さ49mを測り、昨年度確認したものを含めると総延長88m余りに達する。

第409号配石列（第31図）

第10次調査D_4区において確認していたものである。本調査では万座環状列石と接続する部分を確認した。なお、東側に隣接する第410号配石列とは方向も同じことから、対となる可能性がある。

万座環状列石北側のＺＴ—93・94、ＺＵ—93・94グリッドに位置し、Ⅲc層上面において確認した。第611号建物跡柱穴状ピットと重複関係にあり、本遺構が新しい。

15～60cm大の石の長軸を連結するように配置した配石列で、長さ11mを測る。ボーリング探査の結果、この配石列は万座環状列石に接続することが確認されている。このことから実際のところその長さは12m余りを測るものである。

使用された石材の石質は、石英閃緑玢岩が大半を占める他、凝灰岩、砂質凝灰岩が見られる。

本遺構周辺部より縄文時代後期前葉～中葉の土器破片が出土している。

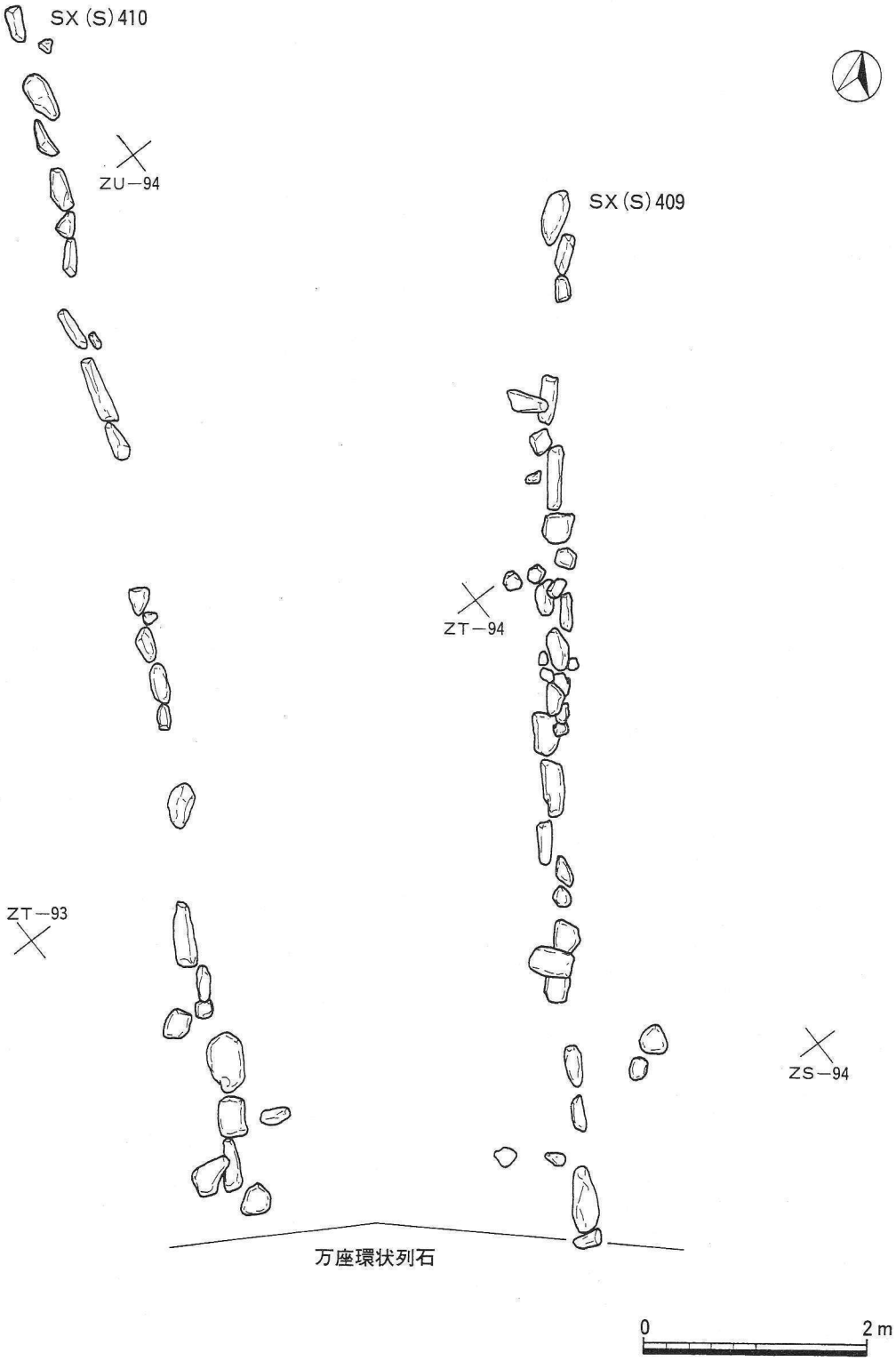
本遺構の構築時期は、遺構確認面より縄文時代後期前葉～中葉と判断される。

第410号配石列（第31図）

第10次調査D_4区において確認していたものである。本調査では万座環状列石と接続する部分を確認した。なお、東側に隣接する第409号配石列とは構築状況、方向も同じことから、対となる可能性がある。

万座環状列石北側、ＺＴ—93・94、ＺＵ—94グリッドに位置し、Ⅲc層上面で確認した。第611号建物跡と重複関係にあり、本遺構が新しい。

拳大から57cm大の石の長軸方向を連結するように配置した配石列で、長さ9.4mを測る。ボーリング探査の結果、万座環状列石に連結することが確認されている。このことから実際のと



第31図　第409・410号配石列実測図

ころの長さは11m程に達するものと想定される。

使用された石材の石質は、石英閃緑玢岩が大半を占め、凝灰岩、砂質凝灰岩が見られる。

本遺構周辺部より縄文時代後期前葉～中葉の土器破片が出土している。

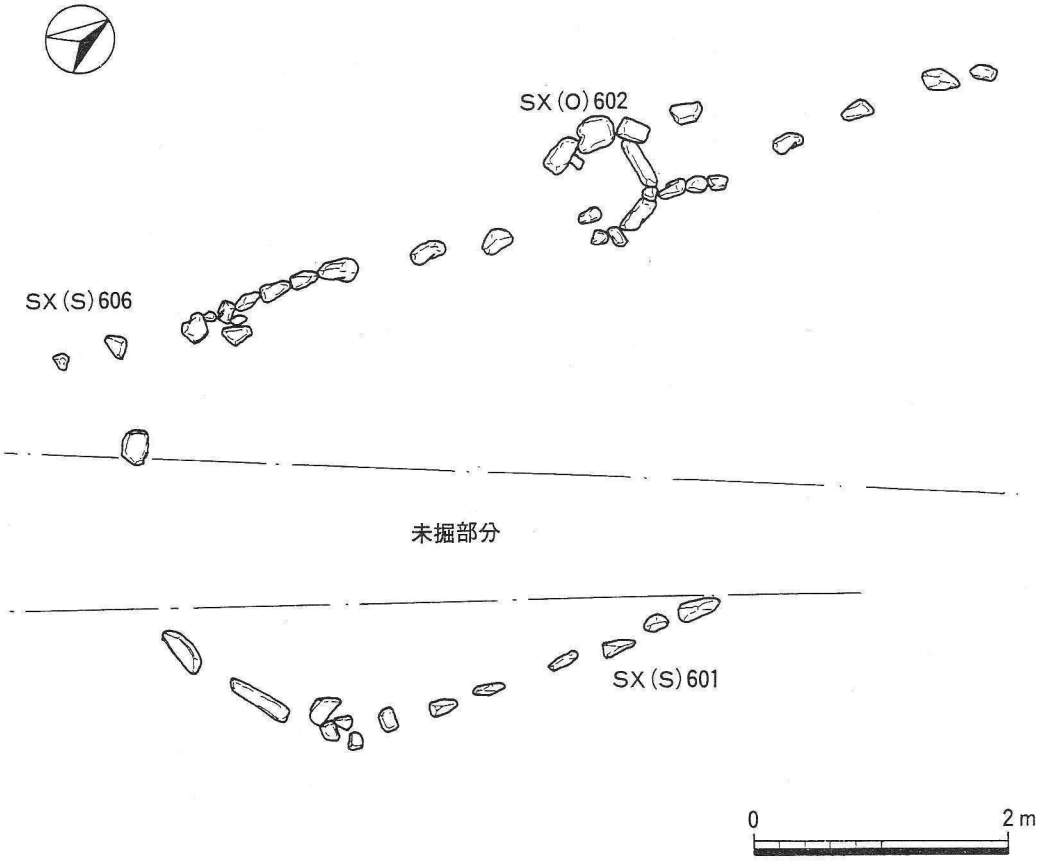
本遺構の構築時期は、遺構確認面より縄文時代後期前葉～中葉と判断される。

第601号配石列（第32図）

万座環状列石南南東のＺＥ―94・95、ＺＦ―94・95グリッドに位置する。Ⅲc層上面において確認した。他遺構との重複関係は認められない。第606号配石列がすぐ西側に隣接することから接続する可能性もある。

12cm～52cm大の石の長軸を連結するように弧状に配置するもので、長さ4.90mを測る。

本遺構周辺部より縄文時代後期前葉～中葉の土器破片が出土している。



第32図　第601号・606号配石列実測図

本遺構の構築時期は、遺構確認面より縄文時代後期前葉～中葉と判断される。

第606号配石列（第32図）

万座環状列石南南東のＺＦ―94・95グリッドに位置する。Ⅲc層上面で確認した。第602号石囲炉と重複する。新旧は不明。２遺構一体となったものとも考えられる。第601号配石列がすぐ南東側に隣接することから接続する可能性もある。

第602号屋外炉を中心に15cm～33cm大の石を南北方向に配置するもので、その長さは北側2.80ｍ、南側4.20ｍを測る。

本遺構周辺部より縄文時代後期前葉～中葉の土器破片が出土している。

本遺構の構築時期は、遺構確認面より縄文時代後期前葉～中葉と判断される。

(3) 配石遺構

第604号配石遺構（第33図）

万座環状列石東側のＺＫ―93グリッドに位置し、Ⅲd層上面で確認した。第631号フラスコ状土壙と重複し、本遺構が新しい。

配石の西端に幅30cmの柱状の石を立て置き、これに付属するように拳大から45cm大の扁平な石を径1.4ｍの円形に配置している。ボーリング探査によって配石下に深さ60cm程の土壙の存在が看取された。なお、使用された石材の石質は石英閃緑玢岩、緑色凝灰岩である。

本遺構周辺部より縄文時代後期前葉～中葉の土器破片が出土している。

本遺構の構築時期は、遺構確認面より縄文時代後期前葉と判断される。

第605号配石遺構（第33図）

万座環状列石東側のＺＫ―92グリッドに位置し、Ⅲd層上面で確認した。第603号焼土状遺構と重複し、本遺構が新しい。

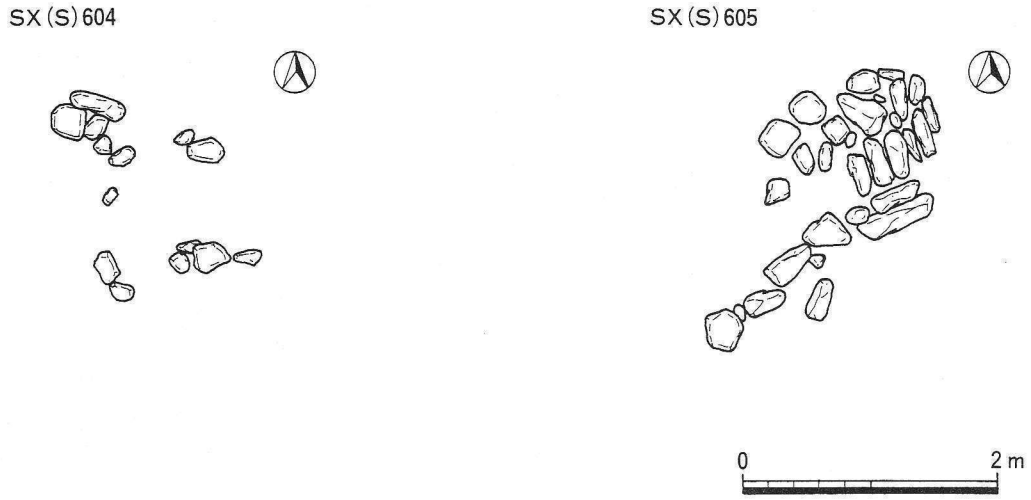
環状配石遺構の張り出し部に類似した状況を呈する。配石周辺には石の抜き取り跡は確認されなかった。径1.4ｍ×1.6ｍの範囲に拳大から64cm大の扁平な石を規則的に平置きしたもので南西側にむかって５個の石の突出が見られる。下部施設については確認できなかった。使用された石の石質は石英閃緑玢岩が大半を占める他、緑色凝灰岩、安山岩が見られる。

本遺構周辺部より縄文時代後期前葉～中葉の土器破片が出土している。

本遺構の構築時期は、遺構確認面より縄文時代後期前葉と判断される。

第607号配石遺構（第30図）

万座環状列石の北東側、ＺＯ―99、ＺＰ―99グリッドに位置し、Ⅲc層上面で確認した。西側に第404-ａ号配石列が接する。



第33図　第604号・605号配石遺構実測図

拳大から40cm大の扁平な石を、長さ4.5m、幅1mの範囲に雑然と配置しているもので、その状況から404-a号配石列より分岐したものとも見て取れる。使用された石材の石質は石英閃緑玢岩が殆どであるが、緑色凝灰岩、安山岩、石英安山岩も見られる。

本遺構周辺部より縄文時代後期前葉～中葉の土器破片が出土している。

本遺構の構築時期は、遺構確認面より縄文時代後期前葉～中葉と判断される。（藤井　安正）

3．石囲炉

第601号石囲炉（第34図）

調査区南部のＺＩ—94グリッド・Ⅲd層上面で確認した。四隅に25～40cm大の細長の石を縦位に設置しているのが確認されたが、本来は60×60cmの方形に配置した石囲炉と考えられる。炉内中央から50×42cmの範囲で焼土が確認された。

第602号石囲炉（第34図）

調査区南東部のＺＦ—94グリッド・Ⅲc層上面で確認した。第606号配石列と重複し、新旧関係は不明であるが、第606号配石列とは一体となったものとも考えられる。

炉は南側を消失しているが、本来12～44cm大の石を円形に配置した石囲炉と考えられる。炉内中央から40×34cmの範囲で焼土が確認された。

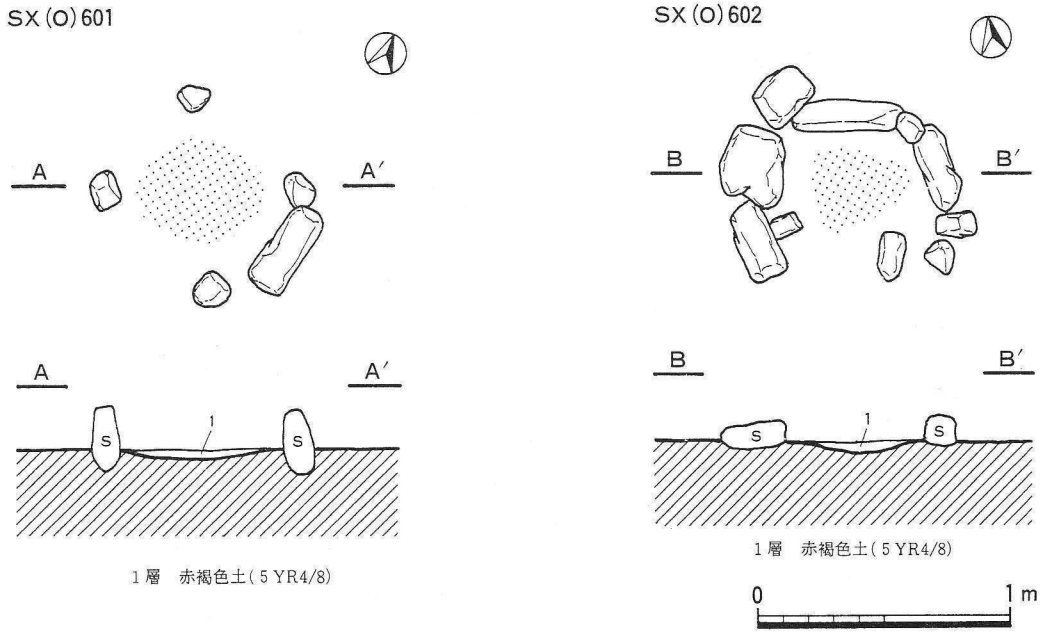
4．焼土遺構

第601号焼土遺構（第35図）

調査区北西部ＺＳ—94グリッド・Ⅲd層上面で確認した。焼土範囲は66×44cmである。

第602号焼土遺構（第35図）

調査区北西部ＺＳ—94グリッド・Ⅲd層上面で確認した。第602号、603号建物跡と重複し、第602号建物跡よりは古く、第603号建物跡とは不明である。焼土範囲は96×94cmである。



第34図　第601号・602号石囲炉実測図

第603号焼土遺構（第35図）

調査区南部ＺＫ―92～94グリッド・Ⅲd層上面で確認した。第605号配石遺構と重複し、本遺構が古い。焼土範囲は推定64×42cmである。

第604号焼土遺構（第35図）

調査区南東部中央寄りＺＪ―94グリッド・Ⅲd層上面で確認した。焼土範囲は86×48cmである。

第605号焼土遺構（第35図）

調査区東部ＺＭ―99～100グリッド・Ⅲc層上位で確認した。焼土範囲は104×60cmである。

第606号焼土遺構（第35図）

調査区東部ＺＭ―99グリッド・Ⅲc層上位で確認した。焼土範囲は62×58cmである。

第607号焼土遺構（第35図）

調査区東部ＺＯ―100グリッド・Ⅲc層上位で確認した。焼土範囲は56×50cmである。

第608号焼土遺構（第35図）

調査区東部ＺＯ―100グリッド・Ⅲc層上位で確認した。焼土範囲は58×40cmである。

第609号焼土遺構（第35図）

調査区東部ＺＲ―99グリッド・Ⅲc層上位で確認した。焼土範囲は40×36cmである。

第610号焼土遺構（第35図）

調査区東部ＺＴ―100グリッド・Ⅲd層上面で確認した。焼土範囲は58×40cmである。

第611号焼土遺構（第35図）

調査区北部ＺＴ―99～100グリッド・Ⅲc層上位で確認した。焼土範囲は60×46cmである。

第612号焼土遺構（第35図）

調査区北部ＺＳ―98グリッド・Ⅲc層上位で確認した。焼土範囲は56×48cmである。

第613号焼土遺構（第35図）

調査区東部ＺＮ―99～100グリッド・Ⅲc層上位で確認した。焼土範囲は46×40cmである。

第614号焼土遺構（第35図）

調査区北部ＺＵ―99グリッド・Ⅲc層上位で確認した。焼土範囲は172×96cmである。

第615号焼土遺構（第35図）

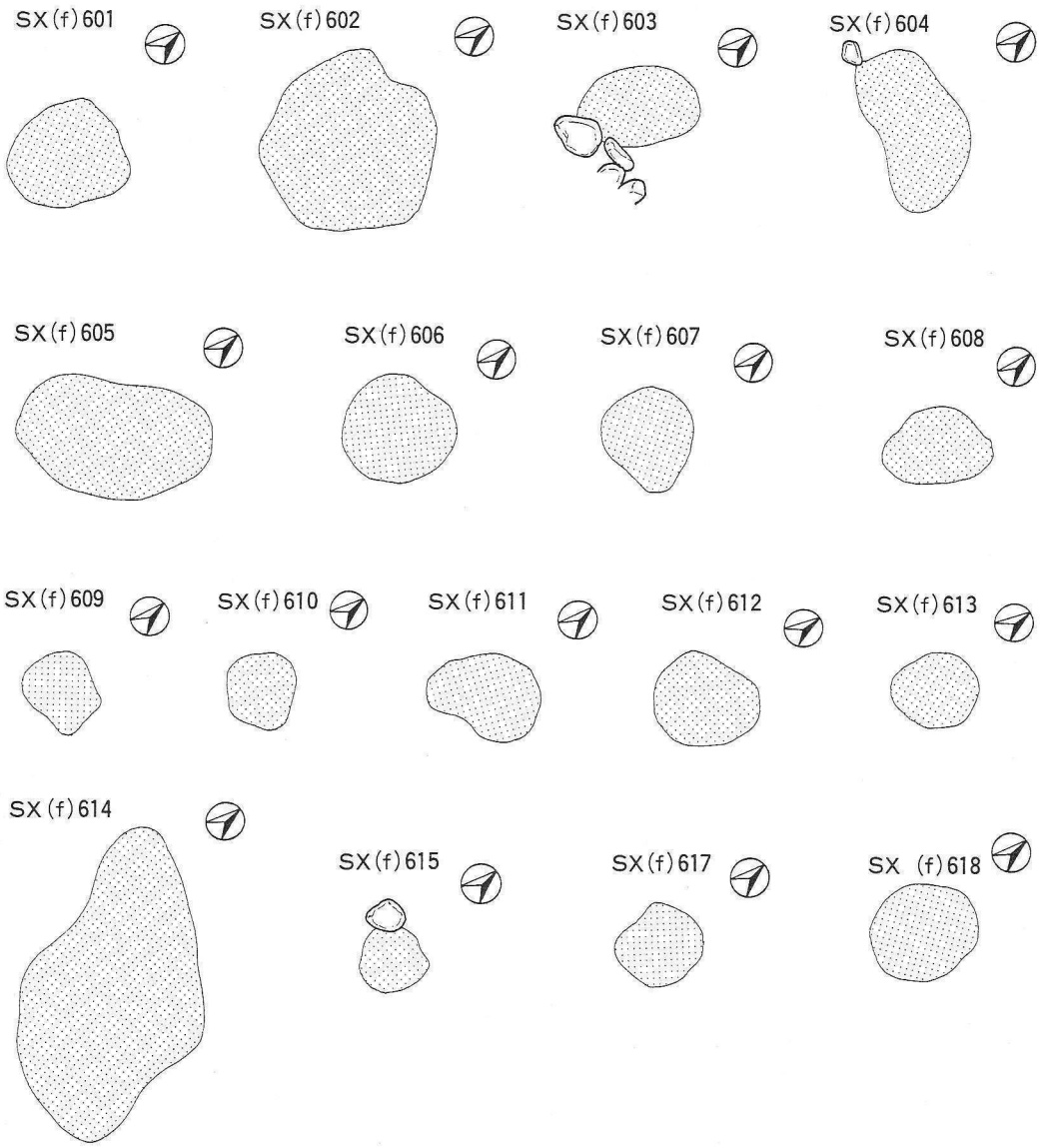
調査区北部ＺＱ―98グリッド・Ⅲc層上位で確認した。焼土範囲は38×36cmである。

第617号焼土遺構（第35図）

調査区北部ＺＲ―99グリッド・Ⅲc層上位で確認した。焼土範囲は46×48cmである。

第618号焼土遺構（第35図）

調査区北端部ＺＳ―100～101グリッド・Ⅲd層上面で確認した。焼土範囲は58×52cmである。

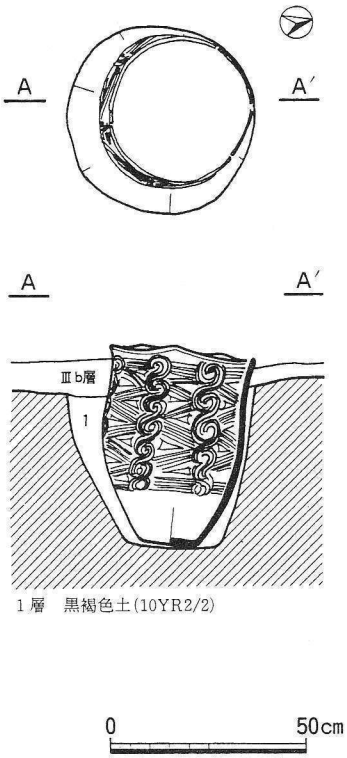


第35図　焼土遺構実測図

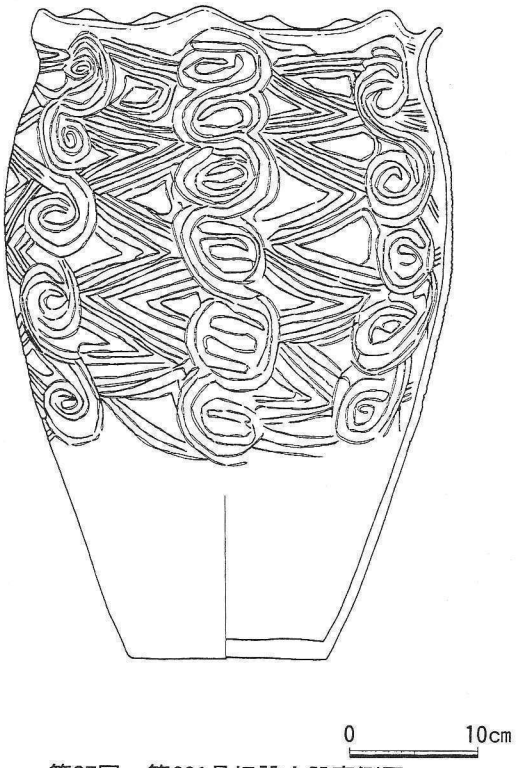
5．埋設土器遺構（第36図、37図）

第601号埋設土器遺構

調査区南部ZⅠ—92グリッド・Ⅲb層下位で確認し、Ⅲd層より掘り込まれている。土器は、径48×47cm、深さ42cmの掘り方に正位で埋設されていた。深鉢形土器で、無文研磨された器面上に主文様として沈線により縦位に連結した「S」字文を描き、弧線文を付加している。文様は胴部下半まで及んでいる。口径31.5cm、底径15.1cm、器高51.2、最大胴径34.5cm、色調はにぶい黄橙色である。土器内より剝片１点が出土した。　（花海　義人）



第36図　第601号埋設土器遺構実測図



第37図　第601号埋設土器実測図

6．土　壙

(1)　Ｔピット

第616号Ｔピット（第38図）

調査区中央部ＺＯ―95～96グリッド・Ⅲd層で確認した。第607号建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模は312×58cm、深さ114cmと推定される。長軸方向はＮ―83°―Ｅである。堆積土は５ブロックに区分され、地山粒の混入がみられることから、人為堆積と判断する。

構築時期は、確認面から縄文時代後期後葉と考えられる。

第643号Ｔピット（第38図）

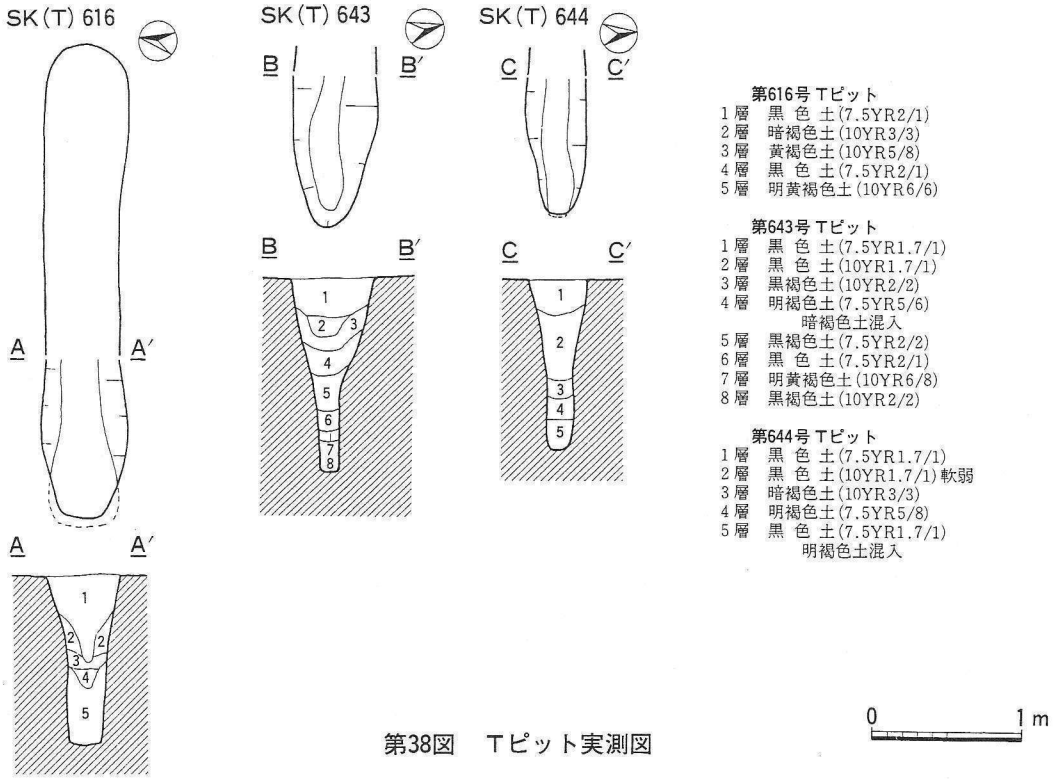
調査区東南部ＺＧ―101グリッド・Ⅲd層上面で確認した。遺構の半分は調査区外に延びているが、深さは128cmである。堆積土は７ブロックに区分され、混入物から人為堆積と判断する。

ピット内より、縄文土器細破片３点が出土した。

構築時期は遺構内出土遺物より、縄文時代後期前葉と考えられる。

第644号Ｔピット（第38図）

調査区東南部ＺＧ―103グリッド・Ⅲd層上面で確認した。遺構の半分は調査区外に延びてい



第38図　Tピット実測図

るが、規模、長軸方向等は不明であるが、深さは110cmである。堆積土は5ブロックに区分され、地山粒が混入していることから、人為堆積と判断する。

構築時期は確認面より、縄文時代後期前葉と考えられる。

(2) フラスコ状土壙

第603号フラスコ状土壙（第39図、42図1、43図1・2・17）

調査区南東部のＺＤ―95、ＺＥ―95グリッド・Ⅲd層上面で確認した。口縁部は144×138cm底径は184cmである。底面は二段構造で、西側の低い面までは116cm、東側の高い面までは、136cmを測る。堆積土は5ブロックに区分され、人為堆積である。堆積土中に炭化堅果類（第Ⅳ章参照）の混入がみられた。

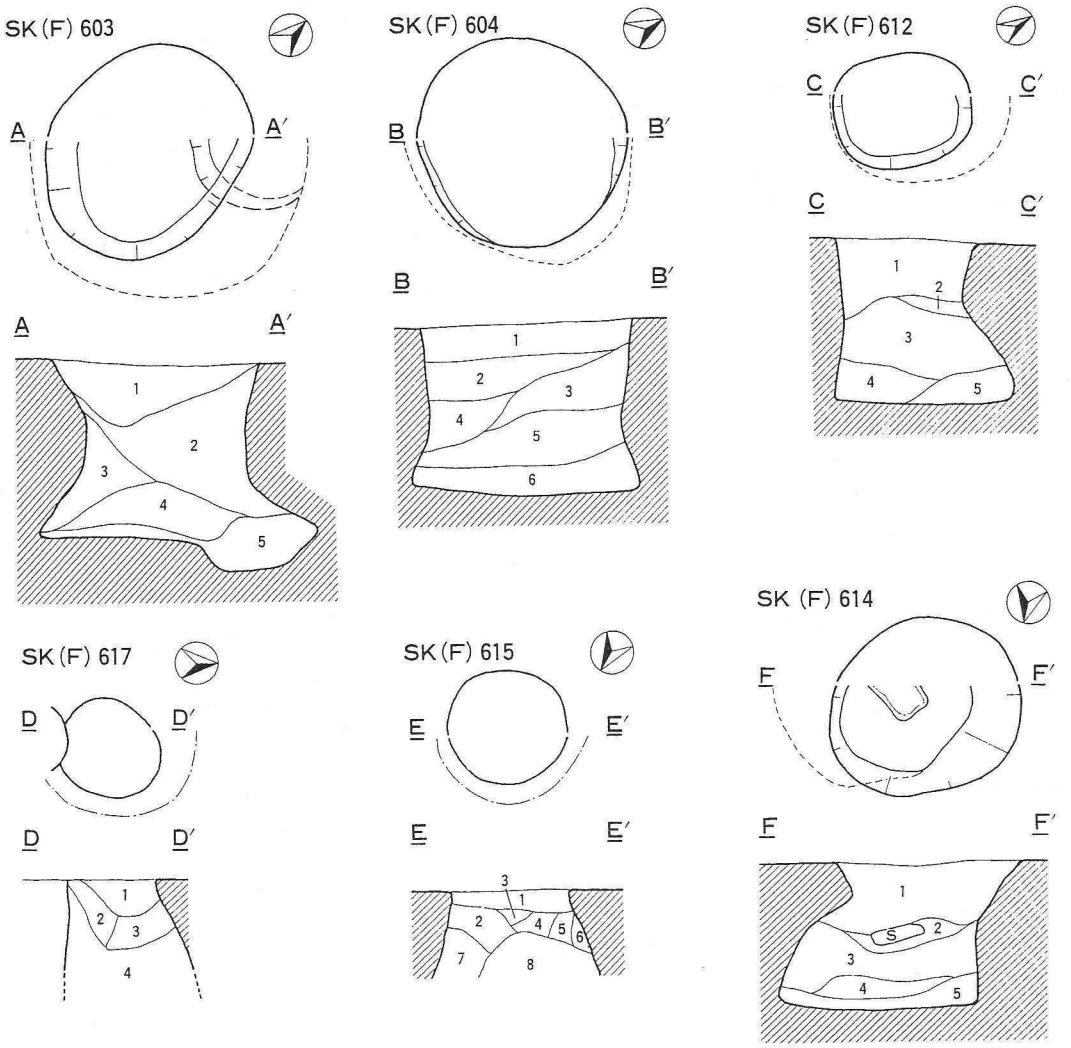
土壙内より縄文土器破片103点、掻器3点、剥片3点、敲石2点の出土があった。

構築後期は遺構内出土遺物より、縄文時代後期前葉と考えられる。

第604号フラスコ状土壙（第39図、42図2・3、43図3）

調査区南東部のＥＥ―94グリッド・Ⅲd層上面で確認した。口縁部径は139×139cm、径は、149cm、深さは112cmである。堆積土は6ブロックに区分され、人為堆積と考えられる。

遺構内より縄文土器破片55点、打製石斧1点、剥片2点の出土があった。



第603号フラスコ状土壙
1層　黒 色 土(10YR2/1)
　　炭化物混入
2層　黒褐色土(10YR2/2)
3層　黒 色 土(10YR2/1)
　　炭化物・地山塊混入
4層　黒 色 土(10YR2/1)
　　3層より混入多い
5層　黒 色 土(10YR2/1)

第614号フラスコ状土壙
1層　黒褐色土(10YR2/2)
2層　黒 色 土(10YR2/1)
3層　黒 色 土(10YR2/1)
4層　黒 色 土(10YR1.7/1)
5層　明黄褐色土(10YR6/8)

第604号フラスコ状土壙
1層　黒 色 土(10YR1.7/1)
　　シラス塊混入
2層　黒 色 土(10YR1.7/1)
　　地山塊混入
3層　黒 色 土(10YR2/1)
　　地山塊混入
4層　黒 色 土(10YR2/1)
　　シラス塊混入
5層　黒 色 土(10YR2/1)
　　地山塊混入
6層　黒褐色土(10YR2/2)

第615号フラスコ状土壙
1層　暗褐色土(10YR3/3)
2層　黒褐色土(10YR2/2)
3層　黒褐色土(10YR2/3)
4層　黒褐色土(10YR2/2)
5層　黒褐色土(7.5YR2/2)
6層　黒褐色土(7.5YR2/2)
　　暗褐色土
7層　黒 色 土(7.5YR2/1)
8層　黒 色 土(7.5YR2/1)

第612号フラスコ状土壙
1層　黒 色 土(10YR2/1)
　　全体的に締まる
2層　黒 色 土(10YR2/1)
　　軟弱
3層　黒 色 土(10YR2/1)
4層　黒 色 土(10YR2/1)
　　地山塊混入
5層　黒 色 土(10YR2/1)

第617号フラスコ状土壙
1層　黒褐色土(10YR2/3)
　　地山塊混入
2層　黒褐色土(10YR2/3)
3層　黒褐色土(10YR2/2)
4層　黒褐色土(10YR2/2)
　　地山塊混入

0　1 m

第39図　フラスコ状土壙実測図(1)

遺構内出土遺物より構築時期は、縄文時代後期前葉と考えられる。

第612号フラスコ状土壙（第39図、42図４・５、44図１）

調査区北部のＺＲ―95、96グリッド・Ⅲd層上面で確認した。口縁部は90×76cm、底径は96cm深さは109cmである。堆積土は５ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より縄文土器破片12点、土器片利用土製品１点の出土があった。

出土遺物より構築時期は、縄文時代後期前葉と考えられる。

第614号フラスコ状土壙（第39図、42図６・７、43図４～７・16）

調査区中央部ＺＯ―96、99グリッド・Ⅲd層上面での確認である。口縁部は134×116cm、底径は132cm、深さは96cmを測る。堆積土は５ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より縄文土器破片143点、掻器４点、敲石１点が出土した。

構築時期は遺構内出土遺物より、縄文時代後期前葉と考えられる。

第615号フラスコ状土壙（第39図）

調査区中央部のＺＯ―96グリッド・Ⅲd層上面で確認した。第607号建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。口縁部は80×76cmの円形である。遺構の種類が判明した60cmまでしか掘り下げていないため、深さ等は不明である。堆積土は８ブロック以上に区分され、人為堆積である。

構築時期は遺構確認面より、縄文時代後期前葉と考えられる。

第617号フラスコ状土壙（第39図、42図８）

調査区中央部のＺＯ―96グリッド・Ⅲd層上面で確認した。ピット704号と重複し、本遺構が古い。口縁部は70×64cmの円形で、遺構の種類の判明した60cmまでしか掘り下げていないため深さ等は不明である。堆積土は４ブロック以上に区分され、人為堆積である。

遺構内より縄文時代後期前葉の土器破片が２点出土した。

第620号フラスコ状土壙（第40図、42図９・４、43図８・９・15）

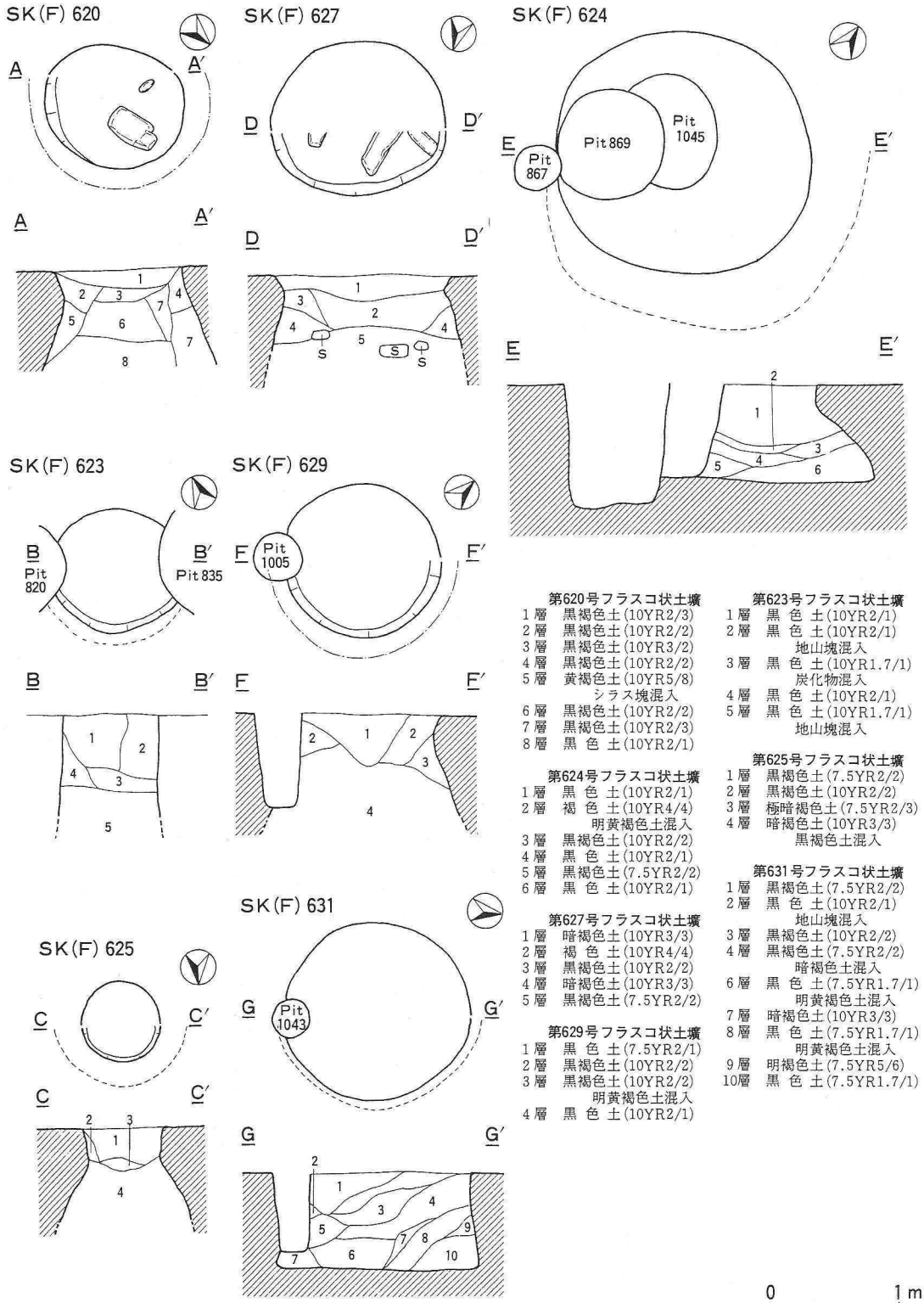
調査区中央部のＺＯ―96グリッド・Ⅲd層上面で確認した。第607号建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。口縁部は94×110cmの円形である。遺構の種類が判明した60cmまでしか掘り下げていないため、深さ等は不明である。堆積土は９ブロック以上に区分され、人為堆積である。

遺構内より縄文土器破片42点、掻器２点、凹石１点が出土した。

構築時期は出土遺物より、縄文時代後期前葉と考えられる。

第623号フラスコ状土壙（第40図）

調査区中央部のＺＮ―93、94グリッド・Ⅲd層上面で確認した。ピット820、835と重複し、本遺構はいずれよりも古い。口縁部は70×64cmの円形で、遺構の種類の判明した80cmまでしか



第620号フラスコ状土壙
1層　黒褐色土(10YR2/3)
2層　黒褐色土(10YR2/2)
3層　黒褐色土(10YR3/2)
4層　黒褐色土(10YR2/2)
5層　黄褐色土(10YR5/8)
　　シラス塊混入
6層　黒褐色土(10YR2/2)
7層　黒褐色土(10YR2/3)
8層　黒 色 土(10YR2/1)

第624号フラスコ状土壙
1層　黒 色 土(10YR2/1)
2層　褐 色 土(10YR4/4)
　　明黄褐色土混入
3層　黒褐色土(10YR2/2)
4層　黒 色 土(10YR2/1)
5層　黒褐色土(7.5YR2/2)
6層　黒 色 土(10YR2/1)

第627号フラスコ状土壙
1層　暗褐色土(10YR3/3)
2層　褐 色 土(10YR4/4)
3層　黒褐色土(10YR2/2)
4層　暗褐色土(10YR3/3)
5層　黒褐色土(7.5YR2/2)

第629号フラスコ状土壙
1層　黒 色 土(7.5YR2/1)
2層　黒褐色土(10YR2/2)
3層　黒褐色土(10YR2/2)
　　明黄褐色土混入
4層　黒 色 土(10YR2/1)

第623号フラスコ状土壙
1層　黒 色 土(10YR2/1)
2層　黒 色 土(10YR2/1)
　　地山塊混入
3層　黒 色 土(10YR1.7/1)
　　炭化物混入
4層　黒 色 土(10YR2/1)
5層　黒 色 土(10YR1.7/1)
　　地山塊混入

第625号フラスコ状土壙
1層　黒褐色土(7.5YR2/2)
2層　黒褐色土(10YR2/2)
3層　極暗褐色土(7.5YR2/3)
4層　暗褐色土(10YR3/3)
　　黒褐色土混入

第631号フラスコ状土壙
1層　黒褐色土(7.5YR2/2)
2層　黒 色 土(10YR2/1)
　　地山塊混入
3層　黒褐色土(10YR2/2)
4層　黒褐色土(7.5YR2/2)
　　暗褐色土混入
6層　黒 色 土(7.5YR1.7/1)
　　明黄褐色土混入
7層　暗褐色土(10YR3/3)
8層　黒 色 土(7.5YR1.7/1)
　　明黄褐色土混入
9層　明褐色土(7.5YR5/6)
10層　黒 色 土(7.5YR1.7/1)

第40図　フラスコ状土壙実測図(2)

掘り下げておらず、深さ等は不明である。堆積土は５ブロック以上に区分され、人為堆積である。

確認面より構築時期は、縄文時代後期前葉と考えられる。

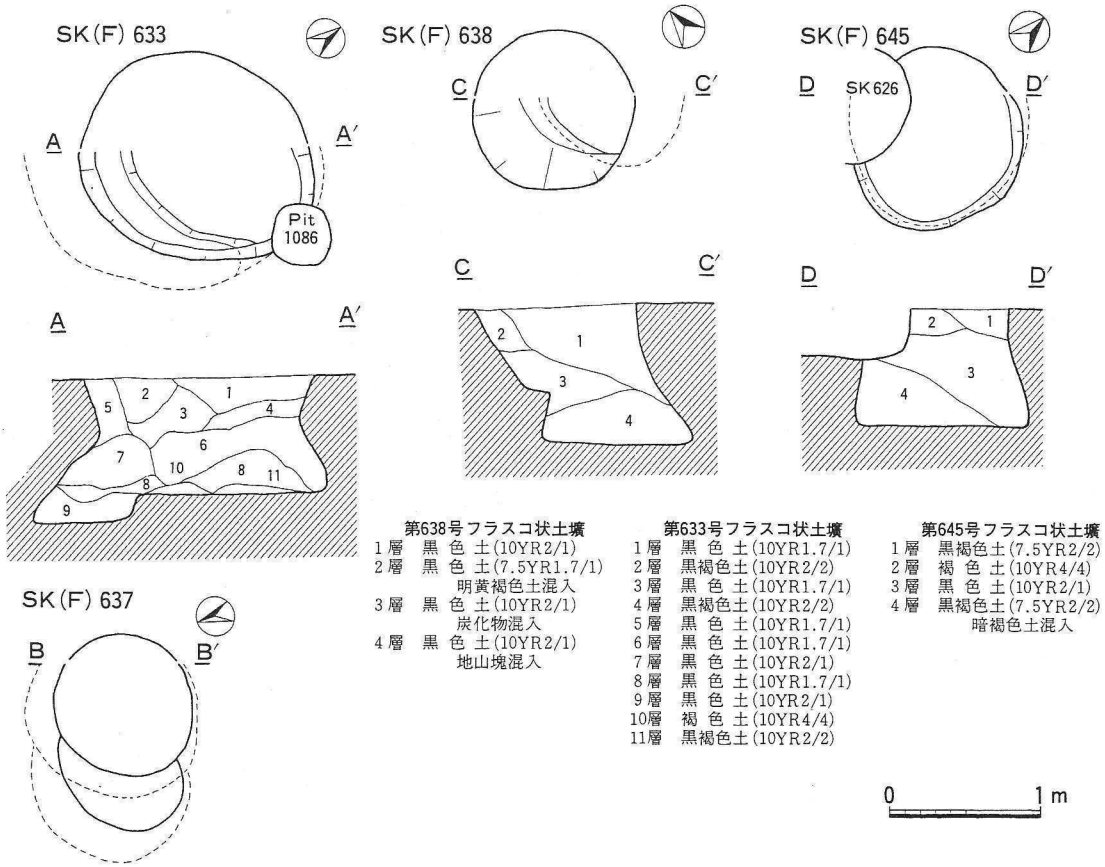
第624号フラスコ状土壙（第40図、42図10～12）

調査区中央部のＺＬ、ＺＭ―95グリッド・Ⅲd層上面で確認した。ピット867、869、1045と重複し、本遺構はいずれよりも古い。口縁部は196×190cm、深さは76cmである。堆積土は５層に区分され、深さ等は不明である。堆積土は５ブロック以上に区分され、人為堆積である。

確認面より構築時期は、縄文時代後期前葉と考えられる。

第625号フラスコ状土壙（第40図）

調査区南東部のＺＬ―94グリッド・Ⅲd層上面で確認した。第614号建物跡と重複しているが本遺構との新旧関係は不明である。口縁部は60×60cmの円形で、底径は110cm、深さは90cm以上の規模のものと推定される。堆積土は４ブロック以上に区分され、人為堆積である。



第638号フラスコ状土壙
1層　黒　色　土(10YR2/1)
2層　黒　色　土(7.5YR1.7/1)
明黄褐色土混入
3層　黒　色　土(10YR2/1)
炭化物混入
4層　黒　色　土(10YR2/1)
地山塊混入

第633号フラスコ状土壙
1層　黒　色　土(10YR1.7/1)
2層　黒褐色土(10YR2/2)
3層　黒　色　土(10YR1.7/1)
4層　黒褐色土(10YR2/2)
5層　黒　色　土(10YR1.7/1)
6層　黒　色　土(10YR1.7/1)
7層　黒　色　土(10YR2/1)
8層　黒　色　土(10YR1.7/1)
9層　黒　色　土(10YR2/1)
10層　褐　色　土(10YR4/4)
11層　黒褐色土(10YR2/2)

第645号フラスコ状土壙
1層　黒褐色土(7.5YR2/2)
2層　褐　色　土(10YR4/4)
3層　黒　色　土(10YR2/1)
4層　黒褐色土(7.5YR2/2)
暗褐色土混入

第41図　フラスコ状土壙実測図(3)

第627号フラスコ状土壙（第40図、42図13、44図２）

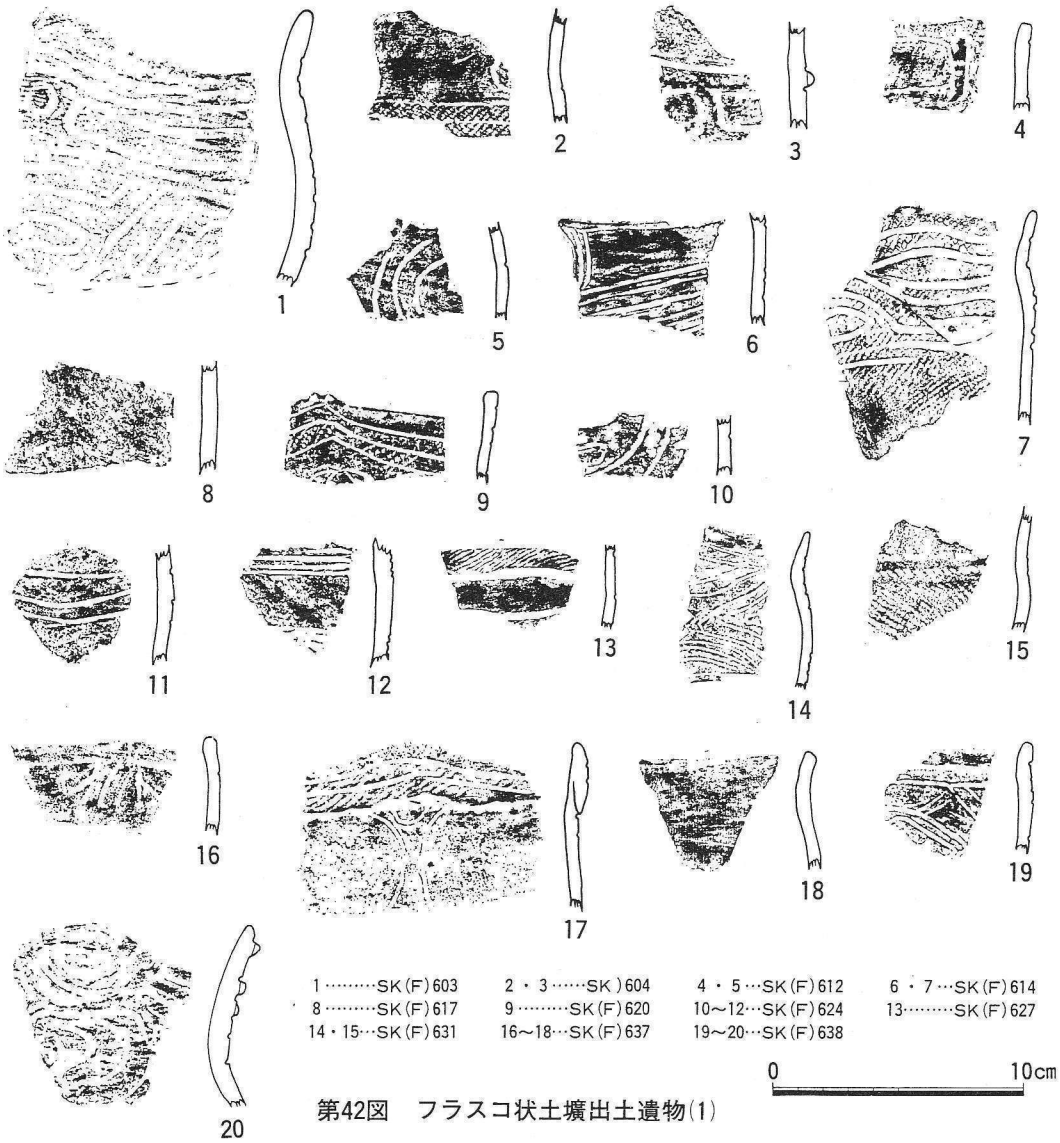
調査区中央部のＺＬ―96グリッド・Ⅲd層上面で確認した。口縁部は139×119cmの楕円形である。遺構の種類が判明した60cmまでしか掘り下げておらず、深さ等は不明である。堆積土は５ブロック以上に区分され、人為堆積である。

遺構内より縄文土器破片５点、板状石製品１点が出土した。石製品の石質は泥質凝灰岩である。

構築時期は出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。

第629号フラスコ状土壙（第40図）

調査区南部中央寄りのＺＪ―92グリッド・Ⅲd層上面で確認した。口縁部は120cm×120cmの

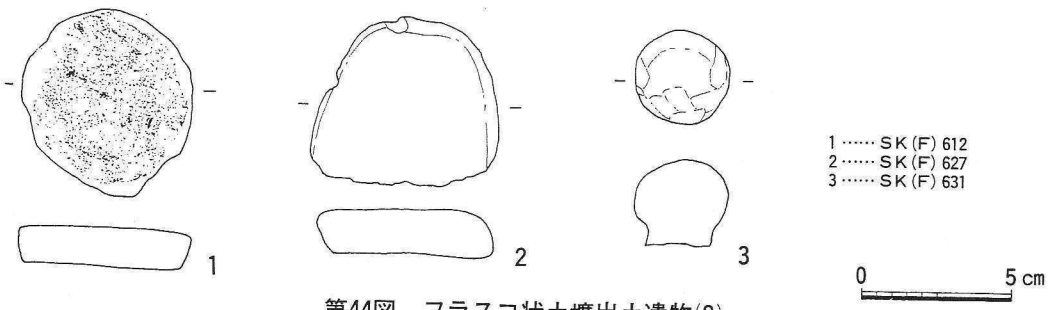


第42図　フラスコ状土壙出土遺物(1)

1・2……SK(F) 603
4～7・16……SK(K) 614
10～11……SK(F) 637
17……SK(F) 603
3……SK(F) 604
8・9・15……SK(F) 620
12～14……SK(F) 638

0　5 m

第43図　フラスコ状土壙出土遺物(2)



第44図　フラスコ状土壙出土遺物(3)

円形である。遺構の種類が判明した面までしか掘り下げておらず、深さ等は不明である。堆積土は５ブロック以上に区分され、人為堆積である。

遺構内出土遺物は縄文土器破片３点で、すべて縄文時代後期前葉のものである。

第631号フラスコ状土壙（第40図、42図14、44図３）

調査区南東部中央寄りのＺＩ、ＺＪ―93グリッド・Ⅲd層上面での確認である。ピット1043号と重複し、本遺構が古い。平面形は144×139cm、底径は179cm、深さは74cmである。堆積土は10ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より縄文土器破片69点、マッシュルーム状を呈する土製品１点が出土した。

構築時期は出土遺物より、縄文時代後期前葉と考えられる。

第633号フラスコ状土壙（第41図）

調査区南部のＺＪ―91グリッド・Ⅲd層上面で確認した。ピット1086号と重複し、本遺構が古い。口縁部は160×134cm、底径は180cmである。底部は二段構造で、南側の深い面までの深さは94cm、北東側の浅い面までの深さは79cmを測る。堆積土は９ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内出土遺物は縄文土器破片18点で、縄文時代後期前葉のものである。

第637号フラスコ状土壙（第41図、42図16～18、43図10・11）

調査区北部中央寄りのＺＱ、ＺＲ―96グリッド・Ⅲd層上面で確認した。口縁部は94×90cm、底径は114cmである。

遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片52点、掻器３点が出土した。

第638号フラスコ状土壙（第41図、42図19・20、43図12～14）

調査区北部のＺＳ―97グリッド・Ⅲd層上面で確認した。口縁部は108×106cm、底径は98cm深さは92cmである。堆積土は４ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より縄文土器破片49点、掻器３点が出土した。

構築時期は出土遺物より、縄文時代後期前葉と考えられる。

第645号フラスコ状土壙（第41図）

調査区中央部のＺＬ―96グリッド・Ⅲd層上面で確認した。第626号土壙と重複し、本遺構が古い。口縁部は120×114cm、底径112cm、深さは79cmを測る。堆積土は４ブロックに区分され、人為堆積である。

構築時期は確認面より、縄文時代後期前葉と考えられる。

(3) 土　壙

第601号土壙（第45図）

調査区南東部のＺＣ―95グリッド・Ⅲd層上面で確認した。規模は100×77cmの楕円形で長軸方向はＮ―40°―Ｅ、深さは56cmである。堆積土は４ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より縄文土器破片２点が出土し、時期は縄文時代後期前葉のものである。

第602号土壙（第45図、49図１、50図１）

調査区南東部のＺＤ―95グリッド・Ⅲd層上面で確認した。規模は145×104cmの楕円形で、長軸方向はＮ―58°―Ｅ、深さは37cmである。堆積土は４ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より掻器１点が出土した。

構築時期は確認面より、縄文時代後期前葉と考えられる。

第605号土壙（第45図、49図２）

調査区南東部のＺＥ―95グリッド・Ⅲd層上面で確認した。規模は140×102cmの楕円形で、長軸方向はＮ―52°―Ｅ、深さは34cmである。堆積土は１ブロックで、人為堆積である。

遺構内より縄文土器破片10点が出土した。

構築時期は出土遺物より、縄文時代後期前葉と判断できる。

第606号土壙（第45図、49図３・４）

調査区南東部のＺＥ―93、95グリッド・Ⅲd層上面で確認した。規模は120×112cmの楕円形で、長軸方向はＮ―54°―Ｅ、深さは60cmである。３ブロックの堆積土は、人為堆積である。

遺構内出土遺物は、縄文土器破片21点である。

構築時期は出土遺物より、縄文時代後期前葉と考えられる。

第607号土壙（第45図、49図５・６）

調査区南東部のＺＥ、Ｆ―95グリッド・Ⅲd層上面で確認した。規模は160×79cmの長楕円形で、長軸方向はＮ―36°―Ｅ、深さは30cmである。堆積土は１ブロックで、人為堆積である。

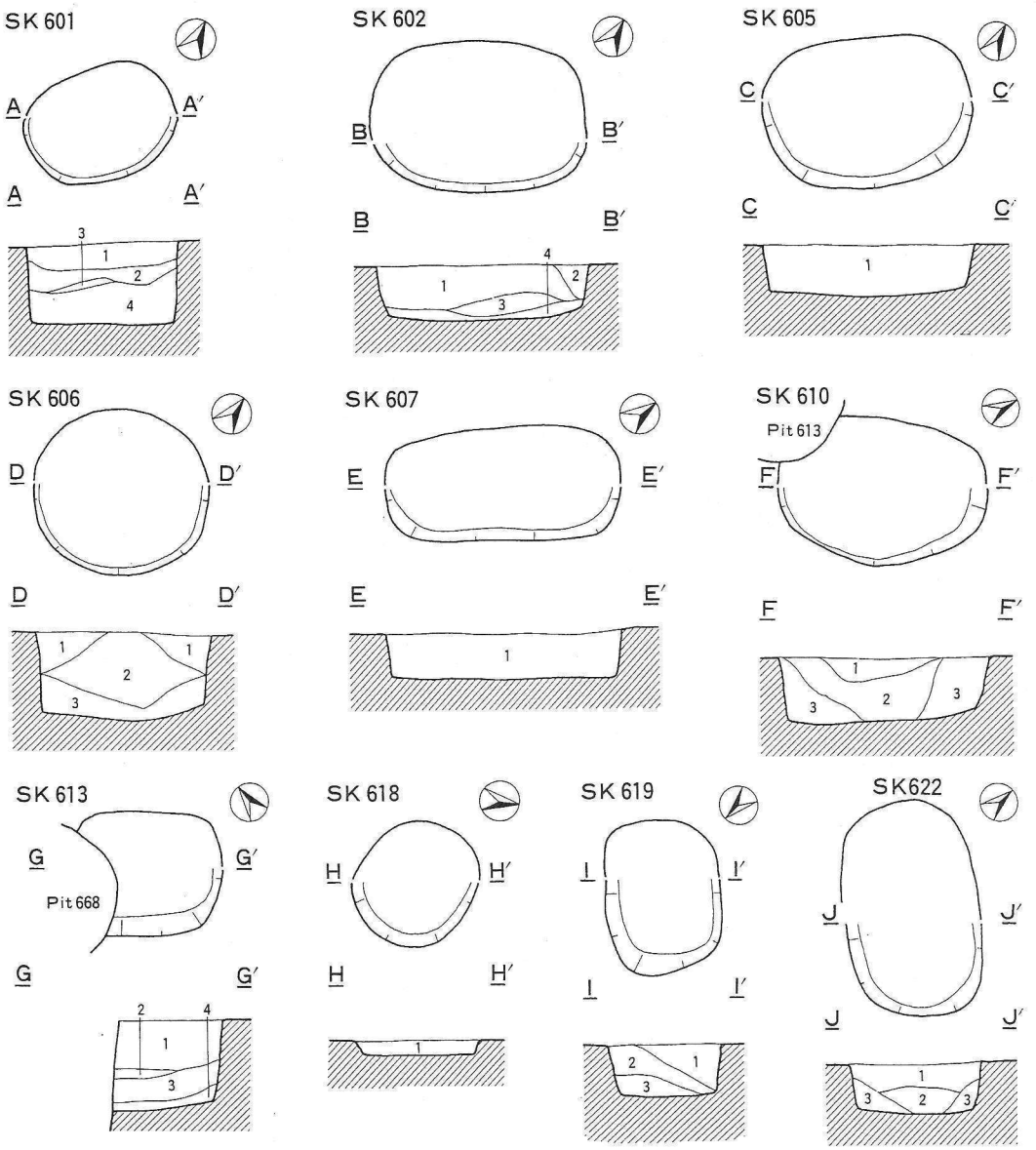
遺構内より縄文土器破片７点の出土があり、すべて縄文時代後期前葉のものである。

第610号土壙（第45図、49図７・８）

調査区北西部中央寄りのＺＳ―94、95グリッド・Ⅲd層上面での確認である。第601号建物跡にともなうピット613及び第603号建物跡と重複し本遺構はいずれよりも古い。規模は140×102cmの楕円形で、長軸方向はＮ―25°―Ｅ、深さは46cmである。堆積土は３ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より縄文土器破片６点が出土した。

構築時期は、出土遺物より縄文時代後期前葉と考えられる。



第601号土壙
1層　黒褐色土(10YR2/2)
2層　暗褐色土(10YR3/4)
3層　黒褐色土(10YR3/1)
4層　褐　色　土(10YR4/6)

第607号土壙
1層　黒　色　土(10YR2/1)

第619号土壙
1層　黒褐色土(10YR2/2)
地山塊混入
2層　黒褐色土(10YR2/2)
3層　黒褐色土(10YR2/2)
地山塊混入

第602号土壙
1層　黒　色　土(10YR1.7/1)
炭化物混入
2層　黒　色　土(10YR2/1)
3層　黒　色　土(10YR1.7/1)
4層　黒褐色土(10YR3/1)

第610号土壙
1層　黒　色　土(10YR2/1)
炭化物混入
2層　黒　色　土(10YR2/1)
3層　黒　色　土(10YR2/1)
炭化物混入

第622号土壙
1層　黒　色　土(10YR2/1)
2層　黒褐色土(10YR2/2)
3層　黒褐色土(10YR3/1)

第605号土壙
1層　黒褐色土(10YR3/1)

第613号土壙
1層　黒褐色土(10YR2/2)
2層　黒褐色土(10YR2/2)
地山塊多量混入
3層　黒　色　土(10YR2/1)
4層　黒褐色土(10YR2/2)
地山塊多量混入

第606号土壙
1層　黒　色　土(10YR1.7/1)
2層　黒褐色土(10YR2/2)
3層　黒褐色土(10YR3/1)

第618号土壙
1層　黒褐色土(10YR2/2)

0　1 m

第45図　土壙実測図(1)

第613号土壙（第45図、49図９・10）

調査区中央部のＺＱ―96グリッド・Ⅲd層上面で確認した。第606号建物跡にともなうピット668と重複し本遺構が古い。規模は100×82cmの楕円形で、長軸方向はＮ－51°－Ｗ、深さは62cmである。堆積土は４層に区分され、自然堆積である。

遺構内出土遺物は、縄文時代後期前葉の土器破片14点である。

第618号土壙（第45図）

調査区中央部のＺＯ―96グリッド・Ⅲd層上面で確認した。規模が88×78cmの楕円形で、長軸方向はＮ－63°－Ｗ、深さは10cmである。堆積土は１ブロックで、人為堆積である。

構築時期は確認面より、縄文時代後期前葉と考えられる。

第619号土壙（第45図、49図11）

調査区中央部のＺＰ―95グリッド・Ⅲd層上面での確認である。規模は106×80cmの楕円形で長軸方向はＮ－46°－Ｗ、深さは36cmである。堆積土は３ブロックで、人為堆積である。

遺構内より縄文土器破片12点が出土した。構築時期は遺物より縄文時代後期前葉と考えられる。

第621号土壙（第46図、48図50、50図13）

調査区中央部のＺＯ、ＺＰ―96グリッド・Ⅲd層上面での確認である。ピット686と重複するが、新旧関係は不明である。規模が294×100cmの隅丸方形で、長軸方向はＮ－40°－Ｅ、深さは18cmを測る。

遺構内より復元完形土器1点、敲石１点が出土した。土器は口径23.2cm、底径13.2cm、高さ31.2cmの深鉢で、文様帯は胴部半部までおよび、１～３条の平行沈線によって区画され、その中に「Ω」字状の主文様を横位に連結している。色調は褐灰色で、焼成は良好である。

構築時期は出土遺物より、縄文時代後期前葉と考えられる。

第622号土壙（第45図、49図12・13）

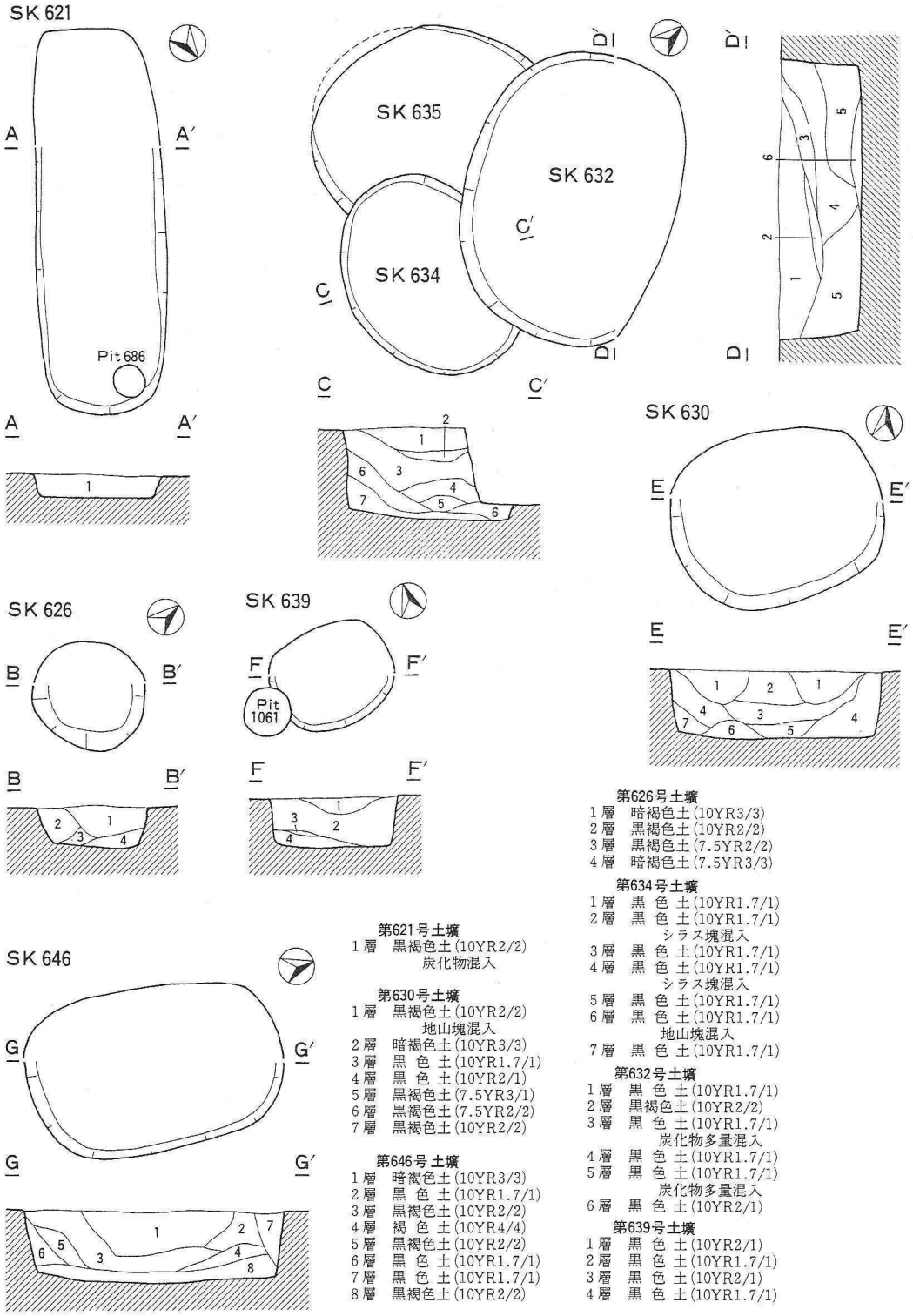
調査区中央部のＺＰ、ＺＱ―97グリッド・Ⅲd層上面での確認である。ピット722、723と重複しているが、新旧関係は不明である。規模は146×92cmの楕円形で、長軸方向はＮ－53°－Ｗ、深さは34cmである。堆積土は３ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片２点が出土した。

第626号土壙（第45図）

調査区中央部東寄りのＺＬ―96グリッド・Ⅲd層上面で確認した。規模は86×82cmの円形で、深さは32cmを測る。堆積土は４ブロックの人為堆積である。

構築時期は確認面より、縄文時代後期前葉と考えられる。



第621号土壙
1層　黒褐色土(10YR2/2)
　　炭化物混入

第630号土壙
1層　黒褐色土(10YR2/2)
　　地山塊混入
2層　暗褐色土(10YR3/3)
3層　黒　色　土(10YR1.7/1)
4層　黒　色　土(10YR2/1)
5層　黒褐色土(7.5YR3/1)
6層　黒褐色土(7.5YR2/2)
7層　黒褐色土(10YR2/2)

第646号土壙
1層　暗褐色土(10YR3/3)
2層　黒　色　土(10YR1.7/1)
3層　黒褐色土(10YR2/2)
4層　褐　色　土(10YR4/4)
5層　黒褐色土(10YR2/2)
6層　黒　色　土(10YR1.7/1)
7層　黒　色　土(10YR1.7/1)
8層　黒褐色土(10YR2/2)

第626号土壙
1層　暗褐色土(10YR3/3)
2層　黒褐色土(10YR2/2)
3層　黒褐色土(7.5YR2/2)
4層　暗褐色土(7.5YR3/3)

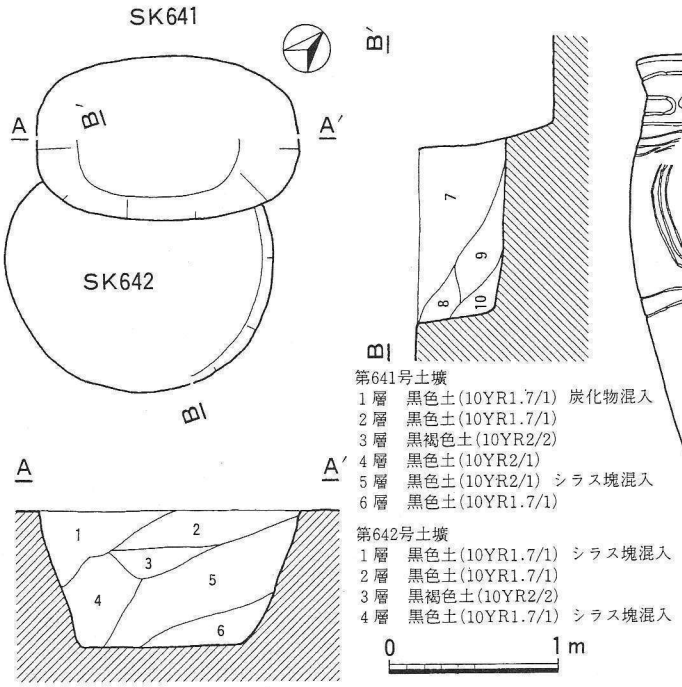
第634号土壙
1層　黒　色　土(10YR1.7/1)
2層　黒　色　土(10YR1.7/1)
　　シラス塊混入
3層　黒　色　土(10YR1.7/1)
4層　黒　色　土(10YR1.7/1)
　　シラス塊混入
5層　黒　色　土(10YR1.7/1)
6層　黒　色　土(10YR1.7/1)
　　地山塊混入
7層　黒　色　土(10YR1.7/1)

第632号土壙
1層　黒　色　土(10YR1.7/1)
2層　黒褐色土(10YR2/2)
3層　黒　色　土(10YR1.7/1)
　　炭化物多量混入
4層　黒　色　土(10YR1.7/1)
5層　黒　色　土(10YR1.7/1)
　　炭化物多量混入
6層　黒　色　土(10YR2/1)

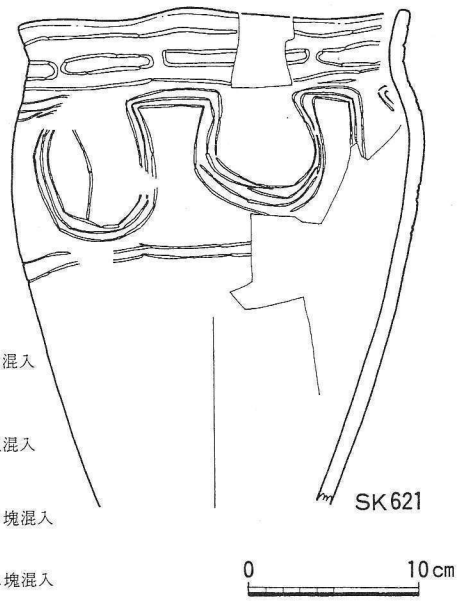
第639号土壙
1層　黒　色　土(10YR2/1)
2層　黒　色　土(10YR1.7/1)
3層　黒　色　土(10YR2/1)
4層　黒　色　土(10YR1.7/1)

0　1 m

第46図　土壙実測図(2)



第47図　土壙実測図(3)



第48図　土壙出土遺物(1)

第630号土壙（第46図、49図14、50図13）

調査区南部のＺＩ―92グリッド・Ⅲd層上面で確認した。規模は160×134cmの楕円形で、長軸方向はＮ―80°―Ｅ、深さは52cmを測る。堆積土は７ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片１点が出土した。

第632号土壙（第46図、49図15・16・24～26）

調査区南部のＺＩ―93グリッド・Ⅲd層上面で確認した。第634、635号土壙、ピット1039号と重複し、新旧関係は新ＳＫ632→634→635旧で、ピット1039との関係は不明である。規模は224×160cmの楕円形で、長軸方向はＮ―35°―Ｗ、深さは62cmである。堆積土は６ブロックに区分され人為堆積である。

遺構内より縄文土器破片127点、土器片利用土製品３点、掻器７点、凹石１点が出土した。

構築時期は出土遺物より、縄文時代後期前葉と考えられる。

第634号土壙（第46図、49図17・18）

調査区南部のＺＩ―93、92グリッド・Ⅲd層上面で確認した。第634、635号土壙と重複し、新旧関係は、新ＳＫ632→634→635旧となる。規模が160×124cmの楕円形で、長軸方向はＮ―80°―Ｗ、深さは70cmである。堆積土は６ブロックに区分され人為堆積である。

遺構内出土土器は、縄文時代後期前葉の土器片12点である。

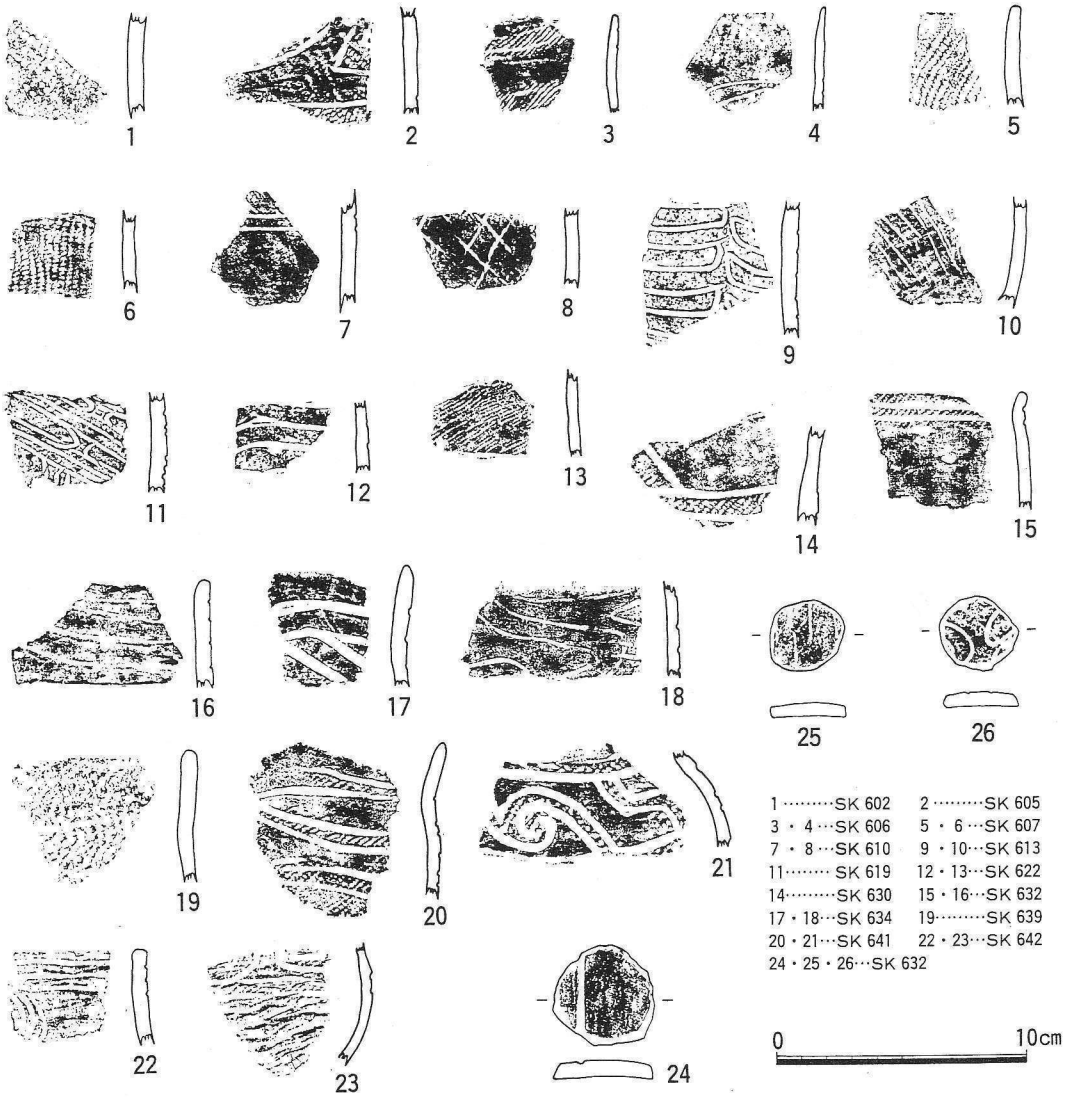
第635号土壙（第46図）

調査区南部のＺＩ―93、92グリッド・Ⅲd層上面で確認した。第634、635号土壙と重複し、新旧関係は新ＳＫ632→634→635旧である。重複により大部分が崩壊しているため、規模等は不明である。構築時期は、周辺出土遺物および確認面より縄文時代後期前葉と考えられる。

第639号土壙（第46図、49図19）

調査区北端部のＺＵ―99グリッド・Ⅲd層上面で確認した。ピット1061と重複し、本遺構が古い。規模は96×78cmの楕円形で、長軸方向はＮ―50°―Ｅ、深さは50cmである。堆積土は８ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より縄文土器破片２点が出土した。

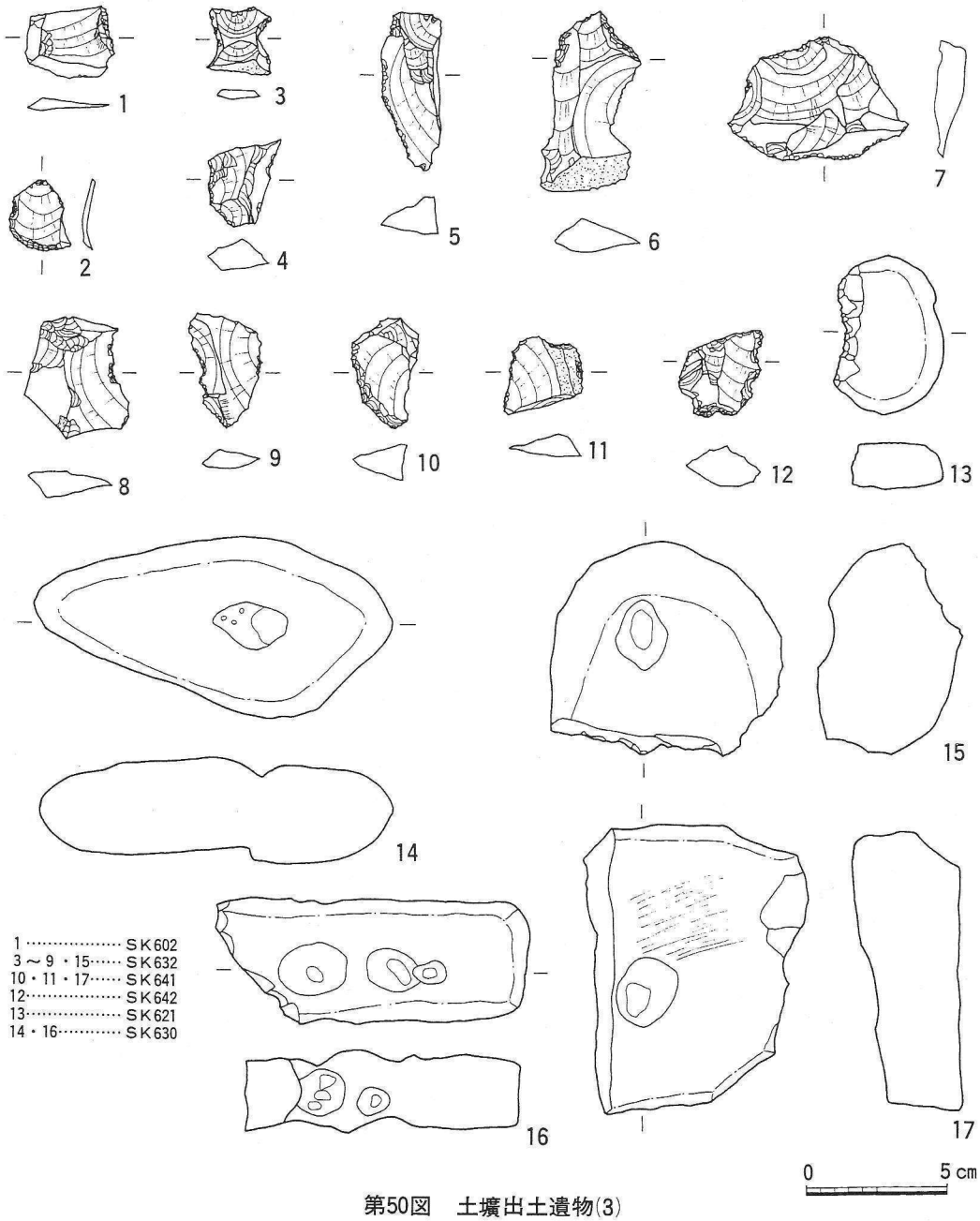


第49図　土壙出土遺物(2)

構築時期は出土遺物より、縄文時代後期前葉と考えられる。

第641号土壙（第47図、49図20・21、50図10・11・17）

調査区東端部のＺＬ―101グリッド・Ⅲd層上面で確認した。第642号土壙と重複し、本遺構が新しい。規模は152×96cmの楕円形で、長軸方向はＮ―50°―Ｅ、深さは80cmを測る。残存す



第50図　土壙出土遺物(3)

る堆積土は４ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より縄文土器破片202点、掻器１点、剝片１点が出土した。

構築時期は出土遺物から判断し、縄文時代後期前葉と考えられる。

第642号土壙（第47図、49図22・23、50図12）

調査区南端部のＺＬ―101グリッド・Ⅲd層上面で確認した。第641号土壙と重複し、本遺構が古い。規模は176×140cmの楕円形で、長軸方向はＮ―55°―Ｅ、深さは50cmを測る。堆積土は６ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より縄文時代後期前葉の土器破片42点が出土した。

第646号土壙（第46図）

調査区東端部のＺＨ―92グリッド・Ⅲd層上面で確認した。規模は194×124cmの楕円形で、長軸方向はＮ―13°―Ｅである。堆積土は８ブロックに区分され、人為堆積である。

構築時期は確認面より、縄文時代後期前葉と考えられる。（花海　義人）

７．遺構外出土遺物

(1)　土　器

D_6区遺構外からは、34個体の復元・図化土器と段ボール箱35箱の縄文土器破片が出土した。

これらの土器は、縄文時代後期前葉から中葉に位置付けられるもので、その全体の９割以上を前葉土器が占めている。土器の平面分布状況を観察すると万座環状列石より離れた調査区部分からの出土が多い。また、垂直分布では後期中葉の土器はⅢa層～Ⅲc層、後期初頭から前葉の土器はⅢb下層～Ⅲd層から出土するが、後期前葉から中葉の遺構が混在する地域ではこの限りではない。

土器の分類についてはこれまでと同様、時期ごとに群別し、文様・施文技法により細分した。以下、その概要について記述する。

第Ⅰ群土器　後期前葉の土器

本群土器１～２類は東北地方北部の前十腰内Ⅰ式または螢沢式、３～４類は十腰内Ⅰ式に比定されるものである。

１類　地文上に沈線文が施文される土器（第56図１～３）

同一固体である。波状口縁を呈する深鉢形土器が主体を占める。文様体は胴部下半におよび主文様として縦位に連結する「Ｓ」字文が施文される。波状口縁部の頂部には刻みが付加される。地文はＬＰ縄文が施文される。焼成は良好、色調はにぶい赤褐色を呈する。

２類　隆線文・隆沈文の土器（第51図１、56図４～８）

隆線文・隆沈文により文様が描きだされた土器を一括した。深鉢形土器が主体を占めるが壺形土器も見られる。主文様として「S」字文・楕円形文が多用され、隆線・隆沈上には縄文や刺突が付加されるものがある。第51図1は胴部下半に及ぶ文様帯をもつ壺形土器で、主文様としての「S」字文のほか、渦巻文・弧線文等が付加される。推定器高23cm、焼成は良好、色調は灰白色を呈する。

3類　沈線文の土器（第51図2～4、56図9～57、57図39）

本類には無文研磨された器面上に1～数条の沈線により文様が描きだされたものを一括した。なお、隆線文・隆沈文で文様帯を区画するものも本類に入れた。

本類には、深鉢形土器、鉢形土器、切断土器、壺形土器、蓋、ミニチュア土器等が見られるが深鉢形土器が主体を占める。文様帯は、胴部下半にまで及び、主文様が縦位、横位に展開される。主文様として楕円形文・円形文（25～27）、入組状曲線文（13・32・33）、曲線文、波状文（22・23）、幾何学文（37・38）、格子目状文（18）等が施される。また、主文様を弧線文・直線文で連結するものも認められる。51図2は鉢で文様帯は底部付近まで及び、主文様として入組状曲線文が施文されている。焼成は良好、色調はにぶい橙色を呈する。51図3は蓋状を呈するもので沈線により羊歯状の文様が描かれる。径11.2cm、焼成は良、色調は灰白色を呈する。51図4は切断土器の上半部で楕円形文が施文されている。焼成は良好、色調は浅黄橙色を呈する。55図27・28はミニチュア土器で沈線文、刺突文によって文様が施文されている。焼成は良好なものが多く、色調は浅黄橙色～灰白色を呈する。

4類　帯縄文の土器（第51図5・6、52図7・8、57図40～58・65）

幅の狭い帯縄文によって文様が施文されたものを一括した。本類には深鉢形土器、鉢形土器、壺形土器、台付土器、片口土器等が見られるが、前3者が主体となる。文様体を頸部～胴部中程・下半部に持ち、主文様は横位方向へ展開されるものが多い。主文様として入組状曲線文（40・41・43～45）、階段状文（51～53）、弧線文（51図5）が施文されるほか、51図6のように花弁状文が主文様となり、土器底面に施文されるものもある。52図8は異形を呈す土器で文様帯は胴部中程で二分され上半には幾何学文、下半には階段状文が施文されている。沈線間にはL縄文が充填される。51図5は壺で胴部上半に文様帯をもち、弧線文が背中合わせに施文されている。沈線間にL縄文が充填される。色調は浅黄橙色を呈する。他に刺突文・刻文が付加されるものや41のように土器内部にボタン状の貼付が認められるものもある。沈線間には単節・無節斜縄文が施文されるが、条痕（62～65）が充填されるものもある。焼成は良好なものが多く、色調はにぶい黄褐色、にぶい橙色、浅黄橙色を呈する。

第Ⅱ群土器　後期中葉の土器

本群土器と東北地方北部の十腰内Ⅱ式土器に比定されるもので、東北地方南部の宝ケ峰式、

関東地方の加曽利B_2式の特徴を持っている。

1類　幅の広い帯縄文の土器（第58図67～59図72）

幅の広い帯縄文によって文様が施文されたものを一括した。第Ⅰ群4類土器とは帯縄文の幅で明瞭に区分する事ができる。本類は深鉢形土器、壺形土器が主体となる。いずれも口縁部が大きく「く」字状に外斜するものである。深鉢の口縁部は山形口縁、壺は平口縁部となる。深鉢の文様帯は口縁部～胴部下半、壺は胴部中程までに区画される。沈線間には単節の斜縄文が充塡されるがＬＲ縄文が多様される。焼成は良好、色調は暗褐色を呈するものが多い。70は深鉢の胴部破片で稲妻状の帯縄文が縦位方向に施文されている。

2類　平行沈線文が施文される土器（第59図73～82・85）

文様帯に数状の沈線文を施文するものを一括した。本類は深鉢形土器・鉢形土器が主体となる。平行沈線は3～7条施文され、弧状沈線文（74）・刺突文（82）で沈線間を連結しているものもある。深鉢は胴部より口縁部が内湾気味に外斜し、山形口縁（77・79）や立体的な装飾突起（81）を持つものもある。口唇部は肥大化し、内湾となる。沈線間には条の細かな単節斜縄文（ＬＲ縄文を多用）が充塡されるが、76等のように前段階のような荒いものもある。焼成は比較的良好で、色調は黒褐色、暗赤褐色を呈する。

3類　磨消縄文の土器（第60図92～101）

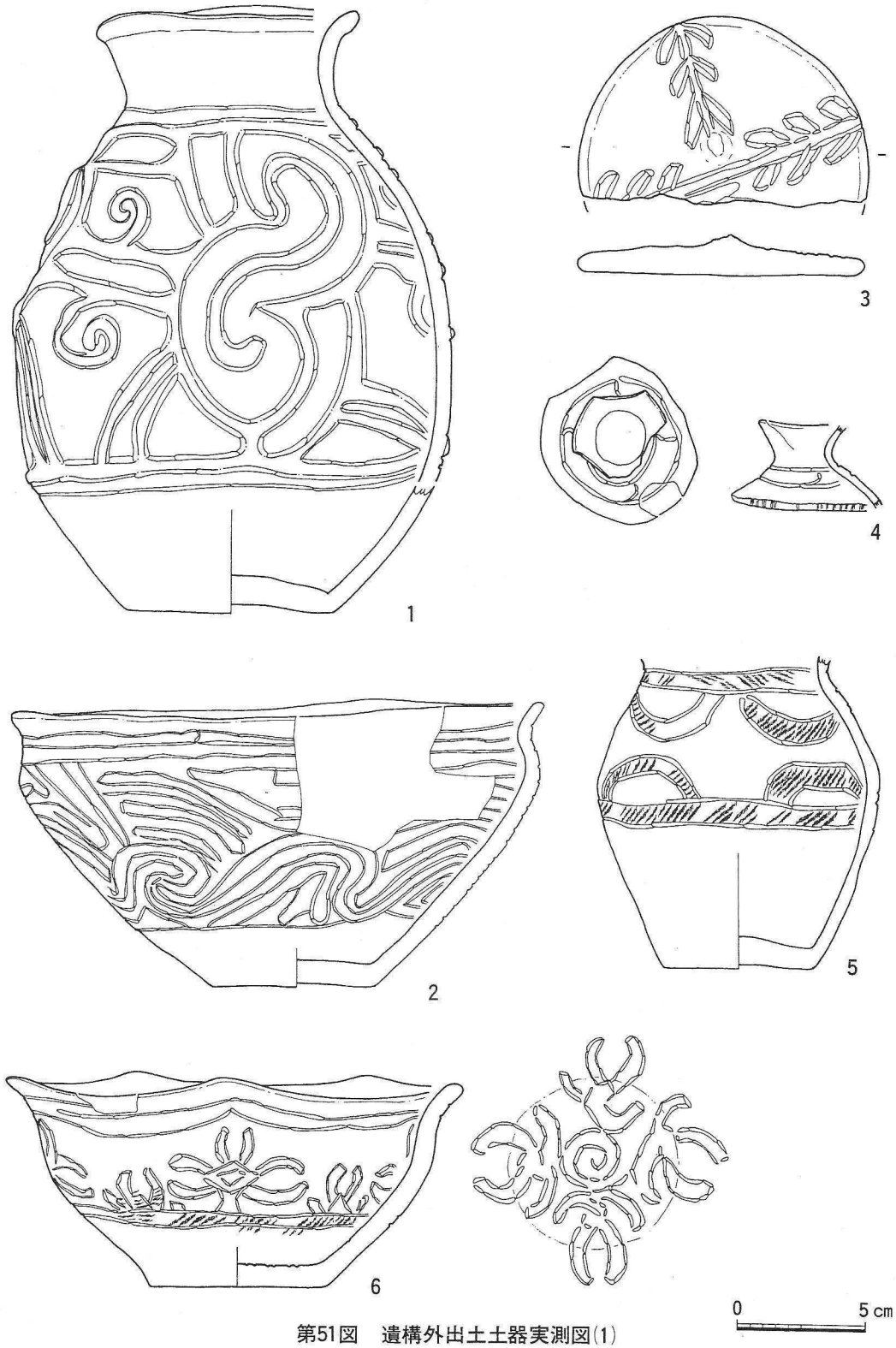
曲線的な沈線により磨消縄文が展開するものを一括した。深鉢形土器、壺形土器が主体となる。深鉢は台付で、「アサガオ」状を呈し、口縁部がキャリパー状に立ち上がるもので、装飾把手を有する。文様帯は口縁部・胴部に区画され、幾何学的・入り組み風の文様が施文されている。沈線間に条の細かな斜縄文が充塡されるがＬＲ縄文が多用される。焼成は良好のものが多く、色調はにぶい赤褐色、赤褐色を呈する。

52図9は筒状を呈する土器で、底部付近に孔を有する。口縁部には本群2類の文様、胴部には横位に展開するコンパス文的な文様が展開されている。沈線間にはＬＲ縄文が充塡される。焼成は良好、色調はにぶい橙色～黒褐色を呈する。

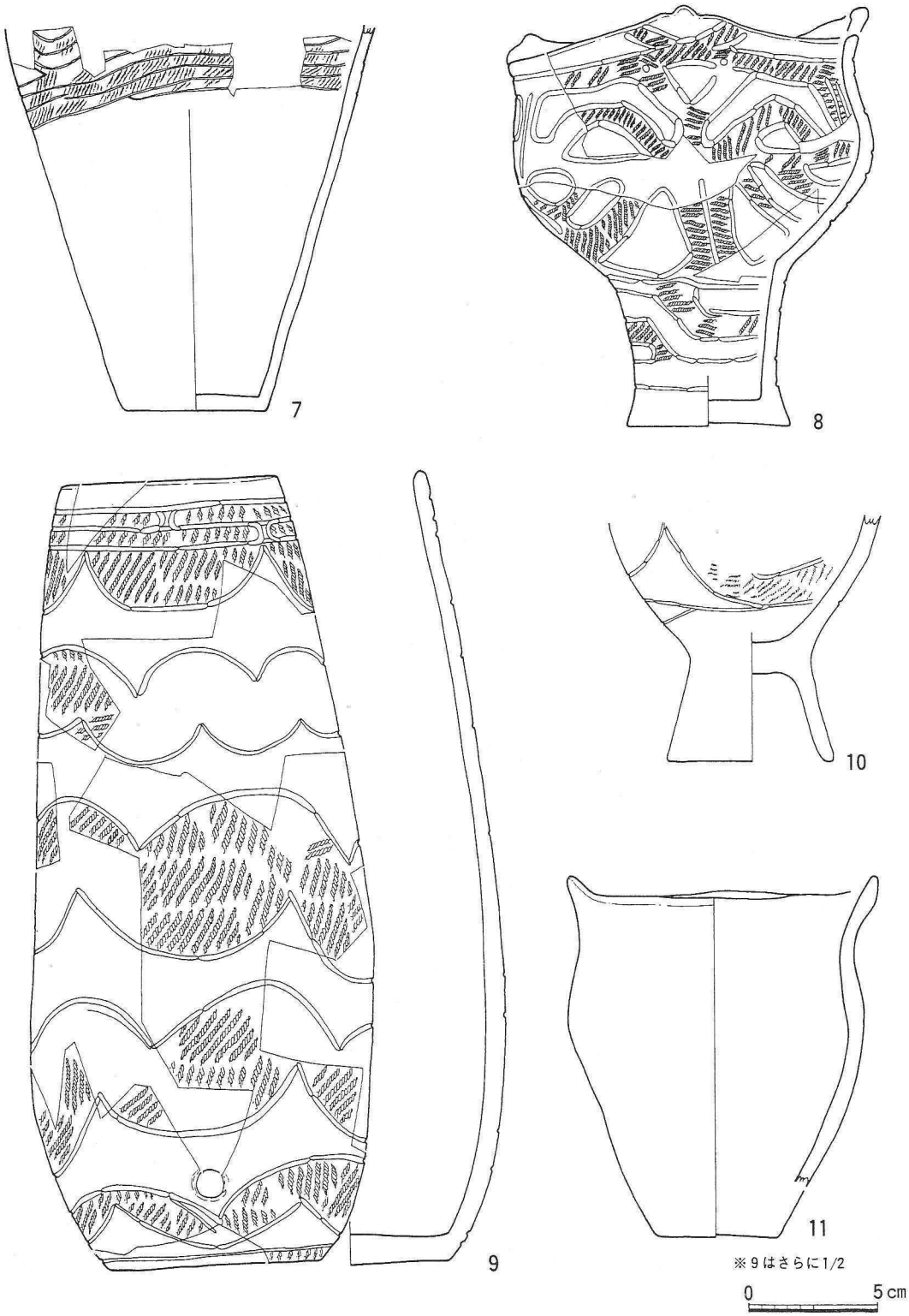
4類　磨消縄文に刺突文が付加された土器（第59図83・84・86～91）

第3類に類似した磨消縄文が展開し、連続した刺突文が付されたものを一括した。台付深鉢形土器、壺形土器が主体となる。刺突は竹管、棒状工具によるもので円形・三日月形を呈する文様帯は胴部、口縁部に区画され、主文様として幾何学的・入り組み風の文様の他、アメーバ状の文様が展開される。本類には88のように山形口縁より発達した大きな装飾把手を持つものがある。沈線間に条の細かな斜縄文が充塡されるがＬＲ縄文が多用される。焼成は良好のものが多く、色調はにぶい赤褐色、赤褐色を呈する。

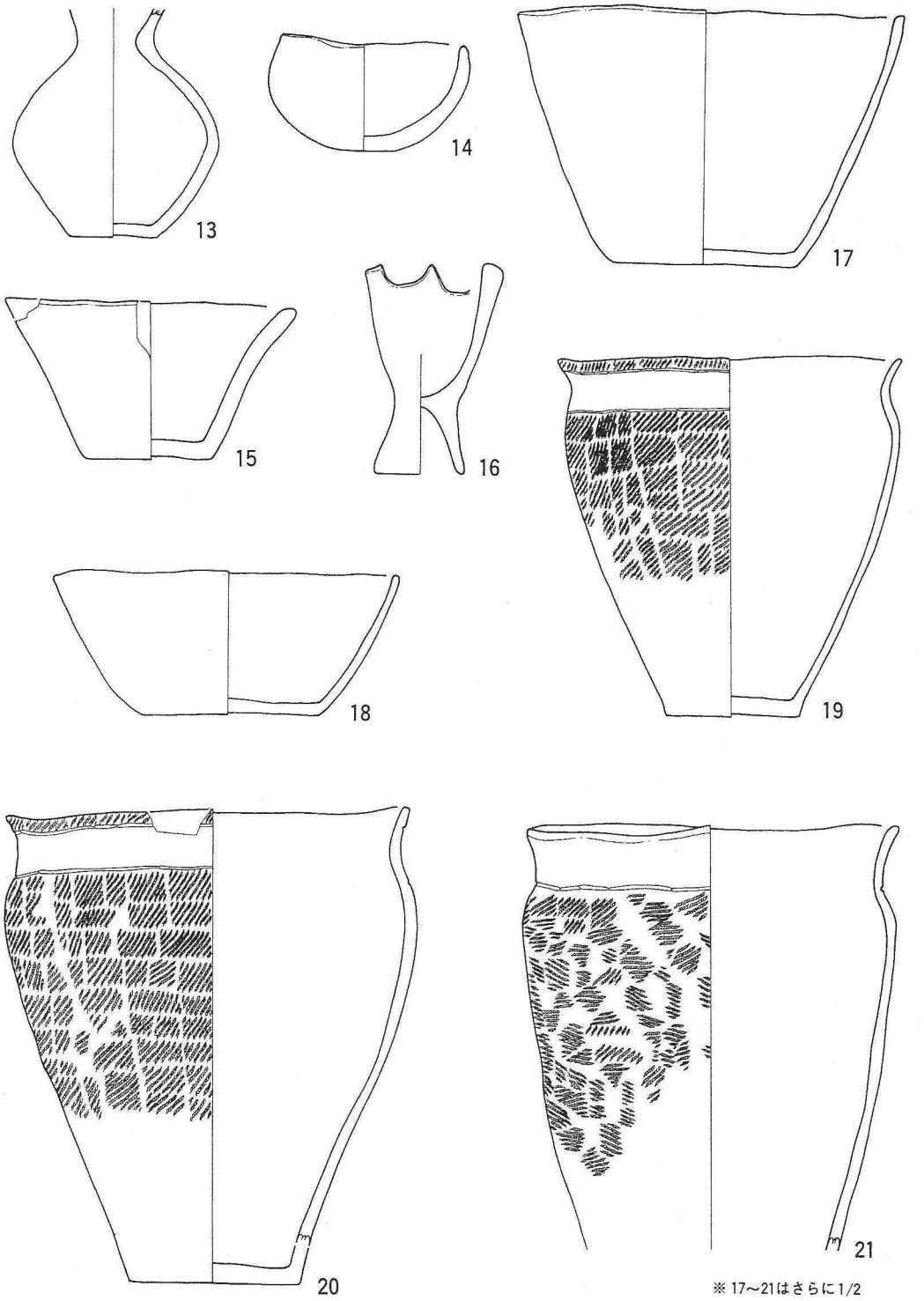
5類　その他の土器（第60図102～103）



第51図　遺構外出土土器実測図(1)



第52図　遺構外出土土器実測図(2)

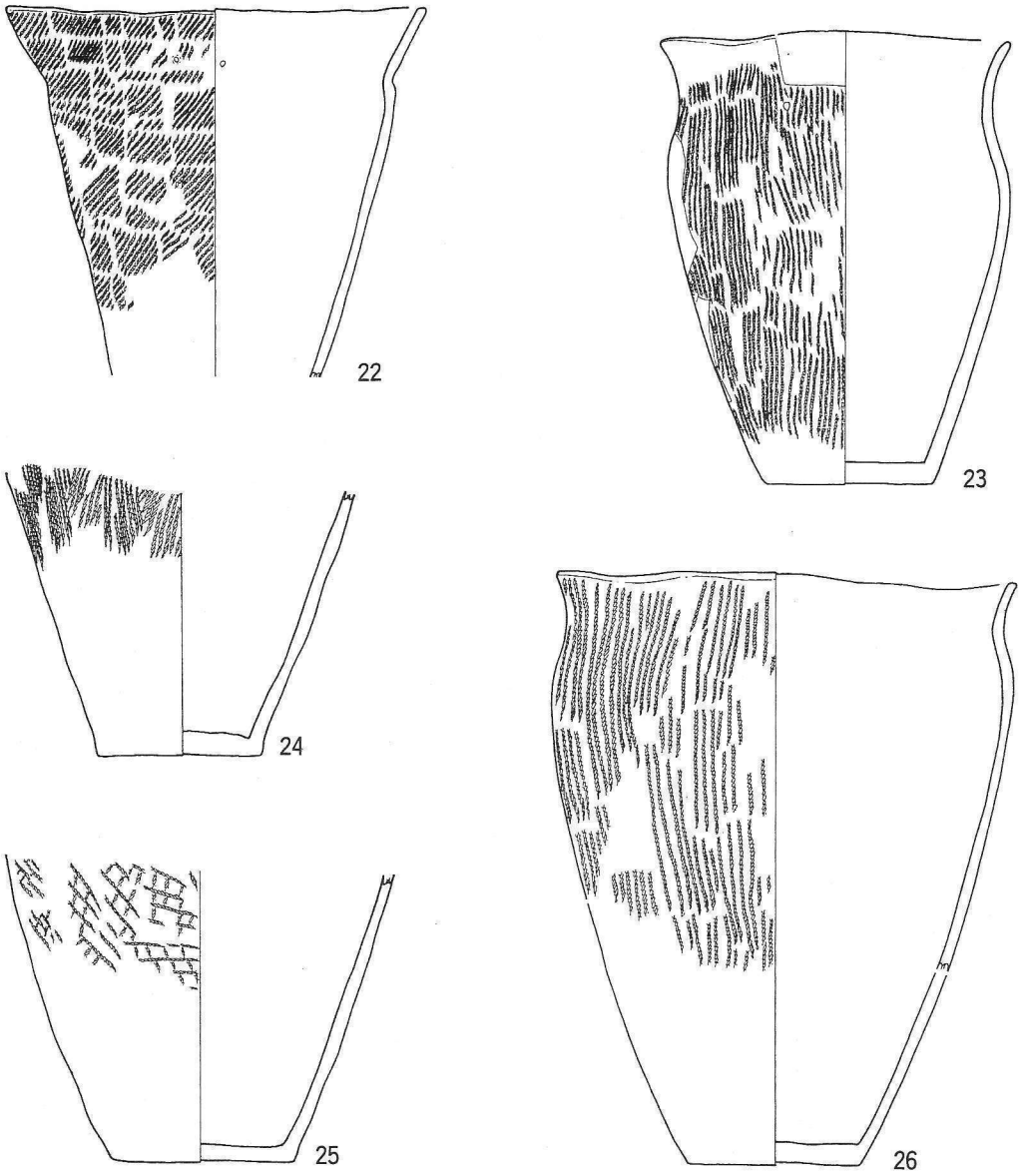


第53図　遺構外出土土器実測図(3)

102～103は深鉢形土器もしくは鉢形土器の口縁部と推定されるもので、隆帯上に連続する刻み目が施される。焼成は良好、色調は黒褐色を呈する。

第Ⅲ群土器　後期前葉～中葉の土器

本群には、無文、縄文、撚糸文、条痕文の土器の他、ミニチュア土器を一括した。時期別の細分は極めて困難であるが、器形等からその時期を判断できるものもあり、それについては記



第54図　遺構外出土土器実測図(4)　0　10cm

した。数量的には非常に多く、出土土器の６割程を占める。

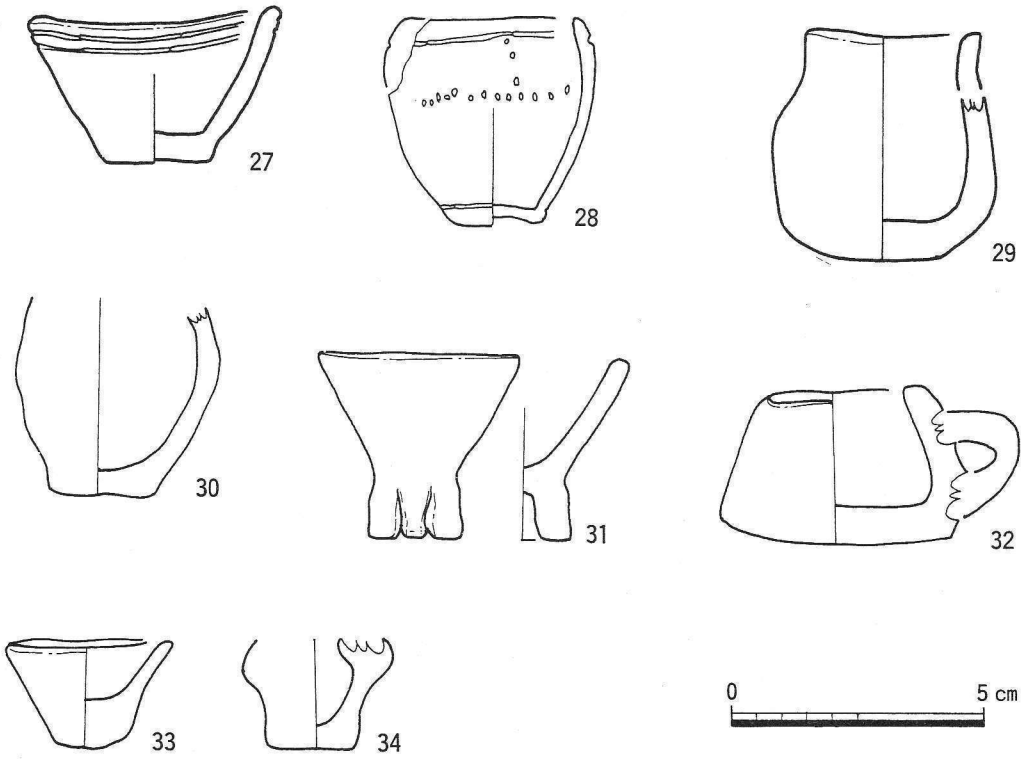
１類　無文の土器（第52図５～53図18、55図29～34、60図105～107）

深鉢形土器、鉢形土器、浅鉢形土器、壺形土器、ミニチュア土器等多数の種類が見られる。鉢形土器、壺形土器が主体を占める他、ミニチュア土器のほとんどは本類に属する。焼成は良好、色調はにぶい橙色、褐灰色、浅黄橙色を呈する。

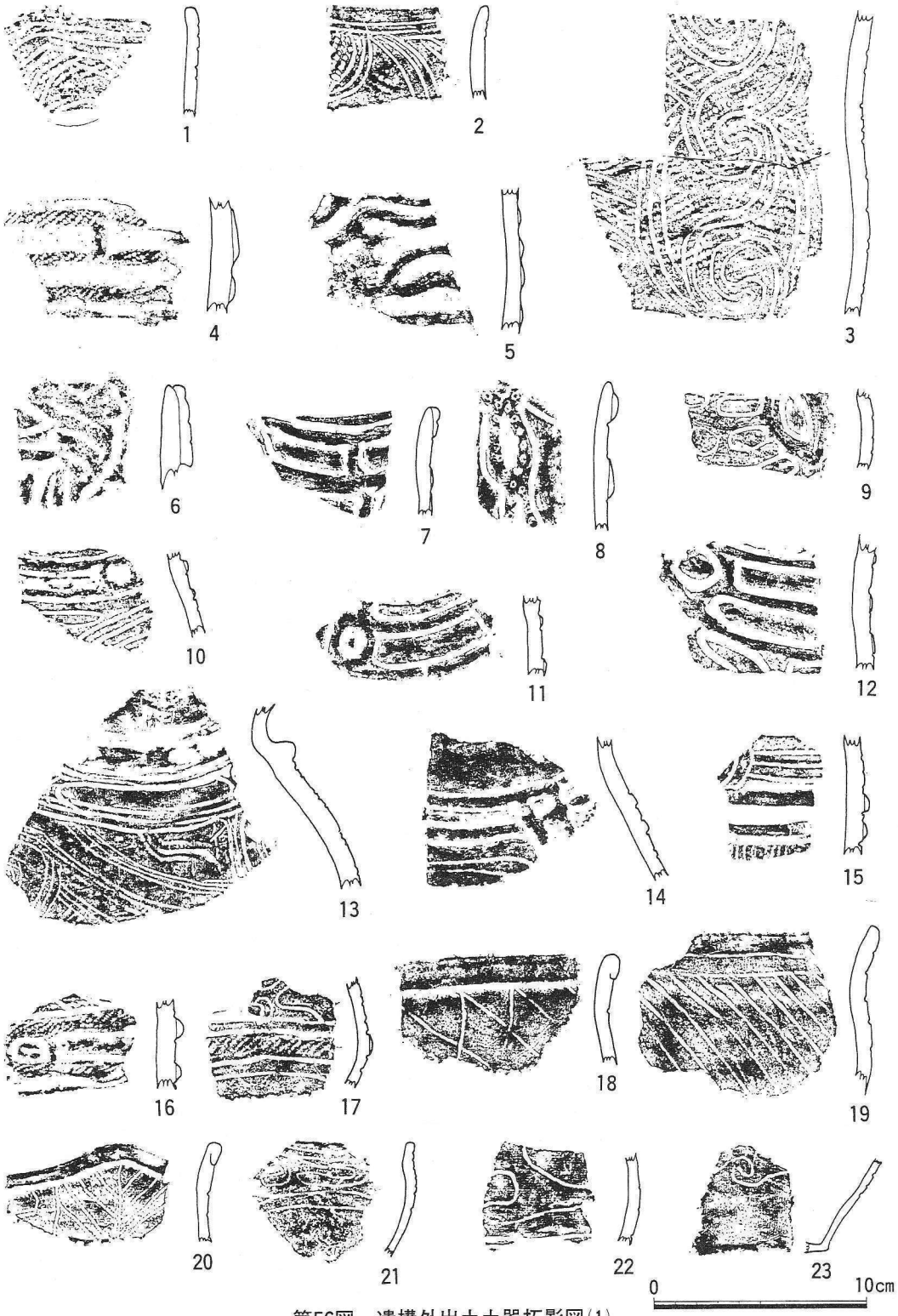
55図32は把手が付きコーヒーカップ状、55図31は底部に小さな３個の脚を有する。53図16は小型の台付深鉢形土器で山形口縁部を呈する。第Ⅱ群土器に付随するものと考えられる。

２類　縄文の土器（第53図19～54図22、60図108～111）

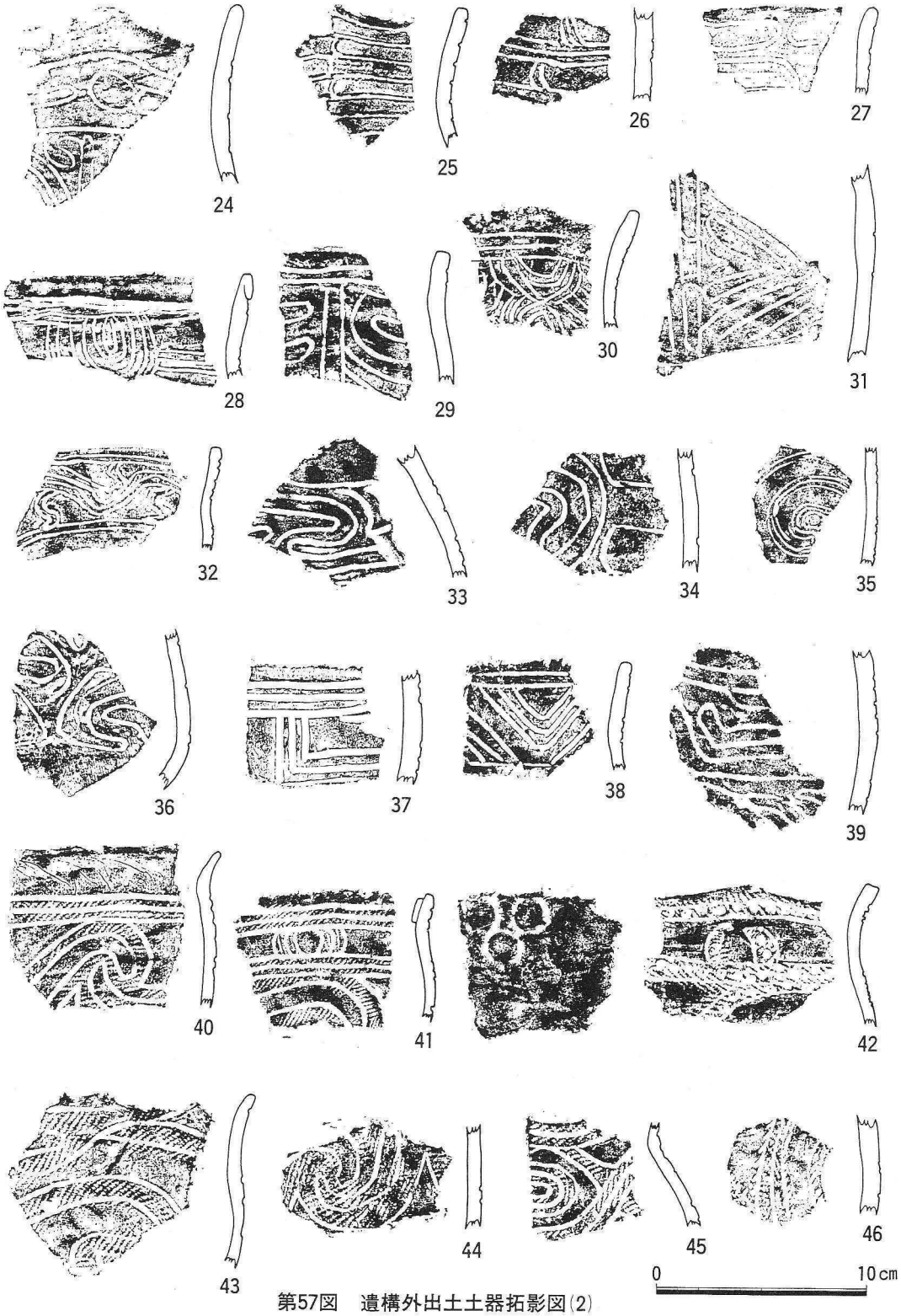
無節、単節縄文を施文した土器を一括した。深鉢形土器が主体を占める。口縁部は平口縁部波状口縁部を呈する。口縁部上端から縄文を施文するもの、縄文圧痕や沈線により縄文部と無文部を区画するもの、頸部に無文帯を巡らせるものなどが見られる。焼成は良好で、明褐灰色、灰白色、灰褐色を呈する。(54図22は胴部上半が「く」状に外反するもので、第Ⅱ群２・３群の器形に類似する。



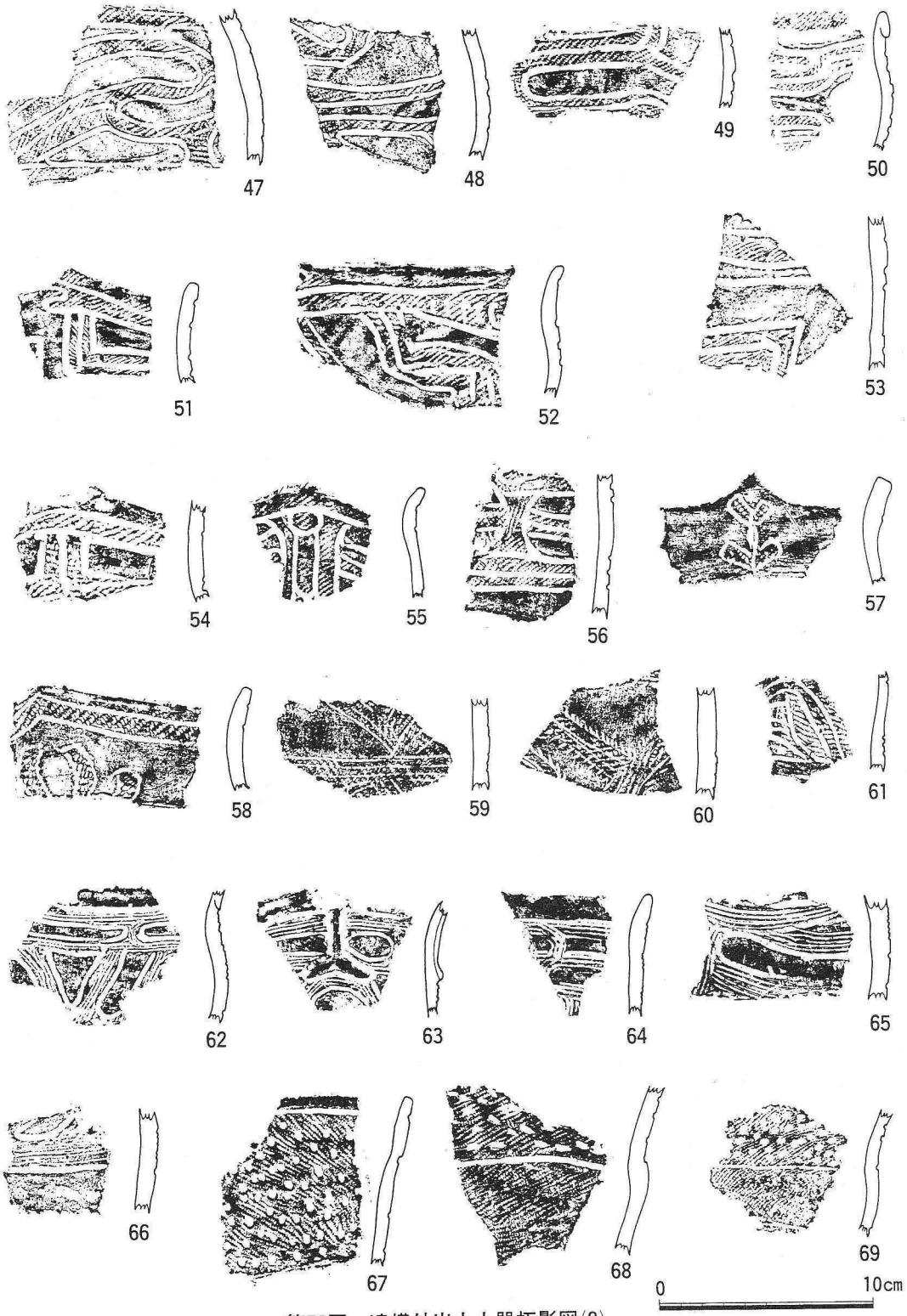
第55図　遺構外出土土器実測図(5)



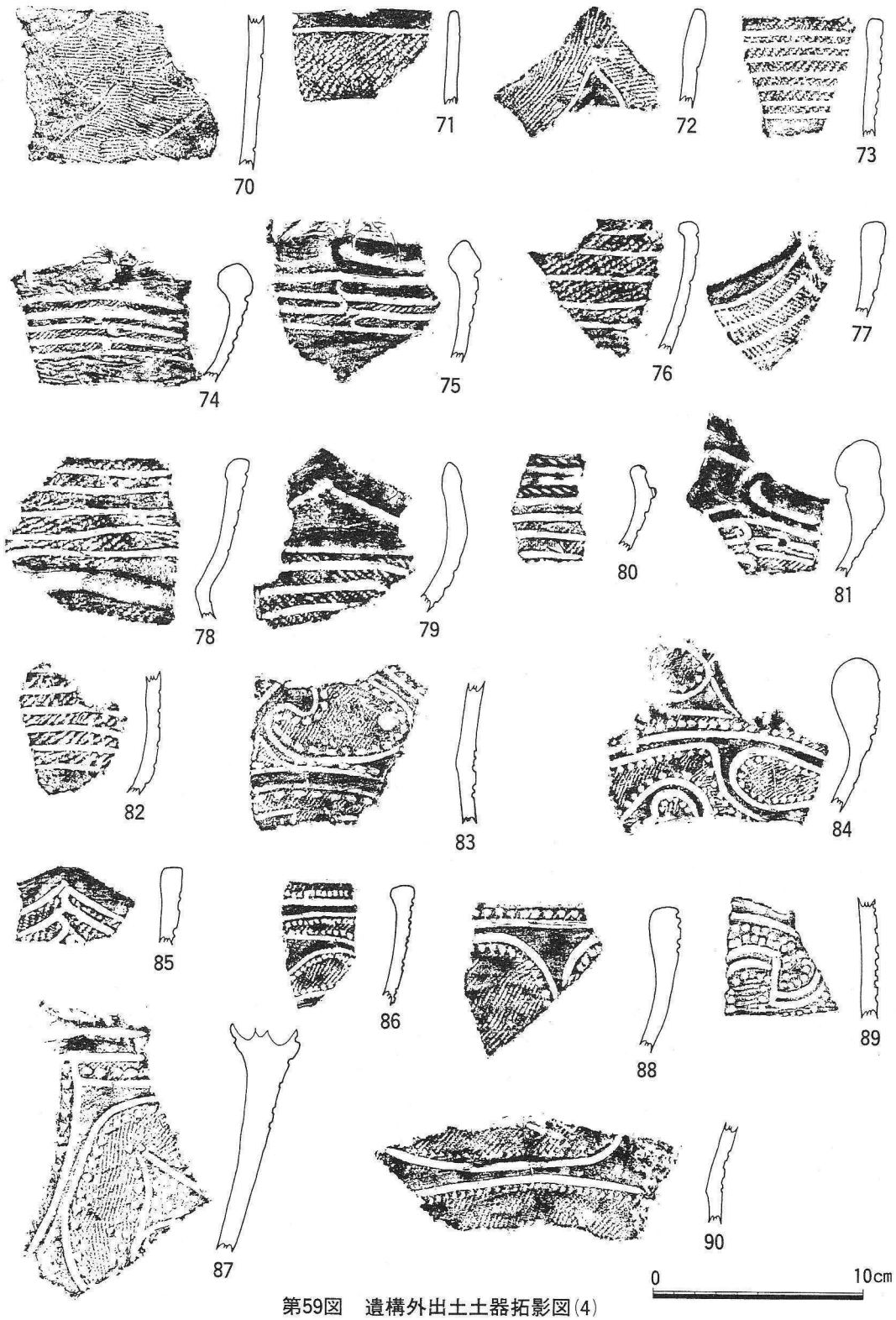
第56図　遺構外出土土器拓影図(1)



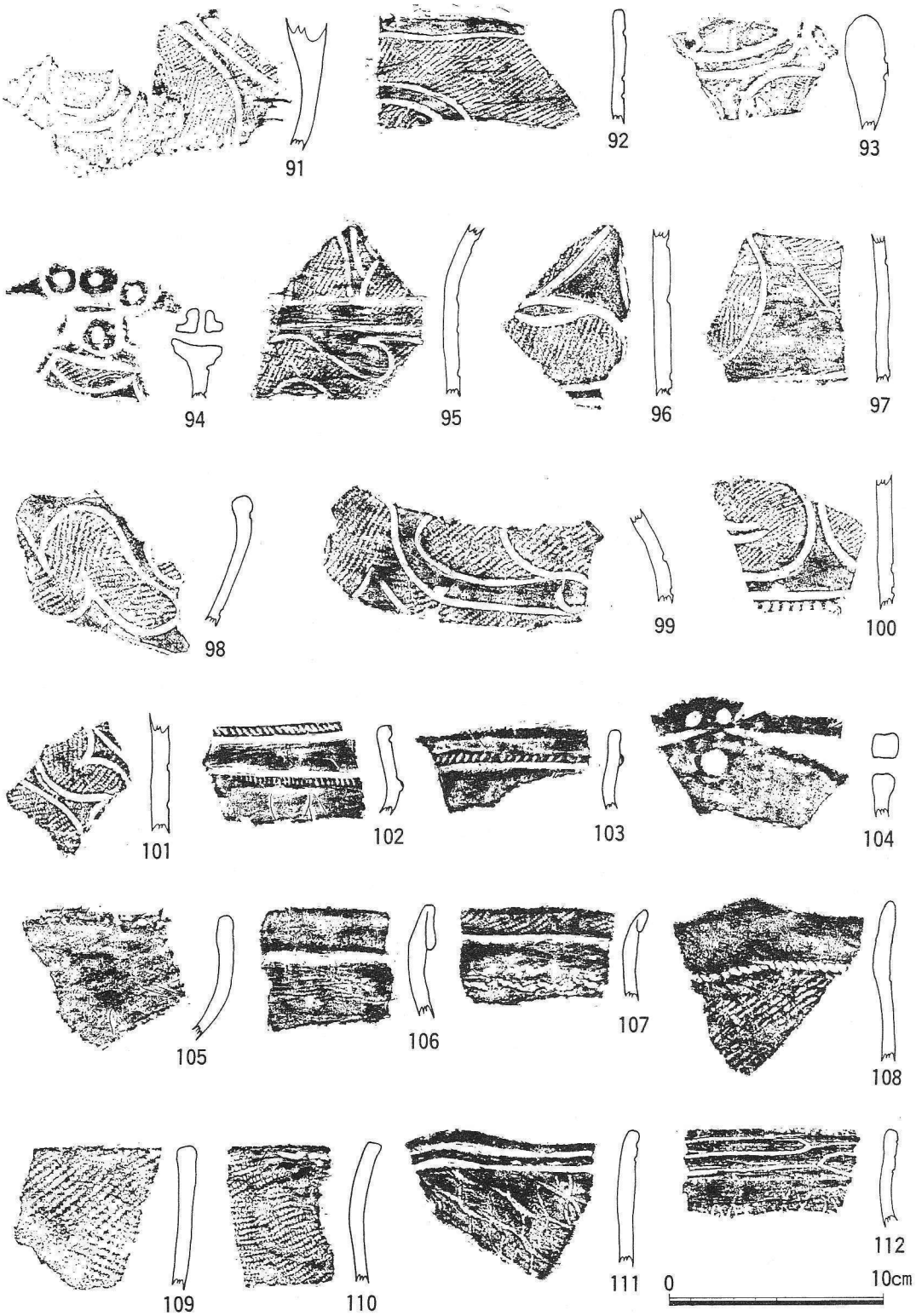
第57図　遺構外出土土器拓影図(2)



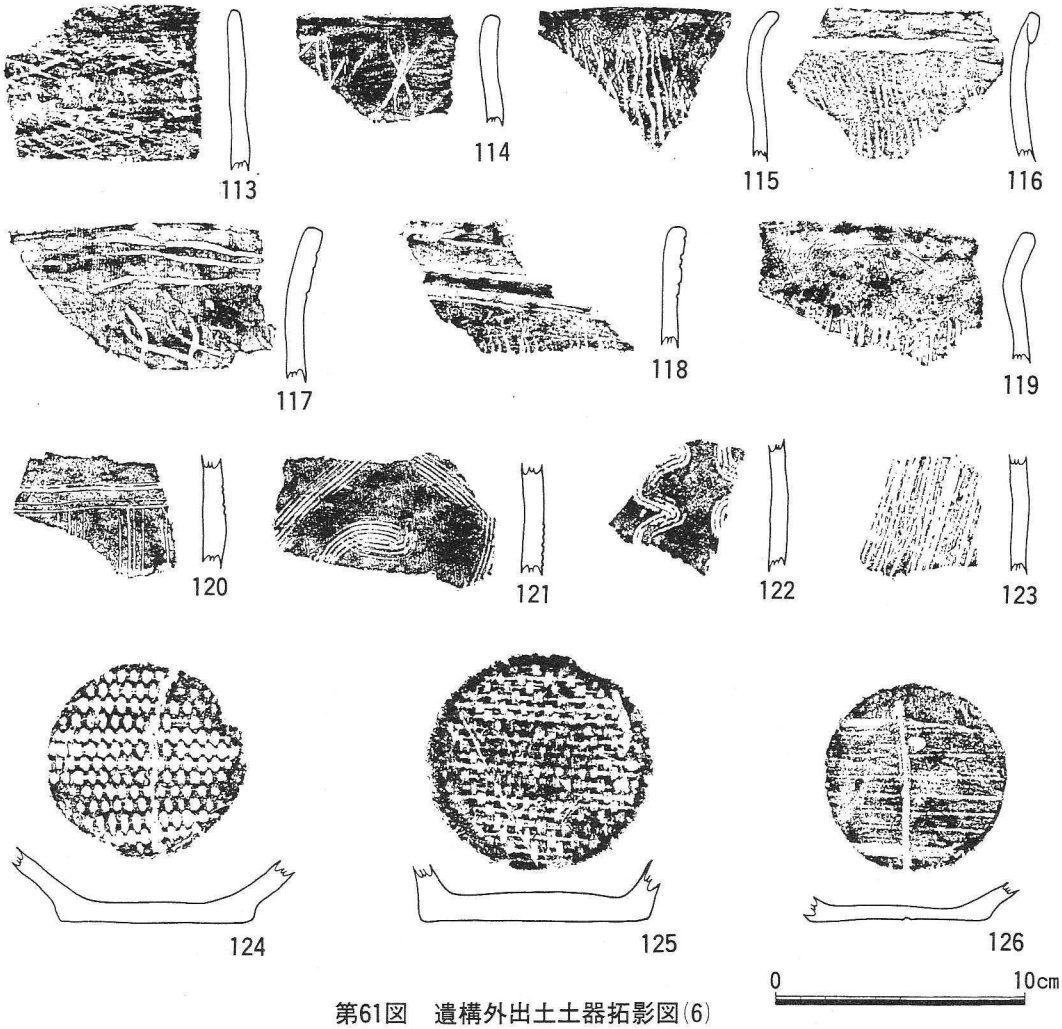
第58図　遺構外出土土器拓影図(3)



第59図　遺構外出土土器拓影図(4)



第60図　遺構外出土土器拓影図(5)



第61図　遺構外出土土器拓影図(6)

3類　撚糸文の土器（第54図23～26、60図112～118）

本類には、撚糸文、網目状撚糸文、連鎖状撚糸文が施文された土器を一括した。深鉢形土器が主体を占める。口縁部は平口縁、波状口縁を呈し、胴部より僅かに外反する。口縁部上端より文様を施文するもの、沈線文や楕円形文を施文し無文化するもの、隆沈文を区画文とするものがある。原体としてRの撚糸が多用される。焼成は良好、色調はにぶい橙色・明褐灰色を呈する。

4類　条痕文の土器（第61図119～123）

平口縁の深鉢形土器が主体となる。条痕は器面に対し、縦位・横位方向又は曲線的に施文される。焼成は良好、色調は黒褐色、暗赤褐色を呈する。　（藤井　安正）

(2) 石　器

D_6区遺構外より出土した石器は多種多様で、その数は剝片石器938点、礫石器260点の総計1,198点である。調査区ほぼ全域から出土し、特に万座環状列石から離れるにつれてその数が多くなっている。大半は遺物包含層Ⅲa～Ⅲd層からの出土である。石器の分類については、形態別類別・細分した。なお、石器出土分布密度図は第62図の通りである。

石鏃（第63図）

調査区ほぼ全域からまばらに出土した。形態から２群６類に分類した。石材は硬質頁岩が多く、硅質頁岩、赤色頁岩と続く。

１群…有茎石鏃で、基部形態から以下のように細別した。重さは0.4～3.2gを測る。

a…平基有茎石鏃で13点出土した。剝離調整はていねいで、欠損品は刃部先端を破損している。１は、基部にアスファルトの付着がみられる。（１～13）

b…凹基有茎石鏃で13点出土した。基部に抉れをもつもので、a類に比べ細長く、ていねいな剝離調整がなされている。（14～26）

c…凸基有茎石鏃で９点出土した。基部がa、b類に比べ突出し、剝離調整はていねいである。（27～35）

２群…無茎石鏃で、基部形態から以下のように細別した。重さは0.6～5.6gを測る。

a…凹基石鏃で４点出土した。剝離調整はていねいで、36は基部を欠いている。(36・37・39・40)

b…円基石鏃で１点出土した。Ⅰ群に比べやや粗い剝離調整によって、楕円形状に作り出されている。（38）

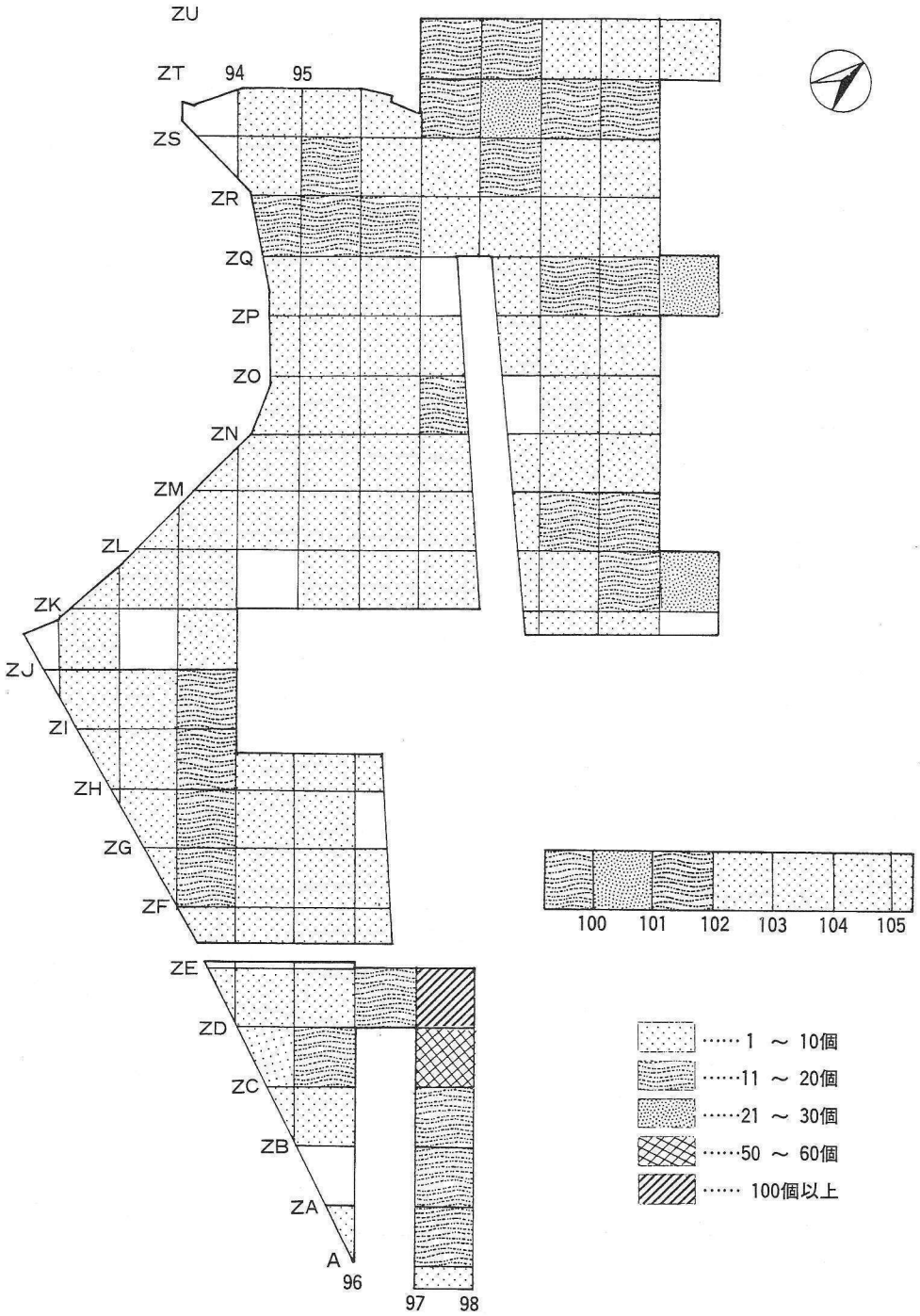
c…尖基石鏃で10点出土した。基面に一次剝離を残すものあるが、ていねいな剝離調整によって作り出され、柳葉形を呈している。基部中央は膨らみをもち、断面形は凸レンズ状もしくは菱形である。（41～49）

石錐（第65図）

調査区ほぼ全域から出土したが、特に中央部から北部にかけて多く分布していた。形態は、３群に分類した。石材は硬質頁岩が多く、硅質頁岩、黒色頁岩続く。

１群…つまみ部と錐部の境が明確なもので、８点出土した。ていねいな剝離調整によって作り出され、特に錐部の作りは精巧である。錐部先端には摩耗痕が観察されるものや途中でで折れているものが多い。（50～57）

２群…つまみ部と錐部の境が明確でないもので、８点出土した。Ｖ字状を呈し、つまみ部に比べ錐部はていねいな加工調整がなされ、錐部先端には著しい摩耗痕が観察されるものもみられる。（58～62、64～66）



第62図　石器出土分布密度図

3群…不定形な剝片の一部を加工調整して錐部が作り出されているもので、8点出土した。

錐部は1・2群に比べ規模が大きく、先端部には摩耗痕が観察される。(63、67～73)

石匙（第66図、67図）

調査区ほぼ全域からまばらに分布していた。形態から2群5類に分類した。石材は硬質頁岩、硅質頁岩、黒色頁岩、赤色頁岩と続く。

1群…縦型石匙である。

a…主要刃部が一側縁に作り出されるもので、5点出土した。(74～78)

b…主要刃部が二側縁に作り出されるもので、4点出土した。(79～82)

c…主要刃部が三側縁に作り出されるもので、8点出土した。89はつまみ部と刃部の境にアスファルトが付着しているのが観察される。(83～90)

2群…横型石匙である。

a…主要刃部が二側縁に作り出されるもので、3点出土した。(92・93・95)

b…主要刃部が周縁に作り出されるもので、2点出土した。(91・94)

石篦（第67図）

調査区ほぼ全域に分布していたが、特に南東部からの出土が多かった。形態別に、3群に分類した。石材は硬質頁岩と硅質頁岩である。

1群…基部にたいして刃部の幅が広くなるもので、頭部が尖る撥状のものである。1点出土した。(97)

2群…1群に比べ頭部が尖っておらず、台形状を呈している。3点出土した。器面には一次剝離を残すものもみられるが、刃部調整はていねいである。(96・98・99)

3群…長楕円形を呈しているものである。1点出土した。(100)

掻器（第68図、69図、70図）

調査区ほぼ全域から出土したが、特に中央部付近からの出土が少なかった。打面を上にして主要刃部の作り出される位置および刃部の形態別に6群に分類した。石材は硬質頁岩が最も多く、硅質頁岩、黒色頁岩、赤色頁岩、凝灰質泥岩と続き、黒曜石が2点みられた。

1群…主要刃部が左、右いずれか一側縁に作り出されるもので、223点出土した。(101～111)

2群…主要刃部が先端部に作り出されるもので、67点出土した。(111～115)

3群…主要刃部が両縁・二側縁に作り出されるもので、262点出土した。(116～120)

4群…主要刃部が三側縁に作り出されるもので、62点出土した。(121～125)

5群…主要刃部が周縁全域に作り出されるもので、25点出土した。(126～130)

6群…刃部の一部分、全域に抉りのあるもので、198点出土した。(131～135)

石斧（第70図～71図）

形態別に３群に分類した。

１群…打製石斧である。調査区からまばらに出土した。短冊形状、撥形状、分銅形状のものがあり、それぞれの刃部には、使用による摩滅が観察される。３点の出土があった。石材は硬質頁岩である。（136～139）

２群…乳棒状石斧である。調査区北部と南東部のＺＳ―99、ＺＨ―95グリッドより２点出土した。稜線は丸味を帯び、断面形もきれいな楕円形をしている。石材は硬質頁岩と砂質凝灰岩である。（140・141）

３群…定角式磨製石斧である。調査区ほぼ全域からの出土である。27点出土した。使用痕として、刃部には摩滅が観察されるもの多くみられた。143～145は比較的小型のものであるが、使用痕が認められることから、ノミ的に使用されたものと考えられる。石材は緑色凝灰岩、石英閃緑玢岩、硬質頁岩、流紋岩、火山礫凝灰岩である。（142～154）

石錘（第72図155～164）

調査区ほぼ全域に分布し、25点の出土があった。扁平な川原石の両側縁を打ち欠いているものである。法量的には長さ4.7～12.0cmとばらつきがみられる。石材は石英閃緑玢岩、凝灰質泥岩、火山礫凝灰岩、硬質頁岩、泥岩、砂質凝灰岩、軽石質凝灰岩である。

敲石（第72図165～175、73図176～179）

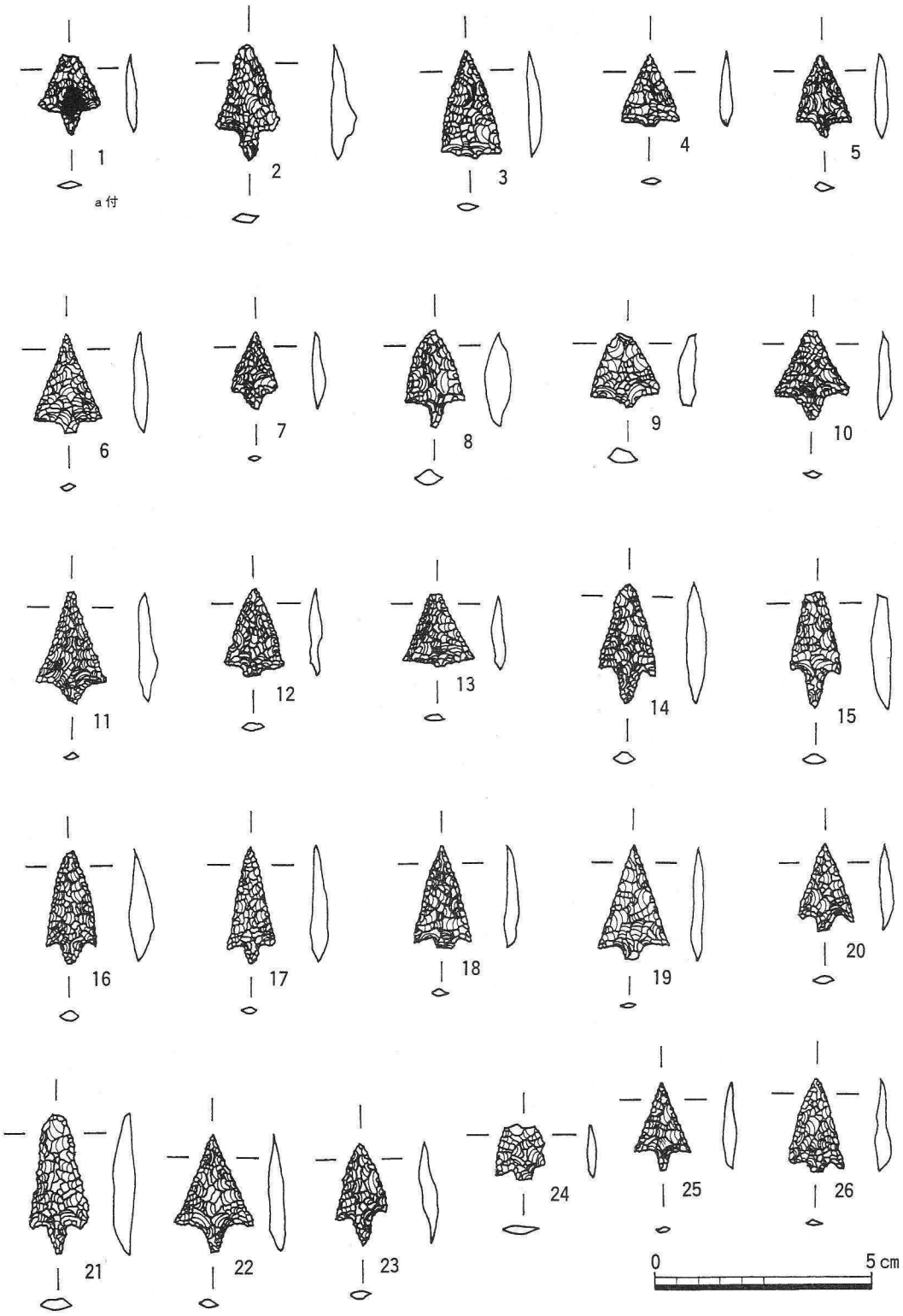
調査区ほぼ全域から出土したが、中央部付近は少ない。扁平な川原石、円礫、棒状の礫が使用され、特に扁平な川原石が多く使われている。法量的にも長さ3.6～11.8cmとまばらである。礫の一側縁が打ち欠かれているものが多いが、所々が打ち欠かれているものもみられる石材は凝灰質泥岩、石英閃緑玢岩、砂質凝灰岩、変朽安山岩、泥岩で、173～175は硬質頁岩である。57点の出土があった。

凹石（第73図180～188、74図189～193）

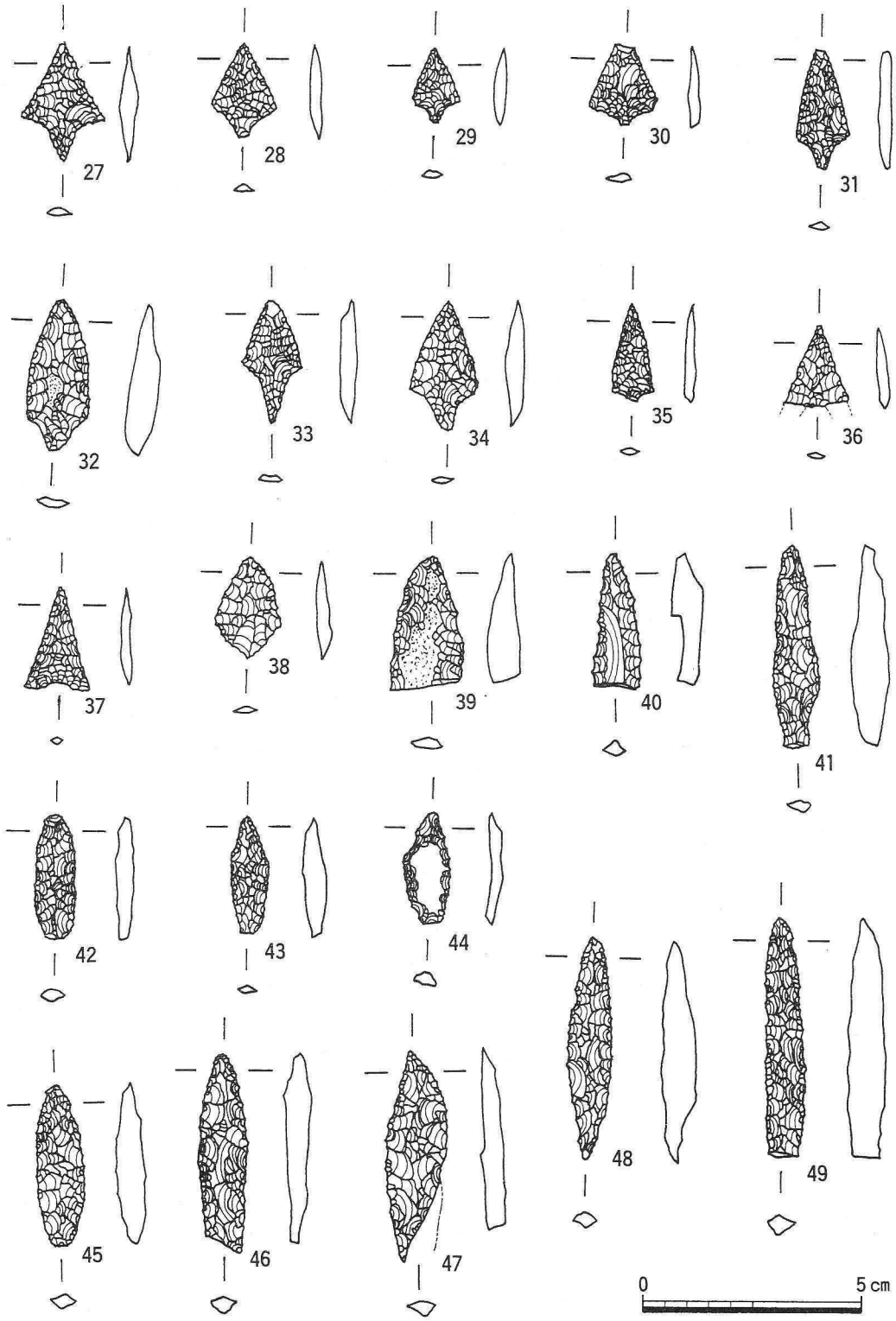
調査区ほぼ全域に分布するが、中央部付近は少ない。円礫、扁平な川原石、棒状の礫の一部に、１～複数の使用による凹みをもつもので、81点の出土があった。その他にも凹石と磨石を併用して使用したと思われるものが、16点出土している。石材は石英閃緑玢岩、緑色凝灰岩、変朽安山岩、軽石質凝灰岩、角礫凝灰岩、火山礫凝灰岩、玄武岩、泥岩である。

磨石（第74図194～198）

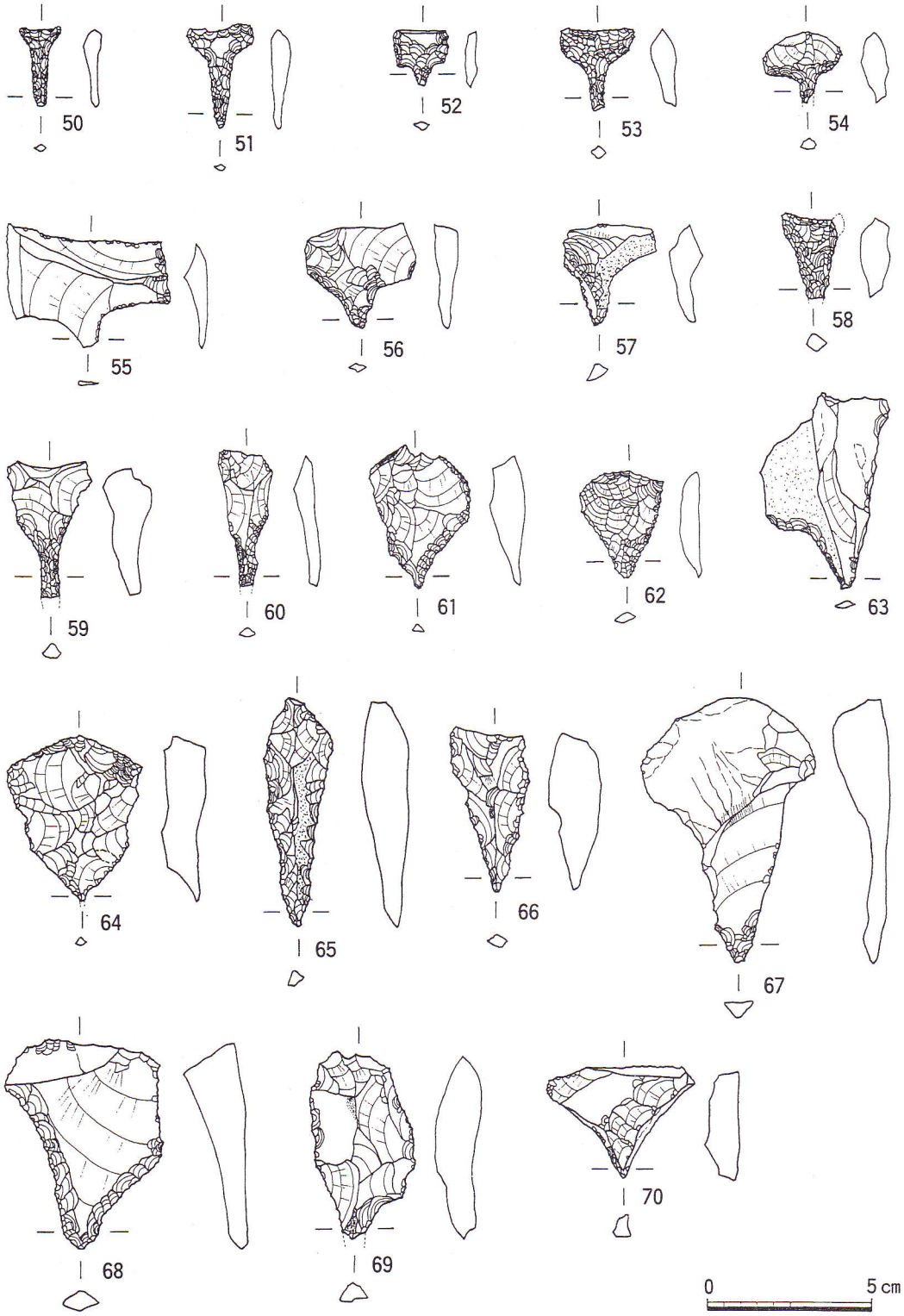
調査区ほぼ全域からまばらに出土し、その数は30点である。円礫の一部分、または全面に磨痕が観察されるものである。石材は石英閃緑玢岩、砂質凝灰岩、石英安山岩、変朽安山岩、硬質頁岩、安山岩である。



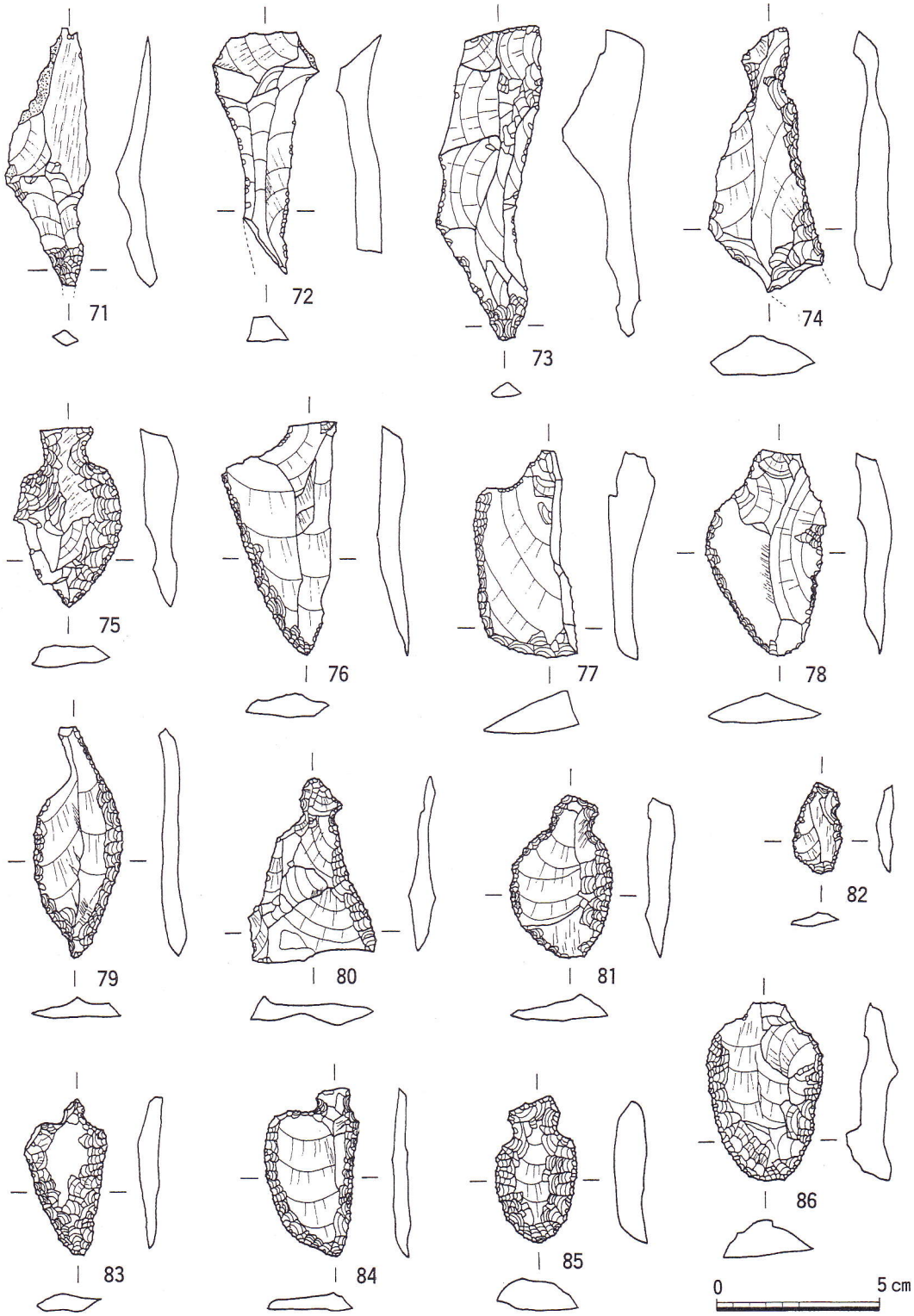
第63図　遺構外出土石器実測図(1)



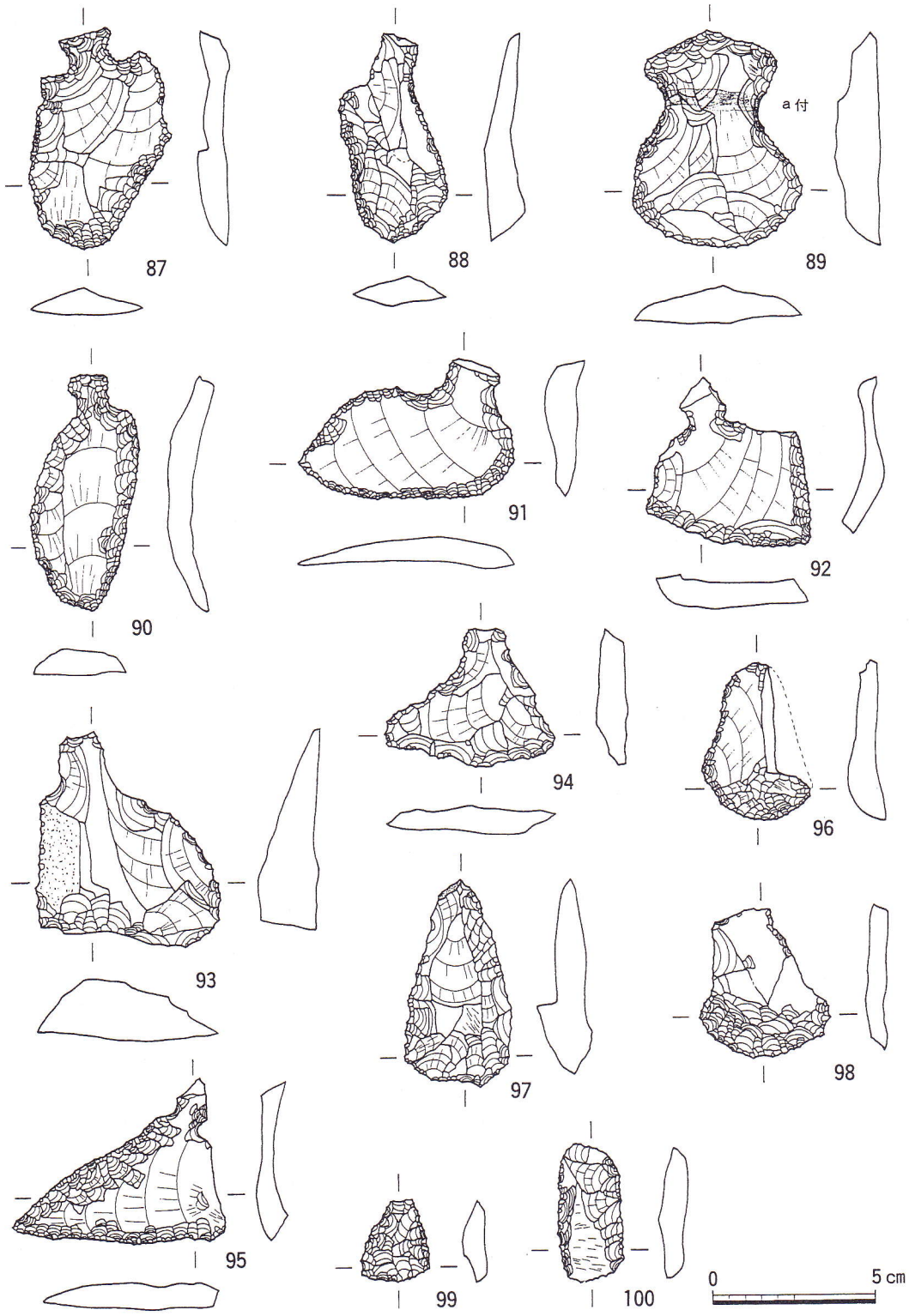
第64図　遺構外出土石器実測図(2)



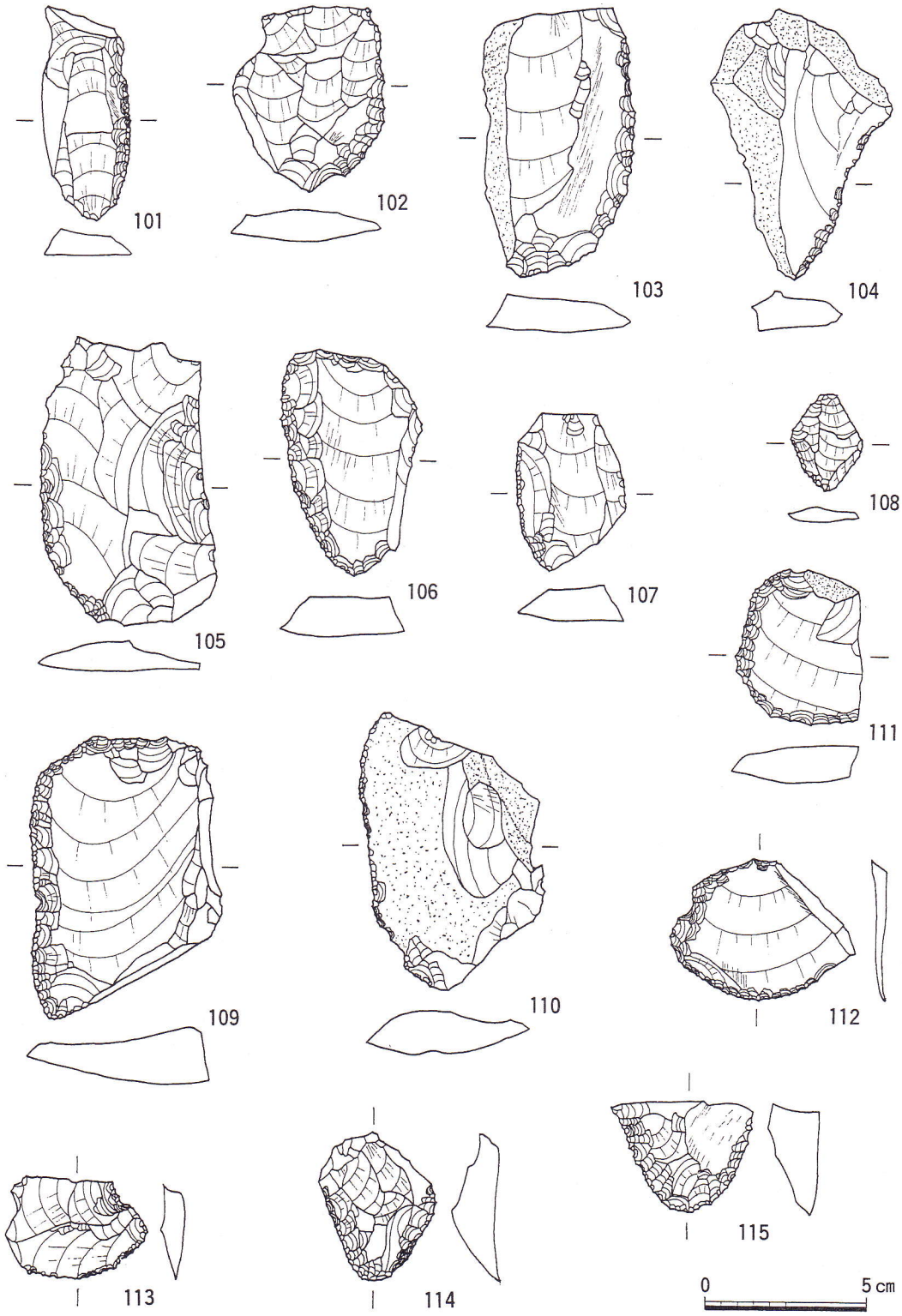
第65図　遺構外出土石器実測図(3)



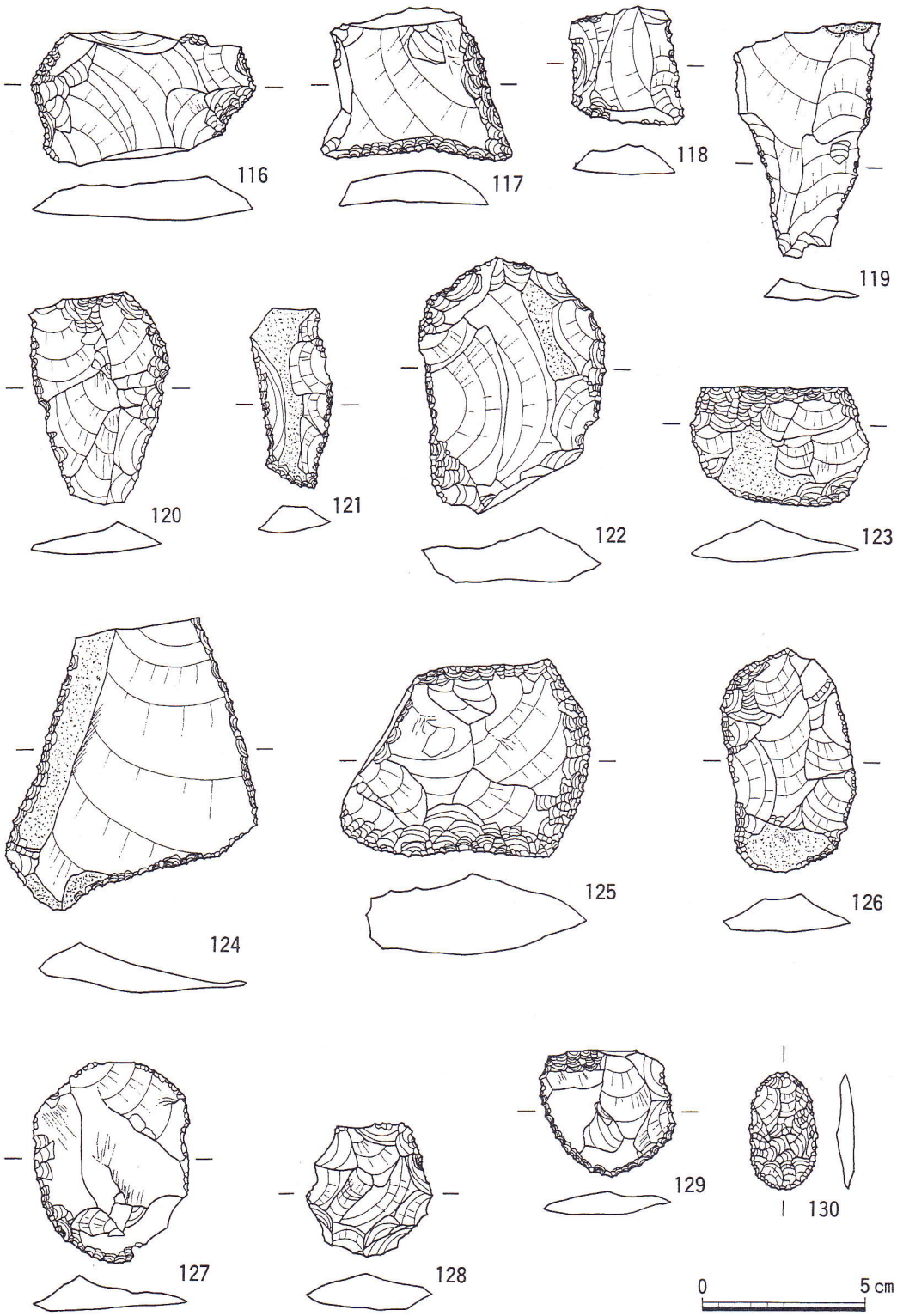
第66図　遺構外出土石器実測図(4)



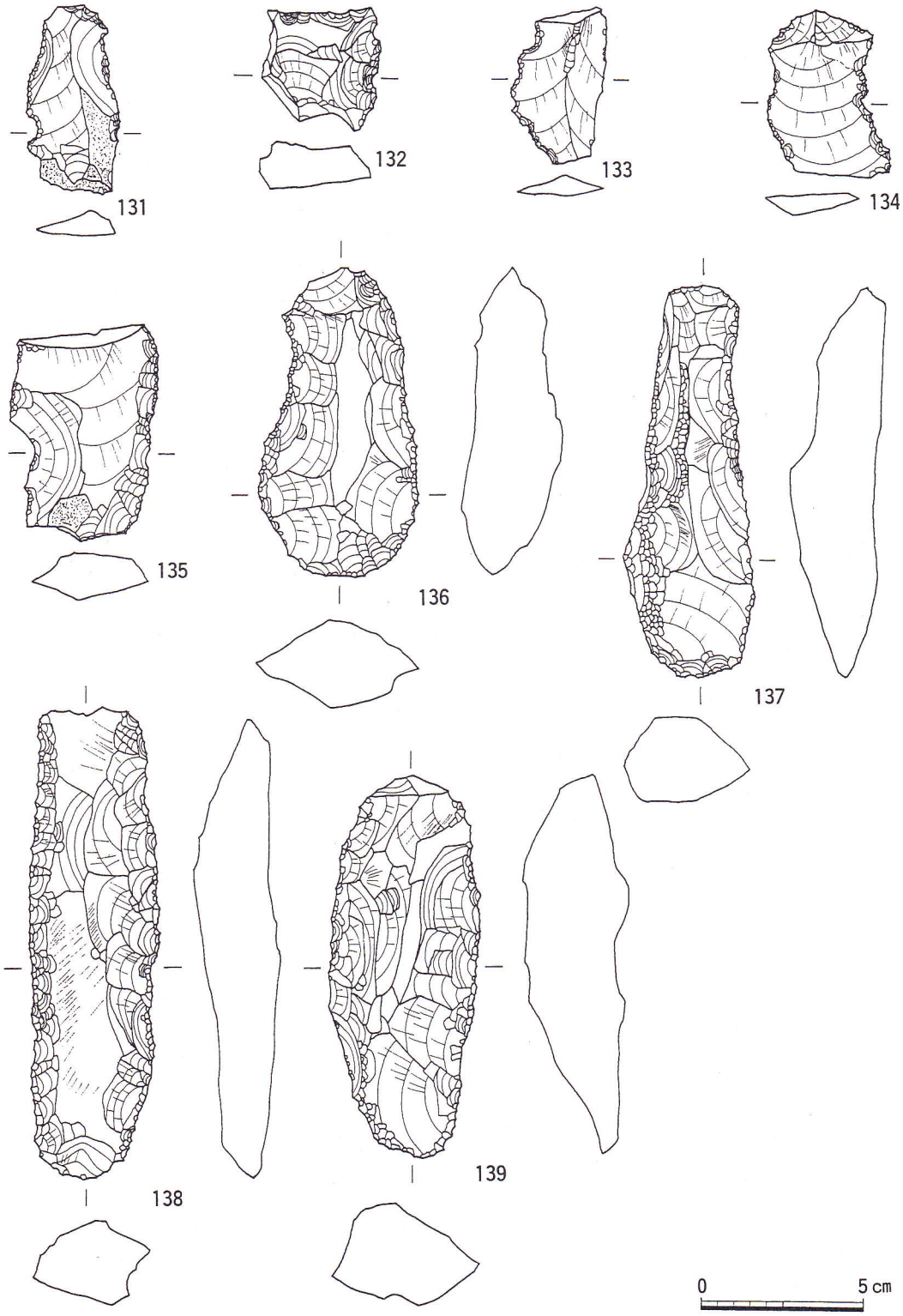
第67図　遺構外出土石器実測図(5)



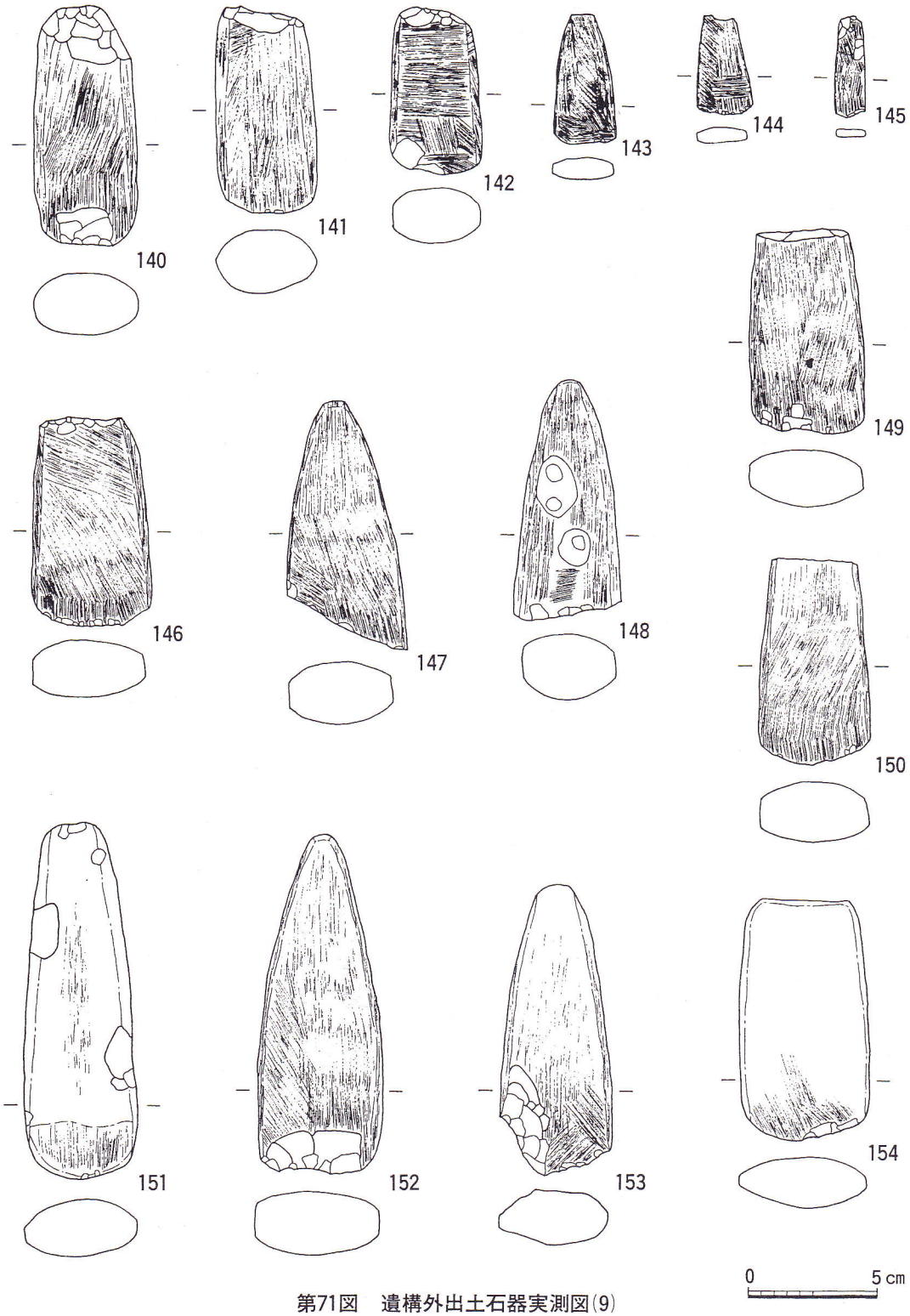
第68図　遺構外出土石器実測図(6)



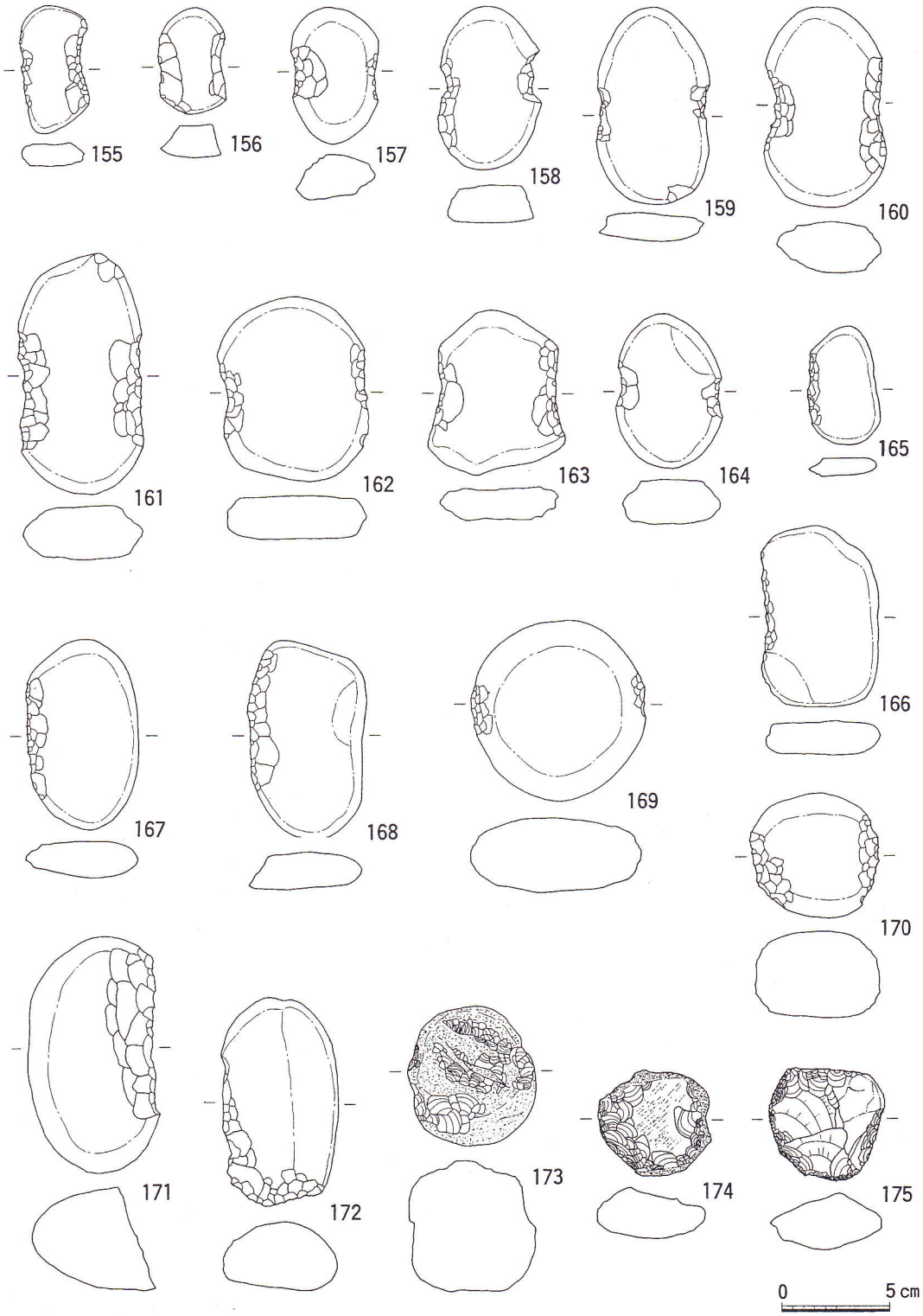
第69図　遺構外出土石器実測図(7)



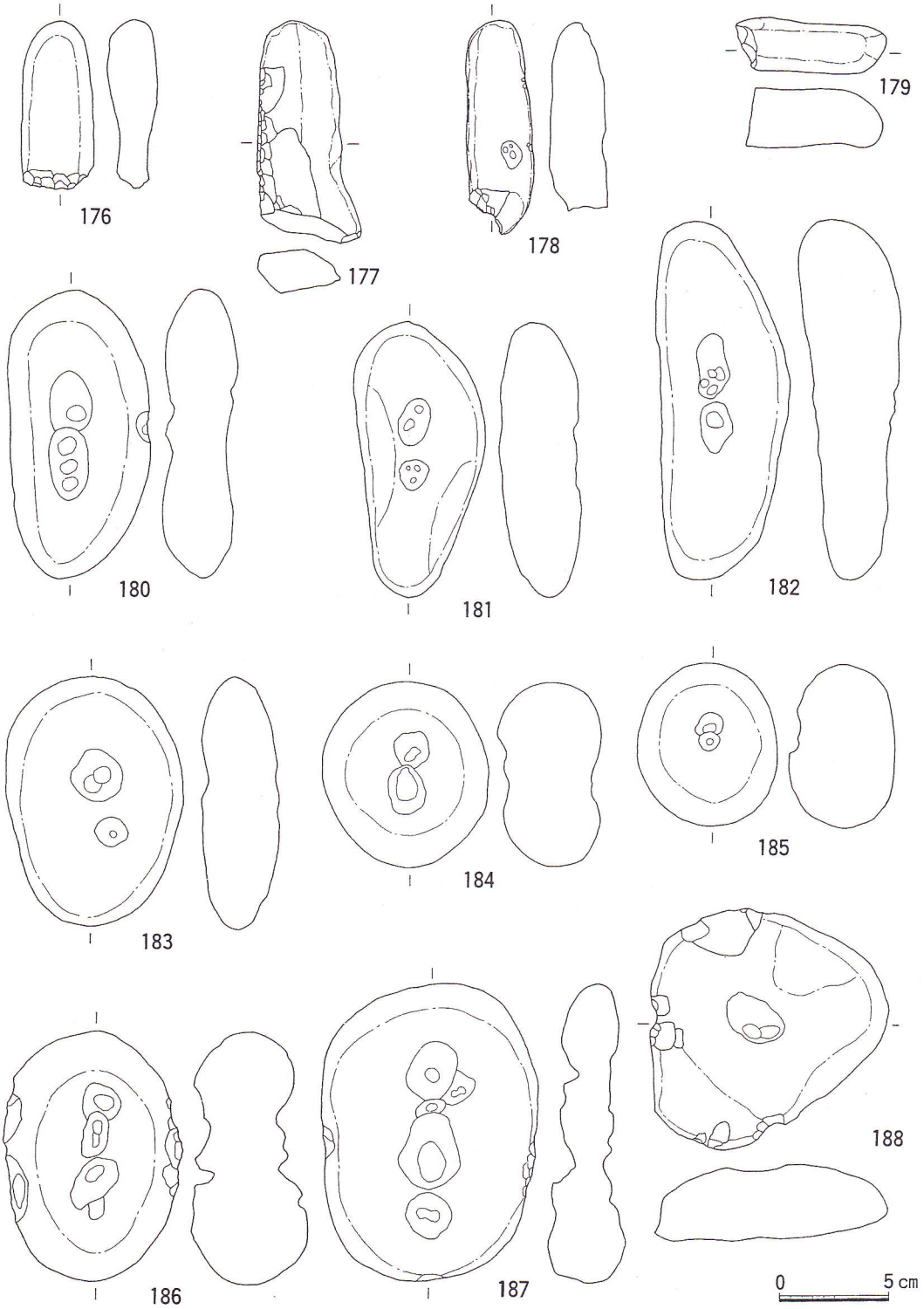
第70図　遺構外出土石器実測図(8)



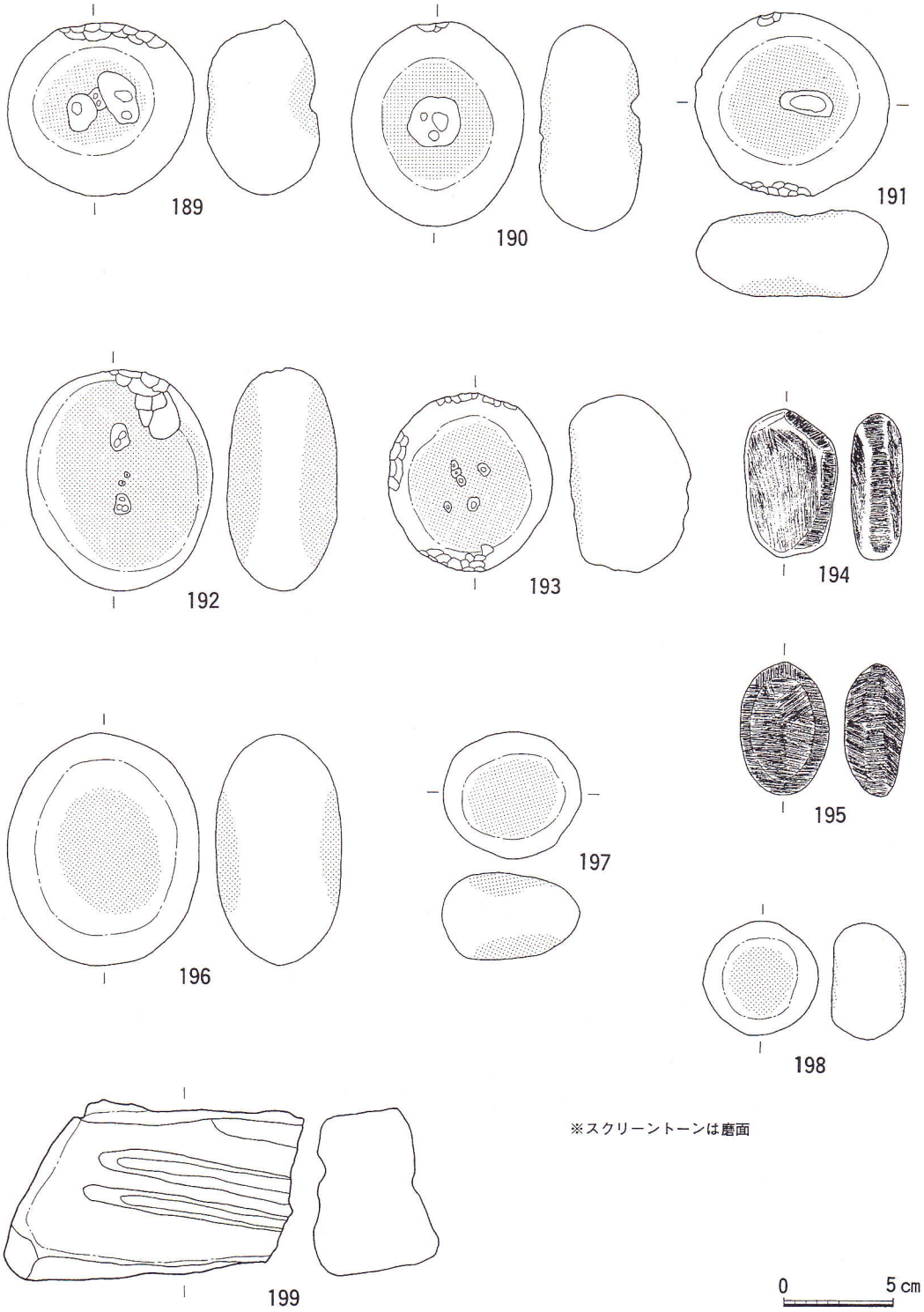
第71図　遺構外出土石器実測図(9)



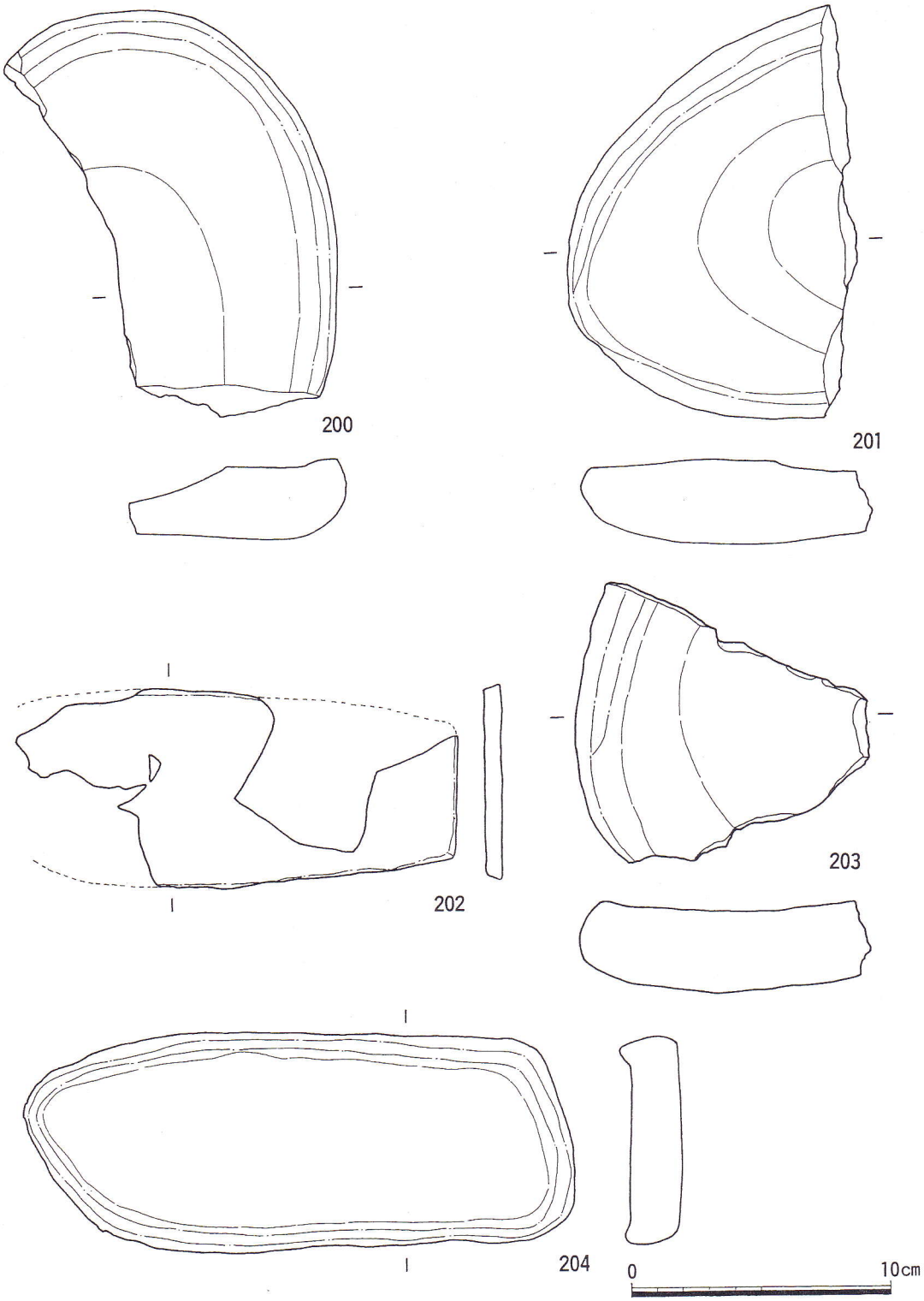
第72図　遺構外出土石器実測図(10)



第73図　遺構外出土石器実測図(11)



第74図　遺構外出土石器実測図(12)



第75図　遺構外出土石器実測図(13)

石皿（第75図）

調査区ほぼ全域から出土し、特に中央部から南東部にかけて多く分布していた。18点の出土である。204は他の石皿に比べて、ていねいに作られており、石材も軽石質泥岩と非常にもろいもので作られている。このことから、とうてい実用的なものとは考えにくく、別の用途として使用されたものと考えられる。その他の石材は、凝灰質泥岩、緑色凝灰岩、砂質凝灰岩、石英安山岩質溶岩、泥岩である。

砥石（第74図199）

調査区北東部のＺＱ—101グリッドから、１点のみ出土した。石材は石英閃緑玢岩である。

（花海　義人）

(3)　土製品

D_6区遺構外より出土した土製品は、土偶８点、足形付土製品１点、耳飾４点、鐸形土製品10点、土錘１点、有孔土製品３点、茸状土製品１点、環状土製品１点、皿状土製品１点、その他の土製品４点、土器片利用土製品452点の計486点である。

土　偶（第76図１・２・４、77図５～９）

１、２は土偶の上半身部分で、頭部・顔及び腕の破損が見られる。いずれにも刺突文による文様が施文されるが、２には沈線による文様が付加されている。１はＺＣ—97グリッド・Ⅲc～Ⅲd層、２はＺＥ—97グリッド・Ⅲb層の出土である。４は土偶頭部破片で簡略的・写実的に顔が表現されている。ＺＨ—93グリッド・Ⅲa～Ⅲc層の出土である。５・６は板状を呈した土偶胸部破片で表裏面に沈線による文様が描かれている。５はＺＥ—94グリッド・Ⅲc～Ⅲd層のの出土で、頸部に黒色樹脂の付着が見られる。７～９は土偶の足・脚である。

足形付土製品（第76図３）

縦12cm（推定）、横9.3cm、厚さ1.8cmの粘土板に右指先部分を押したものである。表裏面とも研磨され、土踏まずの位置に径４mmの孔が穿たれている。色調は浅黄橙色を呈する。

耳　飾（第77図10～13）

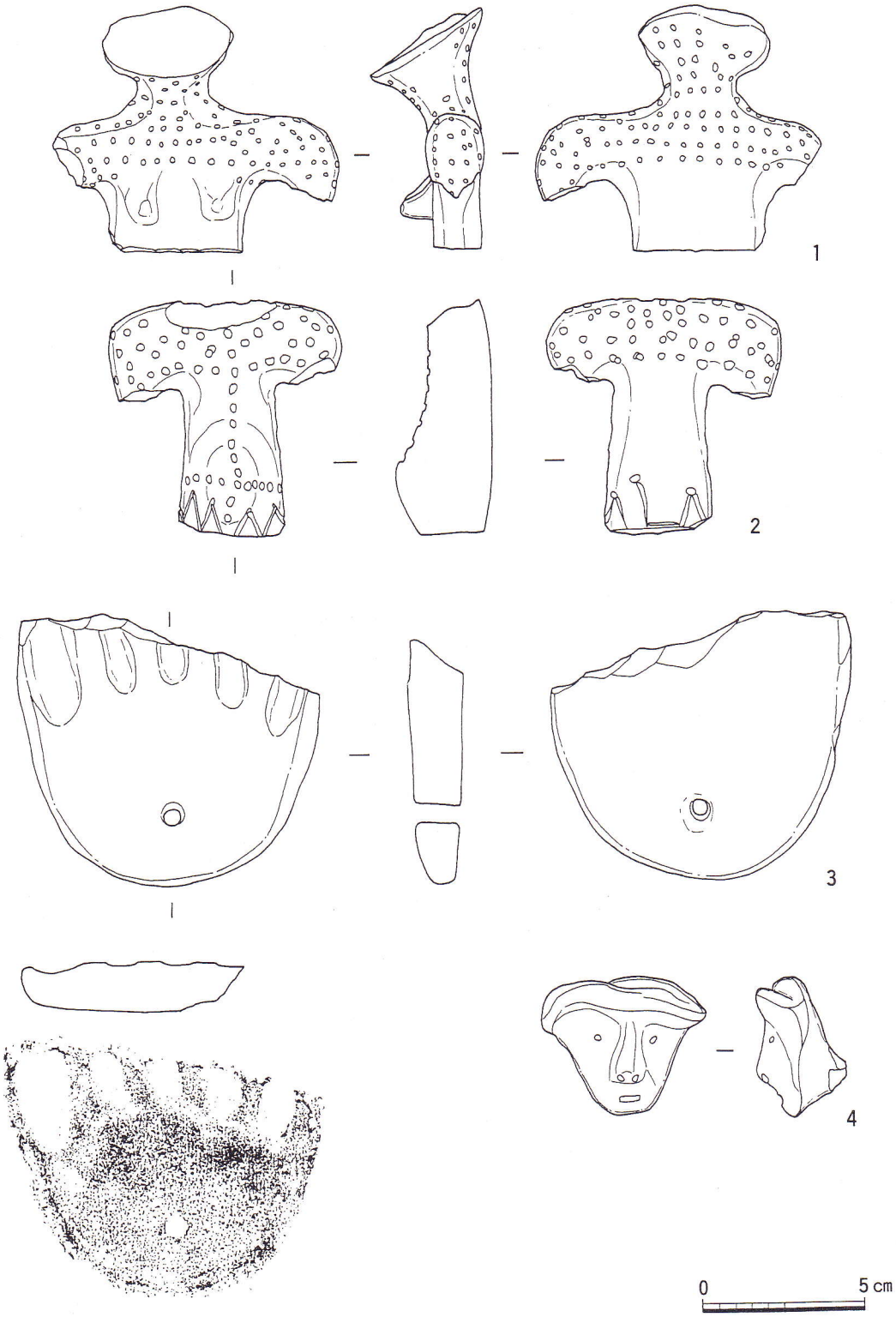
いずれも耳栓のタイプに属するもので、径1.9cm～2.5cmを測る。12には赤色顔料が塗布されている。

鐸形土製品（第77図14～22）

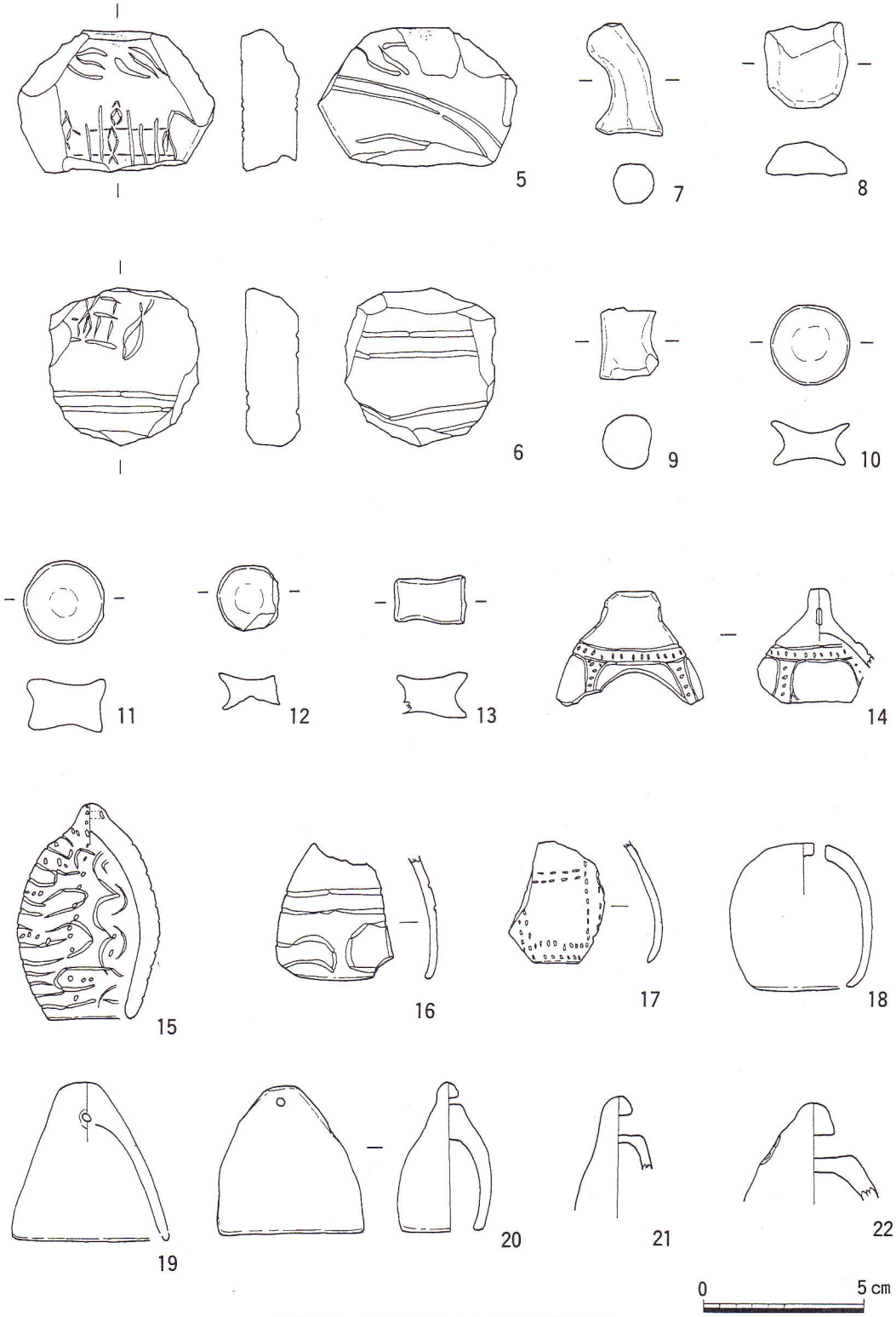
開口部が円形又は楕円形を呈する。鈕部に穿たれる貫通孔は短軸・長軸方向のものがある。無文のもの（18～22）、沈線文のもの（16）、刺突文のもの（17）、沈線文十刺突文のもの（14・15）がある。これらの多くはⅢb～Ⅲd層出土である。

有溝土錘（第78図23）

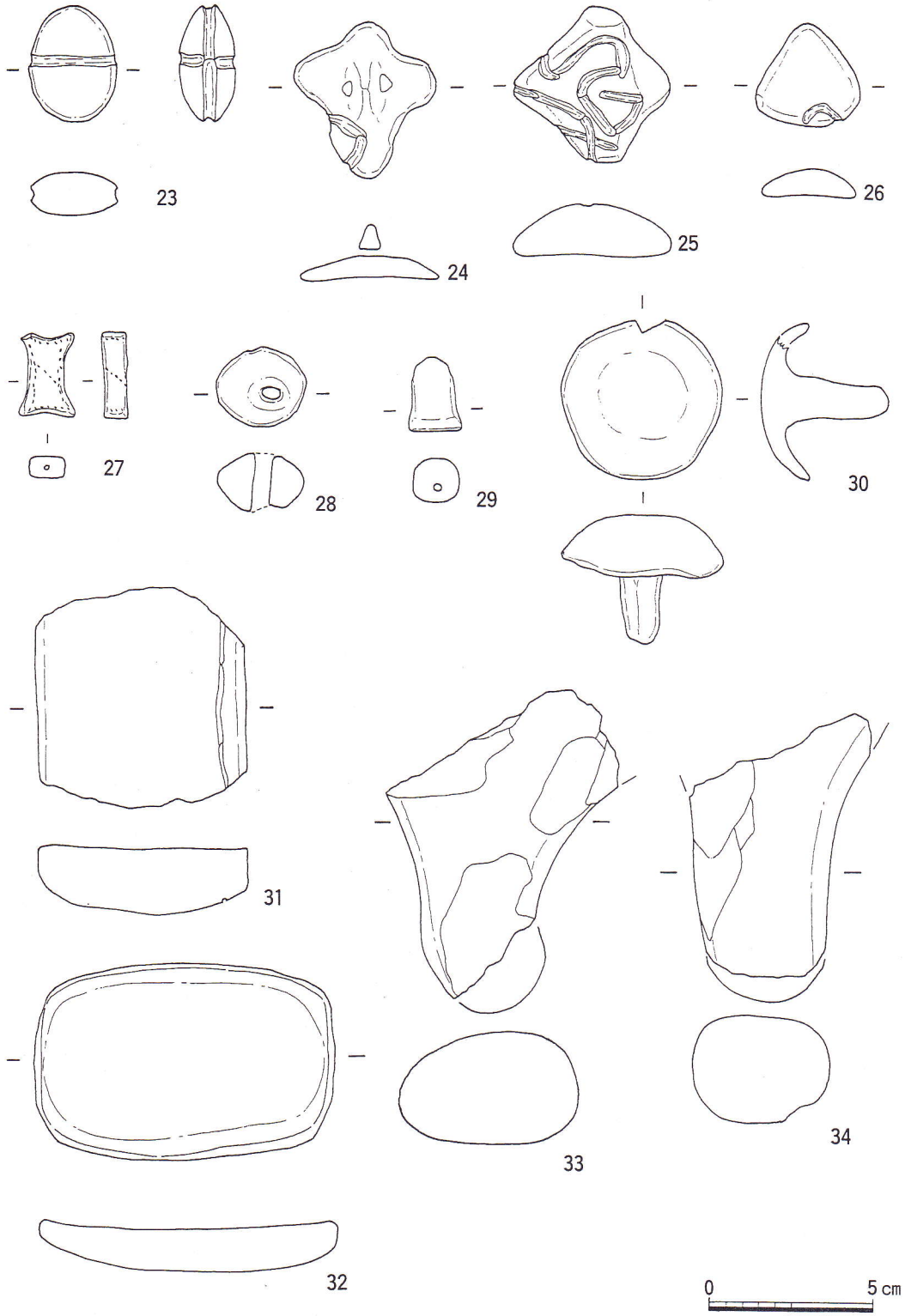
縦3.6cm、横2.8cm、厚さ1.5cmを測る。短軸方向及び側面を一周するように沈線が巡らされ



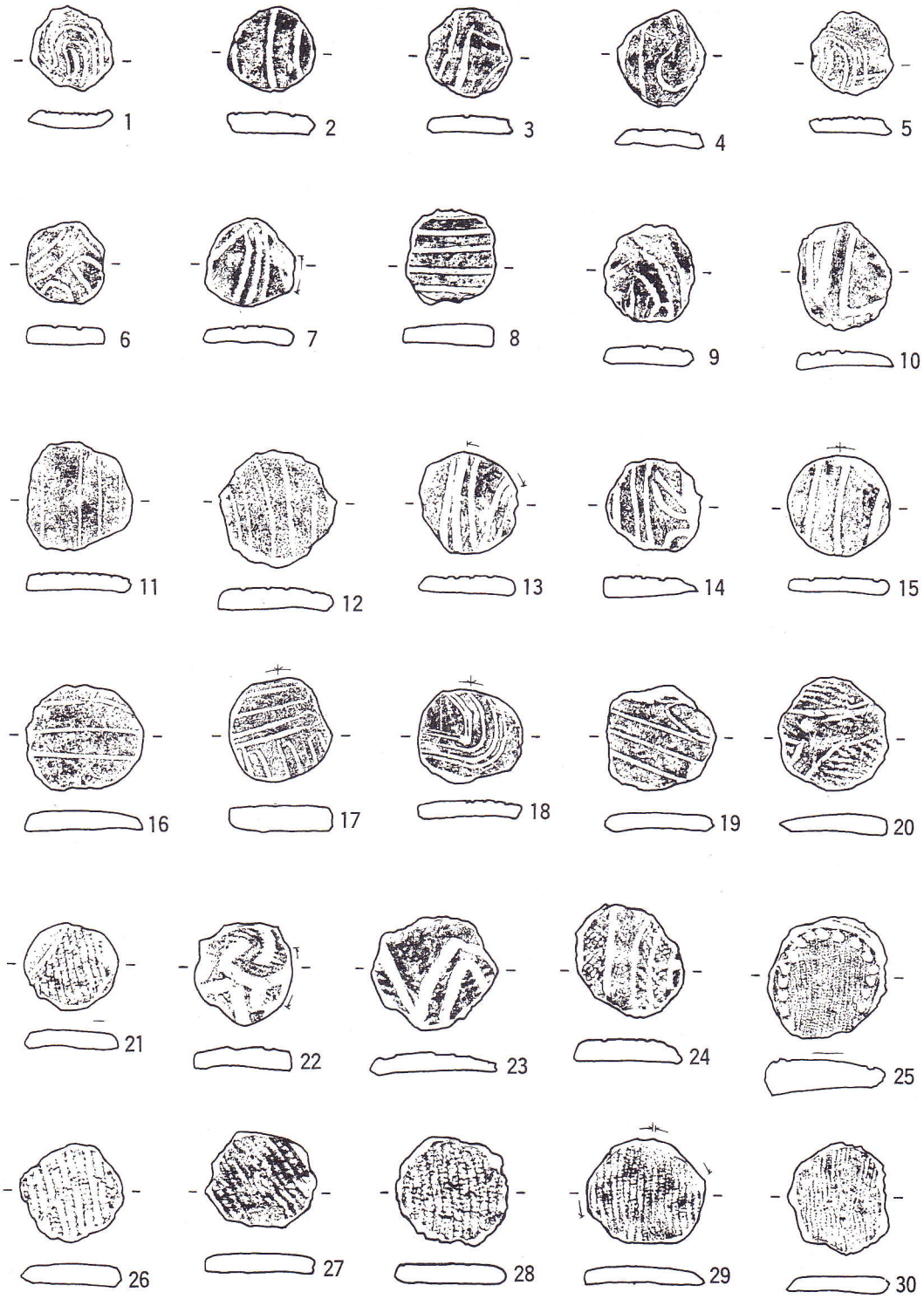
第76図　遺構外出土土製品実測図(1)



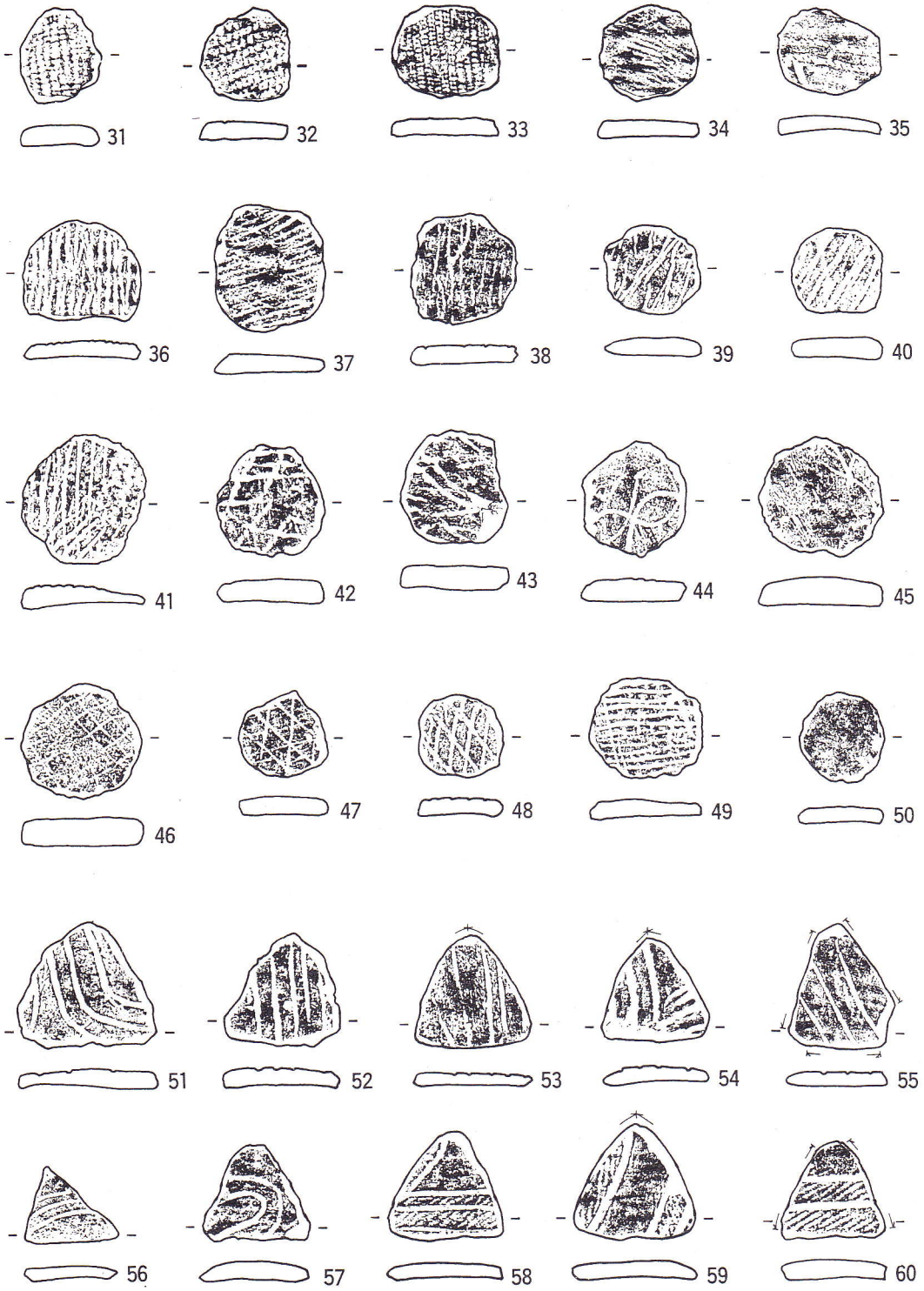
第77図　遺構外出土土製品実測図(2)



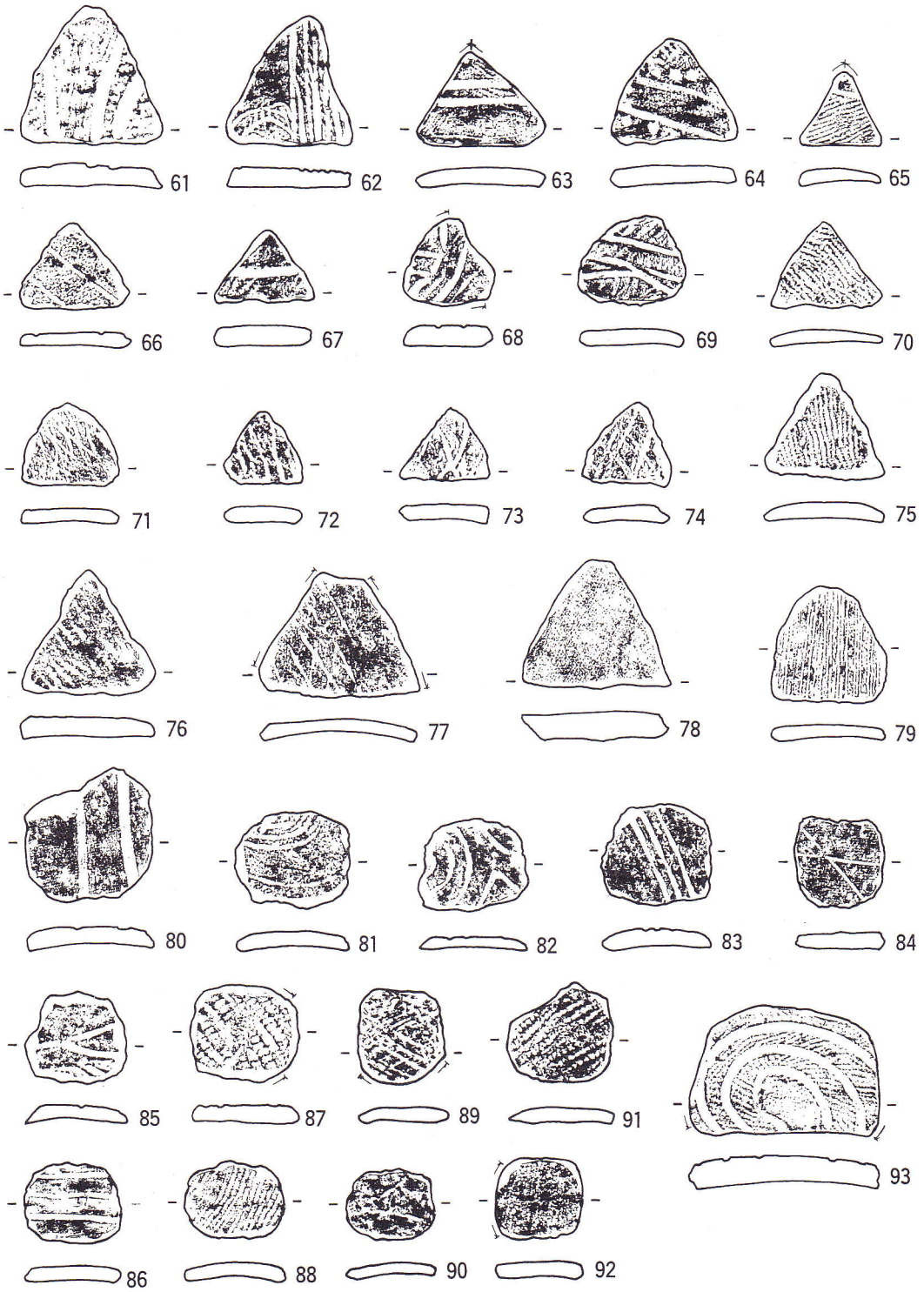
第78図　遺構外出土土製品実測図(3)



第79図　遺構外出土土製品拓影図(1)



第80図　遺構外出土土製品拓影図(2)



第81図　遺構外出土土製品拓影図(3)

ている。ＺＭ―95、Ⅲ層から出土した。色調は赤褐色～黒色を呈する。

有孔土製品（第78図27～29）

球状（28）・棒状（29）・分銅状（27）の形状が見られる。いずれも孔は長軸方向に穿たれる。27には刺突文で文様が施文されている。

茸状土製品（第78図30）

茸を模倣した土製品で、かさ径５cm、高さ４cmを測る。色調は浅黄橙色を呈する。ＺＥ―97 Ⅲc～Ⅲd層より出土した。

環状土製品（78図31）

欠損品で、幅6.4cm、厚さ2.1cmを測る。片側縁に１条の沈線が巡らされる。

皿状土製品（第78図32）

石皿を模倣したものと想定される。縦9.2cm、横6.1cm、厚さ1.3cmを測る。側縁がわずかに盛り上がり、断面形は湾曲する。色調は赤褐色～黒褐色を呈する。ＺＬ―100・Ⅲa～Ⅲb層より出土した。

その他の土製品（第78図24～26・33・34）

24～26は十字形又は三角形を呈する土製品で、沈線文が施文されている。24には突起が作り出され横位方向に穿孔されている。これらは万座環状列石南南東に集中し、ＺＪ―91・92、Ⅲa～Ⅲc層の出土である。33・34は同一個体である。表面は丁寧な研磨が成されている。

土器片利用土製品（第79図～81図）

出土した土製品の中で最も数量が多い。形態的に円形（248点）、三角形（184点）、方形（20点）に分類され、円形のものが圧倒的に多い。整形技法を見ると打ち欠きのものと研磨（一部研磨を含む。研磨部分は←→で表現）のものが見られるが、その大半は前者が多い。大きさについては規格性が認められない。（藤井　安正）

(4) 石製品

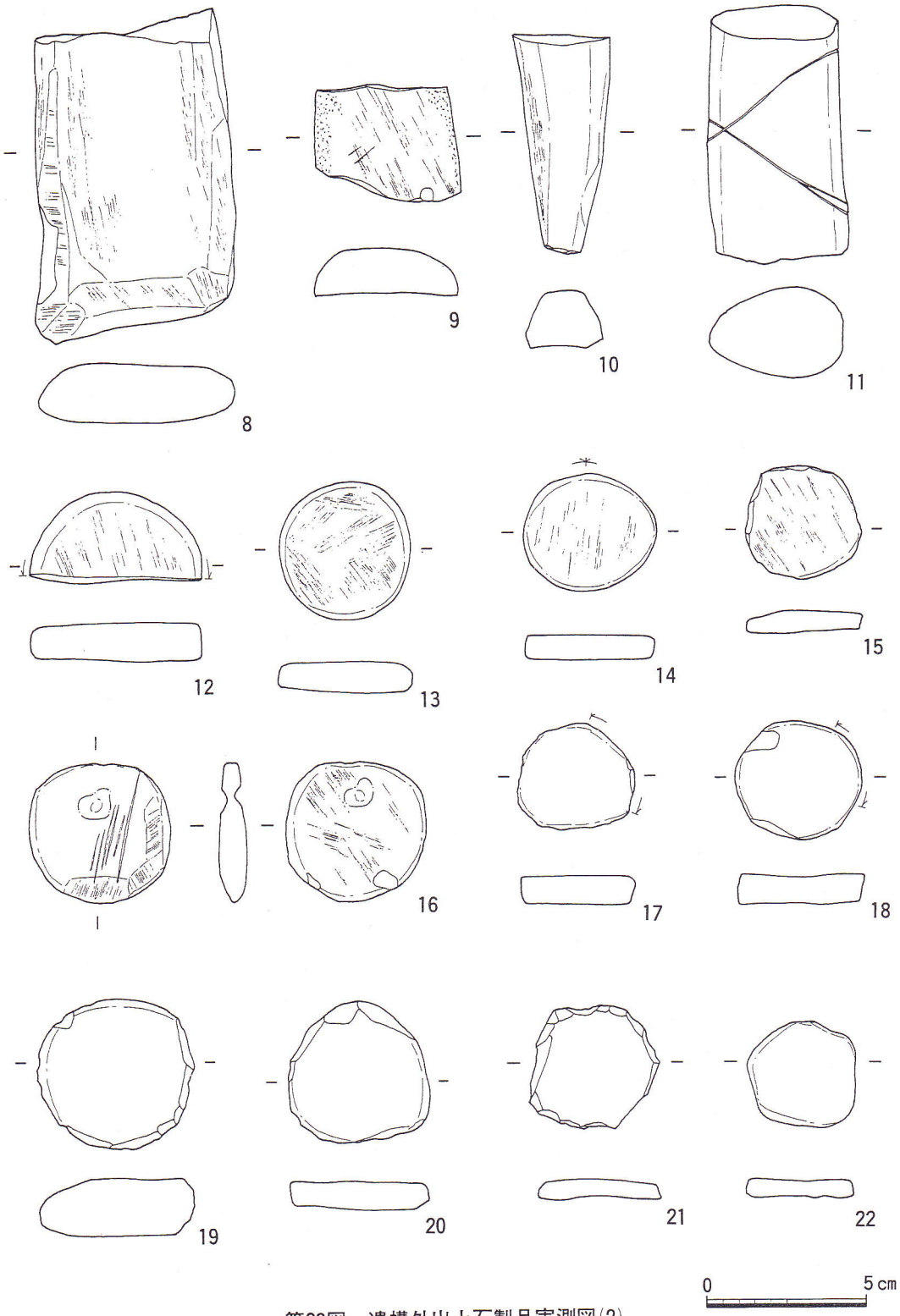
D_6区遺構外より出土した石製品は、足形石製品１点、石剣４点、イモガイ状石製品２点、盤状石製品18点、球状石製品３点、軽石製石製品12点、男根状石製品２点、その他の石製品５点の計47点である。

足形石製品（第82図１）

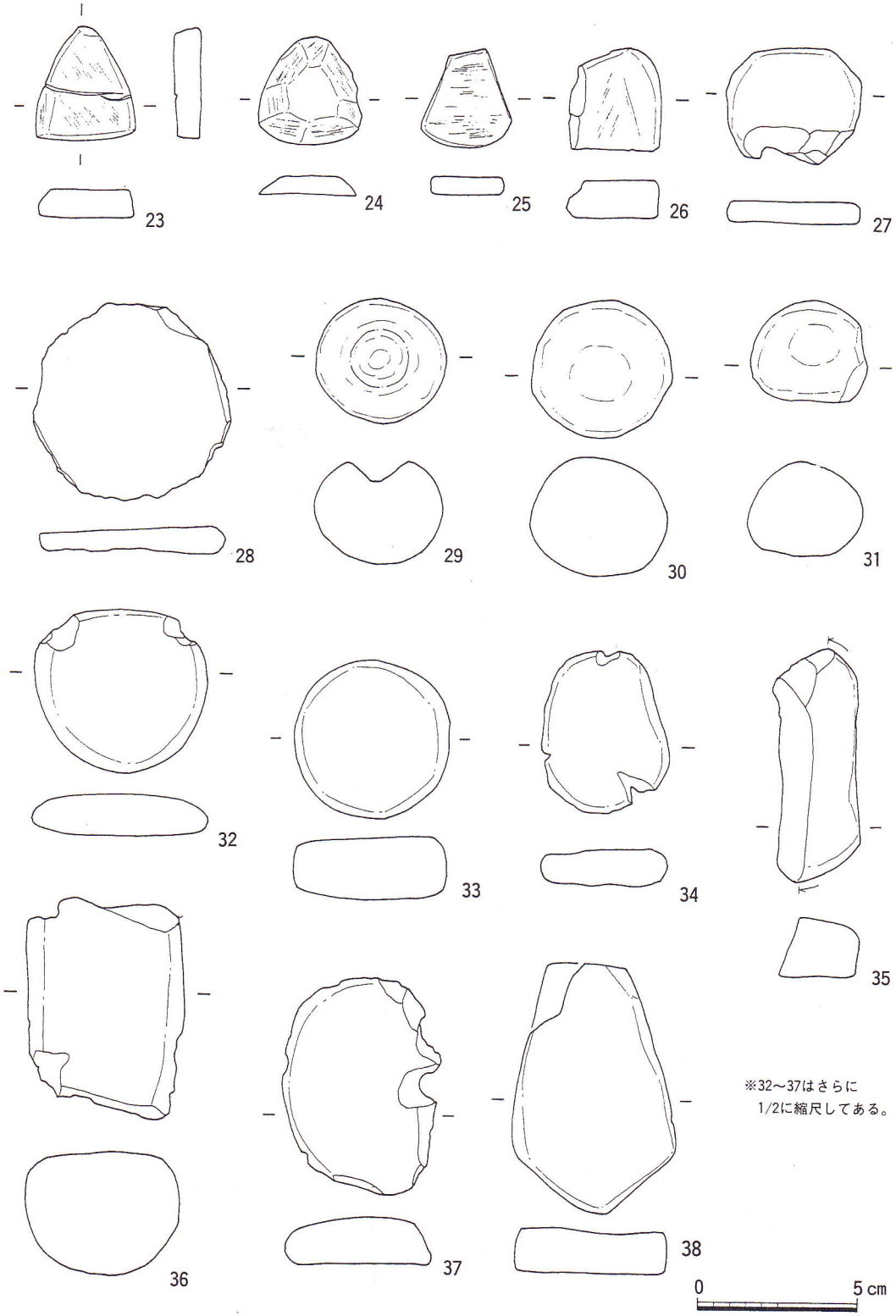
卵形を呈した板状の石材を用い、４本の沈線を入れ、足を表現しているものである。その形状から左足と判断される。縦11cm、横7.2cm、厚さ2.3cmを測る。石質は軽石である。ＺＥ―97 Ⅲd層上面で出土した。

石　刀（第82図２～５）

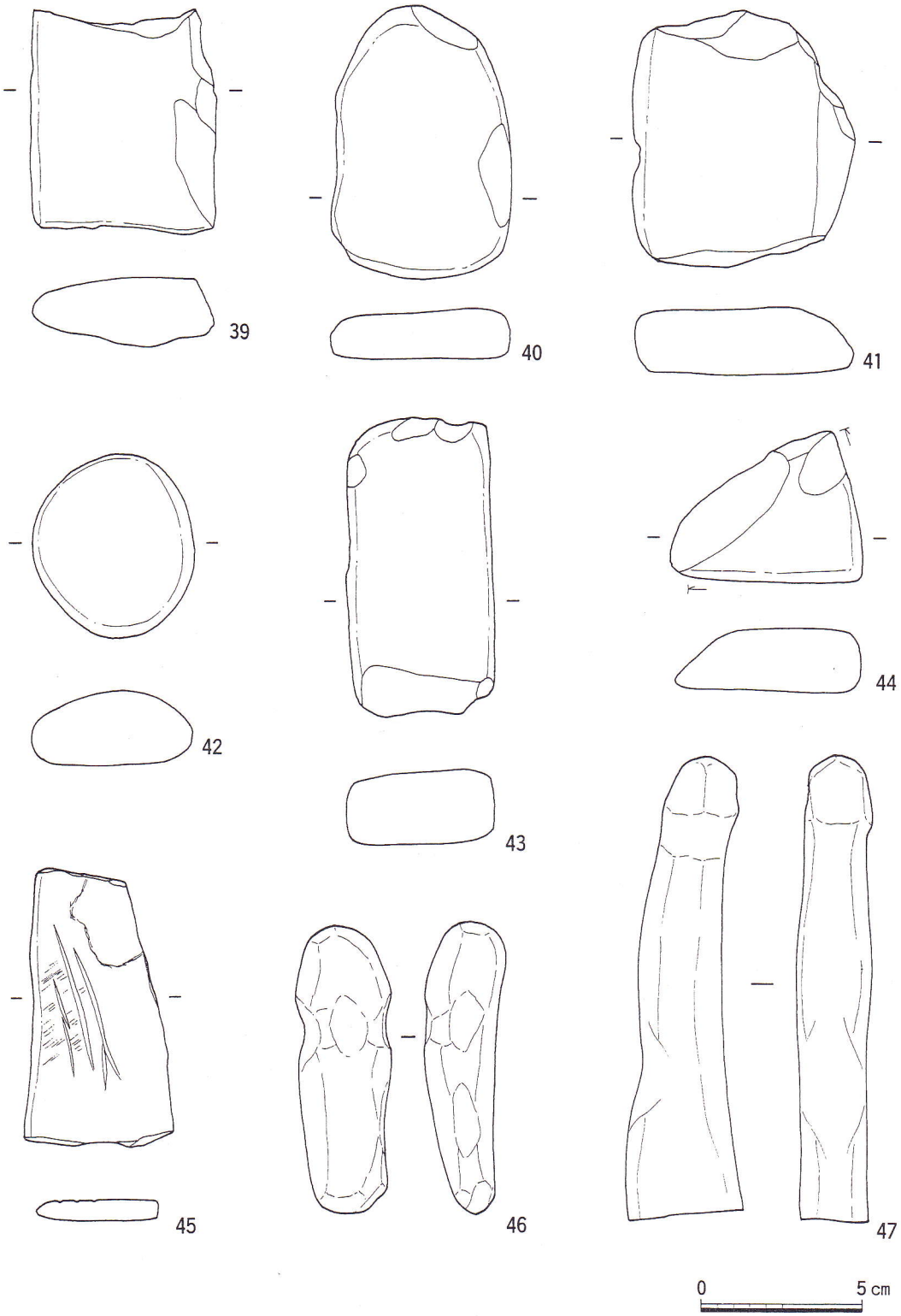
第82図　遺構外出土石製品実測図(1)



第83図　遺構外出土石製品実測図(2)



第84図　遺構外出土石製品実測図(3)



第85図　遺構外出土石製品実測図(4)

いずれも内反りの石刀で、5を除き背刃の部分に一条の溝を持つ。2は調査区北端のＺＴ—98・Ⅲa～Ⅲb層から出土したもので、長さ30.3cmを測る。石材は粘板岩である。

イモガイ状石製品（第82図6・7）

径5cm前後の円形を呈する扁平た石材の片面に、沈線により渦巻文が描かれるものである。石材は凝灰質泥岩、泥岩である。

盤状石製品（第83図12～84図28）

打ち欠き又は研磨（一部研磨を含む。研磨部分は←→で表現）により円形もしくは三角形などに整形しているものを一括した。16は穿孔の途中のもの（16）や沈線を入れるもの（23）ある。いずれも大きさについても規格性が見られる。石材は泥質凝灰岩、凝灰岩、凝灰質泥岩、泥岩、角礫凝灰岩である。

球状石製品（第84図29～31）

比較的やわらかい石材を球状に整形しているもので、29のように凹を有するものもある。石材は泥質凝灰岩、凝灰質泥岩である。

軽石製石製品（第84図32～37、85図38～43）

多孔質の軽石を円形・方形・五角形・棒状等に成形したものである。大きさは千差万別である。調査区南側からの出土が多い。

男根状石製品（第85図46・47）

46は細かい打ち欠きによる浅い窪みを一巡、両端部は研磨を行い形を作り出している。長さ8.9cmである。47は欠損品で、46と同様に極めて細かな打ち欠きによって成形されている。石材は安山岩である。

その他の石製品（第85図8～10、84図31、85図44）

8～10・31・44は研磨の痕跡が見られるもので、方形・棒状のものが見られる。石材は粘板岩、凝灰岩である。11は棒状の石材を用い、交差する沈線を描いている。石材は砂質凝灰岩である。

（藤井　安正）

第Ⅳ章　自然化学的調査

炭化種子の同定　　成田典彦

1．出土した堅果類と炭化材について

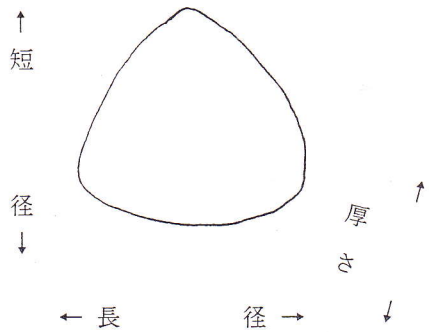
(1) 堅果類

① クリ

炭化したクリの果実は次の5地点で出土している。

925号ピット、949号ピット、969号ピット、603号フラスコ状土壙、930号土壙。

果皮は検出されず、特徴的な果実のしわと形により、他の堅果類と区別ができる。949号ピットからは原形をとどめるものが9個出土し、その形状については、下の表の通りである。



	長径(cm)	短径(cm)	長 / 短	厚さ(cm)
①	2.37	1.87	1.3	1.47
②	2.33	1.95	1.2	1.24
③	2.09	1.77	1.2	1.19
④	2.09	1.56	1.3	1.24
⑤	2.02	1.84	1.1	1.17
⑥	2.01	1.74	1.2	1.51
⑦	1.99	1.57	1.3	1.11
⑧	1.97	1.78	1.1	1.36
⑨	1.80	1.59	1.1	1.34

乾燥と炭化により果実は収縮しているが、最も大きいものでも長径が2.37cm、短径が1.87cm、厚さが1.47cmである。偏平率（長径／短径）を求めてみると、1.1～1.3である。現生の果実よりも小ぶりであるが、同時代の他の遺跡から出土している果実の大きさと比較しても標準的である。クリは明るい場所を好む成長の早い陽性の植物で、ブナなどの樹冠に被われた落葉広葉樹の林床や極相林中では高密度で成長することはできない。二次植生などの自然の状態での収穫が果たす役目は大きいと思われるが、炭化材の出土も考え合わせると栽培の可能性も大きい。

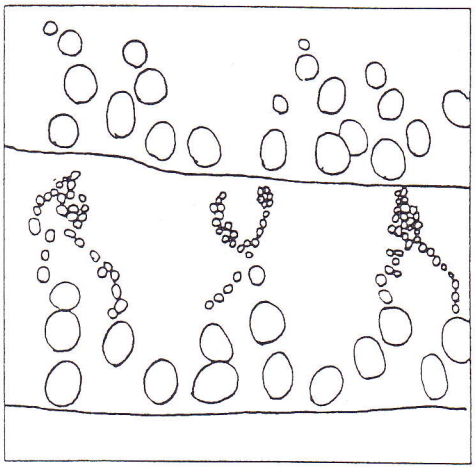
② クルミ

オニグルミの核と核片が631号土壙、ＺＬ―93グリッド（Ⅲd層）から出土している。果肉は見られない。大きさは長径2.21cm、短径2.08cmである。一般的にクルミの核の長軸方向に関する部分の破損が圧倒的に高率を占め、クルミの処理にあたっては長軸方向から打撃を加えて核を割り、中から果肉を取り出していることがわかっている。今回出土した核は基部が破損していて、クルミの核を基部の方向に打撃を加えて処理していたと考えられる。個数は少ないがこれからの出土の状態を蓄積することによって、どのような石器を使いクルミを処理していたか興味深い資料になると思われる。

(2) 炭化材

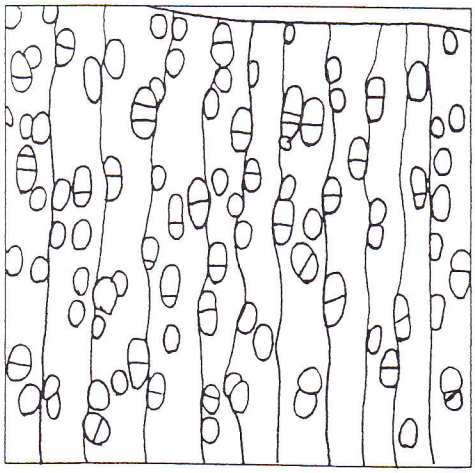
925号ピットより２cm四方にも満たない炭化材が数個出土している。

徒手切片法によってプレパラートを作成し、木口面や柾目面の観察を試みたが、もろくて薄片を作成することが困難であった。そこでパラフィンで包埋し、安全カミソリで木口面の徒手切片を作成し、光学顕微鏡観察を行った。



〈クリ属〉

年輪のはじめに大きな道管が１～３列並び順次径を減じていき小道管が火炎状に配列する環孔材で、道管の穿孔は単一である。



〈ヤナギ属〉

散孔材で道管は年輪全体にわたって一様に分布する。単独で存在する道管もあるが、多くは２～３個接合する複合管孔を形成している。道管は年輪界付近よりも年輪中央部で大きいものが目立つ。

〈出土した堅果類〉

クリの果実

オニグルミの核

2．炭化した植物遺体の保存について

炭化した状態で出土する植物遺体（果実、果皮、材）は、もろくて壊れやすかったり、乾燥によって割れたり、保存方法によっては出土したときの形状をほとんどなさないものも見られる。炭化材の保存には次の方法が取られている。

30％バインダー17溶液を炭化材（果実）に浸透させる→50％→70％→100％と農度を上げてバインダー17溶液を浸透させる。　（秋田県埋蔵文化センターより）

第Ⅴ章　調査のまとめ

特別史跡大湯環状列石は、鹿角市の北東部、米代川の一支流である大湯川の左岸に形成された舌状台地上に位置する。

大湯環状列石及び周辺遺跡の調査は、昭和59年から継続され本年度で11年目となった。この間、平成２年３月と平成６年１月には周辺遺跡の殆どが特別史跡に追加指定されるに至った。また、平成３年度からは追加指定地の公有化を開始。平成４年３月には「特別史跡大湯環状列石環境整備基本構想」をまとめている。

このようなことから、平成４年度からは史跡の環境整備を進めるための資料を得ることを目的に、整備の急がれる万座環状列石隣接地の発掘調査に着手した。

本年度の発掘調査区D_6区は、前述のことから万座環状列石の東側隣接地、同環状列石を広く取り囲むように設定した。

D_6区で確認された遺構は、建物跡17棟、柱穴状ピット404個、環状配石遺構３基、配石列５条、配石遺構３基、石囲炉２基、焼土遺構15基、埋設土器遺構１基、Ｔピット３基、フラスコ状土壙15基、土壙24基である。なお、建物跡１棟については昨年度までに確認されていた柱穴状ピットより復元された。上記の遺構と共に遺構内・外より完形あるいは復元土器36個体。土器破片段ボール35箱、石器1.198点、剝片１箱、土製品486点、石製品47点の出土があったほか炭化堅果類（栗）の出土もあった。

万座環状列石の周囲に、４本・６本柱からなる建物跡が万座環状列石と中心を同一にする半径24～36ｍの範囲（環１：24～30ｍ、環２：30～36）に集中し一巡すること、また、建物跡は重複や空白部分の存在から数棟からなるグループに分けられ、しかも最も近くにある列石外帯の小塊と対応することが推測された。このことは、本調査によってよりほぼ間違いのないものと想定されるに至った。第５次調査報告書において、列石外帯を構成する小塊と建物跡に触れ「環１の建物と列石外帯の配石（配石墓）とは１対１の対応関係を有する」とした。しかし、今回の調査では、建物跡の件数が少なくその対応関係については否定的に成らざるをえない。このことから建物については朽ちるまで数度に渡り使用されたものと考えられる。建物跡の性格は、これまで同様、墓域・墓に関連したものと捉え、殯屋と判断される。なお、昭和27年第二発掘溝において住居跡が確認されているが、再確認できなかった。また、その柱配置は建物跡のその配置にも似ているが、本調査において特定できなかった。

構築時期は出土遺物、他遺構との重複関係よりその大半が縄文時代後期前葉と考えられる。しかし、建物跡を構成する柱穴状ピット内より後期中葉の土器破片が出土するものもあることから後期中葉まで至る可能性をもった建物跡の存在が示唆された。これについては次の調査の

課題としたい。

環状配石遺構としたものは、環帯部と張り出し部から構成される特異な形態の配石遺構で、これまで確認されたものを含め計10基となった。今回新たに万座環状列石東側での３基の確認は、環状配石遺構の広範囲な分布を示唆させるものである。性格については、これまでと同様「祭祀関連施設」と考えている。しかし列石やその他の遺構との時期的・位置的関係、本遺構内に存在する焼土遺構や出土遺物等から再度吟味が必要であろう。

本遺構の構築時期については、他遺構との新旧関係及び周辺の出土遺物から縄文時代後期前葉～中葉と考えられる。

第404号配石列は、昭和21年の調査（第４図①）によって万座環状列石の近傍及び第10次調査（D_4区）によって確認されていたもので、本調査によってその東側延長部分を確認、その長さは88m余りに達した。

また、同じく第10次調査で確認した第409号・410号配石列は、万座環状列石外帯より延びることが本調査によって確認されている。確認状況より一対と考えられるこの配石列の開口部線上には、第６次調査F_1区の竪穴住居跡群が占地しており、万座環状列石への導入路的な印象を受ける。この配石列は建物跡と考えられる柱穴状ピットが埋り切った時点で構築されている。第606号配石列は第602号石囲炉と一体となっており、これまでに確認されたものと趣を異にするものである。

配石列の構築時期は、他遺構との重複関係・周辺の出土遺物・確認層位等から縄文時代後期前葉～中葉と考えられる。

Ｔピットはいずれも長楕円形を呈するもので、その長軸方向はこれまでの調査で確認されたものと同様概ね西―東を向く。第643号・644号Ｔピットは距離にやや隔たりがあるが一対のものとして捉えることができる。

土壙・フラスコ状土壙は、列石外帯より36m～44mの環３からその大半が検出されている。

土壙は楕円形を呈するものがそのほとんどである。その長軸方向は、万座環状列石の中心より放たれた放射線（求心線）と同一方向又はこれに直交し、同列石と強い関連が示唆される。

フラスコ状土壙は調査区東・南側に集約する傾向にある。集約の傾向は以前の調査でもみられ、構築場所が限定されていたものと考えられる。第603号フラスコ状土壙より炭化堅果類(栗)が出土している。

Ｔピット・土壙・フラスコ状土壙の構築時期は、遺構確認面、出土遺物より縄文時代後期前葉と判断される。

縄文土器は、後期前葉～中葉に位置付けられるもので、後期前葉の土器が全体の約９割を占めている。前葉の土器は調査区全域より出土しているが、中葉土器は万座環状列石南東側隣接

地域からの出土が多い。埋設土器（第601号埋設土器）として用いられた深鉢形土器は、同時期・同種のものと比較しても大型のもので、用途の違いを感じさせる。

石器の出土状況を見ると、万座環状列石隣接地からの出土は少なく、離れるに従って数量を増す傾向にある。石器としては、石鏃、石匙、石篦、石錐、掻器、磨製石斧、凹石、敲石、石錘、磨石、石皿等がある。圧倒的に掻器が多く、凹石、石鏃が続く。石匙のつまみ部に黒色樹脂の付着痕が観察されるものがあることは、装着技法を知る上で貴重なものである。敲石としたものの一部には一方向からの打ち欠きによって抉れを作り出しているものがある。石錘の未完成品と見ることも出来るが、抉れを作り出す時の打ち欠き方向が石錘と比べ偏っている。用途を踏まえ検討する必要性があるものと考えられる。

土製品としては、土偶、足形付土製品、鐸形土製品、茸状土製品、耳飾、有孔土製品、有溝土錘等多種にわたっている。本調査の出土土製品の中で特に注目されるのは足形を押した土製品の出土である。これまでに北海道・青森県より出土したものと比較し、土版・押捺された足形とも大きく、しかも指先だけの押捺である。いずれにしてもその性格は護符としての要素が強いものと考えられる。

石製品としては、石剣、足形石製品、盤状石製品、軽石製石製品等多種にわたっている。足形石製品については他遺跡での出土例は無く、新見識のものであるが、足形付土製品と同様の性格が考えられる。

参 考 文 献

阿部義平　「配石墓の成立」『考古学雑誌』第54巻1号　1968年

「“日時計”の考察―大湯環状列石の配石類型の意味」『よねしろ考古　第2号』　1986年

今井富士雄　「十腰内遺跡」『岩木山』　岩木山刊行会　1986年

成田滋彦　「青森県の土器」『縄文文化の研究　4』　雄山閣　1984年

鈴木道之助　『石器の基礎知識　Ⅲ』　柏書房　1981年

岡田康博　「十腰内第Ⅲ群・第Ⅳ群・第Ⅴ群土器の再検討」『弘前大学考古学研究　第3号』　1986年

秋元信夫　「環状列石と建物跡」『よねしろ考古　第6号』

戸沢充則　編　『縄文時代研究事典』　東京堂出版　1994年

文化財保護委員会　『大湯町環状列石』　1953年

青森県教育委員会　『大石平遺跡Ⅱ・Ⅲ』　1985年、1987年

八戸市教育委員会　『丹後谷地遺跡　八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅻ』　1886年

『風張（1）遺跡Ⅲ』　1991年

秋田県教育委員会　『高屋館跡　西山地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財報告書Ⅵ』　1990年

岩手県教育委員会　「西田遺跡」『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書Ⅶ』　1980年

岩手県立博物館　『岩手県の土器　県内出土資料の集成』　1982年

大迫町教育委員会　『立石遺跡　昭和52年・53年度発掘調査報告書』　1979年

大槌町教育委員会　『崎山弁天遺跡発掘調査報告書』　1974年

鹿角市教育委員会　『大湯環状列石周辺遺跡発掘調査報告書1～6』　1985年～1990年

『大湯環状列石発掘調査報告書7～10』　1991年～1994年

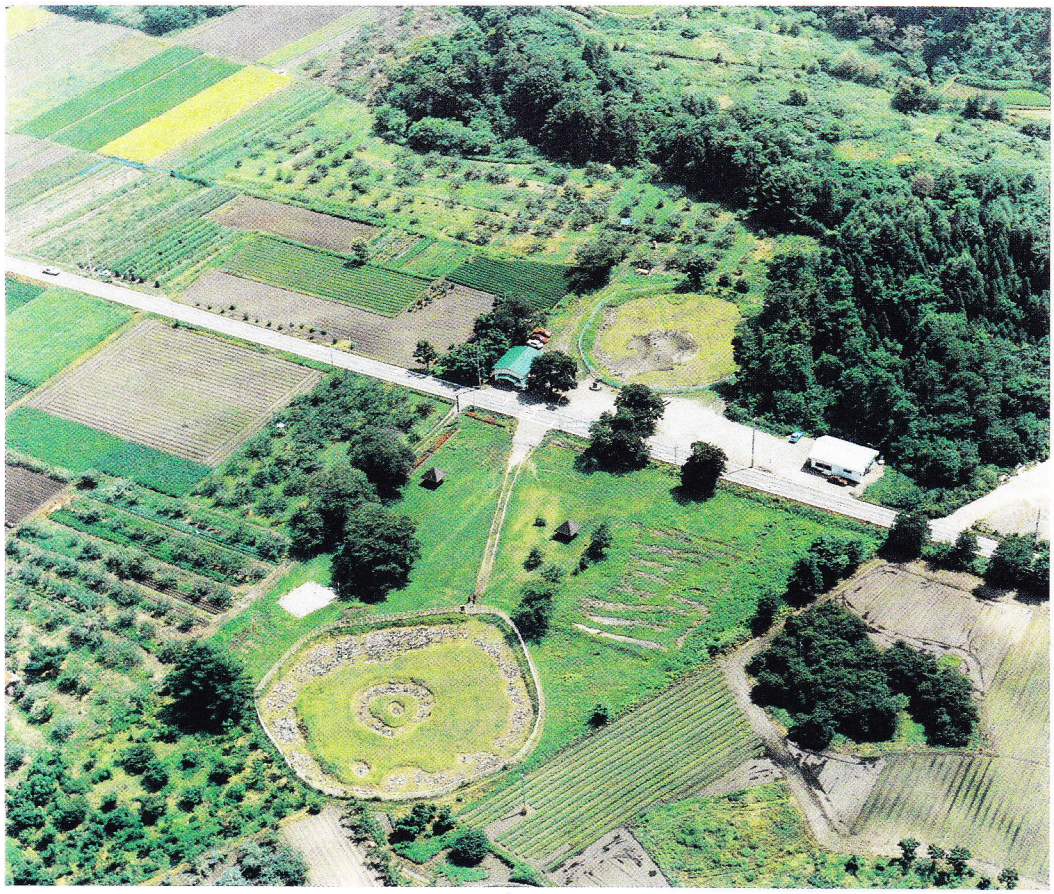
『赤坂A遺跡発掘調査報告書』　1994年

報　告　書　抄　録

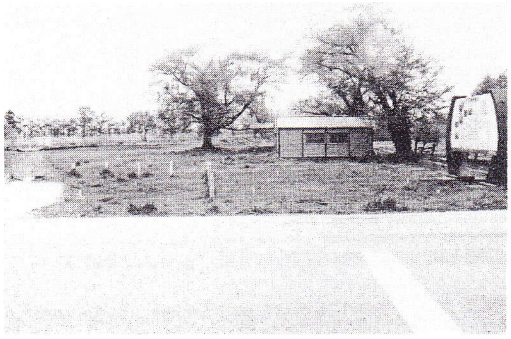
ふりがな	とくべつしせきおおゆかんじょうれっせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	特別史跡　大湯環状列石発掘調査報告書(11)
副書名	
巻次	
シリーズ名	鹿角市文化財調査資料
シリーズ番号	52
編著者名	鹿角市教育委員会　生涯学習課（藤井安正　花海義人）
編集機関	鹿角市教育委員会
所在地	〒018-52 秋田県鹿角市花輪字荒田4番地1　TEL 0186-23-5111
発行年月日	西暦 1995年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
特別史跡 大湯環状列石	秋田県鹿角市 十和田大湯 字万座 字野中堂 字一本木 後口	05209	123	40度 16分 20秒	140度 48分 49秒	1995.05.16 ～ 1995.09.30	2,656	史跡整備に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特別事項
特別史跡 大湯環状列石	集落	縄文時代 後期	環状配石遺構　3基 配石列　5条 配石遺構　3基 建物跡　17基 埋設土器遺構　1基 石囲炉　2基 Tピット　3基 土壙　24基 フラスコ状土壙　15基	縄文土器 (後期前葉～中葉) 石器 石礫・石匙・石錐・掻器・凹石・石皿など 土製品 土偶・足形土版・耳飾鐸形土製品など 石製品 石剣・足形石製品など	大湯環状列石を中心に同心円状に広がる集落跡

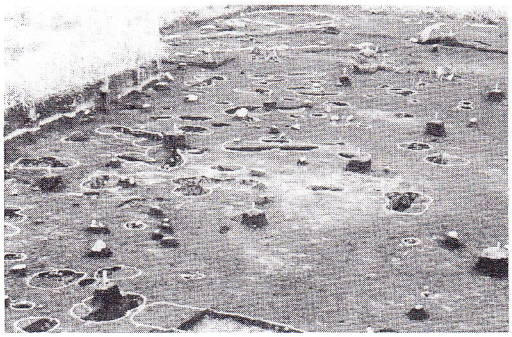


PL 1　特別史跡大湯環状列石全景



遺跡全景（S→N）

遺跡全景(N→S)

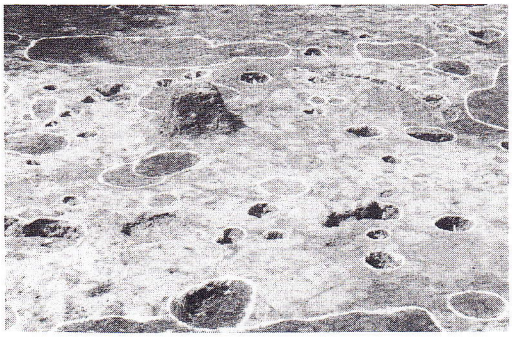


SB 601～603

SB604～606

SB604・605

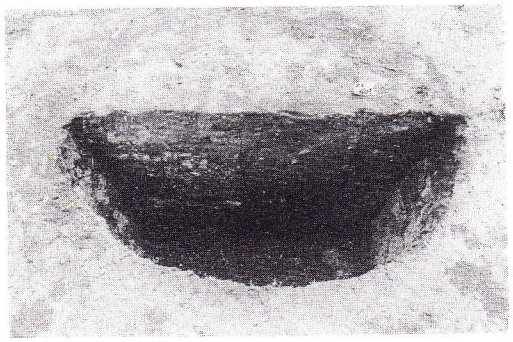
SB608



SB610

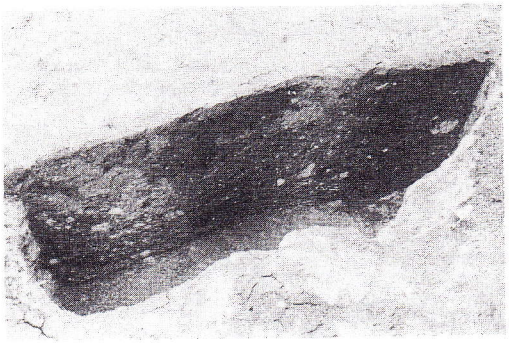
SB613・615・617

PL 1　　遺跡全景・建物跡

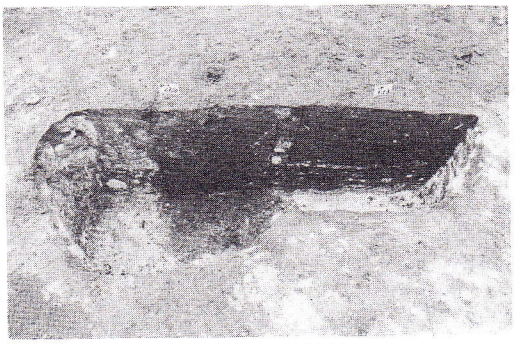


Pit601

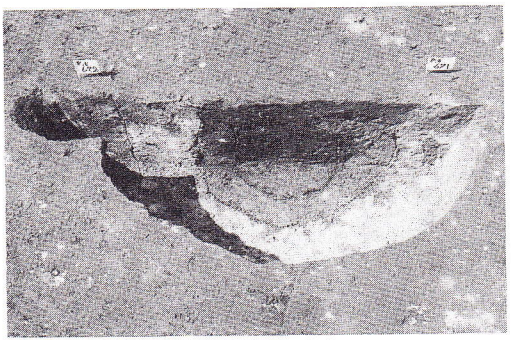
Pit630



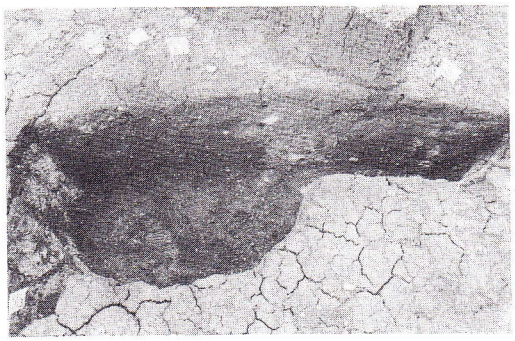
Pit623～626



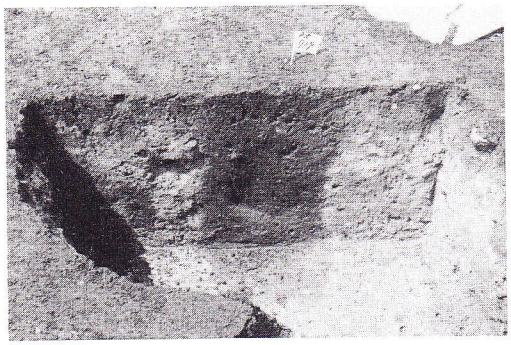
Pit668・SK613



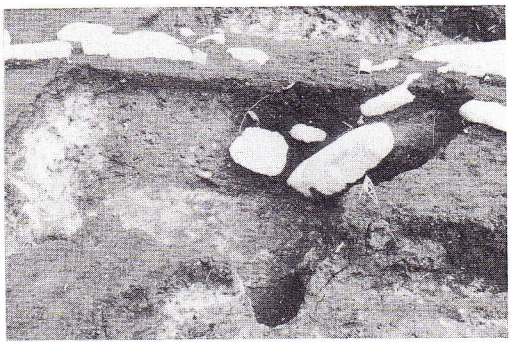
Pit671・ 672



Pit 714 ・715



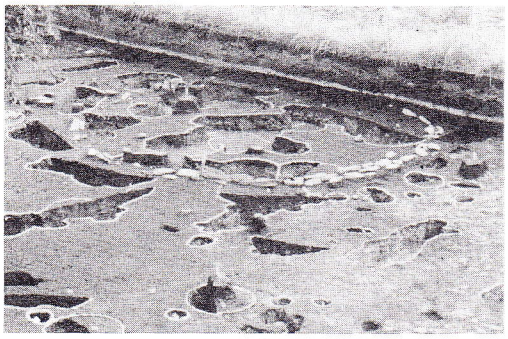
Pit 919



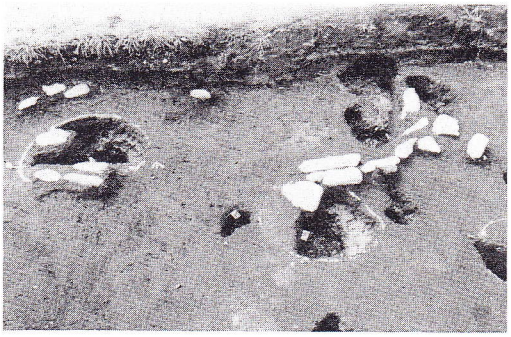
Pit929・921

PL 2

柱穴状ピット



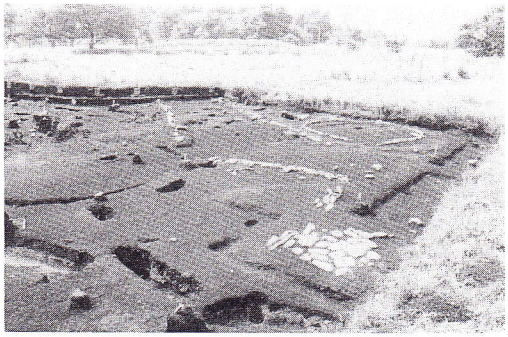
SX(S)602



SX(S)603

SX(S)608

SX(S)404



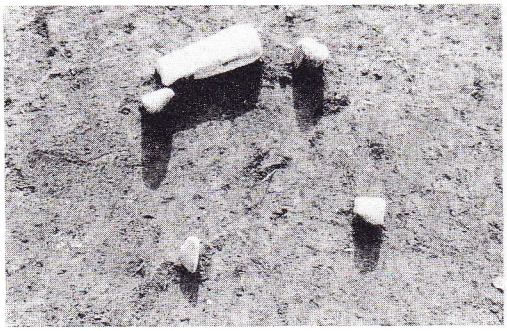
SX(S)409・410

SX(S)601

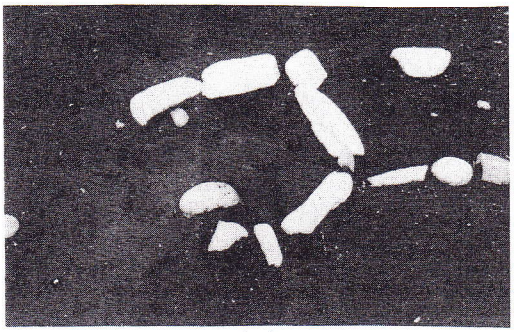
SX(S)604

SX(S)605

PL 3　　環状配石遺構・配石列・配石遺構



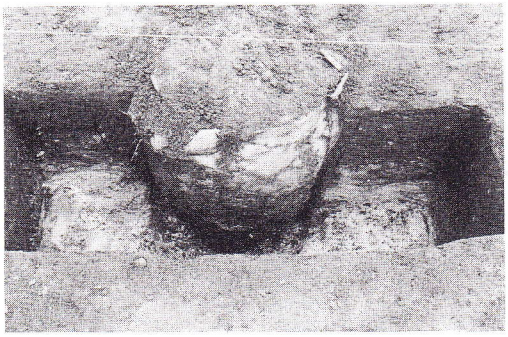
SX(O)601



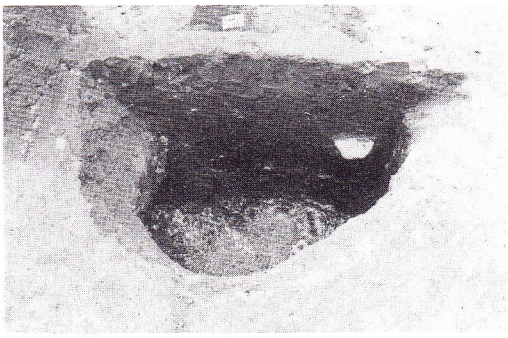
SX(O)602

SX(f)607

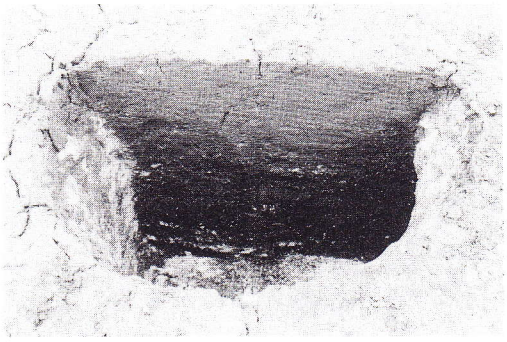
SX(f)608



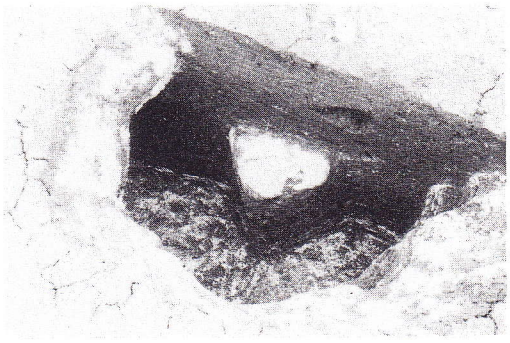
SF(U)601



SK(F)603



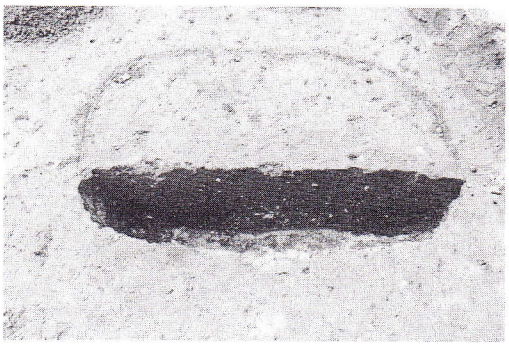
SK(F)612



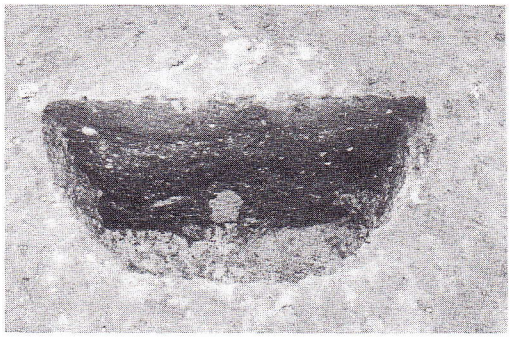
SK(F)615

PL 4　　石囲炉・焼土遺構・埋設土器・フラスコ状土壙

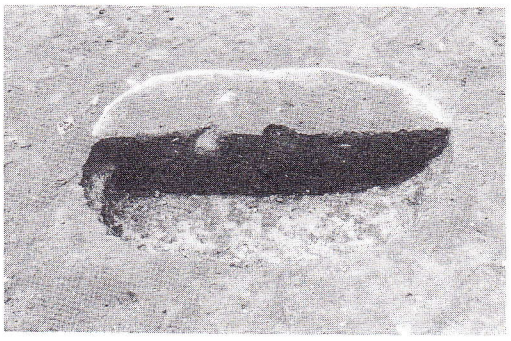
SK 601



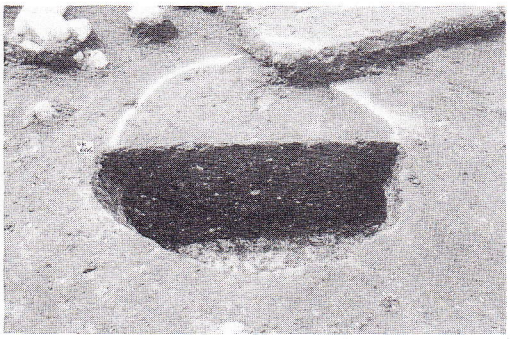
SK 602



SK 604



SK 605



SK 606

調査区南側土壙群

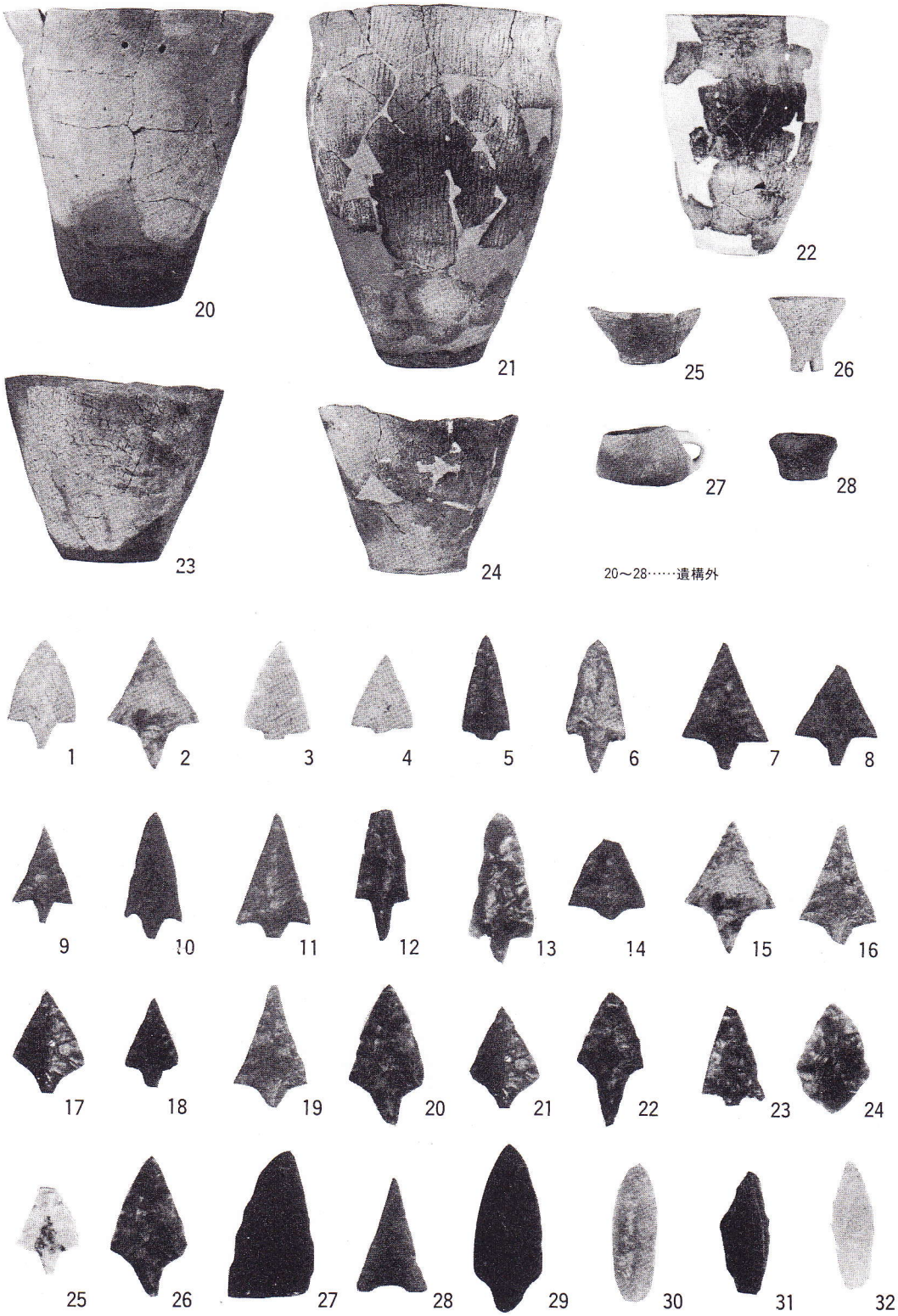
調査区中央～北側

万座環状列石隣接地

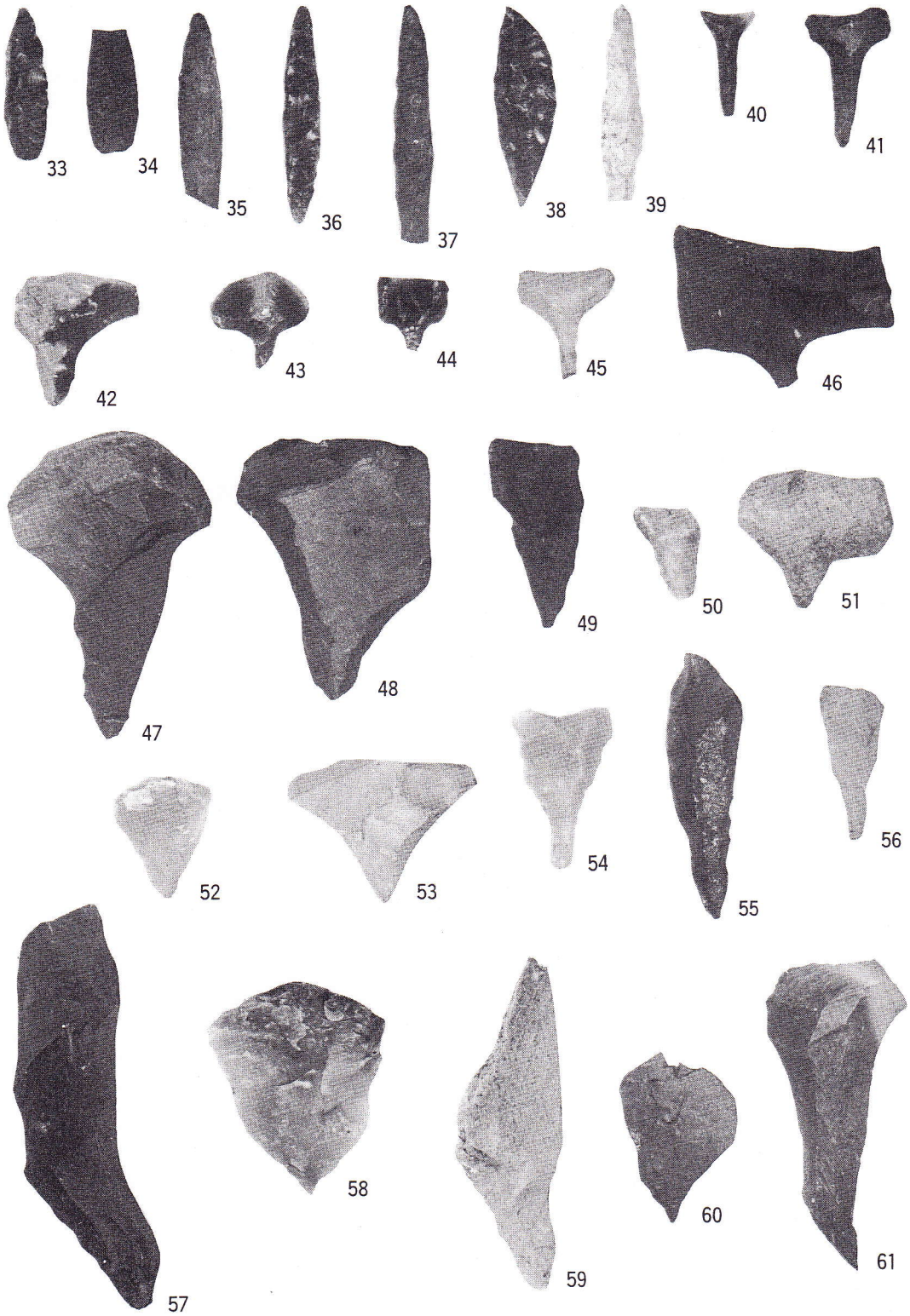
ＰＬ５　　土壙・調査区全景

1……SK 621　　3～ 遺構外
2……SX (U) 601

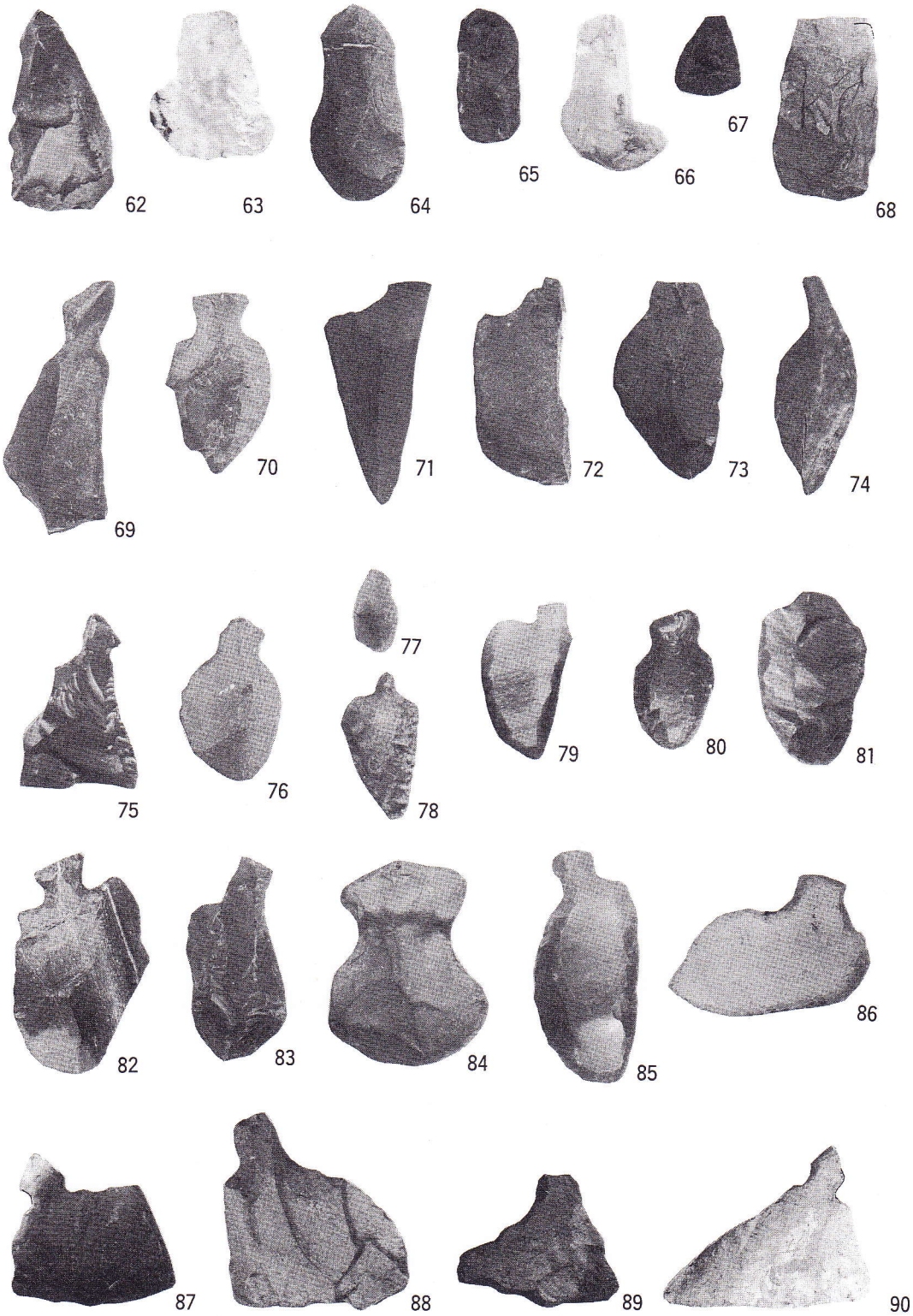
PL 6　　出土土器(1)



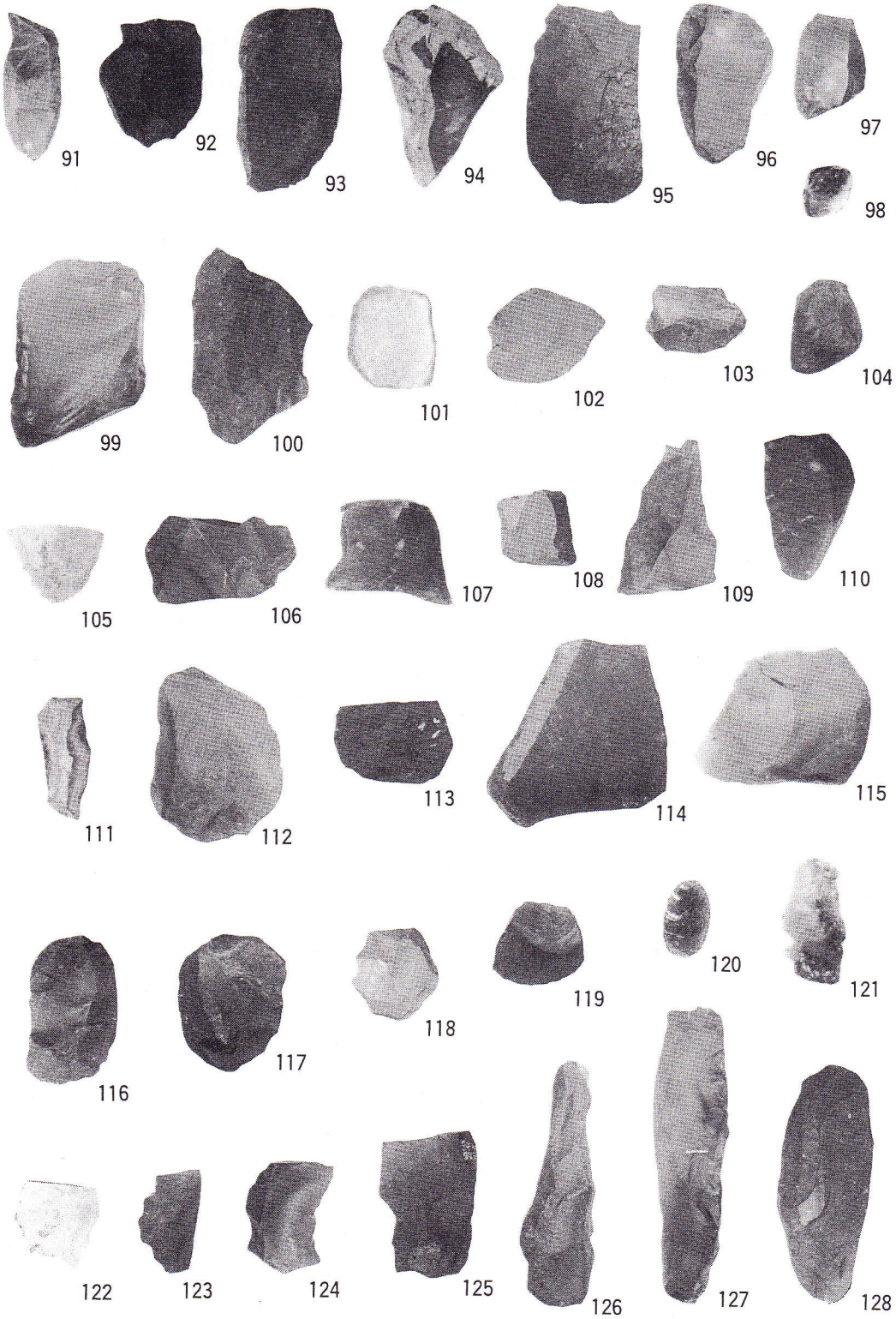
PL 7　　出土土器(2)・遺構外出土石器(1)



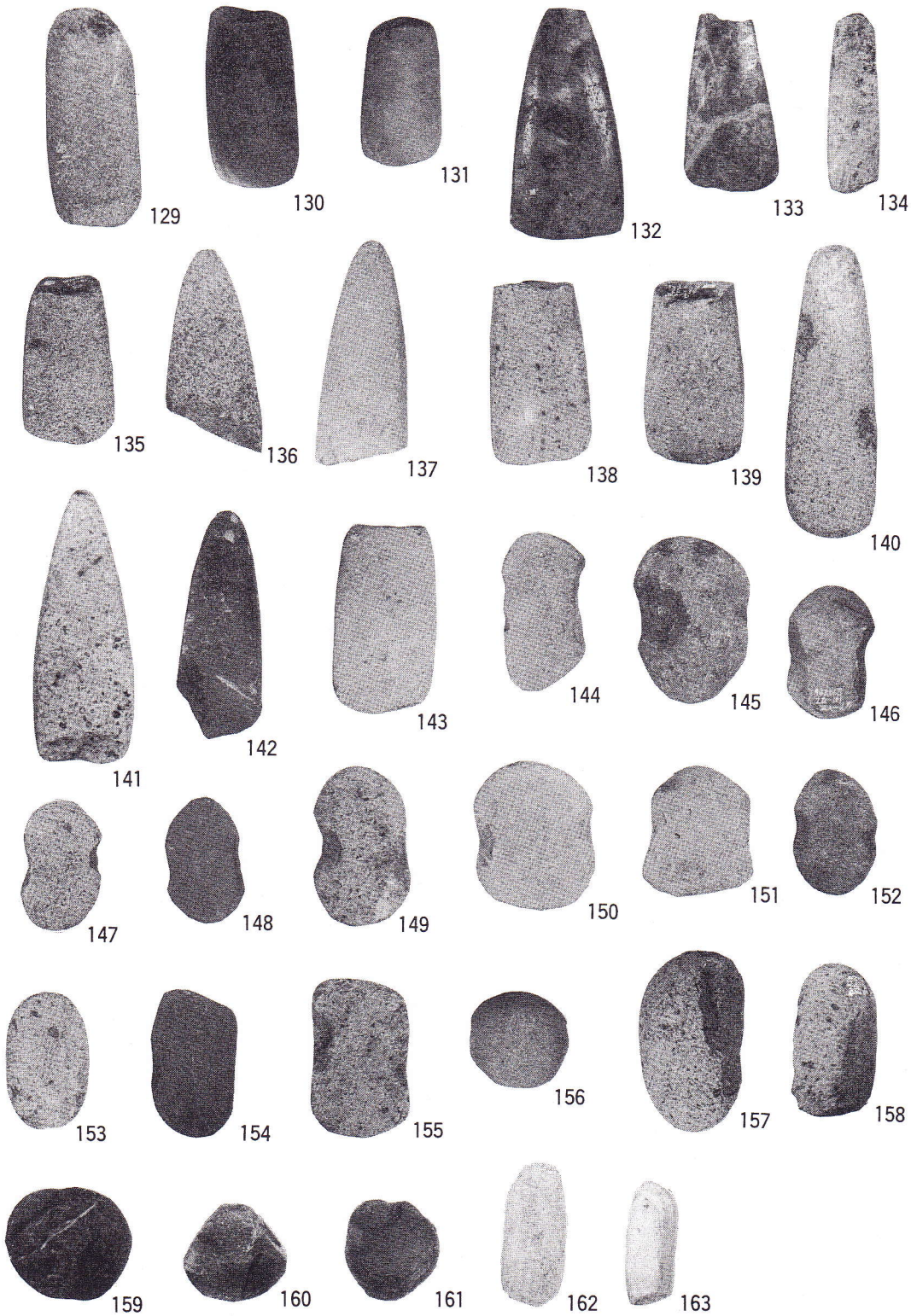
ＰＬ８　　遺構外出土石器(2)



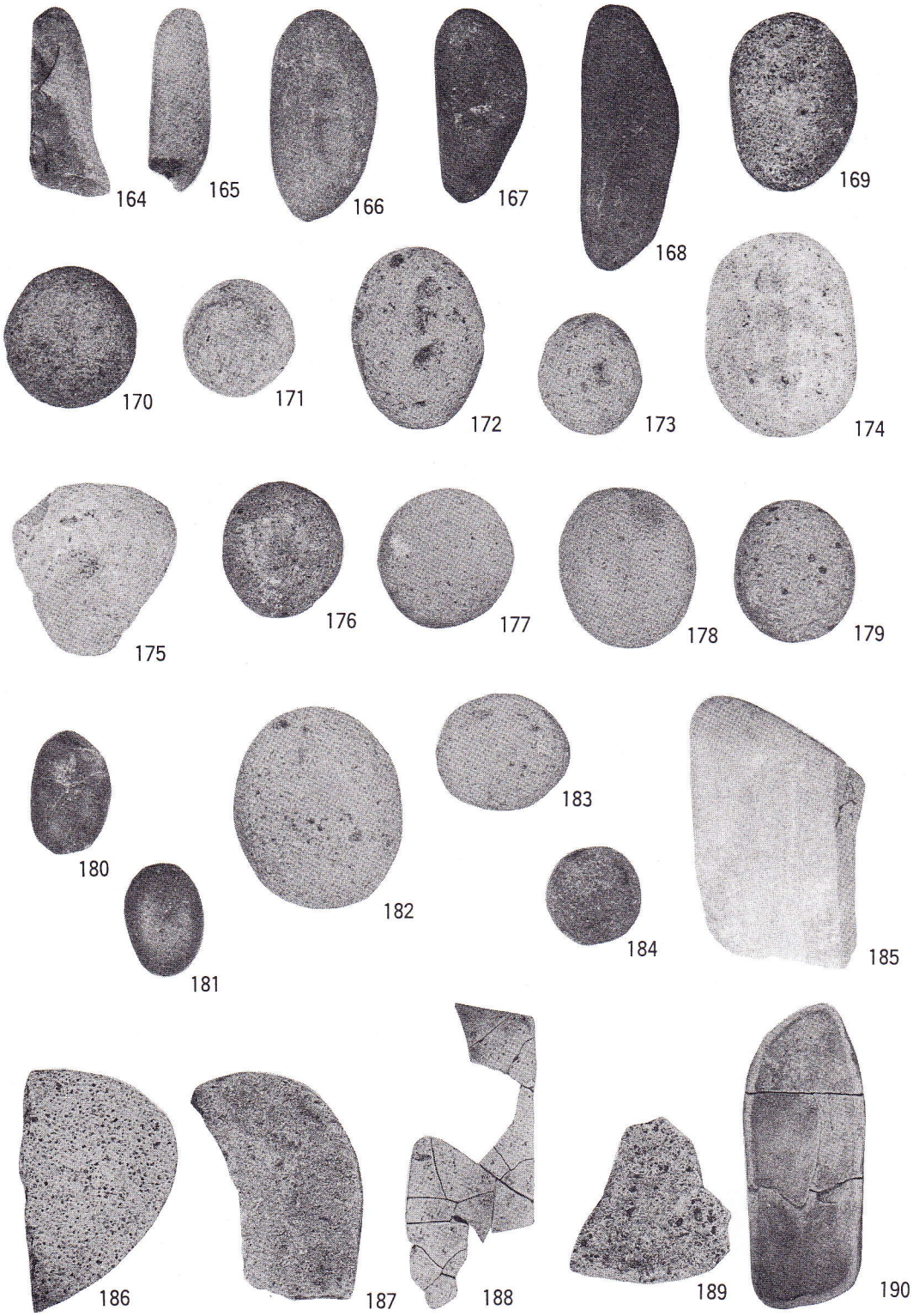
ＰＬ９　　遺構外出土石器(3)



ＰＬ10　　遺構外出土石器(4)



ＰＬ11　　遺構外出土石器(5)



PL12　　遺構外出土石器(6)

1～21……遺構外

ＰＬ13　　出土土製品

ＰＬ14　　出土石製品(1)

ＰＬ15　　出土石製品(2)

鹿角市文化財調査資料 52

特別史跡大湯環状列石発掘調査報告書(11)

発行年月日　平成 7 年 3 月31日

発　行　者　鹿角市教育委員会
〒018—52
秋田県鹿角市花輪字荒田 4 番地 1
TEL 0186—23—5111

印　刷　所　(有) 大館孔版社
〒017
秋田県大館市谷地町後60